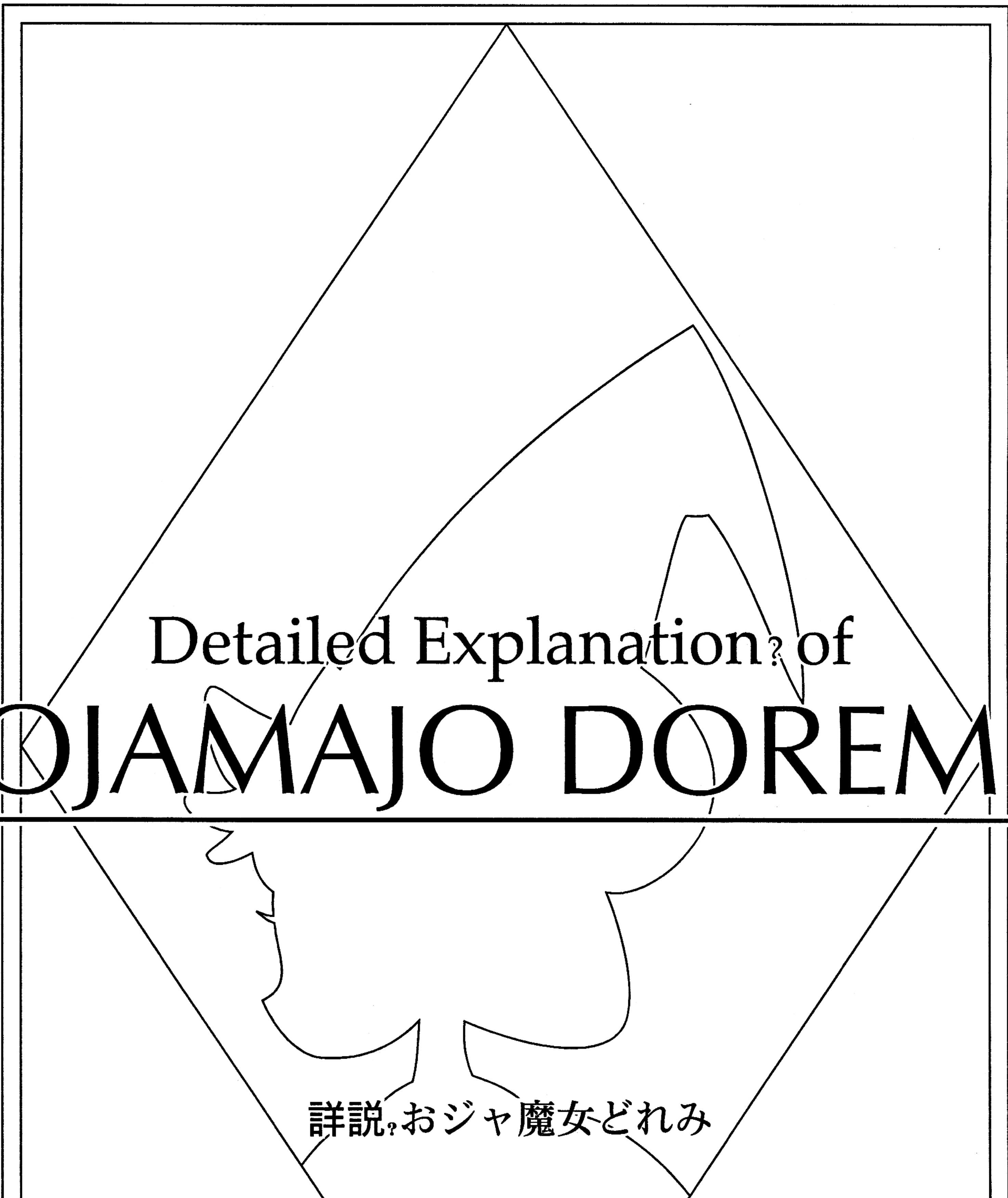


Detailed Explanation? of

OJAMAJO DOREMI

詳説?おジャ魔女どれみ

はじめに

本誌「詳説?おジャ魔女どれみ」は，テレビ朝日系で1999年2月7日から2000年1月30日に放映されたテレビアニメーション「おジャ魔女どれみ」について無意味に詳しく解説した同人誌である。

「おジャ魔女どれみ」は様々なメディアで作品展開されているが，本誌では基本的に全51回のテレビアニメーションを真として扱っている。ただし，部分的に関連CD・関連ビデオの内容を含む場合もある。

また，本誌初版発行日現在も「おジャ魔女どれみ」の続編「おジャ魔女どれみ♯（しゃーぷっ）」が放映されているが，この内容に関して本誌は一切扱ってない。

本誌はどうかんやまきかくのメンバーが個人的関心から非営利目的に著作・発行する同人誌である。内容に関しては個人の通常の努力が及ぶ範囲に限っては万全を期したつもりである。また，しばしば筆者の個人的感想や印象批評も交えている。その事情を踏まえた上で，本誌が良識ある読者諸氏の関心に少しでも応えられたならば幸いである。

2000年7月28日
どうかんやまきかく

目次

総則

1. 概要

1.1. 本誌全体に通じて適用される，総則をここに示す。

2. 呼称に関する注意

2.1. 本誌で用いられる「3人」とは特に断りのない限り，春風どれみ，藤原はづき，妹尾あいこの3人を指している。

2.2. 本誌で用いられる「SOS」とは特に断りのない限り，「SOSトリオ」すなわち，佐川ゆうじ，太田ゆたか，杉山豊和の3人を指している。

2.3. 原則として魔女見習いと春風家の家族は名前を用い，他は姓を用いているが例外はたくさんある。まぁ，読めば分かるって。

3. 括弧に関する注意

3.1. 本誌では括弧を以下のように意味づけしている。

3.2. 「　」：単に強調の意図で用いられるが，台詞は必ずこれで示している。以下，台詞として用いられる場合の注意点を示す。

(a) 台詞は連続する場合があり，必要に応じて発言者とその話数などをその直後の（　）内で示してある。発言者は「,」で順に示し，繰り返す場合は「…」で省略してある。話数は第1章で用いられているものである。また，それらを「;」で区切ってある。

例）「女優?」「今度，パパの会社がスポンサーになって，映画を作ることになりましたの。当然ヒロインはわたし。…玉木麗香，華麗に銀幕デビュ～」「マジかよ…」「オカルト映画?」「妖怪の役」「幽霊かぁ」「シャラーップ!❊」(3人，玉木，小竹，太田，佐川，杉山，玉木; 第35話)

例）「でも上手くいったら，食べられるステーキとか，出る!?」「上手くいけばな」「すぐ消えたりしない?」「上手くいけばな❊」「3人前くらい出るかなぁ?」「上手くいけばな!❊」「5人前くらいなら食べられまっせ」「上手くいけばな!!❊」「うっひょ～，9級受かった上に，ステーキ食べ放題なんて，あたしってば世界一ラッキーな美少女じゃ～ん」「上手くいけばな!!!❊」（どれみ，マジョリカ，…; 第9話）

(b) モノローグはこの中で（　）を用いて表している。

例）「(やっぱあたしは世界一不幸な美少女っつーか今はポニー…)」（どれみ; 第29話）

3.3. （　）：前述のように用いられる他，備考などを表している。特に「p」とアラビア数字で構成されたものは参照ページを表している。

例）（p10）→ 10ページ参照，を示す。

3.4. 【　】：見出し語や項目名などに用いられる。

3.5. 『　』：単に強調の意図で用いられる他，文献名は基本的にこれで示している。

3.6. [　]：話数を示している。話数は第1章で用いられているものである。なお，離散的なものは「,」で，連続的なものは「-」でまとめて表記してある。

例）[1,3-5,7] → 第1話，第3話，第4話，第5話，第7話を示す。

3.7. 《　》：文字として書かれているものを読みとったことを示している。劇中の文字や，文献からの引用で用いられる。

3.8. 〈　〉：主に補足説明に用いている。

4. 文献名の略記に関する注意

4.1. 本誌では以下の文献名を略記している。なお詳しくは「参考文献」を参照されたい（p93）。

(a) AX BOOK『おジャ魔女どれみ [1]』（ソニー・マガジンズ） → 『AX BOOK 1』

(b) AX BOOK『おジャ魔女どれみ [2]』（ソニー・マガジンズ） → 『AX BOOK 2』

(c) 「おジャ魔女どれみ 設定資料集」（ムービック） → 『設定資料集 1』

(d) 「おジャ魔女どれみ 設定資料集 Vol.2」（ムービック） → 『設定資料集 2』

(e) ケイブンシャの大百科別冊『おジャ魔女どれみ マジカルガイド』 → 『マジカルガイド』

(f) 月刊『アニメージュ』1999年7月（第253）号（徳間書店）内の，「3年2組全31人 プロフィール大公開!」の項 → 『全31人』

4.2. ちなみに「3年2組全31人 プロフィール大公開!」は，この時点で29人（まだいないおんぷも含めても30人）なのに，何故31人かと言うと，イラストの中の関先生とゆき先生も入れてしまっているからと思われる。さらに紹介されてるのは，3人を除く26人である。

第1章
各話解説

凡例

1．概要

1.1. 本章は「おジャ魔女どれみ」の全話について各話ごとに解説するものである。

2．構成

2.1. 本章は各話ごと全52項で構成され，各項は話数，放映日，サブタイトル，その回の脚本・演出・作画監督・美術，適当なワンカット，粗筋，解説で構成される。

3．諸注意

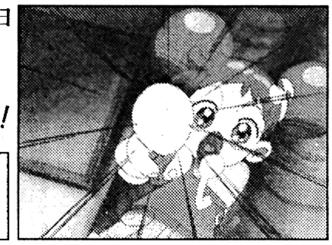
3.1. 放映日はテレビ朝日でのものであり，話数はそれに基づいて順に振ってある。ただし，1999年8月21日に発売されたおジャ魔女CDくらぶ その3「おジャ魔女♡ハッピッピ♡ドラマシアター!!」内のCDドラマは，テレビシリーズと区別するため第28.5話として入れてある。また，放映日のかわりに発売日を付してある。

3.2. サブタイトルは，放映されたもののレイアウトに極力近づけてある。

3.3. 脚本・演出・作画監督・美術はEDにクレジットされたものに基づいている。ただし第28.5話ではCDジャケットに記載されているものである。なお，これ以外のスタッフに関しては，本誌付録A「STAFF DATA」を参照されたい(p88)。

3.4. 解説が全然解説になってないとか，粗筋より短い解説なんておかしいとか，そんな細かいことは気にしないことです。だって，しょーがないでしょ。こういう風になっちゃったんだから。

第1話　1999年2月7日



私どれみ！
魔女見習いになる!!

脚本	栗山　緑	作画監督	河野宏之
演出	佐藤順一	美術	ゆきゆきえ
			行　信三

【粗筋】自称「世界一不幸な美少女」，小学3年生の春風どれみ。今朝は早起きしてサッカー部の五十嵐先輩にラブレターを渡すつもりだ。しかし，魔法の呪文も空しく失敗。おまけに本当の魔法が使える魔女に憧れて，授業中に魔女の本に夢中になってしまい関先生に廊下に立たされる始末。放課後，失意の余りサッカー部の試合も観ずに帰路に就くが，途中自分が見知らぬ坂道に立っていることに気づいた。そこには「マキハタヤマリカの魔法堂」という妖しげな店が建っていた。中は不気味な雰囲気で，老婆と猫がいる。よく見ると老婆は本で読んだ魔女ではないかと「魔女!?」と口にした途端，老婆は得体の知れないカエルになってしまった。猫はララという妖精で，魔女は正体を言い当てられると魔女ガエルになってしまうと言う。正体を当てた人間しか元の姿に戻せないため，魔女ガエルになってしまった魔女のマジョリカは，自分を元の姿に戻すようどれみに魔女になれと脅迫。どれみは恐がるどころか，憧れの魔女になれると聞いて喜んでOKし，魔女見習いタップを受け取り魔女見習いになった。早速ペペルトポロンで大好きなステーキを出してみるが，すぐに消えてしまう。今度は魔法のほうきで空を飛んでみるが，自分がほうきに振り回されてしまう。ララの助けでようやく落ち着いたところで，そのまま学校に飛んでいくと，サッカー部の試合はゴール前のフリーキックという美空小の危機を迎えていた。どれみは魔法で美空小の危機，ならぬ五十嵐先輩の危機を救ったものの相手チームにゴールを許してしまった。失敗の反省も束の間，今度は五十嵐がケガをしてしまった。ララに魔法でケガを治すことを止められてしまったどれみ。ところが，先日魔法堂で手に入れた魔法のペンダントをしていたサッカー部マネージャーの真樹が，自分の身を挺して彼のケガを治したいと祈った結果，ペンダントは五十嵐のケガを彼女に移して砕け散ってしまった。この光景を目の当たりにしたどれみは，彼女が自分以上に彼を想っていることに気づく。さて，またしても五十嵐先輩がピンチに陥り，今度こそはと魔法で時間を止めるどれみだったが，モタモタしている間に魔法が切れ，蹴られたボールが顔面に直撃，失神してしまう。試合後の保健室では，告白するつもりだった真樹が，五十嵐から告白されていた。そこを覗き見していたどれみとはづきは，ふたりが両想いであると察し，はづきはどれみに諦めが肝心と慰め，どれみは結局自分がまた失恋したことに気づいたのだった。

【解説】すべてのはじまり。サブタイトルどおりの内容。どれみの演出が楽しい。国語の授業中，はづきが「どれみちゃん，5ページの最初から」と，教科書の最初も最初のページを言っていたので，放映日は2月だが劇中時間は新学期なのだろう。なお，第1話なだけにアバンタイトルはなかった。

第2話　1999年2月14日



私、はづきちゃんになる！

脚本	栗山　緑	作画監督	青山　充
演出	佐藤順一	美術	ゆきゆきえ
	廣嶋秀樹		下川忠海

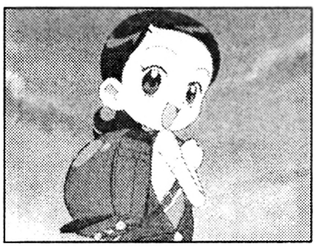
【粗筋】憧れの魔女（見習い）になって大喜びのどれみ。だが魔法玉をねだると，魔法玉はタダではないと言われ，しかも魔法玉を稼ぐために魔法堂で働かなければならなくなった。さて，登校途中，はづきは何だか落ち込んでいる様子だ。どれみは，はづきちゃんは頭はいいし家はお金持ちだし，自分よりずっと幸せだと言うが，そう言われたはづきはその場を走り去ってしまう。気まずい雰囲気になってしまうふたり。だが，はづきには何か悩みがあるかもしれない，幸せというのは人それぞれ違うものだ，というゆき先生の言葉を聞いて，どれみからはづきに謝って仲直り。何か悩みでもあるのかと聞いてみると，はづきはこればかりは魔

法でもないとね，とため息をつく。魔法と聞いて大喜びのどれみがさらに聞くと，魔法があったらどれみの家の子供になってみたいと言う。そこでどれみは知り合いの魔女を装って魔法ではづきをどれみの姿に変えてしまう。さらに自分もはづきの姿になり，お互い相手の家に帰っていった。春風家に来たはづきは，ぽっぷをぽっぷちゃんと呼んだり，折り紙を異様に器用に折ったり，進んでお手伝いをしまくったりしてどれみの家族を呆けさせる。一方藤原家に来たどれみはばあやの強烈な出迎えを受ける。さらにはしたなく服を着替えたり，ママが買ったフリルのお洋服に不平を言ったり，ディナーに昨日食べたステーキをねだったりと，はづきのママに粗野で不審な言動を不安がられる。さらにバイオリンのお稽古の時間となるが，どれみにバイオリンなど弾けるはずもなく，仮病を使うと今度はみんなが心配しまくって大騒ぎに。結局夕飯のステーキは食べられなくなってしまった。そんなこんなでお嬢様の生活も結構大変だと実感するどれみだった。一方春風家の夕飯はステーキだったのだが，はづきがステーキはあんまり好きじゃないと言った途端，驚いた家族ははづきを早々と寝かせてしまう。そこで夫婦喧嘩したりもするけれど，どれみの家族はみんな優しいし，どこの家族も同じだと思うはづき。と，はづきは魔法が切れて元の姿に戻ってしまった。どれみも寝ている間に元の姿に戻ってしまい，マジョリカに起こされて大慌て。急いで春風家に向かいはづきに魔法をかけ直そうとするが，はづきはどれみの家族を騙しているようで心が痛むから，もういいと言う。はづきはどれみの家族がどれみを心配していたことを，どれみははづきの家族がはづきを心配していたことを伝えあい，お互い自分が大切にされていることを分かりあったのだった。こうして2人は夜のうちに自分の家に戻った。その途中，はづきが食べてないステーキが残っていると聞いて喜ぶどれみだったが，翌朝そのステーキが残っていないことに愕然とするのだった。

【解説】どれみとはづきの話。と，ともに視聴者にふたりの性格や家族をさりげなく説明する話。最初のどれみが自室で魔女見習い姿に悦に入るシーンや，登校途中はづきに魔女のことを離してしまいそうになるシーンから，この日は前回の翌日にあたると思われる。また，冒頭にどれみの粗筋モノローグがあるが，全51回のうち今回にしかない。第1話を見逃してしまった良い子のみんなのためなのだろう。

第3話　1999年2月21日

転校生はナニワっこ！ あいこ登場



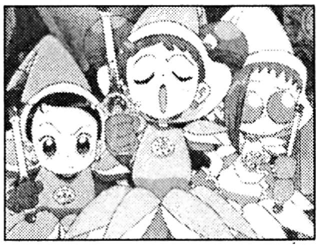
脚本	栗山　緑	作画監督	生田目康裕
演出	矢部秋則	美術	ゆきゆきえ いでともこ

【粗筋】登校途中のどれみとはづきは見知らぬ女の子にからかわれる。朝礼で転校生が紹介されるが，大阪から来たという転校生・妹尾あいここそがその女の子だった。どれみの後ろの席になったのだが，どれみには「お団子ヘアと名前が笑える」，はづきには「影が薄い」と平気で言うなかなかきっつい性格。どれみとはづきには最悪の第一印象だったが，クラスではすっかり人気者で，それがますます面白くない。放課後，あいこが気になるどれみは魔法で蝶（着ぐるみ）になってあいこを尾行。するとあいこは何とタクシーで家に帰ってゆくではないか。魔法のほうきで追いかけたどれみだが相変わらずうまく飛べず，あいこの家の玄関に激突。そこをあいこに気づかれて一緒にあいこの父のたこ焼きをご馳走になることに。おいしいたこ焼きも食べて仲良くなったふたり。そこでどれみはあいこの父はタクシー運転手で，母とは離婚していることを聞く。翌朝，どれみから話を聞いたはづきもあいこを誤解していたと謝り，あいこも言い過ぎだったと謝る。はづきはあいこの父に会ってみたいと言うが，仕事が忙しいあいこの父は明後日の授業参観には来られないという。なんとかしてあげたいと思うどれみはあいこの父に直接話してみるが，会社も移ったばかりでやはり出席は無理だという。ララの助言でどれみは魔法であいこの父をもう一人作りだし授業参観に行かせるようにする。しかし，授業が始まってもなかなか来ない。そして授業が終わる直前になってあいこの父がようやく現れ，初めて授業参観に来てくれた父にあいこは思わず涙して喜ぶ。しかし関先生が気を利かせて当ててくれた算数の問題をあいこは解くことができず，しょーもないオチがついてしまった。あいこの父は授業参観が終わるとタクシーに乗って仕事に戻っていったが，その直後にどれみが作り出した複製あいこ父（東京弁）が3人の前に現れる。授業参観に来ていたのは本物のあいこの父だったのだ。「お父ちゃんがふたり!?」と驚いているところへ更に魔法が切れて複製あいこ父は3人の目の前で煙と消えてしまう。はづきは「どれみちゃんって魔…」と言いかけ，魔女ガエルの危機に直面するどれみだった。

【解説】あいこ登場。と，ともに妹尾家の物語（?）第1話。と，ともに次回へのステップ。冒頭ではづきが「どれみちゃん，昨日は面白かったわね」と言っていることから，あいこが転校してきた日は前回の翌日にあたると思われる。また，その翌日には「(はづきが，あいこの父に）明後日の授業参観で会えるよ」とどれみが言っている。

第4話　1999年2月28日

みんな魔女なら怖くない



脚本	栗山　緑	作画監督	なかじまちゅうじ
演出	五十嵐卓哉	美術	ゆきゆきえ 塩崎広光

【粗筋】自分が魔女であることが言い当てられそうになってアセるどれみは，はづきとあいこを強引に魔法堂へ連れてくる。どれみは2人に外で待っていてと言い残してマジョリカに事の次第を話すが，その様子もまた2人に窓から覗き見られてしまう。見られたからにはしょうがない，と姿を現すマジョリカとララ。そしてついにはづきにどれみちゃんって魔女!?と言われてしまうが，どれみはまだ魔女ではなく魔女見習いなので魔女ガエルにはならないですんだ。しかし，どれみは魔女見習いだと言われてしまえばやはり魔女ガエルになってしまう。そうなっては自分が魔女に戻れなくなって困るマジョリカは，こうなった以上仕方ないと，はづきとあいこにも魔女見習いになってもらうと言う。魔法が使えることに惹かれた2人は魔女見習いになることを決意。見習いタップを受け取り，さっそく魔女見習い服におきがえする。が，はづきは眼鏡がひっかかって難儀していた。次に魔法を使ってみるが，あいこはたこ焼きを出そうとして焼きダコを出してしまった。はづきが置物を動かす簡単な魔法を使うとうまくいった。これを見たマジョリカが「どれみよりはマシかもな」と言うと，どれみは「何でもいいから動け!」と魔法をかけてしまう。と，店の中にあった甲冑が動きだし，3人を追い回し始めた。なんとか甲冑は止まったのだが，店内はメチャクチャだ。この際使ってはいけない魔法のことも教えておこうと，マジョリカは死んだ人を生き返らせる魔法やケガを治す魔法は，自分に災いがはねかえってくるから使ってはいけないと教える。魔法玉や進級試験のことも聞いた3人は魔法の練習のため，と魔法玉をねだるが，ララはもう手持ちの魔法玉がないという。魔法グッズを売って，魔法玉を稼がねばならないのだ。こうして3人はがんばってこの店で魔法グッズを売ろうと決意。しかし「マキハタヤマリカの魔法堂」は趣味が悪いという意見の一致を見た3人は，マジョリカが魔法玉を買いに魔女界に行っている間に，名前を「MAHO堂」に改称，内装もすっかりファンシー系に改装してしまう。前から趣味が悪いと思っていたララの確信犯的協力もあってマジョリカもこれを黙認し，さっそく魔法粘土で魔法グッズも作りはじめた。どれみが作る魔法グッズが芸術的かどうかはともかく，いよいよ明日オープン! と胸躍らせる3人であった。

【解説】OPの3人が揃って魔女見習いになって視聴者が安心する話。と，ともに，魔女，妖精，魔法，魔法玉，MAHO堂，進級試験などの基本設定をさりげなく説明する話。と，ともに，3人の性格や特徴もさりげなく説明する話。テンションの高い五十嵐演出が楽しい。この回で作品の世界環境がそろい，3人にとっても視聴者にとっても次回からいよいよスタート! といたところか。

第5話　1999年3月7日

新装開店！MAHO堂



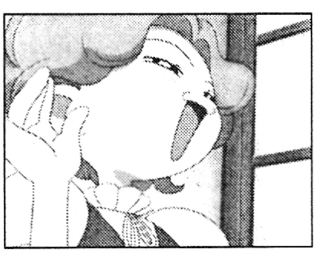
脚本	影山由美	作画監督	川村敏江
演出	岩井隆央	美術	ゆきゆきえ 下川忠海

【粗筋】3人の改装によってついに新装開店なったMAHO堂だが，ポスターまで作ったのに一向に客は来ない。おまけに問屋魔女デラが現れて新しい魔法のレジスターを買うことになり，さらに稼

がねばならなくなった。そこで3人はこちらから打って出て路上で客引きを始める。おかげでお客さんも大勢やってきて魔法グッズもかなり売れた，が，どれみの作った魔法グッズはさっぱり売れなかった。さて，ひととおりお客もはけたMAHO堂へ何やら悩んでいる小竹がやって来た。はづきに見せられたどれみのヘンな魔法グッズに大笑いの小竹は「クラスのみんなが見たら大笑いだぜ」と言ってそれを買っていった。不満などれみだが，マジョリカによれば小竹は何かワケありでMAHO堂に引き寄せられたのだという。マジョリカの言うとおり自分の魔法グッズが効かなかったらという不安もあって，ちょっと気になるどれみは店を飛び出して小竹を追いかける。いつも通り口ゲンカになる2人だが，どれみの「悩みでもあるんじゃないの」というセリフに，否定しつつもぎくっとする小竹。それを見て，やはり気になるどれみは魔法のほうきで小竹の後をひそかに追っていった。廃工場に入っていった小竹は子犬のパルに牛乳をやっていた。両親がペットを飼うのはダメだと言うのでそこでパルを飼っていたのだ。パルにソーセージをあげようとしたところを野良猫が襲い，ソーセージを奪ってしまう。パルを追って廃工場に入っていった小竹は，穴に落ちたパルを助けようとして自分も穴に落ちてしまう。おまけに大量の砂が穴の中に流れ込んできた。どれみは魔法で助けようとするが，砂を固めようとして小竹ごと凍らせてしまい，今度は縄を降ろそうとして自分が縛られてしまう。終いには「何でもいいから小竹を助けて！」と魔法を使うとドラム缶とタイヤが穴になだれ込む。結局それを登って小竹とパルは助かったのだった。一方魔法玉を使い切っていて縄に縛られたままのどれみは，じたばたしているうちになんとか縄が解けて地面に落ちていた。翌朝，家を出る小竹を物陰から見ていた3人は，どうやらパルを飼ってもらえるようになったようなのを見て喜ぶのだった。

【解説】サブタイトルどおり確かにMAHO堂が新装開店した話だが，実際は小竹と小犬とどれみの話。と，ともに「どれみ」は3人とクラスメイトの物語を展開していくんだなぁ，と視聴者が思う話（?)。また，問屋魔女デラ初登場。3人が魔法のレジスターを買ってくれて，デラもバン〇イも大喜び，といったところか。

第6話 1999年3月14日



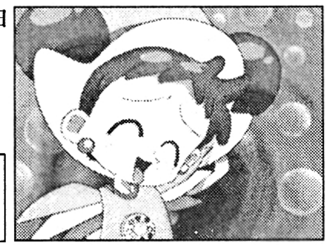
ウソつきは友情の始まり

脚本	大和屋 暁	作画監督	稲上 晃
演出	岡 佳広	美術	ゆきゆきえ いでともこ

【粗筋】登校するどれみとはづきは，横川信子に出会う。「おはよう」と挨拶するどれみたちに，信子は「今日から挨拶してはいけないって校則で決まったんだ」と言う。はづきは騙されかけるが，どれみはいつものウソだと見抜く。しかしそのどれみも，最近どれみはきれいになったと評判だというウソにあっさり騙されてしまった。その日，どれみたちがアイドルグループ・ステッキの話で盛り上がっていると，信子がやって来てステッキのメンバーと親戚だからサインを持ってきてあげるとあいこに言う。転校したてで信子のことをあまり知らないあいこはすっかり信じて大喜びし，信子に親友宣言してしまう。だが，どれみとはづきはあいこに信子のホラふき性を話し，サインは期待しない方がいいと言う。信子が一心にノートに何か書いているのを見たあいこは，覗こうとするが信子は慌ててノートを隠す。信子の母親の話から両親の話になったふたりだが，あいこに母親がいないというのを聞いた信子は自分も父親がいないと言う。涙ながらに行方不明の父親のことを話す信子にあいこは励ましの言葉をかけ，ふたりはすっかり仲良くなったのだった。が，どれみたちから信子の父親は元気だと言われ，騙されたことを知ったあいこは，信子のウソには慣れっこのどれみたちをよそに「ついていいウソといけないウソがある」と激怒。信子を追いかけて廊下を走っていったあいこはゆき先生に激突し，保健室で事情を話す。ゆき先生は「どうして信子がそんなウソをついたのか」と言うが，その真意もつかみかねてやはり納得のいかないあいこ。MAHO堂でもひとり荒れていた。一方，信子はあいこを怒らせてしまったことに嘆息していたが，知らぬ間にMAHO堂に来てしまい，入口であいこと鉢合わせ。慌ててその場を走り去るが，その場に教科書やノートと一緒に少年探偵・縦川信夫の創作を書いたノートを落としていった。これを見つけたどれみたちは早速読んでみるが，劇中にははづき博士や忠犬どれみ，そしてあいこも登場。物語の中であいこは信子のことと思われる少年探偵縦川信夫の危機を助け，「親友やないか」と言うのだ。信子はあいこに親友だと言われたことがとても嬉しかったのだ。なんとかしてもう一度信子と話をつけたいと思うあいこ。そこではづきの提案でそれぞれ少年探偵縦川・はづき博士・忠犬どれみに魔法で変身し，信子の前に現れる。はづき博士があいこを怒らせてしまったことを信子に尋ねると，信子はそのことを深く反省している様子。あいこ扮する縦川は，信子にあいこに会って話をするよう言った。こうしてMAHO堂にあいこを訪ねてきた信子は，あいこに親友と言われて嬉しかったから，あいこと同じに親がいないと言ったら仲良くなれると思ってあんなウソをついたのだと訳を話し，2人は仲直りしたのだった。一方，自分が犬にされたことにどうしても不満の残るどれみだった。

【解説】天才ホラ吹き横川信子と，「ついてええウソと悪いウソがあんねんでー!!✨」と怒るあいこの話。と，ともに筆者（←誰?）が「どれみ」は面白いと自覚した話。今でも全話通して一番好きな話。何故って，信子の気持ちもあいこの気持ちもよく分かるし，なにより魔法を直接的な問題解決に使っていない脚本が美しいからさ。

第7話 1999年3月21日



めざせ9級！ 魔女試験

脚本	吉田玲子	作画監督	青山 充
演出	山吉康夫	美術	ゆきゆきえ 塩崎広光

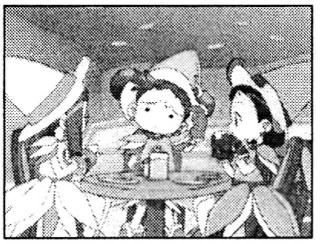
【粗筋】間近に迫った9級魔女試験にそなえて魔法の練習にいそしむ3人。試験は魔女界で行われ，魔法を使って問題を解けば合格だという。9級試験など落ちるほうが珍しいらしいが，どれみのおジャ魔女ぶりが心配なマジョリカは練習のため3人に魔法玉を与える。一方，ぽっぷはおばあちゃんの家へひとりでおつかいに行くことになった。魔法の練習をしたいどれみだが，母はぽっぷが心配でどれみに後をつけるよう頼んできた。どれみはぽっぷを助けるついでに魔法の練習にしてしまおうと思いつき，承諾する。おまんじゅう屋への道に迷ったぽっぷを見て，早速魔法で妙に派手な案内板を出すどれみだが，その甲斐なくぽっぷはその辺の彼氏に声をかけて案内してもらってしまう。おまんじゅう屋では，値上がりのためお金の足りないぽっぷの財布にどれみは自分のこづかいを魔法で転送するが，ぽっぷは店のおばちゃんにお世辞を言って値切ってもらってしまう。おまけにぽっぷは余ったお金でアイスクリームを買い食いし，魔法玉のみならず小遣いまで損してしまったどれみであった。はてさて，ぽっぷは電車に乗ってようやくおばあちゃんの家の近くまで来るが途中で尿意をもよおし，公園のトイレを見つけるものの間に合わずに失してしまう。どれみは進級試験用にとっておかなければならない最後の魔法玉を使って「無料ぱんつ洗い機」を出し，おかげでぽっぷは無事におつかいを済ますことができた。さて，いよいよ進級試験をむかえるその夜，どれみは魔法玉が1個もなくて困っていたが，よくよく探してみたらもう1個だけ残っていた。こうして試験のために魔女界へと足を踏み入れた3人。準備にモタモタしている試験官魔女のモタとモタモタがあいこに出したのは，「四角いたこ焼き」を出すという問題。練習の甲斐あってあいこはあっさり成功し，合格。次のはづきも言われたとおりに「三段重ねのプリン」を出して合格。いよいよどれみだが，「世界一おいしいミルクあんみつコーヒー」なるものと出せという。しかし世界一おいしいもの（主観）を想像したどれみはステーキを出してしまい，そのステーキは確かに美味しいかったが不合格。合格したあいことはづきに妖精のミミとレレが与えられたのを見て，ひとり不合格だったどれみはまたしても世界一不幸な美少女を実感するのだった。

【解説】まず落ちないと言われる9級試験にどれみが落ちてしまう話。と，いう面よりおつかいのぽっぷと，それを隠れてサポートするどれみお姉ちゃん，という趣向が強い話。初の魔女試験でモタとモタモタ初登場。はづきとあいこは9級合格で，レレ，ミミ初登場。

第8話

1999年3月28日

魔女の世界へGO!!



脚本 吉村元希 作画監督 河野宏之
演出 矢部秋則 美術 ゆきゆきえ
下川忠海

【粗筋】9級試験に落ちてしまって意気消沈のどれみとマジョリカ。しかしデラの情報によれば試験官魔女モタモタの999歳の誕生日を祝って行われる追試があるという。さっそく猛練習に挑むどれみだが，月見うどんを出そうとして目玉焼きを，力うどんを出そうとして力強そうな像を，うどんを出そうとしてふとんを出してしまう。相変わらず魔法の腕は怪しげなまま，追試の夜を迎えることになる。どれみのことが心配なはづきとあいこも，自分そっくりに化けたレレとミミを身代わりにして魔女界へ向かった。しかし魔女界ではモタとモタモタの屋台が出ていない。モタたちの家に行くと，モタモタが風邪をひいたために追試は中止だという。追試のチャンスを逃すまいとするマジョリカは，風邪に効く薬草をモタモタに届けるのを追試の問題にしろと提案，モタも承諾してどれみは魔女の野原に生えている魔女くしゃみ草を取ってくることになった。心配してついてきたはづきとあいこも合流し，腹ごしらえに入ったラーメン屋でどれみはサインを頼まれる。どれみが9級に落ちたことをデラが言いふらしたため，どれみは魔女界中で有名になっているのだ。たこ焼き屋とケーキ屋にも入った3人は，店員から目的地の魔女の野原は反対方向であることを知らされ，遠くに見える魔女の野原の入り口の塔を目標に慌てて出発。途中，ほうきの木の森で魔女にナゾナゾの挑戦を受けるが，算数はダメでもこういうのは得意などれみが突破する。森を歩いていくと「魔女の野原 近道」と案内が書かれたとても小さなトンネルを発見。3人は魔法で小さくなり，ネズミに追いかけられるも無事にそこを通り抜けると遂に魔女の野原に到着。しかもすぐ近くにあっさりと目的の魔女くしゃみ草を発見。ところが採ろうとすると，魔女くしゃみ草は走って逃げるではないか。どれみが追いかけて投げ縄で捕まえたが，なんとそこはモタたちの家のすぐ裏だった。無事に魔女くしゃみ草を届けられたどれみだったが，もともと魔女の野原はモタたちの家のすぐ裏だったのだ。はづきとあいこの協力もマジョリカにバレてしまったが，何はともあれどれみは無事に追試に合格，妖精ドドももらって9級魔女見習いになれたのだった。

【解説】どれみの追試はいつの間にか3人の魔女界食べ歩きになってしまって，遠回りはしたけどなんとか合格したぞ，という話。ということでどれみは9級合格，お供の妖精・ドド初登場。また，デラが情報屋として暗躍していることや，レレとミミが主人の姿になれることがこの回で明らかになった。

第9話

1999年4月4日

どこ行ったの!? 妖精ドド



脚本 栗山 緑 作画監督 川村敏江
演出 五十嵐卓哉 美術 ゆきゆきえ
廣嶋秀樹 いでともこ

【粗筋】追試でどうにか9級に合格したどれみ。ようやく3人ともそろって9級になったので，3人で力を合わせればマジカルステージが使えるという。早速マジカルステージに挑戦した3人は，どれみの9級合格祝賀パーティのための豪華な料理を出すことに成功。どれみは喜んでステーキを食べようとするが，ドドが横取りしてしまう。おまけにドドは，人に見つからないように消える練習もうまくいかない。さらに，どれみが学校に行っている間に洗濯機に洗剤ごとダイブして家中泡だらけにしたり，どれみの部屋を思いっきりちらかしたり，ぽっぷとどれみの2人分のおやつを勝手に食べてしまったり。どれみは思わずドドを怒鳴りつけてしまい，ドドは家を飛び出してしまった。マジョリカに叱られ，妖精は魔女が育てるものだというララの言葉を聞いたどれみは反省し，さっそくドドを探しにいくことに。あいことはづきも手伝ってくれて，ほうきで出発した。その頃ドドは，カラスに放り投げられ，猫に追い回され，散々な目に遭っていた。どれみたちを追いかけていったレレとミミに追いついたマジョリカとララは，信号機の上にドドを見つけるが，マジョリカたちに気付いたドドは逃げ去ってしまう。どうしてもドドが見つからないどれみたちはマジカルステージで「ドドを見つける道具」を出すが，出てきたものは焼きイモ。どれみがお腹が空いたとか思ってたんじゃないの? という疑惑はともかく，仕方なく3人はその焼きイモを持って街を歩きまわっていた。と，そこへ小竹が現れ，どれみの手から焼きイモを奪取し，食べてしまう。「なんてことすんの!」と涙する3人を見て慌てた小竹は焼きイモの替わりにとチョコレートを投げ渡して去っていった。焼きイモも失われ，いよいよダメかと落胆する3人だが，さらに歩いてゆくと「キャンディーじゃいやだ，チョコがいい!!」と泣き喚く男児に遭遇。どれみはどうしても放っておけず，チョコをキャンディーに交換してしまう。さらにそのキャンディーも通りすがりのぽっぷに奪われ，どれみたちはぽっぷを追って春風家にやって来た。が，ぽっぷはどれみたちの目の前でそのキャンディーを完膚無きまでに食べ尽くしてしまう。ついに最後の手がかりも無くなったと落胆するどれみたちはどれみの部屋にシケこむが，何とそこにドドがいた。無事なドドを見て思わず涙するどれみはドドと仲直りし，その夜は2人で仲良く床に就いたのだった。が，翌朝ドドはおねしょをしてしまっていた。驚くのどれみの声に母とぽっぷが駆けつけるが，ドドはとっとと水晶玉に隠れてしまい，どれみがおねしょをしたということになってしまったのだった。

【解説】主人に似てドジばかりの妖精ドドと，その主人どれみの話。妖精は姿を消せることや，魔女が妖精を育てることなどが明らかになった。また，3人が9級なったことで可能になったマジカルステージが初使用。その効果は一見謎だが実は…という今後のパターンの先駆けになった。しかしマジョリカの魔力をもってすればドドの居場所ぐらい分かりそうなものだが。

第10話

1999年4月11日

ピンチ! 先生にバレちゃった!!



脚本 影山由美 作画監督 なかじまちゅうじ
演出 岩井隆央 美術 ゆきゆきえ
塩崎広光

【粗筋】キュゥトな魔法グッヅでそれなりに繁盛しているMAHO堂。9級にも合格して楽しい毎日を送る3人だったが，そこに新たな危機が迫っていた。学年新聞記者・島倉のカメラである。彼女が撮ったMAHO堂の写真に，3人の姿が写っていたのだ。しかも玉木が先生に言いつけたらしく話は校長の耳に入り，3人は校長室に呼び出される事態になってしまう。しかし，必死にあいこの親戚のお手伝いだと言う3人の言葉を聞いた関先生の助力もあり，校長も3人の「お手伝い」を許可してくれたのだった。どうにか事なきを得たわけだが，帰り際に関先生に呼び止められた3人は，教頭先生があいこの親戚の人と話をしたいから，後で関先生と一緒に3人がお手伝いをしている店に行くということを聞かされる。一難去ってまた一難，大慌ての3人は対策を練るべく急いでMAHO堂に集結するが，頼みの綱のマジョリカは魔女界の福引きで当たった温泉ツアーにララと一緒に行ってしまっていた。と，そこにデラが登場。これは渡りに船とばかりに，3人はデラをあいこの親戚のおばあちゃんにデッチあげることに。そしてついに教頭と関先生がMAHO堂にやって来た。最初は変装したデラの超適当な応対でごまかしていたが，デラは次のお得意さまの所へ行く時間だと言って早々に帰ってしまう。仕方なくはづきが魔法でどれみをおばあちゃんに化けさせ，再登場させるが今度は早々に魔法が解けそうになってしまう。トイレと偽って慌ててその場を出たどれみは今度ははづきをおばあちゃんに化けさせようとするが，おじさんになったりお相撲さんになったり，どうにも魔法がうまくいかない。あまりの遅さに様子を見に来たあいこがはづきをおばあちゃんに化けさせ，教頭をやり過ごす。関先生は様子のおかしい3人を見て，なお食い下がろうとする教頭を早々に帰らせ，まだ隠してあることがあるんじゃないの? と3人を追及。絶対に悪いことはしていないけれど，わけはどうしても言えないんだと3人は関先生に言い，先生も3人を信じてこのままお手伝いを許してくれたのだった。関先生はその場に3人の親も呼んでいたが，ゆき先生ともどもお手伝いを許してくれるよう頼んでくれて，晴れてMAHO堂は公認となったのだった。

【解説】3人と関先生との信頼の話。3人がでっち上げた「あいちゃんのおばさんのいとこのおばあちゃん」は，第5話でバイトだとツッコむ小竹にどれみが慌てて言ったこと。それを覚えているはづきはさすがだ。その第5話も影山脚本で小竹がメインだったが，

今回も密かに3人を心配する描写があるなどちょっといい役回りだった。また，玉木が3人への対決姿勢を初めて打ち出したのもこの回。

第11話 1999年4月18日



早起き少女まりなと心の花たば

脚本	吉田玲子	作画監督	生田目康裕
演出	岡　佳広	美術	ゆきゆきえ 下川忠海

【粗筋】バイオリンの練習のために朝早く登校してきたはづき。が，教室にはもう小泉まりながいて，教壇に花を飾ったり，机を拭いたりしていた。以来，はづきとまりなは毎早朝に教室で会う仲になる。はづきは早朝の音楽室に魔法で聴衆を出し，バイオリンの練習をしていた。というのも，演奏の練習ではなく大勢の前でもあがらないようにする練習だったのだ。さて，授業中教壇の花に気付いた関先生は，小声でまりなにお礼を言った。関先生もまりなのことを知っていたのだ。その日，まりなは学校の花壇で花の世話をしていた。そこへどれみたち3人も来て話をすると，その花，デイジーはまりなの一番好きな花だという。と，そこへ木村たちが蹴ったサッカーボールが飛んできて，花壇に入ってしまう。どれみたちは木村に謝れというが，木村は「なんでこんな点取り虫に謝らなきゃなんないんだ」と言う。この一言にショックを受けたまりなはその場を走り去り，翌日から朝一番に学校に来ることもやめてしまう。はづきはまりなを励まそうとするが，「朝一番に学校に来るのもお母さんに言われて始めたことで好きでやってたんじゃない」と言う。MAHO堂でこのことを話していた3人だったが，そこへ木村が来店する。あいこに「恋の悩みとかぁ～!?」と迫られて慌てる木村はその辺にあった見るからに怪しい，しかもたった5円のドドが作った魔法グッズを買ってそそくさと帰ってしまった。はづきは登校途中にまりなの家に寄って一緒に登校しようと誘っても冷たく断られてしまい，どうしたらいいのかと思い悩む。その頃，美空市に嵐が近づいていた。強風に続いて雨も降り出す。木村はまりなが世話していた学校の花壇を守ろうとビニールシートで雨風を防ごうとしていた。しかし風はさらに強まり，そのシートも吹き飛ばしてしまう。おまけに雨でびしょぬれになった木村は高熱を出してしまった。はづきに保健室に連れてかれた木村は「小泉が以前のように朝に花を生けてくれるよう願ったのに魔法グッズは全然効かないな」とはづきに言う。花壇を守ろうとするはづきは魔法で風雨を止ませようとするが失敗。次にビニールハウスを出すが，これもすぐに消えてしまう。一方，まりなはどうしても花壇が気になり，暴風雨の中，学校へ向かおうとするが危ないからと母親に止められてしまう。困っているはづきの元にどれみとあいこが駆けつけ，3人の力を合わせたマジカルステージで「花を守って!」とお願い。と，小さい傘がたくさん出てきてすべての花を雨風から守ってくれた。翌朝，花壇が心配なまりなが急いで学校へ来ると，花壇の花は無事に咲いていた。まりなは「朝一番に学校に来るのもはじめはお母さんに言われて始めたけれど，そのうち自分が楽しいからするようになった」とはづきに告げ，元気を取り戻した。まりなは風邪で学校を休んだ木村の家に行き，その朝咲いたデイジーを一輪，木村に手渡したのだった。

【解説】まりなちゃんと木村くんの話。おジャ魔女はづき（?）第1話。ラストは吉田脚本が唸りを上げる。「(どうしたらいいんだろう。人の気持ちだけは魔法でもどうにもできないのかなぁ…)」とはづきは思っていたが，人の気持ちを変える魔法は後々になってテーマになるもの。どーでもいいが，国語の教科書はともかく，算数の教科書も手に持って読むのはおかしいぞ。

第12話 1999年4月25日



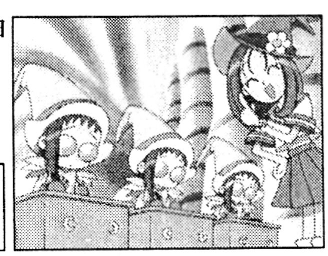
大切なシャツの願い事

脚本	大和屋 暁	作画監督	青山　充
演出	山吉康夫	美術	ゆきゆきえ いでともこ

【粗筋】ある日，MAHO堂に小さな男の子が来店した。「願いがかなう」というチラシを見て来たのだ。その子はどれみの作ったサッカーボール（パンダだっつーの）のアクセサリがついたペンダントを買い求めたが，お金を持っていないので，かわりにその子の宝物だというシャツと交換してしまった。どう見てもただの薄汚いサッカーシャツなのだが，デラの計量によれば魔法玉20個分という予想外の高い価値があるという。魔女界では，同じ物でも強い想いがこもっているほど価値が高いのだ。マジョリカは大喜びでデラに売ろうとするが，その子の強い願いというのが気になる3人はシャツを売らないことに。シャツをよく見てみると，襟のところに名前が書いてあった。それを見てどれみはこのシャツは兄弟のお下がりのものだと言う。さて，その男の子・みさきはサッカーをしている兄にペンダントをプレゼントしていた。どれみが家に帰ると，ぽっぷが友達を家に呼んで騒いでいたが，その中にみさきもいた。どれみが立ち聞きしていると，みさきは補欠の兄がサッカーの試合に出て活躍できるよう，魔法グッズを買ったらしいのだ。学校でみさきの兄・だいちの練習風景を見ている3人だが，だいちはものすごーくサッカーが下手だ。出場選手を決めるのは先生だし，こんなんで本当にみさきの願いがかなうのか，3人は心配になる。だいちはひとりで自主トレをしていたが，練習しても一向にうまくならないのに「試合に出られるよね!」と満面の笑みで迫るみさきについカッとなってしまい，試合になんか出られないと怒鳴り，みさきがくれたペンダントも投げ捨ててしまう。この様子を物陰から見ていた3人はなんとかしてあげたいと思い，だいちが試合に出られるようマジカルステージでお願いする。が，その結果は犬の鳴き声が聞こえただけ。失敗か? と思いきや，五十嵐先輩はじめサッカー部員3人がたくさんの犬に追われて必死に走っている。五十嵐は犬に追われてたどり着いた先で，一生懸命自主トレするだいちを目にした。試合当日，五十嵐たちの進言もあってだいちは監督に「後半からお前を使う」と言われた。出場に備えてアップするだいちを見たどれみたちは，出場するだいちをみさきに見せてあげなければと思い，ほうきに乗ってみさきを探しに出た。だいちが自主トレをしていたグラウンドにいたみさきを見つけたどれみは見習い姿のまま「ペンダントの精」をかたってみさきを試合会場に連れてゆく。みさきが到着すると試合終了間近，だいちのフリーキックの場面。一同が見守る中，だいちは渾身の一蹴でゴール。これが決勝点となって試合も勝ち，みさきとだいちも仲直り。幼いころだいちにもらったあの大切なシャツも，みさきに返してあげたのだった。

【解説】芝山兄弟の話。だいちの背番号は12で補欠ぶりを伺わせるが，実は13と14もいたのでだいちより下手な部員はいたようだ。ぽっぷちゃん親衛隊がふみおくんを除いて初登場。また，五十嵐先輩再登場。

第13話 1999年5月2日



みんな不合格!? 8級試験

脚本	栗山　緑	作画監督	稲上　晃
演出	佐藤順一 岩井隆央	美術	ゆきゆきえ 行　信三

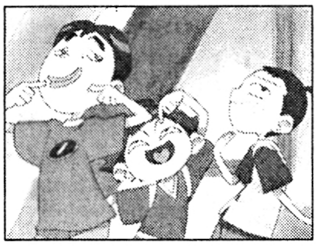
【粗筋】8級魔女試験に不合格になる悪夢を見たどれみは「落ちた」「すべった」という言葉にもビクビクする始末。おまけに算数の試験も20点で落第点，保健室で寝込んでしまった。でもゆき先生は「悪い夢を見たときは，逆夢といって，悪いことは夢ですんでよかった，ラッキー! と思って頑張ることにしている」と話してくれた。おかげで元気を取り戻したどれみは，月が笑うその夜，試験を受けに魔女界へと向かった。さて，魔女界ではモタとモタモタが学校にあるのと同じような机と椅子を用意していた。もしやペーパーテスト? とアセるどれみとあいこだったが，モタたちはアンケートだと言う。「自分の嫌いなもの」を紙に書けと言われて，どれみは「さんすう」，はづきは「おばけ」，あいこはちょっと考えて「タコやき」と書いた。さて，試験問題はらくだ山のふもとの湖に行って「アシジュポーン」の頭に3時間以内に旗を立ててくる，というもの。でも「アシジュポーン」が何なのか分からない。モタたちは「アシハッポーン」と間違えないようにとも言うが，分からないまま3人は出発した。しばらくして薄暗い森の中を進んでいると，はづきの大嫌いなおばけが現れる。パニックになる3人。が，はづきがアンケートに「おばけ」と書いたと聞いて事態を悟ったあいこは，魔法で自分たちをのっぺらぼうにし，逆におばけたちを驚かして撃退した。次はどれみが書いた「さんすう」。なにやら女子高生な試験官が現れ，算数のテストで70点以上とらないと先に進ませないという。アセるどれみとあいこだ

が，予習していたのでスラスラ解くはづきを見て，魔法で自分もはづきになって問題を解こうとする。が，9級魔女見習いの魔力では頭の中身までは変わらない。はづきが機転を効かせて，試験官の注意をそらしたスキにはづきとはづき姿の2人が順々にすりかわり，3人分の試験を解き，全員満点でクリア。最後はあいこの書いた「タコやき」。でも美味しいたこ焼きを3人は大喜びで平らげた。が，話を聞けばたこ焼きを作っているタコの八太郎はイカのスルメ子との悲恋に傷心しているという。この湖のタコ族とイカ族は昔から仲が悪いそうだ。なんとかしてあげたい3人はマジカルステージで八太郎とスルメ子が会えるようにお願い。おかげで八太郎とスルメ子は会えたが，八太郎の「10本の足の先まで愛してる」という台詞を聞いた3人は「アシジュポーン」の正体を知り，早速スルメ子の頭に旗を立てた。が，戻ってみると3秒の時間オーバーで不合格を宣告される。ショックの3人だが，そこへ魔女界の女王様がご降臨あそばされる。自分たちのことよりも，悲劇のふたりを会わせてあげた3人の行いを見ていた女王様は合格にしてあげなさいとモタたちに告げ，おかげで3人は無事8級に合格できたのだった。

【解説】3人の8級試験。と，ともに魔女界の女王様初登場。世界一不幸な（?）どれみ，機転の効くはづき，しっかり者のあいこ，と3人がそれぞれのキャラクターを発揮した脚本と，それを活かした演出が楽しい。後々の試験に出てくる謎の女子高生試験官や八太郎&スルメ子初登場。それはともかく，3人は8級に無事合格。

第14話　1999年5月9日

笑って許して!?



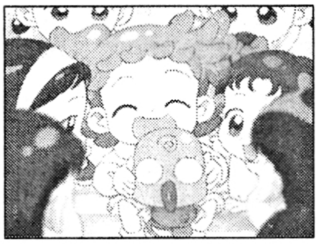
脚本 吉村元希　作画監督 河野宏之
演出 矢部秋則　美術 ゆきゆきえ
塩崎広光

【粗筋】バスケで大活躍の奥山なおみ。背の低い佐川からあっさりボールを奪ってシュートだ。背は高いしカッコいいとどれみたちは感心するが，SOSは奥山を「怪力女」と呼んではやしたてる。奥山は3人をとっちめるが，佐川だけはどうしてもギブアップしない。結局，いつも佐川と奥山の2人の対決になるのだった。盛んに感心するどれみたちだが，すぐ背が高くなってしまう奥山は服もすぐ小さくなってしまい，今度の誕生会に着る服がないという。服のことなら，とはづきの家に誘う3人。奥山は，小さい頃一度だけ来たワンピースがもう一度着てみたいという。いつものスポーティルックとはイメージの違うフリル付きのそのワンピースだが，3人は魔法でそれを作り，奥山は大喜びでそれを着て誕生会に出た。誕生会が終わって奥山が3人を送っていく途中，路上でSOSに遭遇。佐川はいつもの奥山の服とイメージの違うそのワンピースを「似合わない」と言ってしまい，奥山はそれを聞いて泣き出してしまう。翌朝，奥山がいつも通り登校してきたところを，SOSがいつものさぶーいギャグで迎撃。が，奥山はSOSに構わず行ってしまう。そんなことでごまかさずにちゃんと奥山に謝れ，と3人は言う。と，佐川はいきなり奥山に謝る。すると奥山は，「今更謝られてももう傷ついてしまった，もし自分を心の底から笑わせることができれば許してあげる」と言う。SOSは早速ギャグを披露するが，相変わらずのその寒さに，奥山は「さよなら」と言ってとっととその場を去ってしまった。これには佐川もさすがに落ち込んでしまった様子。一部始終を見ていた3人は魔法でなんとかしてあげようと思い立ち，SOSの練習風景を物陰から見てみるが，やはり絶望的なつまらなさ。これを面白くするのは魔法でも無理かと疑いつつも，マジカルステージで「SOSのギャグを面白くして!」とお願い。すると，どこからともなくカエルが大量発生。カエルが苦手な佐川は必死に逃げるが，なぜかカエルたちは目をハートにしてまで佐川だけを追い回す。逃げる佐川は校内の廊下で奥山に出会い助けを求めるが，奥山だってカエルは苦手。ふたりで必死に逃げ回るハメになり，ボロボロになりながらついに屋上に追いつめられた。と，屋上に2人が落ち着いたところでカエルたちは消えてしまう。逃げ回ってボロボロになった佐川の格好を見て奥山は吹き出し，大笑い。なんだかよくわからないが，とくかく奥山は心の底から笑うことができた。翌朝，SOSはいつも通りつまらんギャグを繰り出すが，奥山もいつも通り元気になってSOSを追い回すのだった。

【解説】奥山なおみとSOSトリオ，特に佐川との話。彼女の真意ははかりかねるのだが「なるほどねぇ。女の子の気持ちって複雑なのね」（ララ）ということなのだろう。また，SOSトリオのギャグは「寒い」ことがはっきりした回。及び，はづきはそれでもウケてることや，はづきのタカラヅカ趣味が明らかになった回。

第15話　1999年5月16日

マジョリカ幼稚園に行く



脚本 影山由美　作画監督 川村敏江
演出 五十嵐卓哉　美術 ゆきゆきえ
広嶋秀樹　下川忠海

【粗筋】ぽっぷは母との約束に反して遅く家に帰り，母にまた約束破ったら1週間のゴミ出し当番だと言われてしまう。でも，困っているおばあさんを助けるためにMAHO堂を手伝っている，ということになっているどれみは遅く帰っても怒られない。この差にどうにも納得がいかないぽっぷはMAHO堂に行ってみる。どれみの作った目もあてられない魔法グッズをけなすぽっぷをどれみは追い回すが，そのドタバタでぽっぷの目の前にマジョリカが落ちてきてしまう。アセる3人。それは人形だとごまかすが，ぽっぷはその無類のぷにゅぷにゅ感と可愛さ（?）がいたく気に入ったご様子。どれみは，それは1000円もするからあんたには買えないと言うが，そこはしっかり者のぽっぷ。ためていた小遣い1000円をあっさりと出し，マジョリカを持って帰ってしまった。3人はアセるが，魔女ガエルとはいえマジョリカも魔女なのだから水晶玉があれば魔法が使えるというララの言葉に安心する。そして鬼の居ぬ間にとばかりにMAHO堂を閉めて遊びに行った。が，MAHO堂の床にはマジョリカの水晶玉が転がっていた。さて，ぽっぷはマジョリカにプニュちゃんと名をつけ，翌日幼稚園に連れていった。プニュちゃんは他の園児にも大人気，さんざん弄ばれたあげく，いばりんぼうのきみたかに奪い去られる始末。猫の姿のララは，水晶玉がなくて魔法が使えないマジョリカの窮状を知り，学校にいる3人にこのことを知らせる。はづきとあいこはどれみに化けたドドを保健室に連れていき，どれみはぽっぷの幼稚園に駆けつけた。その頃，ぽっぷはきみたかからプニュちゃんと奪回せんと頑張っていた。きみたかはプニュちゃんを持って木に登り，枝の先に逃げるが，ぽっぷの追撃を阻止せんと枝を揺らしたために枝が折れそうになる。池に落ちそうになるぽっぷときみたかだが，間一髪どれみが魔法で枝が折れるのを防いだ。一方，ララはMAHO堂でマジョリカの水晶玉を発見。幼稚園に急行してマジョリカに水晶玉を投げ渡すが，それを取ろうとしたマジョリカは水晶玉ごと池に落下。マジョリカは池の中で魔法を使ってようやく逃げ出せたのだが，プニュちゃんがいなくなってしまったことにぽっぷやきみたかたちは泣き出してしまった。一方学校に戻ったどれみは，国語のテストをドドが受けているを目の当たりにするのだった。

【解説】プニュちゃん初登場（?）。と，ともにぽっぷの幼稚園の様子が明らかになった回。ぽっっぷちゃん親衛隊が揃って登場し，きみたかとその子分は初登場。マジョリカの「それに比べて，ぽっぷは根性もあるし，おまえよりなんぼか魔女に向いとるな。いっそのことあの娘が魔女見習いならのぉ」という台詞は後々の展開への伏線か。

第16話　1999年5月23日

恋を釣り上げよう



脚本 吉田玲子　作画監督 青山　充
演出 岡　佳広　美術 ゆきゆきえ
いでともこ

【粗筋】釣りから帰ってきたどれみの父が，釣り仲間の少年を家に連れてきた。その名も長谷川くん，白い歯もステキに輝く小学6年生だ。どれみはそんな彼に一目惚れしてしまう。そして今度の土日にどれみの父と長谷川くんも行くキャンプに行くことになり，そこで長谷川くんに告白しようと考える。しかし，また五十嵐先輩のときのように自分の想いが伝えられず片想いに終わるのではないかと思い，どれみの頼みではづきとあいこも一緒にキャンプに行くことになった。ところがこのことを聞いたマジョリカとララもキャンプについて行くことになってしまい，不安になる3人。面倒だから「店番よろしく」と書き残して3人は出発してし

まい，置いてけぼりをくったマジョリカはブチ切れる。さて，一同はキャンプ場に到着。「釣りで分からないことは聞いてくれ」と長谷川くんに言われていい感じのどれみだが，長谷川くんの父も来ていた。聞けば，来年は中学受験なので釣りは禁止だと父に言われていて，父にも釣りの楽しさを分かってもらいたくて連れてきたのだという。しかし誰もろくなものを釣り上げられず，気まずい雰囲気で告白どころではない。はづきとあいこは魔法で長谷川くんが魚を釣れるようにしようとするが，魚を捕まえようとするドドが代わりに釣られそうになってしまい，はづきたちは慌ててドドを鯉のぼりに変えてしまったりする。どうにも最悪のムードのままだが，はづきとあいこはレレとミミのタレコミで，置いてけぼりをくったマジョリカが近くで魚を囲い込んで釣りまくっているのを発見。このせいで長谷川くんたちはまったく魚が釣れなかったのだ。はづきとあいこは一計を案じ，平身低頭マジョリカに謝り，「向こうに眺めのいい温泉があるからそっちで誠心誠意接待させていただきます」という。温泉に惹かれたマジョリカははづきたちについていき，囲い込んでいた魚は解放された。さて，いまだに1匹も釣れないまま陽も暮れかけた頃，長谷川くんの父が釣りはもう終わりだ，明日は朝イチで帰ると宣告。しかし「今日は一緒につきあってくれてありがとう」と言う長谷川くんや，どれみの父がどれみを手伝って魚を釣る姿を見た長谷川くんの父は，大きく引いた長谷川くんを思わず手伝い，ついに父子の協力で大物を釣り上げる。長谷川くんの父は赤面しながらも「釣りもいいものだな」と言い，長谷川父子も和解。その夜は釣った魚を焼いて食べてみんなで楽しく過ごしたのだった。さて，夜中に川辺に長谷川くんが一人きりでいるのを見つけたどれみは，いよいよ意を決して告白しようとする。いいムードになりかけるが，長谷川くんは父に釣りを続けることを許してもらえたようで，「受験が終わったら今度は彼女と2人で来るよ」と言う。彼にはもう彼女がいたのだ。またまた失恋に終わり，はづきとあいこがムードを盛り上げようとして魔法で出してくれたハート型の花火が痛々しくも心にしみいるどれみであった。

【解説】どれみちゃんと長谷川クンのラヴ・ストーリー，と思いきや，どちらかというと長谷川親子の物語。妖精たちが活躍する数少ない話の一つでもあり，どれみの父が最も父親らしく描かれていた話でもある。なお，今回から3人同時の「おきがえ」が披露されるようになった。

第17話　1999年5月30日



矢田くんは不良小学生!?

脚本	大和屋　暁	作画監督	なかじまちゅうじ
演出	佐藤順一 岩井隆央	美術	ゆきゆきえ 行　信三

【粗筋】矢田まさるが中学生をボコボコにしたという噂が。矢田はテストは白紙で出すし，音楽の授業ではまったく歌わないという問題児。あげく，授業で「私の先生」と題して書く作文ではただ一言「ブス」。関先生は学校の屋上に矢田を連れ出し，話を聞こうとするが，相変わらず「別に…」と言うばかり。そんな矢田の行動にはクラスの面々も引いてしまうが，矢田と同じ幼稚園だったはづきは彼のことが心配な様子。幼稚園時代に公園で遊んでいて転んでしまった時も家までおぶってくれたし，矢田は本当は優しいんだと信じているのだ。しかし，幼稚園のころから本当は悪くないのに誤解で大人から叱られることが多かったという。さて，事態はさらに悪化する。なんと矢田が警察に捕まってしまったのだ。夜中に埠頭の倉庫に無断で侵入したからだという。これを聞いたはづきは，矢田がそんな悪いことするはずないと思い，校長室へ行ってみる。矢田はそんな悪い人じゃないと教頭に直訴するはづきを見て，関先生も私は自分の生徒を信じると言うが，教頭は納得しない。結局，もし矢田が悪いことをしていたら関先生が責任をとって教師を辞めるということになってしまった。3人は真相をつきとめるために，自習時間の間に現場の8番倉庫へと急行。中へ忍びこみ，マジカルステージで「矢田くんが何をしていたか教えて」とお願い。すると，ビデオのリモコンのようなものが落ちてきた。適当にリモコンを押していると，倉庫の窓に昨夜の様子がビデオのように映っている。よく見てみると，たしかにかばんをもった矢田がいて何かしている。しかし，警備員に捕まる直前に矢田はコンテナの下にそのかばんを隠していた。このかばんを見つけた3人が中を開けてみると，トランペットが入っていた。これは何なのかと考える3人だが，そこへ矢田が現れ，トランペットの取り合いになる。さらに関先生もやって来て，学校へ戻るぞと言うが，矢田は自分がクビになるから連れ戻しに来たんだろと嫌味を言う。ついに関先生も応戦し口論になり，矢田は関先生を殴ってしまう。が，関先生は矢田を抱き留め，私は矢田を信じているから本当の事も何でも話してほしいという。そして，自分の言うことなんか大人は信じないと思っていた矢田もようやく本当のことを話した。幼いころ，ドイツへ行ってしまう父が自分に残してくれたのがそのトランペットで，人目につかないように練習するため倉庫に入ったというのが真相だったのだ。中学生ボコボコ事件も，空き地で練習していたらからまれてトランペットを蹴られたからやってしまったと言う。わけを話したら倉庫のおじさんも許してくれて一件落着。だが，自習をサボって来ていたどれみたちは関先生に補習を宣告されるのだった。

【解説】矢田まさると関先生の話。おジャ魔女はづき第2話，の要素もある。矢田の父のトランペットの演出が美しい。

第18話　1999年6月6日



使っちゃダメ! 禁じられた魔法

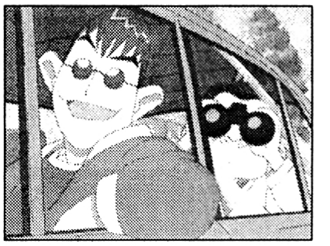
脚本	栗山　緑	作画監督	稲上　晃
演出	山吉康夫	美術	ゆきゆきえ 塩崎広光

【粗筋】7級試験に臨む3人。7級に受かれば植物と話せる魔法が使えるようになるという。が，そこへデラが集金に現れ，支払う余裕のないマジョリカはデラとの応対で手いっぱい。3人だけで試験を受けに行くことになった。ところが魔女界のモタたちのところへ来ると，試験は今日だっけ? と言われてしまう。モタたちは福引きで当たった温泉旅行へ出かけるところだった。どれみの悲哀漂う演技もあって，なんと試験抜きで7級合格ということになり，あっさり7級になってしまった。魔女界を飛んでいる途中，女王様の馬車と出会ったのだが，女王様は3人の様子を不審に思ってマジョリンに3人の様子を見ておくよう命じる。さてある日，学校ではづきがひとりで飼育当番の仕事をしていた。同じ当番の岡田ななこが当番の仕事をしないからだ。ななこにわけを聞くと，動物嫌いだからだと言う。しかしはづきは1年生のときは一緒にうさぎを抱いたりしていたと言う。いつもは優しいななこが何故動物嫌いになってしまったのか不審に思った3人は，マジカルステージでななこが動物嫌いになった訳を教えて! とお願い。すると，地図が出てきた。その地図に記された場所へ行くと，そこはななこの家だった。が，家には誰もいない様子。7級になって植物と話せる魔法が使えるようになった3人は，さっそく家の庭にある桜の木に魔法で訳を聞いてみた。すると，とても可愛がっていた犬のるるを，2年前の夏の日に死なせてしまったからだという。ななこはるるを死なせてしまったことに責任を感じて，以来動物を飼わなくなってしまったのだ。ななこをなんとかしてあげたいと思う3人がゆき先生に相談すると，いい手があるという。学校のうさぎ1匹を，風邪をひいた他のうさぎから離しておくため，とななこの家に預けたのだ。はじめは動物嫌いだからと言って拒むななこだが，このうさぎの名前は「ルル」だと言われ，ななこは次第にルルの世話をするようになる。ところが，ななこがいない隙に開いた窓からルルは外へ逃げてしまう。ななこと3人が必死になってルルを探しまわると，ルルは川の河川敷で野良猫に襲われていた。けがをしたルルは関先生の協力もあって獣医のもとに届けられ，手術は成功するが，ルルが助かるかどうかは何とも言えないという。ななこは，また動物を死ぬところなんて見たくない，と言い，はづきが余計なことをするからだと責める。責任を感じたはづきは，どれみとあいこの制止を振り切って，けがや病気を治すという禁断の魔法を使ってルルを治してしまう。はづきはその反動で熱を出して寝込んでしまったが，大したこともなくすぐに快方に向かう。不思議に思うマジョリカやはづきの元に，魔女界の女王様からメッセージが届く。禁断の魔法とはいえ良いことのために使ったのだから，と女王様がはづきを守ってくれたのだ。しかし魔女界の掟を破ったのは事実なので，罰としてはづきは10日間魔法が使えなくなった。それでも，はづきのお見舞いに来てくれたななこの「はづきの分まで飼育当番をする」という言葉に，ななこの動物嫌いが治って本当に良かったと喜ぶはづきだった。

【解説】岡田ななこの物語，と思いきや，おジャ魔女はづき第3話。第3話にしてクライマックス。あと，忘れがちだが3人の7級合格。

忘れてしまうのは無試験だったからだろう。しかし，禁断魔法のしっぺ返しも魔法で守られるなら苦労ない気もするのだが…。

第19話 1999年6月13日



はづきちゃん誘拐される！

脚本	前川 淳	作画監督	生田目康裕
演出	伊藤尚往	美術	ゆきゆきえ 下川忠海

【粗筋】前回の一件で魔法が使えないはづきだが，今夜でようやくそれも終わり。が，そのはづきが見るからに金持ちそうな自分の家を出るところを，車の中の怪しい男2人組が見ていた。男ははづきに，歯が痛いから歯医者の場所を教えてほしいと言い，案内のためにはづきを車に乗せてそのまま走り去ってしまう。はづきは誘拐されてしまったのだ。その頃，MAHO堂ではいつもは遅刻しないはづきがなかなか来ない。はづきは脅迫状を書いている男に，電話のほうが手っ取り早いと親切に進言。電話番号も教えてあげるが，その番号はどれみの家の番号だった。男は言われるままにどれみの家に脅迫電話をかけ，それに出たどれみははづきが誘拐されたと聞いて大慌てでMAHO堂へ。どれみの家へ電話が来たってことはどれみたちに来てほしいんじゃないか，というあいこの意見に従い，どれみとあいこは言われた美空町2-10-5へ。要求された一千万円を魔法で出そうとするが，ふたりともうまく出せない。するとアパートの窓に，男と競り合うはづきの姿が。助けなきゃ！と慌てたどれみとあいこは魔法で警官になって突入しようとするが，どれみはうまく変身できずにパトカー（着ぐるみ）になってサイレンを鳴らしてしまう。この音に驚いた犯人ははづきを連れて車で逃走し，どれみとあいこもほうきで追いかける。どれみは魔法で時間を止め，はづきを車から出そうとするがドアがロックされていて失敗。次はあいこが車を止めようとするが，車は自転車になったり戦車になったりトマト形の馬車になったりどうにもうまくいかない。逃げてきた山中ではづきが話を聞くと，男2人は売れないお笑いコンビ・パパイヤ兄弟で，事務所から三行半つきつけられて困っていたところに一千万あればスターにしてやる，という誘いがあったのだという。と，そこへどれみとあいこが到着。パパイヤ兄弟オトウトは拳銃を向けるが，それはおもちゃ。あいこは誘拐犯をこらしめて！と魔法をかけ，2人は高い木の上にあげられてしまった。が，はづきは，あの2人は反省しているようだから許してあげて，と言い，ここははづきに免じて許してあげようとどれみたちは思う。2人を木の上からおろそうとするが，なんとどれみもあいこも魔法玉を使い切っていた。まだ陽が沈まないのではづきも魔法が使えない。見ると今にも枝が折れそうで，このままではパパイヤ兄弟は木から落ちてしまう。あいことどれみがほうきに乗って2人を助けようとするが，2人の力では支えきれない。はづきは，まだ陽が沈んでいないけれどもパパイヤ兄弟を助けるために魔法を使えるよう魔女界の女王さまに心から祈る。するとタップは音を取り戻して魔法が使えるようになり，落ちる2人をはづきが魔法で助けた。この一件で思い直したパパイヤ兄弟ははづきを家に送り届け，マジメに頑張ることにした。後日，3人はテレビでパパイヤ兄弟を見かける。相変わらずギャグは寒かったが，相変わらずはづきは笑っていたのだった。

【解説】パパイヤ兄弟の話，というよりはづきの話。そういうわけでおジャ魔女はづき第4話。この日ははづきの部屋のカレンダーから6月13日（日），つまり放映日。通常3人同時の「おきがえ」はどれみとあいこの2人だけのだった。しかし，涙が落ちるとタップが光を取り戻すあたり「少女の涙が奇蹟を起こす!」という言説の正確さが現れた話だ…。

第20話 1999年6月20日



ライバル登場！ MAHO堂大ピ～ンチ!!

脚本	吉田玲子	作画監督	川村敏江
演出	五十嵐卓哉 広嶋秀樹	美術	ゆきゆきえ いでともこ

【粗筋】今月も赤字になりそうなMAHO堂へ，いつもの通りデラが代金徴収にやってきた。いつもの通り払うあてのないマジョリカは，デラが持ってきたトランプで賭博を挑み，魔法玉の代金をまけさせようとする。はじめは10連勝して我が世の春を謳歌していたが，その後20連敗してしまう。ところが「買ったら魔法玉10年分」につられたマジョリカはさらにMAHO堂の権利書と営業許可証をかけてデラにトランプ勝負を挑み，やっぱり負けてしまった。MAHO堂は人手に渡ってしまったのだ。いつもの通りMAHO堂へ来た3人はデラに店への立入禁止を宣告される。さらにMAHO堂の新しいオーナーと名乗るマジョルカなる魔女が現れ，どれみたちはMAHO堂を追い出されてしまった。マジョルカは魔女学校時代からのマジョリカのライバルで，時期女王の座をかけて何かと敵対している相手なのだという。さて，住む場所を失ったマジョリカとララはどれみの部屋に住み込むことになり，また厄介なことになってきた。さて，翌日登校すると玉木が「元祖MAHO堂」で買ったという魔法グッズを持って登場。気になる3人は放課後にかつてのMAHO堂，現「元祖MAHO堂」へ行ってみる。マジョルカに気付かれないように魔法で男の子に変身して店に入ってみると，すっかり改装されてしまっていて，なかなか繁盛している様子。が，どれみくんは「世界一幸せな美少女になれる」との言葉に惹かれてマジョルカの魔法グッズを買ってしまった。その魔法グッズをつけたどれみはしかし，ハトにはアイスクリームの上に落とし物をされ，犬には足にお小水をひっかけられてしまう。そこへマジョルカの妖精・ヘヘが現れ，それは「世界一不幸になる」魔法グッズだと笑う。3人の変身は見破られていたのだ。向こうの方が一枚上手で，いよいよ焦るどれみたち。マジョリカに至ってはどれみの家で飲んだくれてしまう始末。しかし，夜中にひとり元祖MAHO堂を哀しげに見つめるマジョリカの姿を見て，マジョリカも辛いんだと思い直す。一方，学校では元祖MAHO堂の魔法グッズが大流行。効き目もバツグン，どれみたちがいなくなったから店が繁盛するようになったとからかわれ，ついに一念発起したどれみは元祖MAHO堂の正面にある廃棄バスを改装して新しいMAHO堂にしよう！と提案。3人は一生懸命バスをきれいにし，新しい魔法グッズも作った。そしてある夜，バスを改装してできた新しいMAHO堂をマジョリカに披露。これを見て3人の心意気に打たれたマジョリカは，魔法で看板をつけ，バスも走れるようにしていよいよ営業を再開。たとえ店舗を失っても，MAHO堂は健在なのだった。

【解説】マジョルカ登場。と，ともに元祖MAHO堂編（?）突入。時期女王選や魔法堂について語られた。しかしどれみくん，はづきくん，あいこくんはインパクトあった…。哀愁漂うマジョリカの背中もなかなか。

第21話 1999年6月27日



マジョルカグッズは 危険がいっぱい

脚本	吉村元希	作画監督	河野宏之
演出	矢部秋則	美術	ゆきゆきえ 塩崎広光

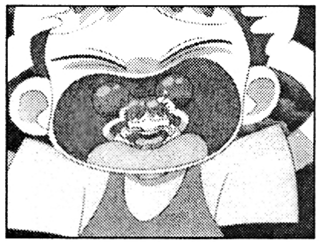
【粗筋】再出発したMAHO堂だが，どうも客足は元祖MAHO堂へと流れてしまう。元祖MAHO堂のグッズの方が効果覿面という評判のためだ。魔女見習いである3人の作ったグッズは，魔女であるマジョルカが作ったグッズには効き目において遠く及ばない。魔女がグッズを作るには髪の毛を入れる必要があるので，魔女ガエルになってしまって残り1本の髪の毛を死守するマジョリカにはグッズが作れないのだ。おまけに，店番する3人は玉木からさんざん嫌味を言われ，敵情視察に向かったマジョリカはマジョルカとヘヘにさんざんやりこめられる。その上マジョリカはまだどれみの家に居座るつもりのようだし，一体MAHO堂を取り戻せるのはいつになるのか先の見えない3人。さて，学校では玉木がいつもにも増して超ド派手な衣装で登場。マジョルカの魔法グッズのおかげで母が買ってくれたものだという。おまけに小泉まりなもその異様に派手な服を「ステキぃ」と言って恍惚の眼差しで見つめるし，なぜか給食が毎日揚げパンで揚げパン大好きの柳田すすむは大喜びだし，あの寒さだけでは超一級のSOSのギャグはクラスのみんなに大受けするし，何だか様子がおかしい。一方，どれみの家ではマジョリカが勝手にアンパンを食べ，牛乳も飲んでしまい，アンパンと牛乳がなくなっていることを不審に思ったぽっぷに問いつめられたどれみは，このつまみ食いの罪を被ることになってしまう。いいかげんMAHO堂を取り戻さないと大変だと思うどれみ。学校では玉木がさらに華麗でゴゥジャスなオシャレに磨きをかけ，SOSのギャグは学校中で大受け。給食はまた揚げパンだ。だが，玉木もSOSも柳田も，マジョルカの魔

法グッズの所持者はみんな体調が悪い。マジョリカによれば，それは強い効果を持つマジョルカの魔法グッズが引き起こす副作用だという。何とかしなければと思う３人だが，魔法グッズの効果をなくすことができるのはグッズを作った本人だけだという。みんなで力を合わせればなんとかなるんじゃないかとララは言うが，マジョリカはマジョルカのグッズなぞに頼った当人らが悪いんだと協力を拒否。このマジョリカの態度にキれた３人は，マジョリカにありったけの罵声を浴びせた後，マジカルステージでマジョルカの魔法グッズの力がなくなるようお願いする。しかし，やはり魔女見習いには難しい魔法で，魔法は消えそうになってしまう。そこへマジョリカの魔法も加わって，魔法は成功。マジョルカの魔法グッズの効果は失われ，玉木たちも副作用が消えて元通りになった。そして結局力を貸してくれたマジョリカに３人は感謝するのだった。

【解説】元祖MAHO堂編第2話。サブタイトルどおりの内容。柳田すすむはこの回と，一言だけの第31話しか喋らないのだが，一応この話が彼のメインの話なのだろうか？ だとしたらあまりに哀しいような…。

第22話 1999年7月4日

6級魔女への道は遠い!?



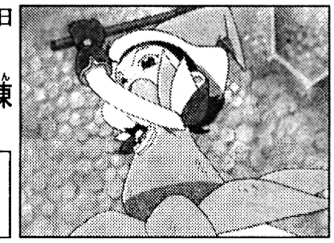
脚本	吉田玲子	作画監督	青山　充
演出	山吉康夫	美術	ゆきゆきえ 下川忠海

【粗筋】魔法グッズの副作用騒ぎがあったばかりなのに相変わらず大繁盛の元祖MAHO堂。セールや美男美女店員への人気が強いのだ。マジョリカはせめてお前らが6級になっていればとぼやくが，そんな所へやって来たデラによれば，今夜に進級試験があるという。マジョルカに対抗するためにも試験を受けようとするが，試験のために魔女界へ行くには元祖MAHO堂の中にある魔女界へと通じる扉を通らねばならない。もちろんマジョルカが素直に通してくれるわけもなく，一同は策を講じる。マジョルカの大好きな回転寿司でつったり停電させたり水浸しにしたりマジョルカの嫌いな蝶を出したりしてどうにかマジョルカを元祖MAHO堂から出そうとするが，マジョルカに切り抜けられてしまう。仕方なく一同はマジョルカたちが寝静まるのを待つことにする。ララが様子を見に元祖MAHO堂へ潜入すると，美男店員が逆さ吊りで寝ているし，美女店員はチュ～とか言っている。これを聞いたどれみはもしやと思い，マジカルステージで「店員の正体を暴いて!」とお願い。すると，好物の虫とチーズを見て店員はコウモリとネズミに戻ってしまった。そこをビデオカメラに収め，このテープでマジョルカを脅して一同はようやく魔女界へ行くことができた。ところがモタたちは，もう夜が明けるからと言って店じまい。試験も受けられず，魔女界へ行くために貴重な魔法玉も使ってしまい，まさに踏んだり蹴ったりな３人。さて，春風家では母が福引きでティッシュ1年分を当て，スイカもおまけしてもらったといって喜んでいた。が，重いスイカを3つも持ってぎっくり腰になってしまう。代わりに父が夕食を作れば，おかずのために釣ってきた魚はシシャモより小さい。朝食も作らされて疲れて登校したどれみだが，はづきもあいこも疲れている。はづきのばあやは調子が悪いし，あいこの父も過労気味だと言う。放課後，はづきの家に行ってみるとばあやがいつも通り大迫力のお出迎え，なのだが巨大な氷嚢をつけたまま。しかも調子が悪いというのに，焦がしてしまったケーキを作り直すと言い張ったり，庭の手入れをすると言い張ったりする。どれみたちはばあやが休めるように魔法でケーキを完成させたり庭をきれいにしたりしたが，魔法玉も残り少ない。と，さらにばあやは2階の窓を拭いていて落ちそうになる。これを見た３人は慌ててマジカルステージでばあやを助けるが，これで魔法玉を使い切ってしまった。ばあやはようやく休んでくれたが，なんとばあやは元祖MAHO堂の魔法グッズを持っていた。これが原因だと分かった３人は，どれみの母もあいこの父も，これが原因だと推断。どれみは母から，あいこは父から魔法グッズを奪い去って，これでひとまず安心。が，このまま元祖MAHO堂の魔法グッズが売れ続ければ大変なことになりかねないし，魔法玉はもうないし，先行きが不安な３人であった。

【解説】元祖MAHO堂編第3話。内容的には次回へのステップといったところ。それにしてもマジカルステージを使っている間に，ばあやが落ちなくて良かったなぁ，うんうん。

第23話 1999年7月11日

大逆転!? おジャ魔女の試練



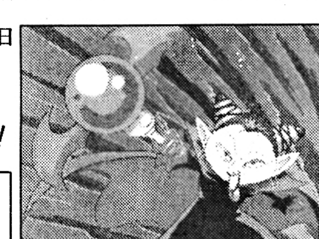
脚本	栗山　緑	作画監督	なかじまちゅうじ
演出	岡　佳広	美術	ゆきゆきえ いでともこ

【粗筋】どれみが家に帰ると，今日の夕飯はステーキ。聞けば母が宝くじで1万円が当たったという。どれみはまさかまだ元祖MAHO堂の魔法グッズを持っているんじゃないかと疑うが，母は否定する。さて，ぽっぷがケーキを食べようとするとケーキが見あたらない。またマジョリカが勝手に食べてしまったのだ。そしてまたどれみのせいになってしまい，どれみはついにマジョリカへの復讐を思いつく。プニュちゃん，もといマジョリカをぽっぷに与えてしまったのだ。一方，魔法玉がなくなってしまって落ち込んでいるはづきは，MAHO堂からの帰り道に矢田と出会う。矢田にこのことをそれとなく相談するはづき。すると彼は「それが本当に必要なものなら，自分だったらバイトしてでも土下座してでも絶対に手に入れる」と答えた。一方，あいこは家でハーモニカを吹きながら父の帰りを待っていた。父は遅くに帰って来たが，あいこに見せたい物があるという。それはあいこへのプレゼントで，中身は新しいハーモニカだった。あいこは喜んでそのハーモニカを吹いて聞かせるが，父は古いハーモニカを捨てようとする。これを見たあいこは激怒するが，父にはその理由が分からない。ついにあいこは家を飛び出し，はづきの家に家出してしまった。はづきからの連絡でどれみはすぐにはづきの家に行き，ふたりはあいこから話を聞く。あいこの父が捨てようとしたハーモニカは，離婚する前の両親からあいこが買ってもらった想い出の品で，両親の離婚後もあいこはずっとそのハーモニカを大切にしていたのだ。あいこの父ははづきの家まで迎えに来たが，あいこは魔法グッズ捨てたら帰ってもいいわとばあやさんに言伝して門前払い。これを聞いたどれみは，自分の両親も結局マジョルカの魔法グッズを捨てていなかったことを思い出す。でも魔法玉はもうないし…と思っていると，ドドがはづきの部屋の隅に落ちていた魔法玉を発見。1個だけだが，これを使ってどれみは3人をゴキブリに変身させ，元祖MAHO堂に侵入して魔女界へ。まずモタたちに土下座をして魔法玉を求めたがあっさり断られたので，今度は魔女界でできるバイトを探すことに。女王様の城へ行くと，薪割りをすれば魔法玉をくれるという。膨大な量の薪を目の前にしながらも，あいこを先頭に3人は協力してどんどん薪を割っていった。最初は「お父ちゃんのアホー!」と叫びながら割っていったあいこだが，ついに手が痛くなって斧を振り下ろせなくなってしまう。替わりにどれみ，はづきが次々と薪を割っていき，ボロボロになりながらもついに全ての薪を割り終えた。そして魔法玉をもらうことができたが，なんと1人1個ずつ。苦労の割に少ない数に愕然とするが，モタたちはそれで6級合格ぅと言う。6級試験の問題は，ゼロになった魔法玉をどうやって手に入れるか，だったのだ。さらに，どれみは古いおもちゃのピアノ，はづきは幼い頃に使っていたバイオリン，あいこはあのハーモニカとそれぞれのポロンとを合体させ，バージョンアップした新しいポロンとなった。使用する魔法玉も従来の3倍の効力があるもので，これならマジョルカの魔法グッズの効力を消して，さらにMAHO堂も取り戻せるかもしれないと大喜びの3人であった。

【解説】元祖MAHO堂編第4話。と，ともに妹尾家の物語第2話。あいこのハーモニカ，あいこの母（目元以外）が初登場。そして3人の「大親友」宣言，6級合格，クルールポロン初登場，と盛り沢山の内容。夕陽を背に，はづきが矢田に相談するシチュエーションもなかなか。

第24話 1999年7月18日

マジョルカ対 6級おジャ魔女！



脚本	栗山　緑	作画監督	川村敏江
演出	佐藤順一 岩井隆央	美術	ゆきゆきえ 塩崎広光

【粗筋】6級に合格した3人だが，町中に残るマジョルカの魔法グッズの効力を消すにはマジカルステージでもまだ無理だという。一

第一章　各話解説

方，元祖MAHO堂には願いが叶う代わりにケガや病気になるという噂を聞いてグッズを買った客が押し掛けていた。この騒ぎで店内はメチャクチャになってしまい，へへと店員たちがその店内を片づけていたが，マジョリカの水晶玉もゴミと一緒に捨ててしまう。水晶玉をなくして魔法が使えないマジョルカは大慌てでへへたちに水晶玉を探させるが，この様子をこっそりララが見ていた。このことを知らされたマジョリカはマジョルカの水晶玉を先に見つけて店の権利書と交換させようと思いつくが，プニュちゃんはぽっぷの元から逃げ出せない。そこでララは学校にいた3人にこのことを知らせる。3人は学校が終わるとさっそくマジョルカの水晶玉を探すためにゴミ処理場へ向かった。そして厖大なゴミの山から，新しいクルールポロンを使った魔法で水晶玉を発見。が，そのときマジョルカたちもゴミ処理場へやって来て鉢合わせ。3人は水晶玉と引き替えに，MAHO堂の権利書よりもまず魔法グッズの効力を消すようマジョルカに言う。あっさりこれに同意したマジョルカは水晶玉がないと魔法が使えないからまず水晶玉を返せといい，どれみが渡してしまうと，マジョルカはとっとと帰ろうとする。元よりどれみたちの要求など聞くつもりはなかったのだ。しかし3人の「マジョリカよりもエゲツない」との言葉にキレたマジョルカはどれみたちを魔法で懲らしめようとする。6級に合格した3人はこれに魔法で対抗。どれみは「マジョルカの苦手なもの」を出すのだが，それは「誰でも寒がるオヤジギャグ辞典」。マジョルカもこれには苦しむが，今度はゴミが集まってできた巨大なロボットを出して反撃。はづきとあいこが何とかしようとするが，うまくいかない。これを見たララはマジョリカに助けを求めに行くが，緊急事態のためにララもマジョリカもぽっぷの目に構わずぽっぷから水晶玉を奪取して飛んでいってしまった。妖精のララとしゃべってしかも飛んでいったプニュちゃんを見て驚愕するぽっぷ。ゴミ処理場へ急行したマジョリカはどれみたちに「相手は元はゴミなんだから頭を使え」と助言。これを聞いた3人は連続魔法で巨大掃除機を出し，ロボットを吸い取ってしまった。これにマジョルカも吸い込まれそうになり，この勝負は3人の勝ち。ついにMAHO堂の権利書を奪回し，マジョルカも魔女界へ帰っていった。どれみたちはマジョリカの協力のもと，マジョルカの魔法グッズの効力を消すためにマジカルステージを使う。ようやくマジョルカの魔法グッズの脅威は去った。が，プニュちゃんを探してMAHO堂へ来ていたぽっぷがその様子を見てしまった。ぽっぷは「どれみたちって魔…」と言いかけ，魔女ガエルの危機に直面する3人だった。

【解説】元祖MAHO堂編第5話にして最終話。と，ともに次回へのステップ。クルールポロン初使用。早送りされる授業や，血管が顔面に広がるマジョルカなどの演出が楽しい。

第25話 1999年7月25日

おジャ魔女ぽっぷ登場!?



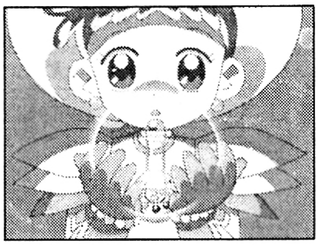
脚本	影山由美	作画監督	生田目康裕
演出	五十嵐卓哉 広嶋秀樹	美術	ゆきゆきえ 下川忠海

【粗筋】ぽっぷに魔女見習いのことがバレた3人。「どれみたちって魔女!?」と言われてしまったが，3人は魔女でなくて魔女見習いだから魔女ガエルにはならないで済んだ。が，このままでは危ないのでぽっぷも魔女見習いになることに。プニュちゃんが喋ったこともあってぽっぷも大喜びだが，見習いタップは手元にない。魔女見習いになるのはひとまずおいといて，ぽっぷもMAHO堂で働くことに。翌日，一同がMAHO堂へ集まったところにデラが登場。デラから見習いタップを買おうとするが，借金財政のマジョリカには手が出ない。これを見たぽっぷは「きれいで優しくて太っ腹なおねーさん」とデラをおだてまくり，勉強させてタップをゲット。ぽっぷは魔法で大きなプリンを出したり，ほうきもメチャクチャながら乗っていてたり，結構スジは良さそうだ。面白くないどれみは先輩風を吹かし，ぽっぷにMAHO堂の掃除をさせるが，これまた完璧にきれいにしてしまう。ますます株の上がるぽっぷ。しかし，ぽっぷの作った魔法グッズはどれみのもの同様さっぱり売れない。と，思ったら，大胆な色使い，独創的なフォルムがいたく気に入ったおじさんがぽっぷのだけ全て買っていった。結局どれみはぽっぷに完敗するのだった。さて，ぽっぷは幼稚園のお泊まり会に行くが，宝物だからと言って見習いタップも持っていってしまう。どれみは「魔法は使うな」と忠告するが，何となく心配。きみたかたちは相変わらずぽっぷに絡んで，食事のときもかずひろをからかう。かずひろは家に帰りたい，と言って泣いてしまうが，ぽっぷは枕投げで一緒にきみたかをやっつけよう，と励ます。就寝の時間，きみたかは「夜中に幼稚園のトイレに行くとおばけが出る」という話をしてみんなを怖がらせる。ぽっぷは夜中に起きたきみたかがトイレに行くのを見て，きみたかを懲らしめてやろうと思い，魔法でトイレにおばけを出す。驚いたきみたかは部屋に逃げ帰るが，おばけもきみたかについていってしまう。マズいと思ったぽっぷはおばけよ戻れ！と魔法を使うが，おばけが自分に向かってくるのを見て，あっちへ行け！とさらに魔法を使ってしまう。おかげでおばけは幼稚園中を飛び回り，幼稚園中がパニックになってしまう。マジョリカに言われて様子を見に来ていたララがどれみにこのことを知らせ，はづきとあいこも幼稚園に駆けつける。ひとまずマジカルステージで園児たちを眠らせてから，どれみはぽっぷにおばけを消すように言う。自分の魔法でパニックを起こしてしまったぽっぷは自信をなくしかけていたが，どれみの励ましもあって魔法でおばけを消すことに成功。みんなを元通りにしてから帰ろうとする3人に，ぽっぷは感謝の言葉を口にする。何はともあれなんとか事も収まり，翌日元気にスイカ割りに臨むぽっぷだった。

【解説】サブタイトルどおりの内容。が，ドラマ的にはどれみお姉ちゃんの話。この回からOPの一部が変更。3年2組のカットが魔女見習いのぽっぷに，マジカルステージがクルールポロンによるものになった。

第26話 1999年8月1日

わたしたち、ピュアレーヌ！



脚本	栗山　緑	作画監督	なかじまちゅうじ
演出	伊藤尚往	美術	ゆきゆきえ いでともこ

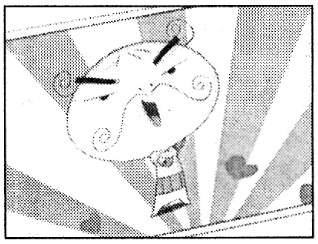
【粗筋】ある夏の日，MAHO堂でどれみが暑さにうだっているとデラがモタとモタモタから届け物を持ってきた。中身は魔女見習いの認定証，これからは試験に合格するたびに認定玉をこれに入れることになるという。どれみはさっそくこれをはづきに届けようとするが，はづきは学校のプールに行っているとばあやはいう。今日が学校のプールの日だということをどれみは忘れていたのだ。慌てて学校に行くと，すでにプールは終わってあいこがはづきと飯田かなえに逆上がりの特訓をしていた。しかしかなえは練習中に捻挫をしてしまう。かなえの母も入院しているというので，3人が家に送っていくことになった。かなえの家はステーキハウスだと聞いて目の色を変えるどれみは進んでかなえをおぶっていくが，ステーキハウス飯田に入ったとき，猫の鳴き声を聞く。その時は空耳だと思ったのだが，入口には招き猫が置いてあった。出迎えたかなえの父は手に火傷をしている。聞けば泥棒にも入られ，店の売り上げも落ち，不幸続きだという。ここのステーキは美味しいのに，と怪訝そうなはづき。店を手伝っていたかなえもケガをしてしまい，かなえの父は店を閉めようとするが，ステーキが食べられるというどれみの下心もあって3人は店を手伝うことになった。しかし店は閑古鳥。入り口まで来た客も，嫌な感じがすると言って引き返してしまう。猫の鳴き声も気になるし，と思ったどれみたちは調べてみることにした。まさか幽霊？と思ったはづきは店の入り口にある招き猫にビクビクするが，その招き猫をあいこがうっかり落としても不自然なくらい音も立てずに着地する。不審に思った3人がかなえに聞くと，招き猫をもらってきたのは泥棒に入られたその日だという。その招き猫をもらってきたという骨董屋へ行くと，招き猫を譲ってからはその骨董屋は繁盛しているという。やはりこれが原因かと思い，調べるためにMAHO堂へ持ち帰ると，デラがその招き猫を魔女界でよく調べたいと言って持ち帰っていった。そこへレレたちが来て，ステーキハウス飯田が一転して行列ができるほど繁盛しているという話を聞いた3人は手伝いに戻る。その帰り，3人の前に魔女界の女王様の馬車が現れ，3人を迎えにきた。女王様に謁見すると，あの招き猫は魔女たちが探していたバッドアイテムなのだという。その昔，悪い魔法使いが封印されていたバッドカードを人間界に持ち込み，そのカードがいろんな物にとりついて人間に不幸をもたらすものになったものがバッドアイテムなのだ。女王様は，バッドアイテムを探し出し，しかもそれを悪用しなかったきれいな心を持った者として3人をピュアレーヌに任じ，認定証にその証を与えた。ピュアレーヌはバッドアイテムからバッドカードを取り出すことができるというので，さっそくマジカルステージで招き

猫からバッドカードを取り出した。また，3人はピュアレーヌとしてバッドカードを探す任務を与えられ，バッドカードを収めるピュアレーヌパソコンを与えられた。そしてバッドアイテムがなくなったステーキハウス飯田は元通りになり，かなえのケガもすぐに治ったのだった。

【解説】飯田かなえの話かと思いきや，やはりサブタイトルどおりの内容。バッドカード，バッドアイテム，ピュアレーヌについて語られた。バッドカード回収は1枚目。また，認定証，認定玉，ピュアレーヌパソコン初登場。ストーリーもバ○ダイの玩具も新展開! といったところか。

第27話 1999年8月8日

オヤジーデがやってきた!?



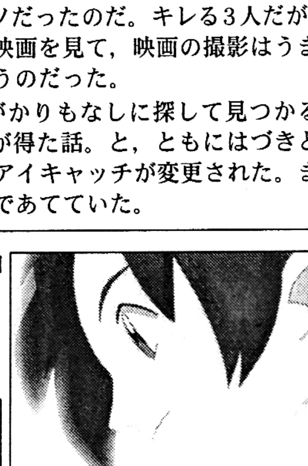
脚本 吉田玲子　作画監督 青山 充
演出 矢部秋則　美術 ゆきゆきえ
　　　　　　　　　　塩崎広光

【粗筋】女王様から戴いたピュアレーヌパソコンをさっそく使ってみる3人。が，画面に出てきたのは黄色いオヤジ。彼は自称アレキサンドル・オヤジーデ，バッドアイテムか否かを判定できる魔法使いで，バッドカードが全て集まらないとこのパソコンから出られないという。まあこのオヤジはともかく，バッドカードを集めよう! と気勢を上げる3人は，買った途端にツキがなくなった品物を無料で鑑定するというチラシを配ってバッドアイテムを集めようとする。が，MAHO堂に集まったのは粗大ゴミばかりでバッドアイテムはなく，出張鑑定でも当たりはナシ。手当たり次第に鑑定するのもきりがないし，そう簡単にバッドアイテムは集まらないとヘコむ3人。そこでバッドアイテムがありそうな場所の見当がつかないものかとオヤジに聞いてみると，占い師だったオヤジはあやしげな占いをする。すると，背の高い建物があり，川があり，緑がざわめいている場所にバッドアイテムがあるという。と，その時テレビに映っている風景はそれにぴったり。そこは映画監督であるはづきの父が映画を撮影している場所で，テレビでは主演女優のケガや悪天候続きで映画の完成が危ぶまれていると伝えていた。これはやはりバッドアイテムかと思った3人はさっそくその場所に急行。監督であるはづきの父に見学の許可はもらったものの，撮影は一向に始まらない。聞けば，監督が「背景に何かが足りない」と言い出して撮影が止まっているのだという。やはりはづきの父が身につけている物が怪しいと思うのだが，はづきの父は椅子もメガホンもサングラスも，初監督作の時からずっと使っている物だから悪いことなどないと言って鑑定させてくれない。仕方なく3人はその辺りにある物を片っ端から鑑定してみるが，バッドアイテムは見つからない。やはり監督グッズがあやしいと思う3人。そこではづきは魔法で新しい監督グッズを出して，それを使うようお願いする。娘が必死に頼むのを見て，はづきの父も新しい監督グッズを使ってくれた。ようやく監督グッズを鑑定できたのだが，またしてもバッドアイテムではなかった。もう鑑定してないものはないんじゃないかと思う3人だが，オヤジーデが言うとおり女優が身につけているものはまだだった。しかしもう撮影が始まっている。そこで魔法で蛍に変身し，こっそり近づいて女優の持ち物を鑑定するが，やはりバッドアイテムはない。しかし，画面に何かが足りないと言っていた監督はどれみたちの蛍を見て，これでいい絵が撮れると大喜び。結局バッドアイテムがありそうだというのは，女優のコユリちゃんを生で見るためのオヤジーデのウソだったのだ。キレる3人だが，無事公開されて大ヒットしたその映画を見て，映画の撮影はうまくいったのだし，まあいいかと思うのだった。

【解説】バッドアイテムは何の手がかりもなしに探して見つかるものじゃない，という教訓を3人が得た話。と，ともにはづきとパパの話。なお，この回からCMアイキャッチが変更された。また，ぽっぷの声を詩乃優花が代理であてていた。

第28話 1999年8月15日

恋は高原の風に乗って



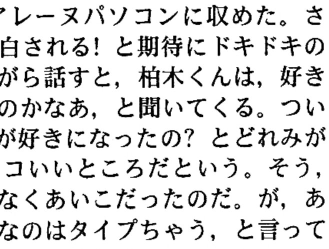
脚本 吉村元希　作画監督 河野宏之
演出 山吉康夫　美術 ゆきゆきえ
　　　　　　　　　　下川忠海

【粗筋】高原にあるはづきの別荘に来ている3人。が，マジョリカとララもついてきていた。それはともかく高原の別荘といえばテニス! ということで早速コートに向かった。が，そこでテニスウェアもばっちり決まった玉木と鉢合わせ。相変わらずタカビーな玉木だったが，玉木は3人にテニスの勝負を挑む。結局テニスが初めてのあいこに玉木は劣勢を強いられるのだが，その途中にまずどれみが，続いて玉木が隣のコートにステキな男の子を見つけてホーっとなってしまう。彼の名前は柏木豊。はづきの知り合いで，この近くに住んでいるという。ちょっと赤くなった彼を見て玉木はモーレツアタックを仕掛けるが，柏木くんはそんな玉木を置いて3人のところへ。何か言いたいことがありそうなのだが，そんなことはこんなところで言わなくてもいいじゃな～いというどれみの言葉もあって，テニスをする流れに。あいこと柏木くんのマッチはなかなかいいゲームになっていた。さて，柏木くんの家がブルーベリー農園だと聞いた一同はテニスが終わってからそこにお邪魔することに。特に柏木くんにゾッコンラヴなどれみと玉木はライバル意識むき出しで，お互いに相手を排除して自分だけ柏木くんの家に行こうとするが，玉木はうまくやりこめられてしまい，どれみたち3人が行くことになった。とれたてのブルーベリーはおいしく，夜は星が降るほどに見られるという。星を見にくれば? と頬を朱に染めて誘ってくれた柏木くんに，どれみは大喜び。夜，屋根の上で星を眺める柏木くんと3人。柏木くんはポケットからマスコット人形を取り出していたのだが，3人はそれについて尋ねる。それは，好きな子がいてもなかなか告白できない柏木くんにテニス部の先輩がくれたお守りだという。が，それをもらって以来，告白しようとしても邪魔が入って失敗続きなのだそうだ。惚れっぽくて告白するのが苦手なんてどれみとそっくりだというはづきの言葉に，何となくムードになる柏木くんとどれみ。あいことはづきも気をきかせて引っ込むが，いつまでたっても2人は黙ったまま。帰る時間になってしまい，帰り際に柏木くんはあいこに何かを言おうとするが，ちょうどそこへどれみがハシゴから落ちそうになってしまい，柏木くんの言葉は遮られてしまった。帰る道々，はづきとあいこは柏木くんが告白に失敗続きなのは，あのマスコットがバッドアイテムだからではないかという。翌日，3人はピュアレーヌパソコンを持ってテニスコートに。柏木くんの荷物をオヤジーデに見せるが，バッドアイテムはないという。次にロッカールームで柏木くんのロッカーを開けるとあのマスコットがあった。これをオヤジーデに見せると，やはりバッドアイテムだという。3人はさっそくマジカルステージでバッドカードを取り出し，ピュアレーヌパソコンに収めた。さあ，これでいよいよ柏木くんに告白される! と期待にドキドキのどれみ。練習の終わった彼と道すがら話すと，柏木くんは，好きな人とかいるのか，告白していいのかなあ，と聞いてくる。ついにこれは! と思い，どんなところが好きになったの? とどれみが尋ねると，運動神経がよくてカッコいいところだという。そう，彼が好きになったのはどれみではなくあいこだったのだ。が，あいこはああいう冗談通じなさそうなのはタイプちゃう，と言ってあっさりフッてしまう。それはそうと，結局またしても片想いに終わってしまったどれみであった。

【解説】どれみちゃんと柏木クンのラヴ・ストーリー，と思いきやギャグ・ストーリー。バッドカード回収は2枚目。後々活躍する玉木のパパも声だけ初登場。

第28.5話 1999年8月21日

おジャ魔女たちの眠らない夜



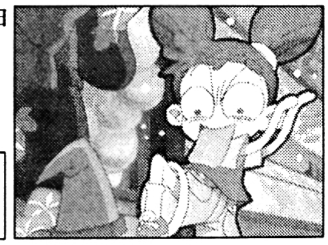
脚本 山田隆司　作画監督 —
演出 五十嵐卓哉　美術 —

【粗筋】はづきの家にお泊まりのどれみとあいこ。ぽっぷもついてきて，マジョリカとララも合流した。お食事とお風呂をいただき布団も敷いたところで，ララはどれみたちが将来何になりたいか聞きたいという。ぽっぷは一流会社のOLになってエリートサラリーマンの旦那を見つけるとか言っているが，どれみは何と看護婦になりたいと言う。驚愕の一同だが，ひとまずどれみが看護婦になったらどうなるか魔法で試すことに‥‥新人看護婦藤原・妹尾の指導係になった春風正看護婦。が，白衣の天使に憧れたという新人2人と違って，ステキな旦那を探すため看護婦になったと言って憚らない。そこへ急患が来た。患者は手に握ったトランペットを放そうとしないが，藤原がかわりに手を握っていてあげ

ますからと言い，外すことができた。後日。藤原はその患者と挙式していた。患者は何と人気ジャズトランペッターの矢田まさるで，春風は新人に先を越されたのだ。またある日，タレントが入院したと聞いて春風は色めき立つが，そのタレント・SOSトリオは寒すぎるお笑い芸人で期待外れ。しかし妹尾は本場のお笑いを教えたると意気込んでいた。で，後日。妹尾はすっかり有名になったSOSトリオの佐川と挙式していた。またまた先を越された春風だった‥‥という結果で，どれみに看護婦は似合わないというオチに。次ははづきだが，何と女子プロレスラーになりたいと言う。とにかくまた魔法で試すことに‥‥さて，ウィッチーはづき・プリティまりな組VSビューティーマスク・ストロング奥山組の世紀の一戦を迎えている美空市立体育館。実況アナは春風，解説は妹尾さんだ。反則で有名な悪役・ビューティマスクはマキハタヤマリカの先導で入場，ブーイングを浴びまくる。次にパパとママに泣き落とされてフリルつきのラヴリィなコスチュームに着替えたウィッチーはづきが入場すると，一転大歓声。デラの選手紹介を経て，いよいよゴングだ。正当派レスラーのストロングがプリティを追いつめ，ビューティが強引にタッチしてプリティをホール。しかしウィッチーの機転の時間稼ぎでプリティは脱出。ところがこれにキレたマキハタヤマリカがぽっぷレフェリーを殴打したものだから妹尾さん怒髪天。マキハタヤマリカをタコ殴りにしてしまった。試合の方はビューティの反則技連発でウィッチー大苦戦。と，リングサイドに謎のトランペット青年が。オレのラッパを聴いて元気を出すんだ! と言って吹いたはきらきら星。しかもウィッチーは確かに元気を出し，形勢逆転。超必殺技・はづきローリングサンダーマッハスペシャルでビューティを撃破。1，2，3，ダァー! とかけ声もキメたのだった‥‥というわけで，はづきは意外とすごいレスラーになれそうだ。はづきローリングサンダーマッハスペシャルがどんな技かはともかく，小腹の空いてきた一同は夜食を作ることに。おジャ魔女の3分クッキング! である。あいこがトイレに行っている間にどれみとはづきがオムレツを作るが，はづきは料理は初めてだし，どれみはどれみだし，卵の殻と大量の塩が入ったまま焼き上げてしまった。戻ったあいことともに食べるが，あまりにあまりな激辛オムレツ殻入りバリバリ風味。作り直そうにも，もう卵がない。3人はとっととマジカルステージで「美味しいオムレツ」を出し，いただいてしまうのだった。さて，最後はあいこの番。あいこがなりたいのはナニワの商人ではなく，渋い刑事だそうな。これまた魔法で試すことに‥‥妹尾刑事はステーキハウス飯田で起こったステーキ肉盗難事件の犯人の面通しをしていた。目撃者のモタさんモタモタさんに横川信子，被害者の飯田かなえらの証言によれば，3番の人がステーキ定食を頼んだあとトイレに入り，トイレから出てきた犬が厨房から肉を盗んだらしい。妹尾刑事は取調室で被疑者・春風を落としにかかった。容疑を否認する春風だが，妹尾刑事が出前で頼んだカツ丼，ではなくステーキ丼を見て目の色を変える。目の前でステーキ丼が平らげられていくのを見せつけられる春風だが，それでも落ちない。妹尾刑事は御両親に説得を頼むが，御両親はすぐ夫婦喧嘩になってしまった。と，妹尾刑事は関デカ長に週間サタデーの島倉カメラマンが撮った写真を見せられて驚く。そこにはステーキをくわえた妙な犬が写っていた。さらに首輪についている丸い物体が，春風の所持品にあったものとそっくりなのだ。妹尾刑事は謎は解けた! と確信。この写真を春風に見せると，案の定驚いた様子。妹尾刑事が写真のと同じ丸い物体を取り出すと春風は，タップ…と口走る。そのタップからは変なピンクの服と変なスティックが出てきた。これまたクルールポロンと口走り，語るに落ちた春風。妹尾刑事は，お前はこれで犬に変身してステーキを盗んだと春風を追及する。さらに，変身といってもこんなドジなのが魔女のわけない，魔女見習いだ! と断言。正体を言い当てられた春風は哀れ魔女ガエルとなったのだった‥‥というわけで，はづきのプロレスラーに続いてあいこの刑事もちゃんと事件を解決したのに，どれみの看護婦だけはマヌケな結果に終わったのだった。

【解説】おジャ魔女CDくらぶ その3「おジャ魔女♡ハッピッピ♡ドラマシアター!!」のCDドラマ。それまでのキャラ総出演といった内容（例外あり）。公共の電波を使わないことや，サウンドオンリーなことをいいことに割とやりたい放題の話。

第29話　1999年8月22日



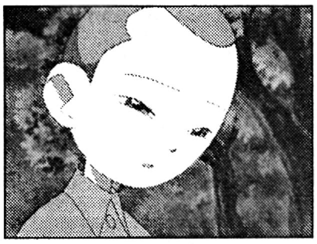
夏祭りにタップが消えた!

脚本	前川　淳	作画監督	稲上　晃
演出	岡　佳広	美術	ゆきゆきえ いでともこ

【粗筋】今夜は美空神社で夏祭り。MAHO堂も夜店を出す予定だ。企画はダーツで魔法グッズを当てるというどれみのアイデア「魔法 DE ダーツ」。通りがかったSOSがさっそく挑戦する。最初はミミがダーツのまとを回していたのだが，次第に疲れてまとの回転が遅くなっていく。そのため，佐川はハズレだったものの太田に3等，杉山には2等を許してしまう。そこへダーツ経験者の玉木が登場。しかも，ミミの代わりを買って出たドドはまとを回すだけの力がなく，ようやくまとが動いたときには既に玉木が1等を取っていた。次は小竹の番なのだが，小竹の矢はまとを大きく外れてしまった。ところで玉木はこの辺りに美人ばかり狙うスリが出没していると言い，あたしなんか狙われそうで怖くて怖くて，とまた自意識過剰なことを言っていた。それはともかく，SOSや玉木はそれぞれ魔法グッズを選んでいったのだが，ハズレだった小竹にはどれみが作った相変わらずなグッズしか残っていない。小竹はどれみをからかいながらも「何かいいことが起こる魔法がかけてある」というグッズを選んでいった。さて，3人は人混みの中に浴衣姿のゆき先生を見つける。しかもゆき先生は男の人と一緒だ。ひょっとしてゆき先生の恋人か，と思った3人は突然現れて悔しがる関先生と共に様子を見にいく。ゆき先生とその男の人は夏祭りをエンジョイしていて何やら楽しそうだ。と，関先生とどれみに男がぶつかってきた。見るとヘルメットに入れてあった関先生の財布がなくなっている。スリだったのだ。どれみの財布はあったがなんと見習いタップがなくなっている。すられたと思って落ち込むどれみ。早くスリを見つけて取り返さなければと思い，ほうきに乗って上から人混みの中を探すと，ゆき先生と男の人を発見。実は男の人は刑事で，スリの囮捜査をしていたのだ。と，そこに例のスリが現れ，ゆき先生のサイフをすろうとする。スリを見つけた3人は魔法で時間を止め，タップを取り返そうとするが，スリはタップを持っていない。時間が戻った瞬間，スリを現行犯逮捕しようとした刑事の手錠には，どれみがかかっていた。刑事はあわててスリを追って走り去ってしまった。と，どれみはゆき先生の足下にどれみの見習い服を着た犬を発見。驚愕するどれみ。落としたタップをその犬が使ってしまっていたのだ。その犬を追う3人。犬が土管の中に入ってしまうと，はづきは魔法でどれみを忠犬どれみに変身させ，忠犬どれみはさらに追いかける。その犬・メリーちゃんは飼い主の自転車のかごに戻ったのだが，逃走中のスリがその自転車をメリーちゃんごと強奪してしまう。はづきは自転車に追いつくよう，魔法でどれみを馬に変身させる。が，スリを追ってきていきなり乗ってきた刑事を乗せてスリを追うハメになる。さらに関先生もバイクでスリ追跡に乗りだし，町中を自転車と馬とバイクが走り回る。が，その途中にメリーちゃんは自転車のカゴから飛び出し，見習い服が元に戻ってタップが転がる。どれみはこれを追ってついに取り戻し，メリーちゃんも飼い主の元へ。スリはさらに逃げるが，小竹のスケボーにつまづいてついに御用となった。一段落して，ゆき先生とその刑事から改めて事情を聞く3人と関先生。その刑事は山本といい，スリを捕まえるためにカップルを装ったというのだが，口実作ってゆき先生とデートしたかっただけじゃないの? とからかう関先生に一同は笑う。後日，美空小の全校集会で小竹はスリ逮捕に協力したとして校長先生に表彰された。自分だって頑張ったのに，と不満などれみ。しかしどれみの魔法グッズのおかげだというはづきとあいこの言葉を聞いて思い直し，嬉しそうなを小竹を見て微笑むのだった。

【解説】ゆき先生の恋人発覚! とアバンタイトルで思わせといて，実はどれみとタップとメリーちゃんとスリと刑事と関先生のドタバタ・ギャグ・ストーリー。が，シメはどれみの魔法グッズと小竹，という話。「おお～。あれは忠犬どれみ。ひっさびさやなぁ…」（あいこ）ということで第6話の忠犬どれみ再登場。

第30話 1999年8月29日



ユウレイに会いたい!

脚本	大和屋 暁	作画	馬越嘉彦
演出	五十嵐卓哉	美術	ゆきゆきえ 塩崎広光

【粗筋】夕暮れの山内寺。山門前に集うクラスの面々が「たのもー!」とかけ声をかけると，門が開かれる。出迎えた山内信秋ともども，一同は本尊の前に輪をなして座す。夏休み最後を飾る山内の話を聞きに来ているのだ。ある檀家から聞いたというその話はこんなものだった。その檀家さんが墓参りに来たとき，墓地に少女を見る。少女は毎日そこにいて，父の仕事が終わるのを待っているのだという。ある日，いつも寂しそうだったその少女はようやく父に会えると言って嬉しそうに笑っていた。それを見て，檀家さんも嬉しくなった。が，これには後日談があり，数日後に同じ墓地に行くと，少女がいつもいた墓石の前に喪服の人々がいた。墓前には男の人とあの少女の写真がある。聞けばその人は医者で，急患が入ったために娘の最期を看取れなかったのだという。あの少女は父を迎えに来ていたのだ。と，こんな話を聞いてオバケが大嫌いなはづきは大パニック。夏につきものの納涼怪談なのであった。さらにその後，墓地で肝試しをすることに。くじ引きで決めた順番で，まずは太田と杉山が行くのだが，なんと本物の幽霊を見てしまう。信秋によればそれは自分の祖父だろうという。2年前に亡くなり，すでに何度か幽霊も目撃されているとのこと。だが，なぜか自分の前には現れないと信秋は寂しそうに言う。さて，肝試しは続き，次のあいこと信子の後ろにもその幽霊が現れるのだがふたりは気づかない。逆にはづきと矢田はその幽霊に気づいて決して見まいと謎なおまじないと共に全力ダッシュ。次はどれみと信秋。しかしやはり信秋の前には現れない。聞けば，信秋は祖父が亡くなる時にひどいことを言ってしまい，幽霊でもいいからそのことを祖父に謝りたいのだという。これを聞いたどれみはなんとかしてあげたいと思って，はづきとあいこにこのことを話す。幽霊を呼び出すと聞いて逃げようとするはづきをなんとか説得し，マジカルステージで「山内くんをお祖父さんの幽霊に会わせてあげて」とお願い。しかし出てきたのは馬の形の竹細工。それを見た信秋は驚き，3人を蔵に案内する。そこには信秋の祖父が作ったというたくさんの竹細工があった。昔，何かを作っていた祖父に信秋が尋ねたところ，それはこの馬の竹細工で，完成したら信秋にやろうと言われ，ふたりは信秋が学校から帰ってくるまでには作るという約束をした。しかし，信秋が帰って来たとき祖父は亡くなっていたという。そのとき信秋は亡き祖父の前で，「お祖父ちゃんなんか大嫌いだ!」と叫んでしまい，そのことを祖父に謝りたかったのだ。3人はひとまず肝試しに戻るが，残った信秋は蔵の中でひとり祖父のことを想っていた。と，そこに聞こえる祖父の声。ふり向くと，薄暗い蔵の中に浮かぶ祖父の姿があった。思わず涙して思いの丈を吐露する信秋。しかし祖父は，謝らなければならないのは自分の方だという。信秋との約束を果たしたいために，約束の馬の竹細工を完成させてくれるよう幽霊となって人々に頼んでいたのだ。自分の前に現れなかったわけも知り，信秋はこの竹細工は自分が完成させると言って祖父に作り方を教わる。そしてついに完成させることができた。それを見届けた祖父がいってしまいそうになるのを見て，信秋はまだまだ一緒にいたいのに，と言う。祖父は，ずっとお前のそばにおるよと約束して，満月の夜空に消えていったのだった。

【解説】山内信秋と祖父の話。五十嵐演出，馬越作画が冴え渡る。このクラスの有志は如何にして集まったのか（特にはづきと矢田），とか，肝試しで太田ー杉山，あいこー横川，はづきー矢田，どれみー山内，小竹ー島倉のペアが組まれていたが，残りの佐川はどーなったのか，とかは感動的なラストに免じて考えないことにする。数少ない挿入歌が入らない回の一つ。

第31話 1999年9月5日



モンゴルからのおくりもの

脚本	吉村元希	作画	青山 充
演出	岩井隆央	美術	ゆきゆきえ 下川忠海

【粗筋】あまり夏休みらしいことのできないまま2学期を迎えてしまった3人。学校では玉木が夏休みにパリに行ったことを自慢していたが，花田志乃はひとり絵はがきを見ていた。これを見つけたはづきが話しかけると，それはモンゴルの友達・タミラくんからの手紙だという。志乃は以前モンゴルに住んでいたので，夏休みにモンゴルに行ったのだ。クラスのみんなもモンゴルという珍しさに驚き，玉木の自慢話をうっちゃって志乃のところに集まってきた。志乃は3人に相談したいことがあるというので，放課後3人は志乃の家に行くことになった。これを聞きつけた玉木も呼んでないのについてきた。志乃の部屋には世界の珍しいお土産があるが，机の上には汚れた馬のぬいぐるみがある。それはタミラが唯一持っていた大切なおもちゃで，志乃にくれたのだという。それで何をお返しにしたらいいか困っていたのだ。3人や玉木はあれこれ言うが結論は出ない。3人は魔法でタミラが何が欲しいのかを知ればいいと思い，マジカルステージで「タミラくんの欲しい物を教えて!」とお願い。しかし，何も起こらず魔法玉も全部なくなってしまった。失敗か? と思うが，そういえばもうすぐ5級試験。魔法玉がなければ試験も受けられないと大慌てで魔法グッズを量産するが，客は誰も来ない。そのまま夜を迎えてしまった。仕方なく魔法玉がないままとりあえず3人はMAHO堂へ。ちなみに9級試験を受けるつもりだったぽっぷはどうしても起きなかった。さて，魔女界へ行くと毎度のようにモタたちが待っていた。試験問題は，モタとモタモタが欲しいものを魔法粘土で作るというものだった。魔法玉を使わずに済みそうなことに安堵する3人。ララはマジカルステージを使えばいいんじゃないのと言うが，マジョリカによれば人の気持ちを知る魔法は上級者向けで，失敗するに決まっているという。さっきの失敗の理由が分かったのだが，それはともかくさっそくとりかかる。どれみは魔法玉を作るが，それは自分の欲しいもの。モタたちは何やらムズムズしている様子。今すぐ何かが欲しそうなので，近くにあるものにヒントを求めるがよくわからない。あいこは口の欠けた傘立てを見つけ，欠けた部分を補うパーツを魔法粘土で作るが，それはそういうデザインの花瓶だった。しかしその花瓶には花が入っていない，というわけでどれみは花を1本作った。あーこれこれと言って喜ぶモタたち。が，モタとモタモタはその花でおもむろに背中をかきはじめた。背中をかける孫の手が欲しかったのだ。どれみは頭に来ていたが，とりあえず合格した3人だった。そういえばモタたちはずっと背中をかいていた。欲しい物を知るにはその人のことをもっと知らなければいけないと思った3人は，もう一度志乃の家にお邪魔していろいろ話を聞いてみた。楽しそうに思い出を話してくれる志乃。馬に乗ったことや，見渡す限りの美しい草原。でも，別れ際にたったひとつの大切なおもちゃを自分にくれるなんて，自分にはまねできないと思ったという。だから自分も一番大切なものを贈ろうと思っていたのだ。と，あいこはタミラが描いた絵はがきの，草原の草の色が途中で変わっていることに気付いた。すると，これを聞いた志乃がはたと思いつく。タミラの緑の色鉛筆が短くなって描きづらそうにしていたのだが，自分にも昔から大切にしていた12色の色鉛筆があったのだ。これを贈ればタミラも喜んでくれると，志乃と3人は喜ぶのだった。

【解説】花田志乃の話，というよりは「欲しいもんを知るためには，その相手をよく知らなあかんっちゅーこっちゃな」（あいこ）という話。3人は5級試験合格。ぽっぷを起こそうとするどれみの受難がスタート。

第32話 1999年9月12日



打倒玉木! 学級委員選挙

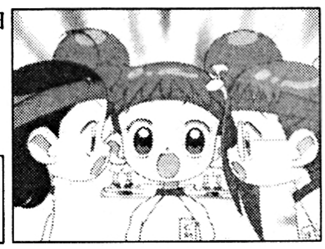
脚本	吉田玲子	作画	川村敏江
演出	矢部秋則	美術	ゆきゆきえ いでともこ

【粗筋】2学期を迎え，新たに学級委員を選出することになった3年2組。1学期と同じ玉木が立候補して決まりかと思われたが，宮本まさはるも立候補した。いつも物静かで目立つことはない彼の立候補はクラスメイトには意外だった。しかしあいこは，新しい学校に早く馴染めたのは，いろいろ手助けしてくれたまさはるのおかげだという。と，そこへまさはるがMAHO堂に必勝祈願グッズを買いに来た。あいこが立候補の理由を尋ねると，まさはるは勉強や運動はいつも2番，委員会ではいつも副委員長で，1番になったことがないという。彼はこんな自分を変えたかったのだ。そこで玉木よりまさはるの方がいい人だという意見で一致をみた3人

はまさはるの応援を表明する。翌日から玉木は積極的な選挙運動を開始。ビラを配ったり，佐川のさむいギャグをほめておだてたり。これに対するまさはるはどうも押しが弱い。しかし，クラスみんなの椅子や教室の棚を人知れず修理するまさはるの姿に感動した3人は，ついにまさはるの後援会を結成。3人はビラ作りや世論調査，シンボルマークの作成など選挙対策を練る。さて，あいこの調査の結果ではまさはると玉木の支持率はほぼ五分五分，いい勝負になりそうだった。これを聞いた玉木はさらに積極的な運動を展開，掃除を減らすことや宿題を写させてあげること，マッサージしてあげることなど甘い公約を公表。さらに後援会に入った人には手作りクッキーをプレゼントするという。なりふり構わぬ玉木と3人の間に火花が散る。これに対抗して3人はまさはるに公約を発表するよう言うが，掃除は毎日3回，週1回の校庭草むしり，月1度の地域クリーン作戦，それから…と言うまさはるを慌てて止める。そして選挙前日，最終調査では圧倒的な玉木の優位。3人は学校で最後のお願いに訴えていた。小竹や矢田，まりなはまさはる支持を表明してくれたが，玉木は特注のオリジナルTシャツを着用し，後援隊にSOSをしたがえてビラ配りなど，相変わらずの派手な運動。3人はこれに魔法で出した大漁旗で対抗するが，玉木は黄金のマイクとくす玉でさらに派手なパフォーマンス。これにまた対抗して華麗でカッコいい服を出して「白馬の騎士」まさはるをアピールするが，玉木は視聴覚教室で自分の華麗でゴゥジャスなプロモーションビデオを上映。こっちだって，とどれみは魔法でまさはるのプロモビデオを出して上映するが，映っていたのは泣かされる幼い頃の姿や，いつもナンバー2の姿ばかり。いよいよ玉木陣営と宮本陣営の対立が最高潮に達してきたが，これを見たまさはるは立候補を辞退すると言う。自分が1番になりたいだけでこんな風にクラスのみんながいがみあうなんて良くないというのだ。打倒玉木に燃えすぎてしまったと少し反省する3人。ところがここまで争っておいて不戦勝などプライドが許さない玉木は，敢えて正々堂々の勝負を申し出た。もう自分が負けるはずはないと自信たっぷりなのだ。かくして厳正なる投票が行われたが，結果はまさはるの圧勝。少しはにかみながらも喜ぶまさはる。が，真面目な彼はさっそく公約通りに掃除と草むしりと地域クリーン作戦の実施を宣言するのだった。

【解説】宮本まさはるの話，というよりは実際の選挙のパロディも含めたギャグ・ストーリー。魔法がギャグにしか使われていない。玉木には2票入ってたが，これは玉木と宮本の票だろう。このへんが心憎い吉田脚本。

第33話　1999年9月19日



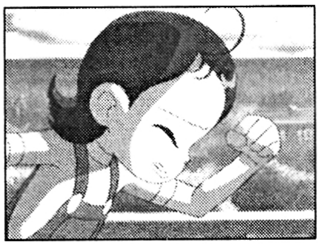
運動会(うんどうかい)は パニックがいっぱい!

脚本	影山由美	作画監督	生田目康裕
演出	山吉康夫	美術	ゆきゆきえ 塩崎広光

【粗筋】美空小はもうすぐ運動会。ジャンケンで辛うじてクラス対抗リレーの選手になったどれみは，あいこや浜田いとこ，小竹たちとリレーの練習に励んでいた。一方運動会準備委員のはづきは，いとこには1年生から6年生まで各学年に兄弟がいて，今年は浜田六兄弟が一緒に参加できる最初で最後の運動会だということを知った。さて，3人は運動会の準備のせいでMAHO堂に行くのが遅くなるが，これがマジョリカには面白くない。オヤジーデも，またバッドアイテムの気配がするとか適当なことを言って運動会に行きたがる。いよいよ運動会は明日に迫った。リレーの練習をするどれみたちだが，どれみは相変わらずバトンの受け渡しがうまくいかない。と，いとこの6年の兄・かずおと5年の姉・きぬよがそこへ通りがかって，バトンタッチのコツをどれみに教えてくれた。そして当日，3人の家族や浜田家の家族も観覧に来ている中，いよいよ運動会が始まった。浜田六兄弟は全員がどれみたちと同じ紅組で，一同はファイトーッと気勢を上げる。まずは2年のてるおの玉入れだが，紅白ともに玉入れのカゴが破れてしまう。次は1年のぼたんのお遊戯，だが輪になったみんなはひとりがつまずくと将棋倒し。さらに4年のさちおの障害物競走でも，網くぐりの途中で選手が絡まってパニック。他，大玉転がしも組体操もトラブルばかりでケガ人も続出。準備は万端なのに，と準備委員は首をかしげ，いとこはせっかく兄弟がそろう最初で最後の運動会なのに，と悔しい思いをする。昼休みも，浜田一家の昼食は重苦しい雰囲気。一体どうしたのかと考えた3人は，これはバッドアイテムのせいでは? と思いあたる。そこでぽっぷに大至急MAHO堂からピュアレーヌパソコンを持って来させ，オヤジーデと共にバッドアイテム探しを開始。先生たちのいるテントでも，選手の集合場所でも見つからない。いよいよリレーの時間になってしまい，慌てて走り出すどれみは置いてあったライン引きにつまづいて転んでしまう。と，オヤジーデが反応。そのライン引きがバッドアイテムだったのだ。しかしリレーの時間は迫っている。3人はゴミ捨て場の裏で大急ぎでマジカルステージを使い，なんとかバッドカードを回収。どれみとあいこは慌てて会場に戻る。どうにか選手入場にも間に合っていよいよリレーはスタートした。バトンタッチが不安要因のどれみも，教わった成果があって無事にバトンタッチに成功。最後はアンカーの小竹が見事な競り合いを演じて勝利。他の学年のリレーでも，浜田兄弟が大活躍。そして紅組が優勝，浜田六兄弟は楽しい運動会を終えることができたのだった。

【解説】季節モノ。一応浜田いとこメインの話ということになるのだろうか。バッドカード回収は3枚目。おジャ魔女ぽっぷは久々の活躍。そういえば前回（第25話）も影山脚本だった。それにしても3年2組のみんなはどれみたち以外，何の競技にも出ないのだろうか?

第34話　1999年9月26日



お母(かあ)ちゃんに逢(あ)いたい!

脚本	栗山　緑	作画監督	河野宏之
演出	岡　佳広	美術	ゆきゆきえ 下川忠海

【粗筋】今朝も元気に登校するあいこ。が，そのあいこを気付かれないよう陰からつけている女の人がいた。何やらわけありげなその女の人は，遅れて登校してきた杉山の体操着入れに3-2と書いてあるのを見て，君はここの3年生? と尋ねた。遅刻した杉山は関先生に校庭10週を宣告されるが，走る彼のポケットからは何か紙がのぞいていた。放課後，3人がMAHO堂にいると杉山がやって来た。あいこに手紙を渡してくれと頼まれたのだという。封筒を見ると，あつ子，と書いてある。はっと表情が変わるあいこ。中を読み，時計を見た途端目を潤ませて怒り出してしまう。それは離婚して離ればなれになっていたあいこの母からの手紙で，5時までに会いたい，というのだ。しかし杉山が渡すのを忘れていたため，もう5時を過ぎてしまっていた。まだ待っているかもしれない，と慌ててMAHO堂を飛び出し，美空駅へと走っていくあいこ。しかしそこには母の姿はなく，伝言板には「あいこ やっぱりお母ちゃんのことゆるしてくれへんのやね」との伝言が残されていた。追いついたれみとはづきに，どついたる!，とあいこは言う。母からの手紙には今まで何度も手紙を出したとあったので，父がそれを自分に見せずに隠していたと分かったからだ。責められたあいこの父は手紙の束を取り出す。あいこが見たら辛くなると思って見せなかったのだという。キレたあいこは家出を宣言，そのまま出ていってしまった。しかし行くあてもなく，ひとり夜の橋の上で沈んでいた。と，そこへ通りがかったどれみの母に，あいこは思わず涙を流して抱きついてしまう。あいこはそのまま春風家に泊まることに。どれみの部屋で，両親の離婚は自分のせいだとあいこは言う。昔，両親とも仕事をしていてあいこがひとりで遊んでいたとき，ジャングルジムから落ちてケガをしたことがあり，そのときあいこのために仕事をやめるやめないの話がこじれて喧嘩になってしまったのだという。それ以来，両親はどうも不仲になり，ついに離婚してしまったのだ。あいこは改めて今日母に逢いたかったとつぶやく。そんなあいこに，どれみはこんなときこそ魔法だよ! という。大阪まで魔法のほうきでひとっとび，というわけだ。翌朝3人は大阪へ出発。大阪には着いたものの，あいこの母の居場所は分からない。そこでマジカルステージを使うと，ベンチが落ちてきた。わけも分からないまま3人がベンチに座っていると，おばあちゃんが道を尋ねてくる。地図の通りおばあちゃんを連れていったその先は，老人介護施設だった。そこであいこの母が働いていたのだ。いざとなると照れくさくて物陰に隠れてしまうあいこ。しかもこんな時に父の姿が目に浮かんでしまう。そんな中，あいこは母に会うのは後にすると言って，どれみとはづきを大阪見物に連れ回す。その後，再び戻ってくるとあいこの母はもう帰ってしまっていた。手紙に書かれていた住所に従ってあいこの母が住むアパートにたどり着く3人。と，突然赤ん坊の泣き声がする。その赤ん坊に「じきお父ちゃん帰ってくる」と言いながらあやしていたのは，なんとあいこの母だっ

た。母は再婚していたと思ったあいこは，その場から逃げるように走り出す。たどり着いた砂浜でどれみとはづきも一緒に泣いてしまった。一方，あいこの母は預かっていたその赤ん坊を，引き取りに来た男の人に返していた。夕日に向かってハーモニカを吹くあいこ。あいこは，どれみやはづきのおかげでふっ切れたと言い，ようやくもとの笑顔に戻る。そこへ慌ててタクシーを飛ばしてやって来たあいこの父が現れ，あいこと父も仲直り。父のタクシーで帰ろうと言ういつも通りの元気なあいこに，どれみとはづきは顔を見合わせて微笑むのだった。

【解説】妹尾家の物語第3話。あいこの母がついにその姿を現す。最初からマジカルステージでサブタイトル通り「お母ちゃんに逢いたい!」と願えばよかったのではないかということは考えないでおこう。

第35話　1999年10月3日



転校生(てんこうせい)は魔女見習(まじょみなら)い!?

脚本　栗山　緑　　作画監督　稲上　晃
演出　佐藤順一　　美術　ゆきゆきえ
　　　岩井隆央　　　　　塩崎広光

【粗筋】ララが，謎の天才魔女見習いが現れたという噂を聞いてきた。3度の進級試験はみな満点で飛び級合格したとか。さて，学校では玉木が，パパの会社がスポンサーの映画のヒロインは当然自分で，「玉木麗香，華麗に銀幕デビュー」とか言って自分の生写真をバラまいている。これに対しクラスの男子たちはアイドル・瀬川おんぷちゃんの写真なら欲しいと揃って言う。ところがその日3年2組に転校してきたのはその瀬川おんぷ。浮き足立つ男子たち。おんぷはあいこの隣の席になったのだが，3人の名前や3人がMAHO堂を手伝っていることも既に知っていた。3人は今度の日曜に遊びに行ってもいい? と聞くが，その日は映画のオーディションだという。と，これを聞きつけた玉木は，その映画は自分のパパがスポンサーだからヒロインはあたしで決まりよ! とつっかかる。が，おんぷの反論にぐうの音も出なかった。3人はそのオーディションを見に行くことになったのだが，当日どれみはおんぷを一言励ましてあげようと探していた。ところが，スタッフにオーディション参加者と間違えられてオーディションを受ける流れになってしまう。そこには玉木もいて，顔を合わせて驚くふたり。さて，はづきとあいこは舞台にどれみが現れたのを見てびっくり。どれみは緊張のあまりカタくなっていて，審査員に深呼吸をしてと言われるが，息を思い切り吸いすぎて真っ赤になり，死ぬかと思ったぁと言って大ウケ。さらにオーディションを受けた動機は? との質問には，芸能人になれば大好きなステーキがたくさん食べられるから，と言ってさらにウケた。そのステーキを食べる演技も迫真の演技だった。次の玉木はテニスウェアでそぉれぇっ♡とテニスの素振りを披露。おんぷはフルートの演奏をして，さすがに貫禄を見せつけた。第一次審査の結果，なんとどれみも玉木もおんぷも残ってしまう。さらに歌に踊りにと審査は続き，第三次審査の結果，どれみと玉木とおんぷの3人だけが最終審査に残った。最終審査は自分の好きな衣装でお気に入りの演技をするというもの。玉木はロミオ・アーンド・ジュリエットなお姫様衣装に着替えていたが，飛び入り参加のどれみには衣装の用意がない。そこで，魔法でかぐや姫に変身。十二単でかぐや姫を演じるが，学芸会なみの演技。次の玉木はやたらにクサい演技。そしておんぷの番だが，なんとおんぷの衣装はどう見ても魔女見習い服。小さいころから魔女になるのが夢だったので魔女の演技をすると言うのだ。しかし手にしているのもどう見ても3人のと同じクルールポロン。おんぷはポロンを振って「審査員の皆さん，全員わたしに投票して!」と言い，「そんな魔法が使えたらいいな」と続けるものの，3人には本物の魔法を使ったように見える。結局オーディションに合格したのは全員一致でおんぷ。と，猫の姿のララが3人に屋上に来るよう指示。屋上でマジョリカに見せられた雑誌には，おんぷが魔女ガエルを抱いて写っていた。じゃぁやっぱり，と思ったそのとき，不意にマジョルカの高笑いが響く。魔女ガエルになっていたマジョルカがおんぷと共に現れたのだ。マジョルカはおんぷの事務所の社長におさまっており，おんぷの芸能活動でたんまり稼いで，魔法グッズを売るより手っ取り早く時期女王選の資金を集めようという腹なのだ。不敵に笑うマジョルカと，マジョルカを連れて飛び去っていくおんぷに，一波乱ありそうな予感のする3人であった。

【解説】おんぷ登場。と，ともに魔女ガエルになってマジョルカ再登場。浮き足立つ男ども，玉木・どれみの演出が楽しい。オーディションでおんぷが35番なのはやはりこの回が第35回だからか。ちなみにどれみは20番，玉木は21番だった。

第36話　1999年10月10日



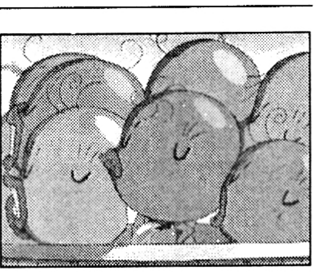
四級試験(よんきゅうしけん)はドドドドドー!

脚本　大和屋　暁　　作画監督　青山　充
演出　五十嵐卓哉　　美術　ゆきゆきえ
　　　広嶋秀樹　　　　　いでともこ

【粗筋】おんぷが魔法で審査員に自分に投票するように魔法をかけたのなら，自分も魔法使っときゃ良かったと言うどれみ。しかし，マジョリカによれば人の心を変える魔法も禁止されていて，使うと恐ろしいことが起こるという。おんぷにそのことを忠告しようと思う3人だが，学校ではおんぷは男子に大人気でひとりになることがなく，切り出せない。放課後も，忙しいからと言って車で帰ってしまった。さて，その夜は魔女試験。ぽっぷはコーヒーを飲んで眠らないようにしようとするが，あっさり母に見つかってしまう。3人はぽっぷを起こそうとするが，結局失敗。仕方なく3人だけが4級試験を受けに魔女界へ。待ちうけていたモタたちは，3人の身代わりで家にいたドド・レレ・ミミを魔女界へ転送。今回の試験は妖精と一緒に受けるのだという。試験会場へ向かうと，なんだか魔女の観客が大フィーバーしている。試験のお題は，うさぎとカメとの障害物競走なのだ。ただし，競争するのは妖精で，魔女見習いは魔法を使ってそれをサポートし，うさぎとカメに勝てば合格だという。うさぎは怠け者でカメはのろいから大丈夫，と安心しきっているどれみだが，いざスタートすると猛スピードのうさぎとカメに簡単に抜かれてしまう。魔女界では有名な勤勉なうさぎと素早いカメだったのだ。最初の障害物はすごく高いカベ。まずははづきが魔法でカベに穴を空けるが，どれみだけが頭がつかえて通れない。押したり引いたりしているうちにうさぎとカメはとっととカベを登り切って行ってしまった。次に現れたのは8級試験のときの試験官。今度は妖精と一緒に二人三脚という。妖精はそれぞれ主人の姿になって走るが，ドドとどれみはどうもペースが合わない。と，そこへほうきに乗ったおんぷが現れる。マジョルカに試験の邪魔をするように言われてきたという。3人はおんぷに忠告しようとしていたことを思いだし，そのことを説明するがおんぷはもう知っていて，しかも自分にはマジョルカからもらったお守りがあるから平気だという。そういう問題じゃ…と引き留めようとする3人をよそに，おんぷはそのままショッピングすると言って飛んで行ってしまった。結局しっかりレースの邪魔をされた3人。先に進むと，うさぎとカメが熟睡している。やっぱうさぎはお昼寝じゃん，と思って通り過ぎようとすると，またまた試験官に止められる。これが最後の障害物で，ここで眠り，夢の中でとても珍しい蝶を捕まえなければならないのだ。どれみは早々に熟睡し，枕が変わると眠れないと言っていたあいこもすぐに寝てしまう。眠れないはづきは困るが，寝相の悪いあいこに顔面を蹴られて夢の世界へ。ようやく夢の中にそろった3人は蝶を追うが，すばやくて捕まえられない。そこで姿を消したドド・レレ・ミミが蝶にこっそり近づき，何とかゲット。3人とも，うさぎとカメよりも早く障害をクリアできた。そして3人はリードを保ったまま最後の直線に突入。しかしうさぎとカメは一気に追い上げ，3人を抜いてしまう。3人は妖精たちをゴールに向けて全力投球し，タッチの差でうさぎとカメに勝つ。こうして3人とも4級に合格できたのだった。

【解説】サブタイトルどおり。妖精が比較的活躍する数少ない話。3人とも4級試験合格。また「人の気持ちを変える魔法」も禁じられていることが明らかになる。どーでもいいが，サブタイトルの級の数字が漢数字（四級）なのはこの回だけだ。

第37話　1999年10月17日



魔女(まじょ)ガエルがいっぱい!

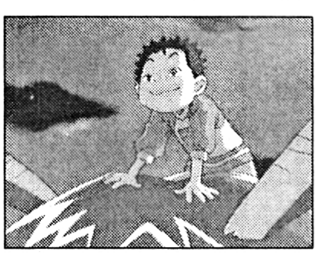
脚本　前川　淳　　作画監督　なかじまちゅうじ
演出　矢部秋則　　美術　ゆきゆきえ
　　　　　　　　　　　　下川忠海

【粗筋】魔女界では300年に一度の大嵐。このため閉鎖されていた扉の一つが落雷で開き，魔女ガエルたちが人間界へ飛ばされてしまった。一方その頃，MAHO堂で寝ているマジョリカとララに近づく怪しげな魔女ガエルの姿があった。翌朝，テレビではおんぷの事務所に泥棒が入ったと言っている。オヤジーデはそこにバッドカードのにおいがすると言うのだが，おんぷに会いたいだけじゃないの，と3人は疑う。ところでマジョリカの顔にはヒゲの落書きがされいてみな大笑い。と，無視されたオヤジーデが，おんぷがどうなってもわしゃ知らんと言うと3人は心配になって行くだけ行ってみることにする。こうして3人とぽっぷがMAHO堂を後にすると，店内のクローゼットから物音がする。マジョリカとララが開けてみるとそこには酔っぱらった魔女ガエルがいた。さて，3人とぽっぷがおんぷの事務所に来ると，そこにはおんぷ本人がいた。さっそくバッドアイテムのことを説明し，泥棒が入ったのもそのせいじゃないかと聞くのだが，おんぷは笑ってそれは違うと言う。犯人に会わせてあげると社長室に案内されると，そこにはたくさんの魔女ガエルがいた。昨夜，魔女界の扉からこの魔女ガエルたちが現れて，ここで一晩中宴会していたという。と，マジョルカの顔にはマジョリカと同じような落書きがされている。魔女ガエルたちは，それははぐれたマジョ梅さんの仕業だという。マジョ梅に会わせてとせがまれて，どれみたちは魔女ガエルたちをMAHO堂へ連れていった。話を聞いたマジョリカは，MAHO堂にある扉から魔女界へ帰るよう言うが，一同はせっかくだから人間界を観光していくという。そのまま外へ出ようとする魔女ガエルたちにアセる3人。それなら案内しろと言われ，しかも観光するまで帰らないと言い張られ，仕方なく3人は魔女ガエル御一行様の一日ツアコンに。ちなみにおんぷは仕事へ，おんぷに誘われたぽっぷはおんぷについていった。魔女ガエルたちはコートと帽子のかなり怪しい姿であちこちを周り，クレープを食べ，演芸を観，海にも牧場にも行って一日中観光を楽しんだ。陽が暮れかけてマジョリカがそろそろ帰ってくれと頼んでも，魔女ガエルたちは温泉に行くまで帰らないと言う。仕方なくマジョリカは自分の見つけた秘密の温泉場に案内した。温泉でくつろぐ一同にどれみは，みんなの魔女見習いはどこ? と聞くが，そんなものおらんと答える。一同を魔女と見破った人間は驚いて逃げていってしまったのだそうだ。一同は二度と元の姿に戻れない魔女ガエルたちの住む，魔女ガエルの村の住人だったのだ。振り回されっぱなしだった3人も，これを聞いて少し思い直す。さて，魔女ガエルたちはさらに遊園地に行ってからじゃないと帰らないと言い出す。でももう夜で，一番近い遊園地でも間に合わない。そこで3人はマジカルステージで「遊園地に連れていって!」とお願い。しかし，小さいおもちゃの遊園地しか出てこない。ところが魔女ガエルたちは魔法で体を小さくし，その遊園地で遊び始めた。観覧車にコーヒーカップ，ミニSLもあって魔女ガエルたちはゆっくりと遊園地を楽しんだ。夜になって，3人は魔女界へ帰る魔女ガエルたちの見送りに行った。魔女ガエルたちは，礼を言って帰っていった。と，そこへ女王様の馬車が現れる。魔女ガエルたちを魔女界へ連れ戻してくれた善行が認められ，特別に認定玉を賜れたのだ。3人は思わぬ贈り物に喜ぶのだった。

【解説】サブタイトルどおり。女王様から賜った認定玉は1個目。どーでもいいが10人のはずの魔女ガエルたち，温泉のカットで12人いたぞ…。

第38話 1999年10月24日

りょうたと真夜中のかいじゅう



脚本	喜多川夏音	作画監督	川村敏江
演出	山吉康夫	美術	ゆきゆきえ 塩崎広光

【粗筋】林りょうたは怪獣好き。授業中でもノートに怪獣の落書きをしていたため，関先生に立たされてしまう。ついでにどれみも居眠りで立たされた。が，夢で見た怪獣の話でどれみとりょうたは廊下で盛り上がり，その声は教室の中にまで響く。ふたりは関先生にさらに怒られ，放課後に体育館の掃除を申しつけられてしまった。どれみとりょうたが体育館のモップがけをしていると，サッカーのユニフォーム姿の小竹と木村が現れた。青空小学校との試合にそなえた練習のためにりょうたを呼びに来たのだが，りょうたは今日は用があるからと言って断った。さて，MAHO堂から帰る途中の3人は砂浜で遊ぶりょうたを見かける。りょうたは怪獣に扮して，地球防衛軍に扮するきみたかたちから攻撃されていた。それがちょっとやりすぎだと思った3人は止めに入るが，どれみとあいこはきみたかたちにからかわれて一緒に大騒ぎ。結局みんなで楽しく怪獣ごっこに興じるのだったが，その様子を小竹と木村が見ていた。その後3人はりょうたの家に案内されるが，りょうたの部屋には怪獣ガザマドンのグッズがいっぱい。彼はガザマドンの大ファンなのだ。が，おかげでテストの点が悪いのは怪獣狂いのせいだと母に怒られていた。さて，美空小では図工の作品展が近い。自分の一番好きなものを作るのだが，りょうたはガザマドンを作っていた。ちなみにどれみもその造形センスの低さで苦労していた。そして夕方，ついにりょうたはガザマドンを完成させる。しかし，そこに小竹と木村が現れ，なんで試合に来なかったのだとりょうたにつっかかる。ガザマドン作りに夢中で，試合のことを忘れていたのだ。試合に負けて機嫌の悪い木村と小竹は，りょうたを怪獣オタクと言って責め立てる。謝れと言うどれみをよそに，りょうたはせっかく完成したガザマドンをたたき壊してしまう。自分が怪獣に夢中だからみんなに怒られて嫌われる，もう怪獣なんか大嫌いだと言って走り去ってしまうりょうた。ここままじゃかわいそうだと言うどれみ。3人で相談するが，人の心を変える魔法はいけないし，いい案が浮かばない。そこでマジカルステージで「りょうたくんをなんとかしてあげて!」とお願い。が，何かの声が聞こえたきり。3人はりょうたの様子を見に行くが，彼は自分の部屋のガザマドングッズを捨てようとしていた。なんともなってないよぉ，と諦めかける3人。しかし，その夜なんと美空町に怪獣が出現。その足音と叫び声で目を覚ましたりょうたは，その怪獣・ガザマドンの姿を見て家を飛び出す。海へ向かうガザマドンを追い，崖の上でガザマドンに遭遇。嫌いだなんて言ってごめん，と謝るが，あわてて崖から落ちそうになってしまう。そこをガザマドンが拾い上げ，頭の上に乗せてくれた。やっぱりおまえが大好きだと言って嬉しそうなりょうた。ガザマドンはそのまま町内をゆっくりと徘徊し，海辺でりょうたを降ろしてから海の中へと消えていった。りょうたはその背中に，これからもずっと大好きだ，と叫ぶのだった。翌朝，学校でりょうたが壊してしまったガザマドンを作り直していると，小竹と木村が登校してきた。昨日怪獣の夢を見たと言って話しかけ，怪獣をバカにしてごめん，と謝る小竹と木村。りょうたも試合すっぽかしてごめんと謝って仲直りし，協力してガザマドンを直す。そしてそのガザマドンは，秋の作品展で見事金賞をもらうのだった。

【解説】林りょうたの話。初の喜多川脚本。木村は第11話以来のダークな活躍（ホントはいいヤツだけど）。それにしても3年生が出る青空小学校とのサッカー試合って，新人戦なんでしょうかね。五十嵐先輩や芝山だいち先輩はどうしたのやら…。

第39話 1999年10月31日

どれみの彼は中学生!



脚本	影山由美	作画監督	生田目康裕
演出	山内重保	美術	ゆきゆきえ いでともこ

【粗筋】遅刻しそうで慌ててMAHO堂に向かうどれみ。と，その途中，インラインスケートで颯爽と駆け抜けるステキな男の人を見かける。これまたタイプなのだが，その彼に駆け寄ってきたのはクラスメイトの樋口まきだった。彼はまきの兄なのだ。ある日，仕事に遅れそうで学校から大急ぎで帰るおんぷは，教室に教科書を置き忘れていた。宿題が出ているのに，とどれみは教科書を届けるためおんぷを追いかけた。バスがもう行ってしまったのを見て，おんぷは魔法でなんとかしようと思いつく。と，見習い服に着替えたところを，通りがかってサインを求めようとしたまきの兄・樋口秀三が見てしまった。困ったおんぷは，誰か他の子を好きになれ! と魔法をかけ，そこへ追いついたどれみがやって来た。魔法をかけられた秀三は，好きです，僕とつきあってください，とどれみに言う。告白されたどれみは舞い上がって大喜び。明日も会う約束をしたという。翌日，どれみは登校してきたまきに告白のことを話すが，まきもクラスのみんなも驚く。が，水飲み場で，お兄ちゃんはみかさんが好きだと思っていたのに，とまきはつぶやく。それを聞きつけた島倉は，秀三とみかが仲良くスケートをしている写真を撮っていた。玉木はこれをネタに，どれみはからかわれたか，秀三が二股だと主張し，3人と口論になる。そこへ，やめて! と叫んでまきが割って入った。お兄ちゃんはそんなことする人じゃない，と言い，その場を去る彼女の表情は辛そうだった。追うどれみは外でまきを見つける。どれみが話しか

けると，みかさんはただのインラインスケートの仲間であって，お兄ちゃんがどれみを好きだと言ったのならそれは本当だ，とまきは言ってくれた。改めて喜ぶどれみだが，まきの表情は切なげだった。さて，約束通りどれみと秀三は会っていた。公園でインラインスケートを優しく教えてもらうどれみ。その様子を見ていたのち，無言でどこかへ行ってしまうみか。どれみと秀三は明日もここで会おうと約束して別れるが，その帰り秀三にかけられていた魔法は解けてしまう。なんであの子に告白したんだろうと悩む秀三。翌日，すっかりラヴラヴ・デェトのつもりのどれみはおにぎりまで作ってベンチで待っていた。そこへ誤解を解こうと必死の秀三が現れる。秀三は，あの告白は間違いだったんだと言い残して，通りがかったみかを追って走り去ってしまう。あまりのことに呆然とするどれみ。そこへはづきとあいこ，そしておんぷがやって来て，おんぷの魔法のせいだったという事の次第を聞かされる。失恋には慣れっこのどれみはこんなことでへこたれはしないが，この一件で関係がこじれた秀三とまき，そしてみかの関係をどうしようと3人は思う。そそくさと逃げるおんぷをよそに，3人はマジカルステージで秀三，まき，そしてみかを呼び寄せ，マジョリカ扮する祈祷師が秀三から「悪霊」を祓うまねごとをする。秀三の告白は悪霊のせいだったということにしようというのだ。しかし，みかはそんなのトリックだ，と言ってお社を飛び出してしまう。慌てて後を追う秀三。スケートで急斜面を下るみかは転倒してしまうが，そこを追いついた秀三が間一髪で身を挺して助ける。秀三は，自分がちゃんと言ってなかったからいけないんだと言って，みかに告白。誤解も解けて，晴れて2人は恋仲になったのだった。

【解説】第1話の「あたしが魔女だったら，魔法で告白できるのに…あ，魔法で好きになってもらえばいいのかなぁ？」というどれみの考えが実現した話。本人の意志ではないが，初の山内演出は独特で印象深い。

第40話　1999年11月14日

どれみ楽勝？ 3級試験



脚本　大和屋　暁　　作画監督　青山　充
演出　伊藤尚往　　美術　ゆきゆきえ
　　　　　　　　　　　　塩崎広光

【粗筋】必勝鉢巻をして怪しげな祈祷をするマジョリカ。今夜は3人の3級試験。3級から試験がぐんと難しくなるのでマジョリカは心配なのだ。と，そこへデラが現れる。デラによれば，女王様在位100年を記念して，試験の合格者にはもれなく魔法玉がたわわになる木の種がプレゼントされるという。これを聞いたマジョリカは，絶対合格するよう3人に言う。さて，ぽっぷは今夜こそ試験を受けようと，眠らないためのコーヒーを魔法で出す。が，あまりの苦さに砂糖と牛乳を入れようと思い，台所に忍び込んだところを母に見つかり，さらにコーヒーも見つかって没収されてしまう。3人の努力も空しく結局今回もぽっぷは起きられなかった。3人が魔女界へ行くと，おんぷに出会う。おんぷは試験の帰りで，また飛び級合格して2級になったという。さて，今回の試験は，制限時間内に3つの世界にある3つの扉を探して戻ってくるというもの。しかし魔法は2回しか使えず，しかも1人ずつ受けるのだという。さっそく扉を開けてそれぞれの世界に足を踏み入れた3人。あいこが最初に入ったのは階段だらけの洞窟「魔女の迷宮」。魔女が現れ，魔法玉を1つくれたら次の扉への道を教えると言うが，タダじゃないからと言ってあいこはあっさり却下。しかしその魔女は最近景気が悪いし話し相手になってくれる人もいないと愚痴をこぼすと，あいこは話を聞くかわりに扉への近道を教えてもらう約束をとりつけた。はづきの入った世界では異形の者たちがうめくように地面から現れ，こういうのが苦手なはづきは猛ダッシュで逃げる。しかしその絶叫のあまりのうるささに困った住民たちが，はづきをとっとと次の扉へ追い込んでくれたため，あっさり次の世界へ。そしてどれみが来たのは魔女ガエルの村。いつぞやのマジョ梅たちに出会い，お茶菓子も頂いてすっかりくつろぐどれみ。2つめの世界に来たあいこは，泉の上で待ち受けていた魔女にお前が探しているのは金の扉か銀の扉と問われるが，この話を知っていたあいこは金でも銀でもない普通の扉がほしいと言う。すると魔女は本物の扉は泉の中にあるとあっさり教えてくれて，あいこは魔法で扉を出して最後の世界へ進んだ。一方はづきは，2番目の世界でも不可思議な電球人間に追い回されて絶叫しながら爆走していた。どれみも試験のことを思い出して2番目の世界に来ていたが，そこではこれまたいつぞやの八太郎とスルメ子の結婚披露宴が行われていた。どれみは美味しそうなケーキに惹かれ，誘われるまま披露宴に参加する。電球人間に追われていたはづきは，またしてもそのまま扉を通って3番目の世界に。そこで謎の巨大な仮面に一呑みにされてしまった。一面砂漠の最後の世界に来ていたあいこは今にも倒れそうな魔女に水をせがまれ，魔法は2回しか使えないのに魔法で水を出してその魔女にあげる。すると，魔女は礼を言って消え，そこには扉が現れた。そこをくぐると元の場所で，あいこは無事クリアした。はづきは気を失っていたが，ふと目覚めると老人がそこにいた。誰もが凍り付くオヤジギャグを披露されるが，はづきはクスッと笑ってしまう。初めて笑ってもらえて大喜びの老人が煙と消えると扉が現れた。その扉を通って，はづきもクリア。残るはどれみだが，披露宴でたこ焼きケーキを堪能してからようやく扉を通って最後の世界に。すると最後の扉が目の前にあった。と，不意に鼻をつくあの芳香。なんと屋台でステーキを焼いていて，しかも代金は魔法玉たった1個。開いた扉の向こうで必死に訴えるあいこたちの姿。あやしいとは思いながらも目の前にはステーキ屋台。どれみはステーキを選び，ポロンから出すだけ出した魔法玉でお持ち帰りのステーキを注文。その瞬間，扉が煙に消えると，ステーキも屋台ごと消えてしまった。結局誘惑に負けたどれみは不合格になってしまったのだ。どれみとマジョリカはがっくり。合格はしたものの，魔法玉がたわわになる木の種が育って実がつくのは200年後だと知って，はづきとあいこもブルーになるのだった。

【解説】二兎を追う者は一兎をも得ず。おんぷは一足先に2級に飛び級合格。あいこは順調に3級合格，はづきも試験内容はともかく3級合格。どれみは第7話以来の不合格で4級のまま。ちなみに先週（11月7日）は第31回全日本大学駅伝対校選手権により放映されなかった。

第41話　1999年11月21日

父と子・勝利への一手！



脚本　栗山　緑　　作画監督　河野宏之
演出　岡　佳広　　美術　ゆきゆきえ
　　　　　　　　　　　　下川忠海

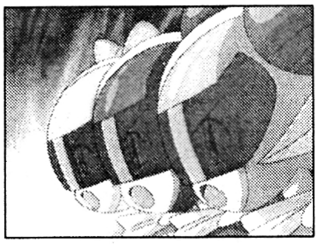
【粗筋】試験に落ちてがっくりのどれみ。励ますはづきとあいこだが，おんぷが水を差してしまう。さらにどれみは今日の日直で，プリントを取りに来るよう関先生に言われる。と，男子の日直は誰かと問うと，谷山将太が陰からぬうっと現れた。どれみはそんな将太に昼間の幽霊みたいだと言う。さて，職員室では関先生と教頭が将棋を指していた。関先生が押されているようだが，盤を見た谷山がアドバイス。関先生が将太の言うとおりに指していくと，アマ初段の教頭はあっさり負けてしまった。下校途中，3人は将太の将棋の腕に感心し，将来はプロの棋士になるんじゃないかと将太に言う。ところが将太は将棋なんか嫌いだ，棋士になんかなりたくないと言って走り去ってしまう。心配になったどれみが後を追うと，将太は将棋道場の前で中の様子を窓越しに見ていた。そこには美空市ちびっ子将棋大会のポスターがある。どれみはそれに出なよと言って声をかけるが，将太は逃げ出してしまう。どれみは意固地になって後を追うが，勢い余って電柱に激突。公園のベンチで休むどれみは将太の話を聞く。彼の父はプロの棋士を目指し，その一歩前まで行ったのだがついになれなかったのだという。将棋を捨てた父は毎日お酒ばかり飲んでいて，母とはケンカばかり。そのため母も将棋を憎んでいて，将太に将棋を指すなと言われているというのだ。しかしこれを聞いたどれみは，せっかく才能があって将棋も好きなのに，やらないのはもったいないと力説。たまたま通りがかって話を聞いていた関先生もこれに賛同。でも両親が嫌がるだろうから，と言う将太。そこで関先生は自分が両親に両親に説得すると提案。さっそく将太の家まで行って，将太の両親に直談判する関先生とどれみ。3年も将棋を指していなかったのにアマ初段の教頭に勝ったこと，父に教わった将棋が好きで，将棋を指すのを禁じられていても将棋の雑誌や新聞を読んだりして勉強していたこと。そして頭を下げて嘆願する将太の姿を見た父は，その将棋大会に優勝したら考えよう，と答えた。喜ぶ将太。そして将棋大会当日。3人や関先生，そして将太の父も観戦に来ている。将太は順調に勝ち上がりついに決勝戦。しかし決勝戦の相手はアマ3段の6年生という強敵だ。進級試験に落ちたどれみも観戦していたら元気が出てきたと言い，気合い入れて応援しようと気勢を上げる。そしていよいよ，特別対局室で決

勝戦が始まった。しかし自分の角に触れて不吉な声を聞く将太。対局の途中，将太の父はふと観戦を止めて外で一服する。関先生が観戦しないのかと尋ねると，将太は勝ちます，と言う。自分がよく教えた将太の得意手・角がわりの櫓の戦法で勝てるはずだというのだ。しかし将太は途中から様子が変わる。取った角をどうしても指さないのだ。トイレに出た将太に3人が尋ねると，角を持った途端に自分が負ける様子が頭に浮かんでしまうという。これはバッドアイテムでは? と思った3人はオヤジーデを連れてくる。すると，まさにその角行がバッドアイテムだという。3人は魔法で時間を止めて角行を持ち出し，マジカルステージでバッドカードを取り出した。角を戻して時間が戻ると，将太は再び角に手を伸ばす。しかし今度は何も起こらない。将太は相手陣地に角を打ち込み，その一手で見事に詰めた。こうして将太は優勝し，父も将棋を指すのを許してくれた。今日限りで酒をやめ，明日からは昔のように将棋を教え込むと言う父に，将太は涙して喜ぶのだった。

【解説】谷山親子の話。バッドカード回収は4枚目。美空市ちびっ子将棋大会が開会されたのはポスターによると11月21日（日）午前9時。つまりこの回の放映が終わった直後で，きっと大会関係者も「どれみ」が見たかったのだろう。

第42話　1999年11月28日

おジャ魔女・正義の戦い!?



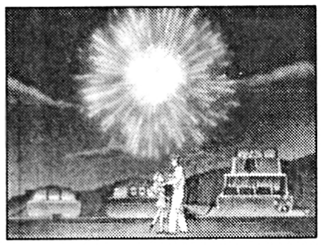
脚本 前川 淳　作画 稲上 晃
演出 岩井隆央　美術 ゆきゆきえ いでともこ

【粗筋】どれみはテレビのバトルレンジャーに夢中。見ていると，バトルレッドが救い出した姫はおんぷだった。翌朝，教室では天野こうたと林りょうたがバトルレンジャーの真似をしてクラスにウケていた。放課後，おんぷにサインを頼む男子がいる。おんぷはしぶしぶ承諾するが，そこへ天野が颯爽と登場。おんぷをアイドル扱いするなと忠告するが，通りがかった教頭がサインしているおんぷを見つけ，説教しようと連行してしまう。天野は教頭を止めようとするが，軽くあしらわれてしまった。教頭に説教を受けるおんぷは，これから仕事があるのに，と教頭に自分を許すよう魔法をかけてしまう。その様子を見ていた3人は，下校しながら人の気持ちを変える魔法は使っちゃいけないと再三の忠告。と，そこへ教頭に叱られたのではと心配していた天野が追ってきた。天野はおんぷに，昨日のバトルレンジャーはよかった，お芝居上手いんだね，と話す。演技を誉められて喜んだおんぷは，これからあるバトルレンジャーの撮影に天野を誘う。天野は大喜びでついていった。が，この様子を見ていたのがサインをねだったあの男子・6年の橋本真司。おんぷちゃんはみんなのものだとひとり燃えるのだった。さて，バトルレンジャーの撮影現場で天野はバトルレッドに会うことができ，握手もしてもらえて，目を輝かせて大喜び。その帰り，天野はおんぷの車で家まで送ってもらっていたが，これを島倉が目撃。これはスキャンダラスと思って見ていると，突然橋本がやって来て，天野宛ての果たし状を手渡し去っていった。翌日，島倉がこのことを大々的に報道したからクラスは大騒ぎ。当の天野も驚くが，橋本は下級生をいじめてる奴だと木村は言うし，毎日サインをねだってしつこいとおんぷも言うものだから，ヒーロー好きの天野はその正義感に火がつき，この決闘受けて立つ! とキメポーズ。さて，家に帰り夕食が青椒肉糸だと聞いたおんぷは，ピーマン嫌いなのに，と外食に行くようママに魔法を使う。その時，おんぷのお守りは不気味なオーラを発するのだった。夕方，美空公園では天野と橋本が対峙していた。小竹と木村，そして3人や島倉も来ていた。橋本が子分を連れているのを見た小竹と木村は参戦しようとするが，天野は2人をブルー・イエローと呼ぶ。さらに橋本を暗黒大魔人呼わばりし，すっかりヒーロー気分。大魔人呼わばりされた橋本がキレ，ついに乱闘が始まってしまった。これはヤバいと思った島倉は先生を呼びに行き，3人はマジカルステージで「ケンカをとめて!」とお願い。が，こんなときバトルレンジャーならカッコよく解決しちゃうんだろうなぁ～と思っていたどれみのせいで，3人はおジャ魔女戦隊マジョレンジャーになってしまう。すっかりノリノリのどれみ，いやピンクは颯爽と登場するが，イエローとブルーは恥ずかしそう。それはともかく，3人は橋本につっかかられてドタバタの乱闘に。この乱闘を見た天野は，こんなのヒーローの戦いじゃない，ただのケンカだ，とやるせない。しかし橋本は，おんぷを独り占めしたお前をおんぷのファンクラブ会長として許せないだけだと言う。どうも話が食い違っているようだ。天野はバトルレッドに会いに行っただけだし，聞けば橋本も妹の友達におんぷのサインをあげる約束をしてしまったからサインをねだっていたのだという。誤解が解け，お互いを見直した天野と橋本。天野はサインのかわりにおんぷの生写真を焼き増ししてあげると言い，家が玩具屋の橋本はバトルレンジャーの超合金をあげると約束。すっかり仲直りしたのだったが，そこへ関先生がかけつけ駆けつけてきた。それを見た3人は逃げ出すものの，そのとき魔法が解け，公園の柵を越えて斜面に落ちてしまうのだった。

【解説】天野こうたの話。ついでにどれみも暴走してマジョレンジャー初登場（?）。他，おんぷの意外な一面が明らかになったり，おんぷのお守りが危ういという描写が初めてされた。しかし，はづき誘拐（第19話）といい夏祭りタップ盗難（第29話）といい，前川脚本はドタバタものが多いなぁ。

第43話　1999年12月5日

パパと花火と涙の思い出



脚本 栗山 緑　作画 川村敏江
演出 矢部秋則　美術 ゆきゆきえ 塩崎広光

【粗筋】3人はパパの車で登校してきた中山しおりに会う。体調も良くなって今日からまた学校に来られるのだ。でもしおりはパパとケンカしているようだった。さて，教室では漢字のテストが返されていたが，満点ははづきとしおりのふたり。学校は休みがちなのに満点をとるしおりを3人は感心する。しかし玉木は学校を休んでいるのに満点なのはおかしいとしおりにつっかかる。それはパパが塾の先生で自分の勉強を教えてくれるからとしおりは答えた。でもパパはちょっと間違えるとすぐ怒ると言うと，自分はパパに一度も怒られたことはないと玉木がまた茶々を入れる。それに比べて3人の父親は優しくないという話になり，3人がそれぞれ父に教えてもらったことをもって反論すると，玉木はそれらは全てパパが雇ったインストラクターに教えてもらったと自慢する。どれみたちは，それは本当の優しさじゃない，お金をかければいいわけじゃない，とこれに反論。さらにはおんぷが，本当はパパに愛されてないんじゃないの? とポツリ。これを聞いた玉木は落ち込んでしまい，その日もずっと様子がおかしかった。それでもしおりは，玉木のパパは何でも言うことを聞いてくれそうだから玉木がうらやましいと言う。しおりのパパはしおりを心配しすぎていて，しおりを鎌倉のおばあちゃんの家に行かせてくれないそうだ。さて，パパの愛情を疑い始めた玉木は，パパの大事な高価な壺をわざと割ってしまう。しかしパパは壺なんか買い換えればいい，麗香が無事ならそれでいいと言って叱らない。玉木は泣きだし，そんなの本当の優しさじゃないと言って家を飛び出してしまった。暮れなずむなかひとり川を見て目に涙を浮かべる玉木にしおりが声をかけてきた。パパとケンカしたしおりは，鎌倉のおばあちゃんのところに家出しようとしていたのだ。鎌倉ならうちの別荘にも近いから付き添ってあげると玉木が言って，ふたりは鎌倉を目指すことに。一方3人は家出した玉木を捜している関先生に出会い，これに協力する。クラスのみんなも総出で捜索するが見つからない。その頃，しおりと玉木は鎌倉のおばあちゃんの家についていたが，温泉旅行中で留守だった。仕方なく2人は玉木の別荘へと向かう。玉木のパパに事の次第を聞いた3人と関先生は，玉木のパパに甘やかし過ぎだと言う。すると玉木のパパは自分が甘いのは，幼い玉木に熱いコーヒーがかかって救急車に運ばれたという7年前の事件が原因だと話す。その時，玉木のパパは二度とこの子を泣かすまいと誓ったのだ。しかしそんな彼も一度だけ玉木を叱ったことがあるという。玉木が4歳の夏，別荘で花火を見ていたとき，柵を乗り越えて落ちそうになった玉木を叩いたことがあったのだ。と，そこへしおりのパパが現れて，しおりが鎌倉のおばあちゃんの家に家出したと聞かされる。さらに小竹が，玉木と女の子が駅に入っていったという目撃情報を得てきた。これを聞いた玉木のパパとしおりのパパ，そして関先生は車で鎌倉へ向かい，3人もほうきに乗って向かった。鎌倉に着いた3人が玉木としおりを捜すためにマジカルステージを使うと，方位磁針が落ちてきた。その針は玉木たちのいる方を指しているようだ。3人が針に従っていくと，別荘にたどり着いた。が，その別荘は真っ暗だった。冬は使わないから電気もガスも止められているのだ。中には玉木としおりがいたのだが，しおりは熱を

出して倒れ込んでしまう。これを見た3人はゴキブリに変身してまず別荘の中に侵入。電話も使えないと分かって救急車を諦めた玉木は，どうにかしおりの看病を始める。これを見ていた3人は魔法で手伝おうと思い，魔法で電気と水道を通じさせた。しかしどれみが暖炉に火をつけると，驚いた玉木はしおりを連れて外へ逃げ出してしまう。と，そこへ関先生たちの車が着く。しおりは車で病院へ運ばれ，軽い風邪だということで一安心。しかし玉木は，自分は帰らないと言い張る。病院から飛び出した玉木を追ったパパは，思わず玉木を叩いてしまった。と，そこへ3人は魔法で花火を打ち上げる。その拍子に，玉木はかつて同じ様にパパに叱られたことがあったことを思い出した。こうして，玉木は再びパパが自分のことを愛してくれているんだと信じることができたのだった。

【解説】玉木親子の話。おかげで中山親子は影が薄い。どれみの魔法による3人のゴキブリ変身は第23話以来。今回はゴキブリのまま魔法を使う3人だった…。

第44話　1999年12月12日



女子プロレスラーになりたい！

脚本	吉村元希	作画監督	青山　充
演出	山吉康夫	美術	ゆきゆきえ 下川忠海

【粗筋】プロレスで勝負する小竹と工藤むつみ。むつみはまたしても鮮やかな関節技を決めて見事15連勝。むつみは強くなって女子プロレスの選手になるのが夢なのだ。さて，プロレス中継を見ていたむつみに，兄がいきなり四の字固めをかけてきた。むつみが応援しているキャンディ伊藤の試合なのだが，兄はキャンディ伊藤なんて人気ばっかで実力ないと言う。結局キャンディはこの試合に勝って35連勝，チャンピオンの座を守ったのだが，兄の四の字固めにはかなわなかったむつみはいつか兄を負かしてやると思う。そこへ小包が届く。中身はアイスキャンディのシールで当たったキャンディの限定フィギュアだった。大喜びのむつみは，今度からはこれを持って応援するからね，と言って笑う。翌日，むつみは更なる相手を求めるが，小竹すら逃げ出す始末。3人がかりでいいと言われたSOSも逃げてしまう。そこでスポーツ万能のあいこに練習相手を頼んだ。3人はむつみの誘いでむつみの家にお邪魔する。フィギュアを持ってきて熱心にキャンディ伊藤の話をするむつみ。そして，来週近くの体育館でキャンディの試合があるので一緒に行こうという話になった。そして当日，むつみはキャンディのフィギュアを持って応援，3人も応援する。しかしキャンディのシューズの紐が途中でほどけ，それが絡まってしまったためにキャンディは負けてしまう。ついに連勝が止まってしまったのだ。がっくりするむつみに，運が悪かっただけだと励ます3人。むつみは今度は大丈夫だと立ち直るのだが，むつみが家に帰るとテレビでキャンディが今度の試合で負けたら引退すると宣言していた。おまけに，一度負けるともろいと兄に言われてますます不安になるむつみ。翌日，学校では登校してきたむつみをSOSが待ち受けていた。3人がかりでむつみを倒す戦略を考えてきたのだ。そういう気分じゃないと言うむつみに，不戦敗するのか，負けたらキャンディと同じに引退か，とSOSは挑発する。これを聞いたむつみは相手になるが，3人に一斉におぶさられてついに負けてしまう。周囲に引退，引退とはやしたてられ，その場から逃げ出すむつみ。追った3人はむつみに3人相手だから気にすることはないと言うのだが，むつみは自分のことよりキャンディが心配だと言う。3人が励ますとむつみも一生懸命応援する，と笑顔を取り戻した。しかしむつみが家でテレビを見ているとキャンディは練習中に足を痛めてしまっていた。何もこんな時に，とまた不安になるむつみだが，これはバッドアイテムのせいではないかとあいこはにらみ，3人は翌日の試合にピュアレーヌパソコンを持っていった。試合前，トイレを探している間に迷ってしまったむつみは，偶然にキャンディの控え室に入ってしまう。本物のキャンディに出会えて喜ぶむつみ。もっと弱い相手にすればいいのにと言うむつみに，キャンディはそれじゃ勝ったことにならない，自分に勝つのが本当の勝負だと言うのだった。物陰から見ていた3人も，かっこいいと思うのだったが，慌ててバッドアイテムを探し始める。そして試合が始まる。相手は巨体で反則も多いクラッシャーマリー。おまけにケガをしている左足を狙ってくる。苦戦するキャンディ。しかしバッドアイテムは見つからない。と，試合に熱中するむつみが落としたあのキャンディのフィギュアがバッドアイテムだった。3人は大急ぎでマジカルステージでフィギュアからバッドカードを取り出した。客席に戻った3人からフィギュアを受け取ったむつみはさらに一生懸命応援，ついにキャンディは勝つことができた。大喜びのむつみは，絶対に女子プロレスラーになってキャンディとタッグを組み，兄を見返してやるんだと意気込むのだった。

【解説】工藤むつみの話。バッドカード回収は5枚目。兄貴に女子プロで勝つことは無理なんじゃないか，ということは考えないでおく。

第45話　1999年12月19日



サンタさんを救え！

脚本	影山由美	作画監督	馬越嘉彦
演出	五十嵐卓哉	美術	ゆきゆきえ 行　信三

【粗筋】もうすぐクリスマス。ぽっぷは今年こそサンタさんに会うと意気込み，親衛隊を連れてサンタ捜索隊を組織。美空町のあちこちを捜し回っていた。3人もすっかりクリスマス一色の商店街を歩いていたが，そこではおんぷのX'masミニコンサートの準備が進んでいた。と，どれみは道で白髭をたくわえた老人にぶつかってしまう。その老人は手帳を落としたまま行ってしまいそうになったが，どれみは手帳を拾って渡した。でもあまり調子がよくなさそうだった。そこへぽっぷのサンタ捜索隊がやって来る。なんでもサンタに会ってどうしても言いたいことがあるという。別の日，サンタ捜索隊の面々はまた街を徘徊していたが，準備の進むコンサート会場でおんぷに遭遇。おんぷは，ぽっぷからサンタを探していると聞く。その日の夕方，3人は道ばたで苦しそうにかがんでいる人を見つける。あわてて駆け寄ると，先日の老人だった。あまりに苦しそうなのでMAHO堂へ連れていくが，そこでマジョリカを見られてしまう。凍る一同。しかしその老人はマジョリカに向かって魔女ガエルさんかね，と問う。これを聞いたマジョリカが，あんたもしかしてサンタクロースかと聞くと，老人は頷いた。聞けば，風邪をこじらせてしまって調子が悪いのだが，クリスマスのためになんとか仕事をしているという。あの手帳には誰にどんなプレゼントを贈るかが記されていたのだ。サンタは咳き込みながらも早々に仕事に戻ろうとするが，見かねた3人は手伝うと言いだし，今夜のイブにプレゼントを配るのを手伝うことになった。3人はおんぷを誘うのだが，コンサートと取材の仕事があるからと断られてしまう。一方，ぽっぷたちサンタ捜索隊はサンタを見つけることができずに落ち込んでいた。夕飯，寂しそうなぽっぷを見てとったどれみは，サンタを手伝うという話をぽっぷにする。ぽっぷは自分も手伝うとどれみにせがむ。どれみはちゃんと起きてるよう言ったのだが，ぽっぷはやはり寝てしまっていて，起こそうとしたどれみはやはり返り討ちにあっていた。そして，夜。MAHO堂の中庭からトナカイの牽くソリに乗って出発したサンタと3人は，イブの美空市上空を高く昇っていった。雲を越え，辿り着いたはサンタの国。そこでは美空市担当のサンタたちが仕事をしていた。しかし様子が変だ。なんとプレゼント製造機が故障してしまっていたのだ。このままでは，今年はプレゼントを届けることができない。3人は魔法でなんとかできるかもしれないと考え，マジカルステージでサンタさんたちを助けて！とお願い。するとプレゼント製造機は動き始め，無事作業は再開された。しかし機械の故障で時間がない。仕分けも手伝うことになった3人は，魔法を使おうとするが魔法玉はもうなくなっていた。仕方なく手作業で仕分けをする3人。と，プレゼントはおんぷの魔法であっという間に仕分けされてしまう。おんぷの登場に喜ぶ3人。おんぷが仕事から帰ってきても両親ともに仕事で家におらず，ひとりでいたおんぷは夕方のどれみたちの言葉を思い出していたのだ。4人はプレゼントの配達を手伝う。子どもたちにプレゼントを配る4人。どれみが最後に配達に来たのは自分の家。ぽっぷは寝たまま，サンタさん…と寝言を言っている。サンタにどうしても言いたいことがあるというぽっぷの言葉を思いだしたどれみは，ぽっぷに会ってくれないかとサンタに頼む。サンタが直接子供に会うことは禁じられているというサンタだが，どれみは自分のプレゼントはいらないから会ってくれと懇願する。はづきも，あいこも，そしておんぷも，自分のプレゼントはいらないから会わせてやってほしいと続く。するとサンタはベルを振り，そこから現れた光の粉はぽっぷを包んでいく。サンタはぽっぷたちサンタ捜索隊と夢の中で会っていたのだ。夢の中

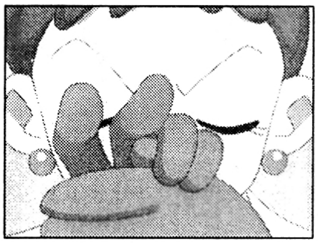
第一章　各話解説

でサンタに会えたぽっぷたちが言った言葉は「サンタさん，いつもプレゼントありがとう」。笑顔でこれに応えるサンタ。こうして今年も無事にプレゼントは子供たちに届けられた。そこへ魔女界の女王様が現れ，サンタの手伝いをして子供たちの夢が守られたとして認定玉を賜れた。喜ぶ4人の上にやがて雪が降り始め，今年もイブの夜は更けてゆくのだった。

【解説】季節モノ，と思いきや，おんぷのターニング・ポイントであったり，どれみお姉ちゃんの話だったり，女王様から2個目の認定玉を賜ったり，盛り沢山の内容。第30話に続いて五十嵐演出，馬越作画が冴え渡る。サンタの存在を否定する台詞を言わせないところに良心を感じる影山脚本。

第46話 1999年12月26日

魔女のかくし芸大会！



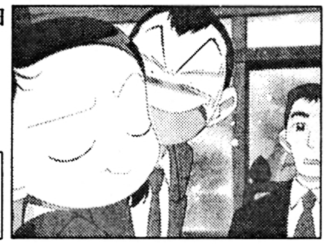
脚本	喜多川夏音	作画監督	なかじまちゅうじ
演出	伊藤尚往	美術	ゆきゆきえ いでともこ

【粗筋】ある日，3人がMAHO堂に来るとマジョリカとマジョルカが，魔女ガエルの身体にセクシィダイナマイツな衣装を纏って陽気にサンバを踊っていた。あまりの光景に腹を抱えて笑う3人。聞けば，毎年恒例の魔女の忘年会で披露するかくし芸の練習をしていたという。しかも優勝者には女王様が何でも1つ願いを聞いてくれるそうだ。と，そこへデラが登場。モタとモタモタから次の魔女試験の知らせを預かってきたのだ。それによるとモタたちもかくし芸の準備で忙しいため，忘年会で芸を披露してみんなにウケたら合格にするという。さっそくネタを考える3人。宴会芸なら大人に聞くのが一番ということで，3人は家族に聞いてみることに。が，どれみの父はしょーもない芸しか教えてくれない。はづきは，ばあやに藤原家伝来の芸をしてもらうが，やはり硬直するばかり。あいこの父に至ってはただのドジョウすくいと，あやとりもどきの怪しげな芸。聞くんじゃなかったと落胆する3人。翌日，教室では渡部みちあきが小竹や木村を相手に手品を披露していた。その鮮やかさに感心した3人は何か手品を教えてもらおうと頼むが，手品はタネを教えたら面白くないといって教えてくれない。下校途中，はづきが鉛筆を買うと言って3人は文房具店に入る。と，はづきの出した鉛筆を店のおじさんがクレヨンや色鉛筆に変えてしまう。驚いていると，奥から出てきたのは渡部。おじさんは渡部の父だったのだ。聞けばもうすぐ毎年恒例のマジックショーなのだが，渡部の父はぎっくり腰のために出られず，代わりに渡部が頼まれたという。相方の女性アシスタントがまだ決まっていないと聞いたどれみは，自分がそれをやる！と言い出す。そこで手品を教えてもらおうという魂胆なのだ。3人に目を輝かせてお願いされてしまった渡部はこれを承諾，さっそく基本の手品を教えるが，3人ともさっぱり。ともかくこうして3人と渡部はショーの準備を，マジョリカたちはサンバの練習を進めていくのだった。さて，渡部はあいこに司会を，はづきにアシスタントを，そしてどれみに舞台監督の役目を割り当てた。いよいよショーの当日。はじめは順調にいく渡部のマジック。しかしシルクハットからハトを出すマジックで，ハトが逃げてしまっていた。これを見たどれみは魔法で帽子からハトを出す。しかしその数はあまりに多かった。次はシルクハットから旗を出す手品だが，今度は紐がからまっていた。どれみはまた魔法を使うが，出てくる旗はいつの間にか下着になっていた。さらに扇子から水を出す手品でも，水が止まってしまったのをどれみが魔法を使い，あちこちから大量に水が出てしまう。観客は喜んでいるのだが，失敗続きの渡部はひどく落ち込み，楽屋へ戻ってしまった。残りの手品は初演のもので，このままだと絶対に失敗すると自信を失っているのだ。これを見た3人は渡部を励まし，ショーも再開される。今度は縛られた渡部が箱の中に入り，そこから消えて大玉の中から違うコスチュームで現れるというもの。これを見事に決め，渡部は無事にショーを終えたのだった。さて，夜になって今度は魔女の忘年会。さっそく3人は会場に到着するが，マジョリカのサンバはともかく，はた目には見事な手品もみなブーイングを浴びている。魔女なだけに，魔法を使えばみんなできてしまうから面白くないのだ。魔法が使えないなら勝ち目がないと，謝って帰ろうとする3人。しかし観客のブーイングにキレたあいこがヤケクソでお父ちゃん直伝の「するりあやとりぃ！」を披露，これが何と大ウケ。次ははづきが「ばあや秘伝！ 顔くるくるぅ！」を披露。これがまた大ウケだ。最後はどれみ。と，自分だけまだ4級で，これに失敗したらはづきとあいこに2級差をつけられてしまうことに気づく。どれみは気合いを入れ直し，渡部直伝の口上もカッコよく決め，そして披露したのは「元祖！ 指のび～る！」。やっぱりこれも魔女たちに大ウケ。こうして3人ともウケたので進級試験に合格。さらにかくし芸大会の優勝も勝ち取り，女王様にお願いを1つかなえてもらえることになった。そしてはづきとあいこがどれみを飛び級をお願いしたため，3人はそろって2級になれたのだった。

【解説】季節モノ，なのだが，それに関連した渡部みちあきの話と3人の魔女試験の話。どれみの飛び級合格で3人そろって2級。願いがなんでもいいなら「魔女にして」と言えばよかったのでは，という誰もが思いつくツッコミよりは，女王様がついにギャグキャラクターに墜ちてしまったことの方が重要。

第47話 2000年1月2日

お父ちゃんのお見合い



脚本	栗山　緑	作画監督	生田目康裕
演出	岡　佳広	美術	ゆきゆきえ 塩崎広光

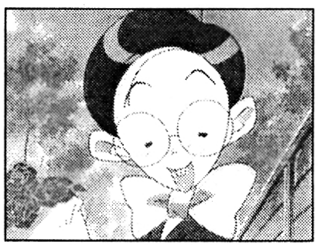
【粗筋】正月早々，会社の社長にお見合いを勧められたあいこの父。家でこの見合い写真を見たあいこはまさかお見合いするのかと驚くが，あいこの父はどうやって断るか悩んでいると答えた。その後，どれみ・はづきと一緒に行った初詣で，あいこはお父ちゃんが再婚しないように，と願掛けしていた。と，そこへどれみとはづきの家族が来る。みんなで食事にでも行こうと言い，はづきのママはあいこを誘うが，あいこはお父ちゃん放っといて来たからと言って，そこでどれみやはづきと別れた。寂しそうなあいこを心配するミミ。あいこはその足でMAHO堂に年始の挨拶に行くが，マジョリカはマジョルカと飲んだくれていた。ララに父のことを話すあいこだったが，割って入ったヘヘに，新しいママが来たほうが楽になるし，いつまでもお父ちゃんを独り占めしようなんてガキのすること，本当はお父ちゃんも再婚したいんじゃないの？ と言われて心が揺れ動いてしまう。帰り道，夕焼けの中でハーモニカを吹きながら，大阪で見た母やヘヘの言葉を思い出し，涙を浮かべるあいこ。その夜，あいこは父にお酒をすすめながら，お見合いをしてもいい，と言う。驚くあいこの父。あいこは秋に行った大阪での話をしはじめ，母は再婚していて子供がいる，と告げる。寝しなに，あいこの父は，あいこがすすめるのなら見合いするだけしてみようと思う，と言う。分かってはいながらも，涙をこらえて布団をかぶるあいこだった。後日，おめかししてMAHO堂に来たあいこ。これから父のお見合いに行くと聞いたどれみとはづきは，本当にそれでいいのかと問う。さらにはづきは，あの時の赤ん坊は本当はあいこの母の子供なのか，近所の子や友達の子ということはないのか，と言う。それを確認していなかったことにアセるあいこ。と，マジョリカが水晶玉にあいこの母の様子を映すと，何とあの時の赤ん坊を抱いたその子の本当の母が，あいこの母の家に訪ねてきていた。母が再婚していなかったことに気づくあいこ。あいこは大慌てで見合い会場に行き，父に再婚は誤解で，見合いは中止してと言うが，今更キャンセルなどできるはずがない。そこへどれみとはづきが駆けつけ，どれみはお見合いをブチ壊すことを助言，あいこはなるべく相手に嫌われようと決意。どれみとはづきも魔法でフォローすることに。そしてお見合いが始まる。お見合いの相手・みどりさんはピアノの腕前もプロ級，和服も似合う楚々としたステキな女性だ。さっそく，あいこは相手をおばさん呼ばわりし，父のギャンブル趣味やいびきに歯ぎしりの話を並べ立てる。しかしみどりさんはものをはっきり言う子は好きよ，と言って逆効果。これを見たどれみは魔法を使い，運ばれてきたサンデーをひっくり返してあいこの父にかける。あいこの父が会社の制服に着替えて戻ってくると，みどりさんは何と制服フェチで，男の人の制服に弱いんです，と頬を赤らめる始末。今度ははづきが魔法を使い，あいこの父は寒いギャグを連発するが，これがみどりさんには大ウケ。と，今度はふたりっきりで庭園を逍遙していい雰囲気。ついにあいこ自ら魔法を使い，池の鯉を全て跳ねさせる。が，驚いたみどりさんがよよとあいこの父にしなだれて，これまた逆効果。いよいよ焦る3人だが，そこへ仕事で来ていたおんぷが登場。事情を聞いたおんぷは，あいこは良い子すぎる，もっと自分の気持ちを素直に出した方がいいと言う。これを聞いたあいこは父とみどりさんの所へ走って行く。そして，みどりさんはいい人だと思うけれど，自

分のお母ちゃんはひとりでいい，だから再婚してほしくないと打ちまける。これを見たみどりさんは全てを察し，このお見合いはこちらから断らせてくださいと言ってくれた。かくしてお見合いは破談となった。そして，あいことあいこの父にいつもの調子が戻り，どれみたちはそれを見て微笑むのだった。

【解説】妹尾家の物語第4話。アバンタイトルは年始の挨拶。結局あいこの母が出てくる話（第23,34,47話）は，全て栗山脚本&岡演出だった。

第48話　2000年1月9日

おんぷのメールはラブレター？



脚本	大和屋 暁	作画監督	川村敏江
演出	矢部秋則	美術	ゆきゆきえ 下川忠海

【粗筋】岡山の姉妹校と電子メールの交換をしようという特別授業。しかし関先生はパソコンの扱いがさっぱりで授業が進まない。そこへ現れたのが中田ごうじ。彼はパソコンが得意で，慣れた手つきでメールの送受信をやってのけた。授業の後，パソコンって他にもいろいろできるんだろと小竹に言われて中田はおんぷのCD-ROMを取り出し，再生して見せた。彼はおんぷのファンなのだ。さて，おんぷのホームページにはファンからのメールがたくさん来ていた。しかしおんぷは面倒だからと言って返事を書かない。仕方なくヘヘが適当に書いて同じ内容のメールを全員に返信してしまった。夜，そのメールを受信した中田は大喜び。テレビ局で仕事帰りのおんぷに殺到したファンの1人は，明日楽しみにしているからね，と言う。頸を傾げるおんぷ。翌日，中田はおめかしして出かけていった。一方MAHO堂では，オヤジーデが一刻も早くバッドカードを全部集めて元の姿に戻せと騒いでいた。おんぷからラブレターが来たというのだ。オヤジーデが見せたそのメールを読むと，あなたのメールが超ラブラブって感じなので今度の日曜12時に美空公園で待ってるから来てね，という内容。あまりの怪しさに眉をひそめる3人だが，後生だからと頼まれて仕方なくオヤジーデを公園に連れていった。その途中，3人は盛装した中田に会う。聞けば中田もおんぷからメールをもらって，これからデートだという。学校では話せなくても，メールでなら色々なことを話せるからと言ってはにかむ中田。時間に遅れるからと公園へすっ飛んでいったが，見ていると彼の他にもやはり盛装した男の子たちが公園へ走っていっている。公園には何人ものファンが集まっていたのだ。呆然とする中田。さらにおんぷは自分とデートするんだと言ってファン同士でケンカが始まってしまう。3人は事務所に行っておんぷを公園に連れてくるが，どうしようと悩む。いきなりおんぷが出ていったらパニックだろうし，妖精がメールを書いたなんて言えるわけもない。そこでどれみとはづきが魔法でおんぷのマネージャーとガードマンに変身してファンをなだめようとするが，逆に頭に血の上ったファンに追い回されてしまう。おんぷは魔法でファンの記憶を消そうとするが，そういう魔法は禁じられているんだとあいこが止める。あいこはファンがここに集まっているのはみんなおんぷが好きだからだ，とおんぷを説得するが，この会話の声を聞きつけたファンがおんぷの隠れる草むらへ迫ってきた。と，そこでマジョルカが魔法で時間を止める。言われるままに一度はその場を逃げようとするおんぷだが，3人の言葉もあって思い直し引き返す。おんぷは会社の人が適当にメールを送ったと事情を説明して謝る。これでファンに許してもらえたおんぷはかわりにサイン会を始めた。ファンは喜ぶのだが，中田は肩を落としてその場を去っていく。心配になった3人が追ってゆくと，中田はクラスメイトなのにおんぷと話したことがなく，やっとメールで返事が来たらこのザマだと言っておんぷのCD-ROMを海に投げ捨ててしまう。と，その時怪しげな光を放つCD-ROM。バッドアイテムだったのだ。3人はさっそくマジカルステージでバッドカードを取り出すが，中田がおんぷと話せなかったのは本当にバッドカードのせいだけなのだろうか，とどれみは思う。3人はCD-ROMを中田に返そうとするが，中田はもうおんぷのファンを辞めたという。しかし3人は，何もしないで勝手におんぷを嫌いになるなんて一方的だ，メールじゃなくてもクラスメイトなんだから友達にはなれるはずと中田を励ました。翌朝，登校した中田は昇降口でおんぷを見つける。中田は意を決して「おはよう」と挨拶し，おんぷも挨拶を返したのだった。

【解説】中田ごうじくんの話。と，ともにターンしたおんぷの話。バッドカード回収は6枚目。ところで魔法でファンの記憶を消したとしても，彼らに届いたメールは残っているような。

第49話　2000年1月16日

パパに会える！夢を乗せた寝台特急



脚本	影山由美	作画監督	河野宏之
演出	山内重保	美術	ゆきゆきえ いでともこ

【粗筋】教室では男子たちが新型寝台特急の話で盛り上がっている。と，その輪に入ってきたおんぷはその寝台特急のことを詳しく話して周囲を驚かせていた。さて，おんぷの家では父からの留守電が入っていた。おんぷの父は列車の運転手で，今度新しく走る寝台特急の第一号運転手になったという知らせだ。切符も取ってくれて，母は仕事で乗れないものの，おんぷはその土曜日の一番列車に乗ることになった。どれみたちはひとり線路を見下ろすおんぷを見つける。話しかけるとおんぷはこの話をし始めた。単身赴任している父に会えるのは3ヶ月ぶりで，土曜日が楽しみだと嬉しそうに話すおんぷ。いつもと違うおんぷにどれみたちも嬉しくなるのだった。さて，おんぷはドラマ「しあわせ橋」の主役の妹・茜役を選考するオーディションに出ていたが，控え室でとても緊張している参加者がいた。彼女が会場の非常階段でひとり演技の練習をしていると，おんぷがやって来た。彼女の名は森野かれん。聞けば，とてもあがり性なのだが，今度のオーディションにはどうしても受かりたいと言う。そんな彼女におんぷは，私はいつも必ず受かると思ってオーディションを受けている，今度も絶対受かると言って去るのだった。さて，無事一次審査を通ったおんぷは最終オーディションに臨むが，それは父の寝台特急に乗る土曜日だった。最終オーディションは公開番組で，おんぷはどれみたち3人を招く。当日，おんぷは会場でかれんに会う。彼女も一次審査を通っていたのだ。おんぷの言う通り絶対受かると思って頑張ったら受かったという。準備のすすむ舞台を見て震えるかれんは，自分は父に似てしまったのかも知れない，とおんぷに話し始める。彼女の父も大変なあがり性でなかなかいい役が貰えなかったという。そして以前同じ「しあわせ橋」がドラマ化された時，彼女の父は出演できると喜んでいたのだが，クランクイン寸前に病気で亡くなってしまったそうだ。彼女は自分が「しあわせ橋」に出演して，父の夢をかなえてあげたいと思っていたのだ。さて，おんぷが無事に演技を終えると次はかれんの番。しかしやはりあがってしまっている様子。舞台には立ったものの，ライトを浴びると台詞が出てこない。そんな彼女を舞台の袖から見ていたおんぷは，かれんのあがり性を治して，と魔法をかける。おんぷは魔法玉が無くなったことに気づいたものの，お守りにヒビが入ったことには気づかなかった。審査はおんぷとかれんが通り，この2人で最終決戦をすることになった。しかし，このままだと特急には間に合わないかも知れない。2人は全力で最終オーディションを演じきったが，結局茜役を射止めたのはかれんだった。おんぷは笑顔で祝ってあげたのだったが，この時間だと特急が発車する時間に間に合わない。会場を急いで走るものの，時計を見て諦めかけるおんぷ。そこへ3人が駆けつけた。かれんのあがり性を治す魔法を使ったために魔法玉がなくなったことを聞いた3人は，おんぷにとにかく駅に向かうよう言って，マジカルステージでおんぷを寝台特急に乗せてあげて，とお願い。しかし魔法のほうきで飛んでいったおんぷが駅ホームにたどり着いたとき，特急は発車した直後だった。哀しそうに頸を傾げ，つときびすを返すおんぷ。と，自分が特急列車の中にいることに気づく。3人の魔法が効いたのだ。運転席に案内されると，そこには父がいた。そしておんぷは3人への感謝の言葉を呟くのだった。

【解説】おんぷの話。影山脚本の台詞回し，山内演出の画面構成，河野作画の作画バランスがそれぞれ独特。後々になって「しあわせ橋」というドラマタイトルが，おんぷ・かれんのそれぞれの父との想い出が橋の上の情景であることに引っかけていることに気づいた。

第50話　2000年1月23日

最後の見習い魔女試験



脚本	前川　淳	作画監督	青山　充
演出	山吉康夫	美術	ゆきゆきえ 塩崎広光

【粗筋】明日はいよいよ1級魔女試験。元の姿に戻れると思うと嬉しいやら悲しいやらのマジョリカ。3人は緊張してなかなか寝付けないでいた。翌日MAHO堂にデラとモタとモタモタが現れた。何と1級試験は昼間，美空町でやるという。それを知らなかった3人は慌てるが，知っていたおんぷは試験を受けにMAHO堂にやって来た。さて，試験問題は魔法で良いことをして誰かにありがとうと言ってもらえたら合格，というもの。ただし制限時間は陽が沈むまで。4人はさっそく出発した。まずはどれみが忘れ物の帽子をおじさんに届けてあげるが，ありがとうとは言ってくれない。あいこは道路に向かって階段を落ちていく乳母車を空の上から魔法で止めるが，ほぼ同時に駆けつけた人が止めてしまっていた。一方はづきはおばさんにかわって公園のゴミ拾いをするが，魔法を使わずにすっかり真面目にやってしまったため，ありがとうとは言われたもののこれでは合格にならない。おんぷは泣いてペロペロキャンディを欲しがる子供に魔法で出したキャンディをあげるが，その子は虫歯で母親に歯医者に連れて行かれるところだった。そんなこんなで4人ともなかなかうまくいかない。インコを捕まえようとしてドジったどれみは，神社に落ちて見習い服がタップに戻ってしまう。犬の散歩中だった島倉がどれみを見かけると，そこへほうきに乗った見習い服のあいこが降りてきた。驚く島倉。隠れて様子を見ていると，どれみはタップで見習い服にきがえ，ほうきに乗ってあいこと共に飛んでいってしまった。これはスクープだと島倉は玉木に電話をし，噂はさらにクラス中を駆けめぐり，はづきやおんぷが空を飛んでいるところも目撃され，おまけに噂に尾鰭が付いて大変な騒ぎになっていた。そうこうしている内にもう夕方。誰もまだありがとうと言ってもらっていない。しかも4人とも魔法玉は残り1個だ。4人が山から町に戻ろうとすると，どれみは子狐が川に流されているのを見つけ，子狐を助けるために最後の魔法を使ってしまう。これを見たはづきも魔法でたき火を出し，あいこも魔法でタオルを出した。しかし，子狐はなかなか元気にならない。これを見たおんぷは魔法でミルクを出して子狐に与えた。おんぷの言うとおりお腹が空いていたのだ。おかげで子狐は元気になり，母狐も迎えに来てくれて狐の母子は山へ帰っていった。そして夕陽は沈み，4人とも不合格かと諦めていたところへモタとモタモタがやって来て，4人とも合格と言う。さっきの子狐が，別れ際にありがとうと言っていたのだ。大喜びの4人。魔女界で女王様から認定玉をもらうと，認定証は水晶玉に変わった。これは魔女の証の水晶玉，4人はついに魔女になったのだ。どれみに至っては泣いて喜ぶ始末。一方，美空町ではどれみたち4人がMAHO堂に監禁されているという噂で大騒ぎになっていた。噂を聞いたクラスメイトに4人の親たち，はづきのばあやにぽっぷが一斉にMAHO堂に向かう。しかし扉をこじ開けて中へ入っても誰もいない。どうにかとり繕ってみんなを帰そうとするぽっぷ。店の奥に踏み込んだどれみの母は，魔女界への扉を前にしていた。扉の窓から光が溢れる。どれみの母がぽっぷを押しのけ扉を開けたとき，4人はちょうど帰ってきたところだった。見習い服でほうきに乗って来た4人を見て目を丸くする一同。ついにバレてしまったのだ。

【解説】4人の1級試験合格。と，ともに最終回へのステップ。サブタイトルの「最後の」が意味深い。人の心を変える魔法を使ったら失格なんだから，おんぷが使わなかったのは当たり前，と考えるのは野暮というもの。最後の次回予告は「最後の魔法，みんなにとーどけっ!」で締めくくり。

第51話　2000年1月30日

さようならMAHO堂



脚本	栗山　緑	作画監督	稲上　晃
演出	佐藤順一	美術	ゆきゆきえ 下川忠海

【粗筋】魔女界から帰ってきた4人の姿に唖然とする一同。しかも玉木は魔女である4人の正体を今まさに言い当てようとしていた。このままでは4人とも魔女ガエルになってしまう。そこでおんぷは，あと1回だけなら，と魔法でみんなの記憶を消してしまう。気絶して倒れ込む一同。おんぷは平気な顔をして店内に入っていったが，ぽっぷはおんぷのお守りが粉と散っていくのを目撃する。と，意識を失い倒れるおんぷ。ひとまず3人はきがえ，記憶を消されたみんなも意識を取り戻すのだが，おんぷは病院へ運ばれた。体はどこも悪くないのに全く意識が戻らないという。その夜，MAHO堂で相談した3人が魔女界の女王様のところへ行くと，おんぷは24時間以内に目を覚まさせないと100年間眠り続けると女王様は言った。女王様におんぷを助けるよう頼む3人だが，女王自ら掟を破ることはできないと言われてしまう。3人は1級試験の後のおんぷのことを話し始め，おんぷがもう人の心を変える魔法を使うつもりはなかったことや，自分たちを助けるためにあの魔法を使ったのだと言って懇願する。すると女王様は，水晶玉によるマジカルステージならおんぷを助けられるかもしれないと言う。しかし魔女になりたての3人の魔力では失敗するかも知れないし，その成否に関わらず3人には魔女をやめてもらわねばならないという。さらにどれみはマジョリカを元の姿に戻す魔法をかけるが，まだ魔力が足りないためにすぐ魔女ガエルの姿に戻ってしまうため，マジョリカは自分を元の姿に戻せるまで魔女をやめるのは許さんと言う。それに魔女をやめたら妖精とも別れなければならないのだ。この事態に思い悩む3人。翌日，教室におんぷの姿はない。3人は放課後におんぷのいる病院へ向かうが，人気チャイドルなだけに報道陣がつめかけていたため，3人は魔法で蝶に変身しておんぷの病室に侵入する。そこではおんぷの母が，私の夢を押しつけたりしたからいけなかったと泣いていた。おんぷが魔女見習いになったのは母の夢を叶えるためだったのだ。はづきはいつも親の言うとおりにしかできない自分を変えたくて，あいこは苦労している父に楽をさせてあげようと思って，どれみは好きな男の子に告白する勇気が欲しくて魔女見習いになった。でも，それは魔法がなくてもできること。それに今はひとりじゃない。3人は友達だし，そしておんぷも友達だ。心を決めた3人は魔法で時間を止め，病院からおんぷを連れ出してMAHO堂へ。マジョリカも憎まれ口を叩きながら許してくれた。言われたとおり女王様の前におんぷを連れてきた3人は，おんぷの眠りを覚まして，と水晶玉でマジカルステージを使う。しかしその光は次第に弱くなってくる。このままでは失敗してしまう。が，そこへテレビでおんぷが病院から消えたことを知ったぽっぷが駆けつける。魔女見習いをやめる覚悟でぽっぷも協力するが，それでもマジカルステージの光は消えかけてしまう。水晶玉がもたないからやめなさいと言う女王様。しかし，4人は絶対に止めないと泣いて魔法を続ける。すると水晶玉は強い光を放ち，マジカルステージもその輝きを取り戻した。やがておんぷは目を覚まし，ゆっくりと起きあがった。喜ぶのも束の間，約束通りみんなは魔女をやめることになり，魔女失格であるおんぷとともに全員が見習いタップを返した。これで魔女ではなくなったのだ。魔女界から戻ると，マジョリカが店じまいの準備をしていた。ドドたちと一緒に魔女界へ帰るのだ。こうして魔女ともMAHO堂ともお別れとなったどれみたちはしかし，おんぷの快復を心から喜び，また確かな友情をたがいに信じて晴れやかに笑うのだった。

【解説】最終回。玉木が4人を魔女と言い当てそうになるシーンの演出は，第1話でどれみがマジョリカを魔女と言い当てたシーンとほぼ同じ。ラストも第1話の一番最初を意識した演出になっている。

検証?『SOSトリオのギャグセンス』

1. 概要

「SOSのギャグで笑えるヤツなんかいるのかなぁ?」「そうよねぇ，いないわよねぇ」(どれみ，はづき; 第14話) しかしそう言うはづきは以後密かにSOSのギャグを笑うようになる。

3人の中でも評価が割れるこのSOSトリオのギャグセンス。ここでは劇中で披露されていたSOSトリオのギャグから，彼らのギャグセンスの是非について検証してみたい。

2. 一覧

全52話 (CDドラマ含む) におけるSOSトリオのギャグを以下に示す。ギャグの含まれるシーン (Scene) を順に示し，簡単な状況説明と話数も併記した。

Scene 1. ～あいこの自己紹介にて (第3話)

「へぇ～コテコテの関西人かぁ」「そんなん十把一絡げみたいなこと言わんといて。関西人やのうて，ナニワっこ言うてぇや」「それは失礼しまくりぶーりぶり」(佐川，あいこ，佐川)

Scene 2. ～あいこと下校する際にて (第3話)

「妹尾もイニシャルSだから，SOSトリオに入れてやってもいいぞ」「あたしが入ったらトリオちゃうやん」「そか!」「佐川君を脱退させたら入ってもええで」「えぇぇぇ!?」「冗談やて」「もう，びっくりさせるなめくじ，ジメジメ～」「プ，しょーもな」(杉山，あいこ，杉山，あいこ，佐川，あいこ，佐川，あいこ)

Scene 3. ～学校の花壇にて (第11話)

「せっかくきれいに咲いてた花が散っちゃったじゃない!」「プ…ププ…」「花より団子のヤツが何言ってんだよぉ」「だよなぁ」「〈カーン〉…あ，ああ…※ぶっぶのぶー!」「これは失礼しまぶりぶーりぶりぃ」(どれみ，SOS，太田，杉山，どれみ，佐川)

Scene 4. ～バスケの試合にて (第14話)

〈どれみはボールを太田に奪われる〉「あっ」「へーんだ ♪スキだらけのない頭はツルツル頭」「ったくぅ…つまんないっつーの!」(どれみ，太田，どれみ)

Scene 5. ～奥山なおみにとっちめられた体育館倉庫にて (第14話)

「オレはまだ降参してないからな!」「まだ言うか!?」「いいません! いいません!」「勘弁して暮れの大掃除!」(佐川，奥山，太田，杉山)

※このとき初めてはづきが笑った。

Scene 6. ～奥山と3人と校門にて (第14話)

「じゃーん! やって来ましたSOS!」「おはようさんの4の5の言わずにポンポコポン!」「ポンポコ言うのはたぬきのおなか!」「それでーな，SOSトリーオがお送りしまーす，お笑い…」〈怒った奥山は去る〉(SOS，杉山，佐川，SOS)

Scene 7. ～奥山が去った後の校門にて (第14話)

「何が悪いのか全然わからん若三杉」「オレ達どうすればいいのか，カモンカモンの嘉門達夫」「サイテーっ!」「はぁ…」「もちょっとマシなのないんかぁ?」「寒すぎ」(太田，杉山，どれみ，太田・杉山，あいこ，どれみ)

Scene 8. ～奥山を笑わせることになった昇降口にて (第14話)

「奥山，行くぞ!」「うん」「笑ってくれなきゃイヤン，イヤンのイヤリング」「きっと笑える愉快なギャグは，ギャングの親分」「笑えば楽しい天国行ったら死んじゃう」「よぉおぉ～」「さよなら」「さ，さよなら!?」「行っちゃダメダメ亀の子ノロノロ～」「寒…」(太田，奥山，太田，杉山，佐川，SOS，奥山，佐川，杉山，あいこ)

Scene 9. ～奥山を笑わせるための練習にて (第14話)

「あたしの気持ちも分かってチョー・ヨンピルぅ」「♪許して，てん，てん，てんとーむし」「♪悪かった，かった，かったのかつおぶし」「あぁ，絶望的…」「あかんな，こりゃぁ」「クス…」「!!💧」「はづきちゃん…? 今，まさか，笑った…?💧」「ま，まさか💧」「そうや，こんな寒いギャグで笑えるはずないやん」「そ，そうよ?💧」(杉山，太田，佐川，どれみ，あいこ，はづき，どれみ・あいこ，どれみ，はづき，あいこ，はづき)

Scene 10. ～奥山を笑わせるための練習にて，その2 (第14話)

〈SOSのギャグを面白くして，とマジカルステージで願った後〉「チョコっとちょうだい，チョコレート」「豪華なステーキ，まぁステキ」「あれが欲しいなぁ，ほしわかめ」「なんだかあんまり変わらないみたいだけど…」(杉山，太田，佐川，はづき)

Scene 11. ～奥山を笑わせるための練習にて，その2 (第14話)

「なんだよぉ，カエルが集まってきたよぉ」「そんなことならもうカエル～…なんちゃって」「バカなこと言ってる場合じゃないぜ! オレはカエルが苦手なんだよー!」(太田，杉山，佐川)

Scene 12. ～奥山と3人と校門にて，その2 (第14話)

「やーい，大女ー!」「なんだとー!?」「うわぁ，逃げろぉ!」「ゴリラが怒ったー!」「おしりペンペンペンギン南極ー」(佐川，奥山，佐川，太田，杉山)

Scene 13. ～島倉かおりのインタビューにて (第17話)

「美空小学校3年2組，矢田まさるは昨晩，埠頭にある8番倉庫に無断で忍び込んだ模様。この事件に関して，同じクラスの皆さんはどう思っているのでしょう? 私島倉かおりがインタビューしたいと思います!」「まさか彼がそんなことするなんて，まだ信じられません!」「いつかやると思ってたわ。あんな不良と同じクラスだなんて，考えただけでクラクラするわ」「ブラボー，ブラボー，のっぺらぼう」(島倉，小竹，玉木，杉山)

Scene 14. ～教室にて (第20話)

「よぅ，リストラ3人組!」「おまえらがいなくなってから，あの店大繁盛らしいじゃん」「もうかりまっかの」「ぱっくぱく～」「余計なお世話だよ!」「おまけにスゲェ効き目だって大評判，の大判小判が」「ざっくざく～」「なんやとコラ…」「いや～ん」「しばくぞ，コラー!」(佐川，太田，杉山，SOS，どれみ，太田，SOS，あいこ，SOS，あいこ)

Scene 15. ～教室にて (第21話)

「今日も天気は，はーればれ」「バレちゃ困るは」「オヤジのカツラ」「SOSが受けてる…?」「んなアホな…」「なんだか今日は冴えが足りないわね」「え!?💧…」(佐川，太田，杉山，どれみ，あいこ，はづき，どれみ・あいこ)

Scene 16. ～昇降口にて (第21話)

「昨日は雨降り」「ふーりふり」「フられちゃったの，しーくしく」「受けてる…」「しかも学校中に…」「いつもよりつまらないのに…」「!! いつもは…💧」「おもろいんか?💧」「やっぱりマジョルカの魔法グッズの効果なのかしら!?💧」(佐川，杉山，太田，どれみ，あいこ，はづき，どれみ，あいこ，はづき)

Scene 17. ～公園にて (第21話)

「明日はきっと，雪こんこん」「こーんと鳴くのは」「きつねうどん」「さむぅ…」「えぇ?」「よくそんなくっだらないことできるね」「はぁ…」(太田，佐川，杉山，子供，SOS，子供，SOS)

Scene 18. ～廊下にて (第22話)

「疲れた…朝からご飯作って，おまけに掃除，洗濯だもんなぁ…」「なぁに肩こってんだよ。今からふけこんでどーすんだぁ」「あたしはまだまだ若いよ!」「なにそんなにムキになってんだよ!」「ムキになるのはムキムキマン!」「ムキ，ムキ，ムキムキ…」「余計疲れた…」(どれみ，小竹，どれみ，小竹，佐川，SOS，どれみ)

Scene 19. ～炎天下チラシを配る3人と路上にて（第27話）

「何やってんだよ，おまえら?」「このクソ暑いのに」「もうワケが分かりませんべえ，ぱーりぱーりぱーり」「ねぇ，あんたたちの家(うち)にもない? 何か怪しげな品物」「ねぇよ，んなもん」「でも，そういえば，オレ自分の部屋にクーラー入れてもらってから，どうも調子が悪いんだよなぁ…」「本当!?」「新作ギャグ作っても，まるで受けねえんだよぉ…。クーラーだけに，寒(さぶ)い!」「〈極寒〉」（太田，杉山，佐川，どれみ，杉山，佐川，はづき，佐川，3人）

Scene 20. ～芸人佐川の病室，22号室にて（第28.5話）

「いかがですか? …って何よ妹尾，タレントなのにぜんぜんカッコよくないじゃない」「なんだよ。失礼なヤツメウナギにゅるにゅるる～」「さっむー…」「でもそのギャグ聞いたことある。あんたら，たまにテレビ出てるよね。えーと名前は…」「SOSトリオだ!」「Sの杉山豊和でーす」「Oの太田ゆたかでーす」「Sの南こうせつでございます」「どこがSなんだよ!」〈バシッバシッ（ツッコミの音）〉「さむぅ…，凍え死にそう…」「あんたら，絶対売れへんわ」「な，なんでだよ!?」「レツゴー三匹のパクりやないか! 関西のお笑いナメたらあかんで!」「それは失礼しまくりぷーりぷり」「ドァホ! そんなボケあるかい!」「妹尾，やめときなよ。行こ」（春風正看護婦，芸人杉山，春風正看護婦・妹尾見習い看護婦，妹尾見習い看護婦，芸人佐川，芸人杉山，芸人太田，芸人佐川，芸人杉山・芸人太田，春風正看護婦，妹尾見習い看護婦，芸人佐川，妹尾見習い看護婦，芸人太田，妹尾見習い看護婦，春風正看護婦）

Scene 21. ～芸人佐川と妹尾見習い看護婦の結婚式にて（第28.5話）

「佐川，あいちゃん。おめでとうがらし，さっさ，カモ～ン」「ウフフ，おおきに」（芸人太田・芸人杉山，妹尾見習い看護婦）

Scene 22. ～夏祭りのMAHO堂の夜店にて（第29話）

〈ダーツで佐川はハズレだった〉「残念でした。ハズレでーす」「こりゃ失敗しまくりぷーりぷりぃ」「それじゃぁ，今度はオレの番だー，つ」（はづき，佐川，太田）

Scene 23. ～夏祭りのMAHO堂の夜店にて，その2（第29話）

〈ダーツで太田は3等だった〉「よっしゃぁ!」「3等で喜んでちゃ，ダメだー，つ」（太田，杉山）

Scene 24. ～夏祭りのMAHO堂の夜店にて，その3（第29話）

〈SOSはダーツの景品を選ぶ〉「オレは，これにスルメイカ!」「じゃぁ，オレはこれに塩辛!」「オレはこれに決めんたいこ!」「失礼しましたー」「あぁ…，おつまみでまとめたんだぁ～，すごーい!」「どこがぁ…?」（佐川，太田，杉山，SOS，はづき，どれみ・あいこ）

Scene 25. ～選挙期間中の教室にて（第32話）

「これはこれは，選挙にらっきょ，ほ～ほけきょぉ～」「おーっほっほ，今のすっごい面白いギャグぅ。前から佐川くんのお笑いセンスには注目してたの，あたし」（佐川，玉木）

Scene 26. ～授業中の教室にて（第34話）

〈遅刻した杉山は自分の席へ忍び込む〉「杉山!」「うわっ!!」「何度注意すれば，遅刻しなくなるんだい?」「あちゃーっ! バレバレのバレリーナ! なんちってー!」「さっぶ～…」「杉山，校庭10周!!」（関先生，杉山，関先生，杉山，3人，関先生）

Scene 27. ～授業の前の教室にて（第35話）

「女優?」「今度，パパの会社がスポンサーになって，映画を作ることになりましたの。当然ヒロインはわたし。…玉木麗香，華麗に銀幕デビュー～」「マジかよ…」「オカルト映画?」「妖怪の役」「幽霊かぁ」「シャラ～ップ!※ タイトルは『愛のささやき』…純愛ロマンに決まってるじゃな～い♡」「『鮎(アユ)の塩焼き』?」「『鰤(ブリ)の照焼き』?」「『鮹(タコ)の姿…』」「『愛のささやき』つってんでしょ!※」（3人，玉木，小竹，太田，佐川，杉山，玉木，杉山，太田，佐川，玉木）

Scene 28. ～3人とおんぷと放課後の教室にて（第35話）

「じゃーん!」「『掃除』のS!」「『お手伝いー』のO!」「『したーい』のS!」「オレ達SOSトリーオに任しといてちょーだい!」「わぁ♡，嬉しい。じゃあ，お願いね。ばいばーい」「ばいばーい…かわいい～♡」「…なんや調子ええなぁ…」「…うん」（SOS，佐川，太田，杉山，SOS，おんぷ，SOS，あいこ，どれみ・はづき）

Scene 29. ～3人と工藤むつみと校庭にて（第44話）

「大丈夫よ! その3人くらいへっちゃらよ!」「へっちゃららしい…」「やっぱやめとく?」「やめとこっか…」「やめるのぉ?」「あぁ，いや，その…」「やります! やります!」「じゃぁ，どーして逃げるのよ!」「逃げるわけじゃ，アリが千匹!」「出てこないと，空手チョップをおみまいするわよ!」（工藤，杉山，佐川，太田，工藤，太田，佐川，工藤，佐川，工藤）

Scene 30. ～工藤むつみと廊下にて（第44話）

「3人でも相手になるって言ったよね?」「え?」「必殺技があるんだよーん」「必殺技なだけに，ひっさしぶりぃ，なんちゃって」（杉山，工藤，太田，佐川）

Scene 31. ～小竹たちと教室にて（第49話）

「スゴい，スゴい」「かっこいー!」「Z101，たいよう電鉄の最新型寝台特急だぜぇ!」「今度の土曜日だろ? 初めて走るの」「切符発売30分で売り切れだぜぇ」「驚き，桃の木，鯛焼き」（佐川，小竹，太田，小竹，杉山，佐川）

Scene 32. ～電話連絡にて（第50話）

「えぇ? どれみと魔女と…なんだってぇ?」「どれみちゃんたちが，魔女を捕まえてMAHO堂に監禁してるんですって」「しぇーっ! ビックリビビンバ!」「どれみたちが魔女にさらわれてんぷら」「MAHO堂に監禁されたくあん，ぽーりぽり」（小竹，横川，佐川，太田，杉山）

3．結論

以上はギャグと思えるものを全て集めたつもりである。しかし，人によってはこれはギャグじゃないと感じるものもあれば，逆に上記のシーン以外にもギャグと感じるものがあるという人もいるであろう。ギャグとはそれほど個人の感覚に依存するものなのである。よって結論は上記の一覧や，劇中そのものから読者諸氏が個別に判断して頂きたい。

最後に，この件に関する藤原はづきの見解を示しておきたい。

「でもそんなに捨てたものでもないと思うんだけど」

「ええ!?💧」

（はづき，どれみ・あいこ; 第14話）

第2章
キャラクター解説

あ

凡例

1. 概要

1.1. 本章は「おジャ魔女どれみ」に登場した，或いは存在が明らかなキャラクターを独自に選抜し，解説するものである。

2. 構成

2.1. 本章は選抜されたキャラクターの解説で構成され，各項は名前，登場話数，適当なワンカット，解説で構成される。

3. 諸注意

3.1. キャラクターの順番は名前を基準に一般的な国語辞典と同様の五十音順にならっている。

3.2. 名前に関する注意

(a) 名前にはルビを振り，【　】で括ってある。

(b) 名前はEDでクレジットされたものに関しては基本的にそれに基づいている。ただし，「はづきのパパ」といったある個人との続柄を表すものは，まず個人の名前を可能な限りフルネームで表し，続柄を父・母・祖父・祖母といったものに改めている。

例）　はづきのパパ → 藤原はづきの父

(c) ただし，はづきのばあやと，浜田六兄弟の祖父母・両親に関してはこの限りではなく，「〇〇家」を冠してある。ばあやははづきの両親にとっても「ばあや」であり，また浜田六兄弟の祖父母・両親は兄弟誰にとっても同じ続柄であることを配慮したためである。

例）　浜田いとこの祖父 → 浜田家の祖父

(d) これ以外にもこちらの判断で名前を変更したものがある。まぁ，何千ページとあるわけじゃないんだし，ペラペラめくってれば出てくるって。記載されてればの話だけど。

3.3. 登場話数に関する注意

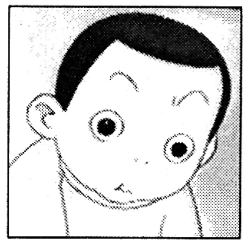
(a) (声)は声の出演者とその登場話数を示している。基本的にEDでクレジットされているものだが，独自に判断して追加している場合，( )で括って追記してある。また，声を出してい（ると判断され）てもEDでクレジットされていないものは*と表記している。更に何らかの理由で確証が得られないものは?を付記している。複数ある場合は／で区切っている。

(b) (登)は声の出演者がいないときの登場話数を示している。こちらが独自で判断したものであり，チラッと出てきた場合でもカウントしている。だからどれみのクラスメイトはやたら多いぞ。なお，登場はしてないが存在が明らかなキャラクターは，その存在が確認できる話数を( )で括って表記している。

3.4. 解説は相変わらず解説になってないとか，キャラクターによってやたら短かったりやたら長かったりするとか，そーゆー細かいことは深く考えないことです。寛容な心で見守ってくださいな。

【浅見（あさみ）】

(声)*[41]



美空市ちびっ子将棋大会の，谷山将太の準決勝相手。名前は松雄，かもしれない。トーナメント表でその名前を確認。将太の勝利で「負けました」と一言（第41話）。声は多分，長沢直美。

【天野こうた（あまの）】

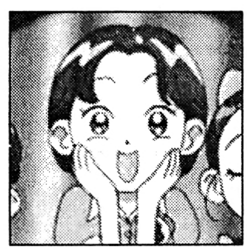
(声)サエキトモ [32, 42] (登)[1, 3, 6, 10-11, 13, 15, 17, 21, 24, 29, 33, 35, 38-39, 43-44, 47-48, 51]



美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。「オレはヒーローだからな!」と豪語し，「美空町ヒーロークラブ」の会長を務めるヒーローマニア。マニアと言っても知識を並べるタイプではなく，正義の心をもって行動するなりきり系実践派。同じ特撮ファンとして，怪獣マニアの林りょうたとは仲がいいようだ。初活躍は第32話で，日直として飯田かなえと共に学級委員選挙の開票を担当，「宮本まさはるくん」を延々と繰り返していた。第42話ではおんぷの誘いで「機動戦隊バトルレンジャー」の撮影現場へ行き，憧れの『バトルレッド』と会えて感動。と，あくまで作り物としてヒーローものを見ていたようだが，マジョレンジャーの登場で本物のヒーローを信じたようだ。6年生の橋本真司と決闘する羽目になったが，持ち前の正義感とヒーローナルシシズムで果敢に受けて立つ。「正義は力だ! 力は愛だ! 罪を憎んで人を憎まず! オレの拳がおまえの邪悪な心を叩きつぶす!」など少々イカレ気味の台詞が目立つが，おんぷを役者として率直に誉める一面も。第35話では他の男子同様おんぷの転入に浮き足立っていたが，橋本には「ただのクラスメイトさ」と言い切っていた。しかし，おんぷの生写真（しかもよく撮れている）がその場ですぐ出るのはどうかと思うのだが。ヒーローはそれぐらい用意周到でなければならない，ということか。

【荒井（あらい）】

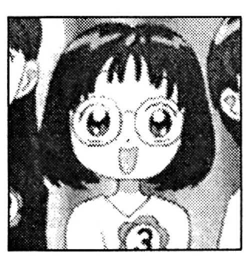
(声)*[35]



映画「愛のささやき」ヒロイン役オーディションで第1次審査を通った5人の一。名前は加奈子，かもしれない。審査員の玉木の父が「8番，荒井さん」と発表すると「うそー!」と驚いた（第35話）。よって正確に言えば「あらい」という読み方しか分からない。最終審査にはいなかったので，2次か3次で落ちてしまったのだろう。

【有原（ありはら）】

(声)*[35]



映画「愛のささやき」ヒロイン役オーディションで第1次審査を通った5人の一。名前は美千代，かもしれない。審査員の玉木の父が「3番，有原さん」と発表すると「うわぁ!」と驚いた（第35話）。よって正確に言えば「ありはら」という読み方しか分からない。最終審査にはいなかったので，2次か3次で落ちてしまったのだろう。

【暗黒大魔人】



㊟柴山由崇［42］

特撮番組「機動戦隊バトルレンジャー」における，主役のバトルレッドの敵。とてつもなく強そうな名前だが，バトルレッドの「稲妻流星キーック!」で簡単にやられていた。また，天野こうたは決闘相手の橋本真司を彼の名に呼んで罵倒した（第42話）。

い

【飯田かなえ】



㊟角谷綾香［10, 14, 26, 28.5］㊓［1, 3, 11, 13, 15, 17, 24, 29, 31-33, 35, 38, 42-43, 47-48］

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。『全31人』には《ちょっと太めでいろいろ気がつくせいか，あだなはおかあさん》とあるが，劇中ではこのあだなで呼ばれたことはない。家は「ステーキハウス飯田」を経営。はづきは知っていたが，どれみは第26話で初めて知り，正月には新年早々ここで食べたいと希望した（第47話）。夏休み中，鉄棒の逆上がりの練習中に捻挫してしまい，家族も次々と不幸になっていて…という話は第1章第26話参照。クラスメイトの中では奥山なおみ，岡田ななこ，小泉まりな，中山しおりと仲がいいようだ。第10話では岡田と共に島倉が取材したMAHO堂の写真に感心し，第14話ではどれみたち3人と小泉，岡田と奥山の誕生会に出席，第17話では関先生がいない間奥山，中山と雑談，第29話では玉木，中山と夏祭りに来ていて，第43話では奥山，小泉と共に家出した玉木を捜索していた。バイトの問題で先生に呼び出された3人を心配したり（第10話），一緒に奥山の誕生会に出席したり（第14話），最初は割とどれみたちと親しい関係のようだったが，玉木麗香後援会に関心を持ったり（第32話），どれみたちのMAHO堂監禁騒ぎでも集まらなかったり（第50話），回を追う毎に疎遠になっていった。やはりどれみのステーキが食べたいという下心見え見えの一方的な親友宣言（第26話）に引いてしまったのだろうか。

【飯田かなえの父】



㊟金光宣明［26］

飯田かなえの父。恐らく「ステーキハウス飯田」の店長。隣町の「ライムライト」という骨董屋の主人とは知り合い。彼からもらった招き猫がバッドアイテムだった。おかげで泥棒に入られ，店の売り上げはダウン，妻は交通事故で入院，娘は捻挫，自分も火傷という不幸が続く。どれみたち3人が店を手伝うことを承諾する。その後どうなったかは第1章第26話の項を参照（p12）。

【飯田かなえの母】



㊓［26］

飯田かなえの母。バッドアイテムのせいで交通事故にあって入院していて，1ヶ月は入院してなきゃいけなかったそうだが，バッドカードを抜くと退院した（第26話）。

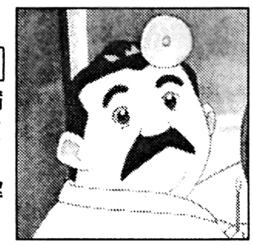
【五十嵐先輩】



㊟サエキトモ［1, 12］

美空市立第一小学校6年在籍。同校サッカー部所属。背番号は10番。エースにしてキャプテンといったところか。名は卓哉，かもしれない。どれみから見て先輩は他にもいるが，彼だけに『先輩』がつく。劇中ではどれみの憧れ第1号。が，結局彼はマネージャーの真樹とラブラブに（第1話）。第12話ではひとりで練習に励む補欠の芝山だいちを目撃。試合当日，監督にだいちを出場させるよう進言したようだ。そして，終了間際のフリーキックという最後のチャンスをだいちに任せ，期待通りだいちは決勝点をあげていた。どれみの魔法によって，相手チームのフリーキックはゴールに入り，蹴ったボールはどれみの顔面に直撃し（第1話），マジカルステージによって召喚（?）された犬の群れに吠えられる（第12話）など，どれみが関わるとろくなことがないようだ。本人は気づいてないのだが。

【医者】



㊟柴山由崇［2］

どれみが演じるところのはづきの仮病を観に来た医者。彼の「念のため，今日はおかゆを食べさせてください」発言で，どれみのステーキゲットの目論見は瓦解した（第2話）。

う

【うさぎ】



㊟宮下道央［36］

動物の種類ではなくて，魔女界では有名らしい勤勉なうさぎ。3人の4級試験の競争相手。「うさうさうさうさー!!」と叫びながら走る（第36話）。

え

【AD】

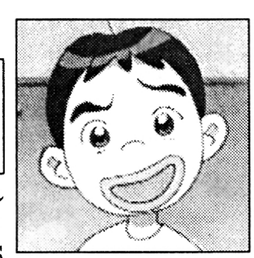


㊟小栗雄介［27］

映画監督であるはづきの父の映画で，ADを務めていた人。主な台詞は「あぁ。ここ数日はずっとこうして待ってるだけなんだ。このシーンのバックに何かが足りないって言い出してさぁ…。監督，ずっと考え込んでるんだよぉ…」「監督，今日このシーンを撮らないと，もうスケジュールがありません!」「じゃぁ，撮影開始していいですね?」「本番，行きまーす!」など（第27話）。

お

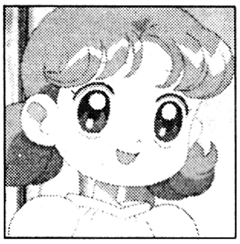
【太田ゆたか】



㊟藤田記子［3, 11, 14, 20-22, 27, 29-30, 32, 35, 44, 49-50, 28.5］㊓［1, 6, 10, 17-18, 31, 33-34, 36, 38-39, 41-43, 47-48, 51］

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。SOSトリオのひとりで，佐川や杉山と行動を共にする。SOSトリオ自体は，本業（?）であるギャグ披露以外にも，木村や小竹とバスケやサッカーをしたり（第10話，第11話），バスケで奥山らのチームに負けたり（第14話），どれみたちをからかったり（第20話，第22話），MAHO堂の夜店でダーツをしたり（第29話），玉木麗香後援会に入ったり（第32話），工藤むつみを『SOSスペシャル』でやっつけたり（第44話），新型寝台特急で盛り上がったり（第49話），どれみたちのMAHO堂監禁騒ぎでMAHO堂へ駆け込んだり（第50話），様々な場面で登場する。しかし，第14話や第33話でちょっといいとこ見せた佐川や，落第生として印象深い杉山に比べ少々影が薄く，確かにクレジット回数も杉山18回，佐川17回に対し14回と少ない。ギャグも先制は佐川や杉山で，それに太田が続くというパターンが多い。個性の強い佐川や杉山に合わせている調整役で，実はひそかな苦労人…かもしれない。

【岡田ななこ】



(声)梶川さほり［10, 14, 18, 50］(登)［1, 3, 6, 11, 15, 17, 21, 32-33, 35-36, 38-39, 42-44, 47-48, 51］

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。5歳の誕生日に両親にプレゼントされ，とても可愛がっていた犬の「るる」を，2年前（1997年; 小学1年生）の夏の日に交通事故で亡くしてしまう。この事件で自分の責任を感じ，2度と動物の死ぬところは見たくない，と動物嫌いになってしまう。はづきは「1年の時，ななこちゃんと一緒にうさぎ抱いたこと」があり，「その時はとっても可愛がってた」らしいが，それはきっと春の頃の話なのだろう。はづきはこの心の傷による動物嫌いをなんとかしてあげたいと思うのだが，それは第1章第18話の項を参照（p9）。動物嫌いでも「お花持ってきたりして，普段は優しい子」（あいこ）で，花の好きな小泉まりなとは仲が良いようだ。他にも，3人や奥山なおみ，飯田かなえと仲が良いようで，飯田と共に先生に呼び出された3人を心配したり（第10話），3人や飯田，小泉と共に奥山の誕生会に出席したり（第14話），3人の擁立する宮本まさはる陣営に加わったり（第32話），小泉からの電話で3人の魔女の噂を聞いてMAHO堂に駆け込んだり（第50話）していた。

【岡村あつ子】



(声)平辻朝子［23, 34, 47］

妹尾あいこの母。大阪府大阪市（と思われる）の老人介護施設『ニコニコホーム』の職員。あいこが4歳の時に妹尾幸治と離婚。大阪府阪南市の「3の15」「青空荘」「3号室」に在住。100通以上書いたというあいこへの手紙の一つには，住所が《大阪府泉南市》とあることから，同市に住んでいたこともあったようだ（第34話）。妹尾幸治とはあいこにハーモニカを買ってやる際も少々対立気味だった（第23話）。その後，共働きで不在の間にあいこが怪我をしてしまったため，娘の為に仕事を辞めてくれと頼まれるものの，介護老人を見捨てるわけに行かず拒否。この時から不仲になり，結局離婚することになった。離婚する際，あいこを引き取るつもりだったが，あいこが父を心配し，必死にこれを訴えると，あいこに父の世話を任せて出ていった。第34話ではあいこに逢いに美空市まで来たが，時間になってもあいこが現れず《あいこ やっぱり お母ちゃんのこと ゆるして くれへんのやね あつこ》と美空駅の掲示板に書き残して帰ってしまう。翌日3人は大阪へ行き，彼女が近所の赤ちゃんを抱いているのを見て再婚したのだと誤解するが，第47話でマジョリカの水晶玉に映った赤ちゃんの本当の母親を見てあいこの誤解は解消。しかし，娘が自分を許していない，という彼女の誤解はそのままに終わっている。

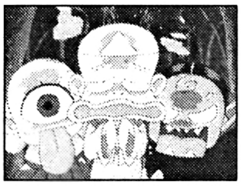
【奥山なおみ】



(声)松本美和［14, 43, 28.5］(登)［1-3, 10-11, 15, 17, 20, 24, 32-33, 38-39, 41, 44, 47-49］

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。クラス一の長身で，バスケットボールなど「背が高いことを生かしたスポーツなら」得意。おまけにパワフルで，3人の憧れの的。特にはづきはタカラヅカのスターの姿を見ているらしく，「私，奥山さんにはこういうのが似合うと思うの」と着せた服はまさにタカラヅカで，誕生会には豪勢な花束を手渡し（第14話），秋の作品展『私の大好き』でもド派手な服を作り上げ，「これ奥山さんに着てもらおうと思うの」（第38話）と言うほどの熱狂ぶりだった。本人の性格は控え目でナイーブ（多分）。誕生会に着たい服も「すぐ背が伸びて結局1回しか着れなかった」「小さいときに持ってたワンピース」だという。またカエルが苦手らしい。しかし「怪力女」「ゴリラ女」「大女」と冷やかすSOSの前では強気で，追い回し懲らしめるのだが，最後は佐川だけを追いつめる，らしい。そんな佐川との間で起きた事件については第1章第14話の項を参照（p8）。どれみたちや，飯田かなえ，岡田ななこ，小泉まりな，中山しおりと仲がいいらしく，自分の誕生会に3人，飯田，岡田，小泉を招いたり（第14話），席の近い中山や飯田と雑談したり（第17話，第20話），3人と中山を囲んで話をしたり，飯田，小泉と共に家出した玉木を捜索したり（第43話），教室の後ろで小泉と話をしたり（第49話）していた。

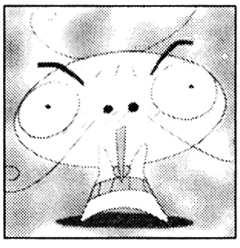
【おばけ】



(声)植岡由紀子［13］

3人の8級試験で，はづきがアンケートに《おばけ》と書いたことで登場したおばけたち（第13話）。どう見ても和風幽霊，一つ目小僧，ドラキュラなのだが，ドラキュラはおばけなのだろうか。

【オヤジーデ】



(声)松尾銀三［27-29, 31, 33, 35, 37, 41, 44, 48］

本名は「アレキサンドル・オヤジーデ」だと本人は言っている（第27話）が，『AX BOOK 2』には「アレクサンドル=T=オヤジーデ」とある。が，とりあえず「オヤジ」で通じる。ピュアレーヌパソコンの中に住むバッドアイテム鑑定士。「かつて黙って座ればピタリと当たる，魔法界随一の占い師! しかも怪盗」だったが，暮らしに行き詰まり，魔女界に忍び込んでバッドカードを盗み出そうとしたところ，カードを落としてしまった上，盗んだのがバレて姿を変えられ，ピュアレーヌパソコンに閉じ込められたらしい。なお，これが初めての盗みだったらしい（じゃぁ怪盗じゃないでしょ）。バッドカードを人間界へ撒き散らした罰として，全てのバッドカードを回収するまでは元の姿にも戻れず，ピュアレーヌパソコンの外にも出られないため，ピュアレーヌとなった3人に早く集めろと急き立てる（第27話）。…と，ここまでは立派な（?）経歴だが，実態はただのセクハラオヤジ。一番欲しいのは「若くてきれいなナイスバディなギャル!!」と言い放ち（第31話），その視線は，スエヒロコユリ（第27話），テニスギャルの生足（第28話），「浴衣姿のステキなお姉さんのうなじ」「裾から見える生足」（第29話），どれみの生足（?）（第33話），関先生とゆき先生（第33話），「華麗なコスチュームに身を包んだ，ナイスバディな女の人の姿」（第44話）へ向けられる。また，アイドル・瀬川おんぷの熱狂的なファンで，インターネットでファンクラブに入会，会員ナンバー7番で（第35話），公式ホームページにメールを送っていた（第48話）。おんぷの事務所で「これってヘンテコだけどかわいい」（おんぷ）と可愛がられてフリーズ（?）した（第37話）にも関わらず，おんぷからの妙なラブレターのメールを受けとった時は是が非でもデートへ行こうしていた（第48話）。マジメにバッドアイテムを探す3人に対し，ギャルが目当てで嘘を言ったり，ギャルの方に目を奪われてバッドアイテム鑑定をお座なりにすることが多く，次第に3人から無視されて，第51話でどれみたちと別れる際，彼のことを思い浮かべる者は誰もいなかった。

か

【ガザマドン】

(声)木村雅史［38］

3人のマジカルステージによって美空市に召喚された（?）怪獣。りょうたを乗せて市街を徘徊した後，海の向こうへ消えていった（第38話）。

【柏木豊】



(声)水樹洵［28］

高原にあるはづきの別荘の近くに住むテニス少年。はづきとは以前からの知り合いだった。家はブルーベリー農園で，無農薬栽培らしい。劇中では五十嵐先輩，長谷川クンに続くどれみの憧れ第3号。が，今回は玉木麗香も一目惚れしてしまい，彼を巡ってどれみと玉木の壮絶なバトルが繰り広げられ…という話は第1章第28話の項を参照（p13）。ちなみに，あいこ曰く「ギャグの通じなさそーな男」らしい。

【かずひろ】



(声)斉藤祐子 [(12,)15, 25, 45(,50)] (登)[24, 26, 28-29]

ソナチネ幼稚園在籍。ぽっぷのクラスメイト。ぽっぷちゃん親衛隊隊員。親衛隊として，ぽっぷがピンチのときは駆けつけ（第15話），サンタ捜査隊として，ぽっぷと共に町内を捜し回る（第45話）。春風邸でのぽっぷのパーティーに参加。そこで同じ親衛隊のみさきの兄を「なんだ補欠だったのか，あっははのは」と大笑いしていた（第12話）。ぽっぷが初めてMAHO堂の店番をしたとき，父親を連れて来ていたようだ（第26話）。美空神社の夏祭りの際も，ぽっぷが切り盛りしていたMAHO堂の夜店にも来店していた（第29話）。幼稚園のお泊まり会では「…ぼく，おうちに帰りたい…」とホームシックになるが，ぽっぷに励まされて持ち直していた（第25話）。また，第50話で「ペロペロキャンディー欲しい! 欲しい!」とダダをこね，結局歯科に連れて行かれたのも彼だと思われる。なお，第12回では斉藤祐子が《ミミ》でクレジットされ，第50回では《ばぁや》でクレジットされていたので，この2回では《かずひろ》はクレジットされていなかった。

【かなこ先生】



(声)飛松加奈子 [15, 24-25]

ソナチネ幼稚園の先生。ぽっぷの担任と思われる。姓は荒井，かもしれない。「プニュちゃん」を巡って木に登ったぽっぷときみたかを注意したり（第15話），園児をプールに引率したり（第24話）していた。幼稚園のお泊まり会では，夕食，花火，枕投げ，スイカ割りを実施。他2人の先生と共にぽっぷが魔法で出したおばけに逃げ回っていた（第25話）。

【カメ】



(声)竹本英史 [36]

動物の種類ではなくて，魔女界では有名らしい素早いカメ。3人の4級試験の競争相手。「カメカメカメカメー!!」と叫びながら走る（第36話）。

き

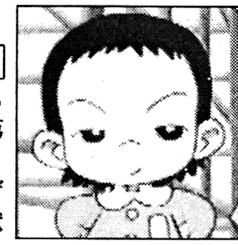
【きみたか】



(声)竹内順子 [15, 25, 38, 50]

ソナチネ幼稚園在籍。ぽっぷのクラスメイト。クレジットでは《きみたか》だが，『設定資料集2』や『AX BOOK 1』では《公敬》となっている。とすると姓は川崎，かもしれない。子分2人を連れ，「いばりんぼう」（ぽっぷ; 第15話）で何かとぽっぷたちに突っかかる悪戯っ子。ぽっぷが連れてきて大人気の「プニュちゃん」を奪い，ぽっぷと争奪戦を繰り広げた（第15話）のを始め，幼稚園のお泊まり会では布団の場所を横取りし，夕食の進まないかずひろを「おねしょ小僧」とからかい，花火を人に向け，就寝の際は夜のトイレのおばけの話をして他の園児たちを怖がらせた。そんな彼を懲らしめようとしたぽっぷが魔法で出したおばけに追われ，3人の魔法で眠ってしまう時たんこぶを作った（第25話）。第38話では「地球防衛軍」として，林りょうた扮するガザマドンを攻撃，止めに入ったどれみとあいこも怪獣呼ばわりしたが，はづきには防衛軍入隊を許可。帰る際は「りょうた兄ちゃん，また遊んでねー!」と素直な一面も見せた。第50話では1級試験中のおんぷを見つけ，「すげぇ! 本物だぞぉ!」と驚喜していた。

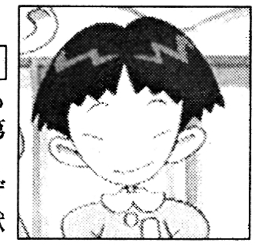
【きみたかの子分】



(声)横手久美子? [25]／*[38, 50] (登)[15]

きみたかの子分。きみたか親分とともに，ぽっぷからプニュちゃんを奪い（第15話），かずひろをひやかし（第25話），地球防衛軍として林りょうた扮するガザマドンや，どれみ扮する（?）お団子怪獣や，あいこ扮する（??）ブスラを攻撃し（第38話）ていた。第50話で1級試験中のおんぷを発見し，「あ，おんぷちゃんだ!」と言っていたが，この時の声は多分，長沢直美。また，第25話では「子分」として横手久美子がクレジットされていたが，子分はふたりいるのでどちらかは不明。

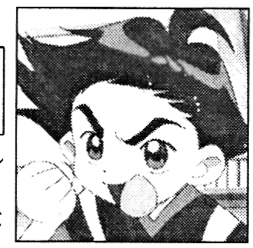
【きみたかの子分】



(声)横手久美子? [25]／*[38] (登)[15, 50]

きみたかの子分。きみたか親分とともに，ぽっぷからプニュちゃんを奪い（第15話），かずひろをひやかし（第25話），地球防衛軍として林りょうた扮するガザマドンや，どれみ扮する（?）お団子怪獣や，あいこ扮する（??）ブスラを攻撃し（第38話），1級試験中のおんぷにサインをせがんでいた（第50話）。また，第25話では「子分」として横手久美子がクレジットされていたが，子分はふたりいるのでどちらかは不明。

【木村たかお】



(声)山崎みちる [3, 11, 33, 38, 42, 46] (登)[1-2, 6, 10, 15, 17, 20, 24, 29, 32, 35, 39, 43-44, 47, 49-51]

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。同校サッカー部所属。運動会では第2走者を務める（第38話）など，スポーツが得意。席が近く同じサッカー部の小竹哲也を始め，SOSや矢田まさると親しいようで，小竹やSOSとバスケをしたり（第10話），SOSとサッカーをしたり（第11話），小竹と共に天野こうたの決闘に参戦したり（第42話），小竹と矢田とで家出した玉木を捜索したり（第43話），SOSに負けた工藤むつみを小竹や玉木と共にからかったり（第44話），渡部みちあきの手品を小竹と感心したり（第46話），SOSや小竹らと新型寝台特急の話で盛り上がったり（第49話），3人とおんぷの魔女の噂を聞いて矢田を押して小竹とMAHO堂に駆けつけたり（第50話）していた。小泉まりなに対しての「点取り虫」（第14話），林りょうたに対しての「怪獣オタク」（第38話）とトゲのある発言が目立つが，負けず嫌いが少々強くて口が悪いだけで，根はいいヤツであるのは各話（第14話（p8），第38話（p18））から分かるだろう。そもそも3人でさえ知らなかった小泉の習慣を彼は知っていたわけで。

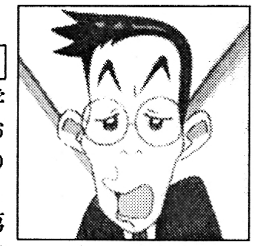
【キャンディ伊藤】



(声)松本美和 [44]

女子プロレスラー。工藤むつみが熱烈なファン。小柄ながら35連勝。人気抜群で彼女の限定フィギュアやロゴ入りスポーツバッグがアイスキャンディの応募プレゼントになるほど。むつみの兄は人気だけで実力がない，運がいいだけと言うのだが，果たしてどうかは第1章44話を参照のこと（p21）。工藤が印象に残った言葉は，「相手にただ勝つことじゃない。自分に勝つことが本当の勝負」。

【教頭】



(声)赤井田良彦 [10, 17, 29, 33, 41-42]

美空市立第一小学校教頭。規則遵守，学業第一など，頭の固い考えの持ち主。おまけに話が長いらしい（第42話）。3人のMAHO堂アルバイト疑惑（第10話）や，警察沙汰になった矢田まさるの問題（第17話）では，生徒を信じる関先生と対立したが，生徒や関先生の味方だった校長には敵わなかった。以降，アマ初段の将棋では，谷山将太の助言を得た関先生に破れ（第41

話)，学校でサインをしていたおんぷに説教をすれば，魔法で心を変えられておんぷをほめてしまい（第42話），何かとやり込められる立場になっていった。他，夏期休業中の全校集会の司会をし（第29話），運動会ではパソコンの中の黄色いオヤジに「こんなショボくれたオヤジどもを見たくもない!!」と言われていた（第33話）。

く

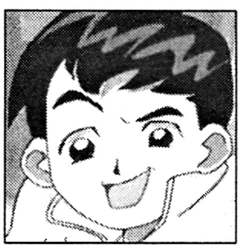
【工藤むつみ】



(声)茉雪千鶴［44］(登)［1, 3, 6, 10, 15, 17, 21, 24, 32-33, 35, 38-39, 41-42, 46-48］

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。『全31人』には《あいこを女子プロレスラーにしようと絶えず画策している。家は洋品店を経営している》とあるが，実際は自分の夢が女子プロレスラーになることで，あいこには練習相手を頼んだだけだった。また，家が洋品店かどうかも不明。女子プロレスラー，キャンディ伊藤の熱烈なファンで，応募グッズのためには冬でもアイスキャンディを食べるほど。自分と同じ小柄なのに，35連勝するほど強いところに惹かれているのであろう。プロレスでクラスの男子相手に15連勝する強さを持つが，自分の兄には勝てず，しかも兄はキャンディ伊藤が嫌いで何かとケチをつけるため，いつか兄を倒すことを夢見る。そんな兄やキャンディ伊藤との話は第1章第44話（p21）を参照。ところで工藤家のテレビには日中に女子プロレスを放映していたが，今の地上波放送ではほぼあり得ない。きっと工藤兄妹（あるいは両親?）が強く希望して，CSやケーブルTVのプロレス専門チャンネルと契約したのだろう。

【工藤むつみの兄】



(声)サエキトモ［44］

工藤むつみの兄。『AX BOOK 1』の工藤むつみの項には，《女子プロレスをバカにする兄を倒すのが夢》とあるが，実際は妹が大ファンのキャンディ伊藤が嫌いなだけで，プロレス自体は好きだった。プロレスでは妹より強いことをいいことに，キャンディ伊藤の試合の観戦中に四字固めをかけて邪魔をする。

【工藤むつみの母】



(声)*［44］

工藤むつみの母。劇中では母であることの明確な描写はなかったが，状況や台詞から母である推察はつく上，『AX BOOK 2』にも《むつみのママ》とあったので，恐らくそうなのだろう。主な台詞は「お兄ちゃん，もういい加減になさいよ!」「むつみ宛の小包よ」など（第44話）。

【くみこ】



(声)丹羽紫保里［25, 29］／*［15］(登)［24］

ソナチネ幼稚園在籍。ぽっぷのクラスメイト。ぽっぷのお友達のひとり。ともみと行動することが多い。他の園児たちと共に「プニュちゃん」を弄び（第15話，第24話），夏祭りでは夜店の裏にいた「プニュちゃん」をいち早く発見する（第29話）。お泊まり会では女子5人の先頭に立って，ぽっぷの布団を誘致した（第25話）が，このときのカットから名前が《くみこ》であることが判明。ただしこの回のクレジットは《女子》で，《くみこ》でクレジットされたのは第29回の時。第15回の時はクレジットされなかったので，声は別の方が掛け持ちしたのであろう。

【クラッシャーマリー】

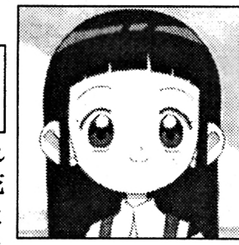


(声)*［44］

女子プロレスラー。「131キロの巨体」で，「噛みつきや引っかきなど，反則も多い」らしい。キャンディ伊藤が自分の引退をかけた試合の，キャンディの対戦相手（第44話）。

こ

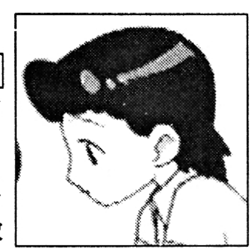
【小泉まりな】



(声)壱智村小真［11, 14, (21,)32, 50, 28.5］
(登)［1, 3, 6, 10, 13, 15, 17-18, 24, 29, 33, 36, 38-39, 41-44, 46-47, 49, 51］

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。同校園芸部所属。花が好きで，一番好きな花は「デイジー」という。座席が最前列の真ん中なので，カットにはよく出る。『全31人』には《家は学校から一番遠いのに，毎朝一番で来て，お花の水を換えたり，机を拭いている》とあるが，学校から一番遠いかは不明。教壇の花を生けているのも彼女で，第11話ではスイートピーだった。これらのことを関先生は知っていて，はづきも知ることになるのだが，彼女のこの習慣の本当の理由や木村の発言を巡る話は第1章第11話（p7）参照。3人や奥山なおみ，岡田ななこ，飯田かなえと仲がいいようで，3人と奥山とでバスケのチームを組んだり，3人と飯田と岡田とで奥山の誕生会に行ったり（第11話），3人が擁立する宮本まさはる陣営に支持を表明したり（第32話），家出した玉木を奥山，飯田と共に捜索したり（第43話），奥山と教室の後ろで話していたり（第49話），3人とおんぷの魔女の噂で岡田に電話し，MAHO堂に駆けつけたり（第50話）していた。ところで第32話では登校時に玉木，宮本両陣営のビラをもらっていたことから，選挙期間中は両陣営のビラ配りのために朝一番の登校ができなかったようだ。また，宮本陣営に着いて「だーったら，おまえら，1日に3回も掃除するんだな?」（佐川）とツッコまれると「や，やるわよ!」と強がったり，マジョルカグッズの効果で「ゴゥジャスなお洋服」で登校した玉木に対し「ステキぃ～」と感激したりと，リアクションの多彩さは侮れない。なお，第21回は壱智村小真が《ねずみ女》でクレジットされていたので，《小泉まりな》ではクレジットされなかった。

【小泉まりなの母】



(声)宮下富美子［11］

小泉まりなの母。勉強やスポーツ等，自分には一番上手なものが何もないと言う幼いまりなに「じゃぁ，学校に登校するのは一番にしたら? まりなはお花が好きでしょう? 毎朝教壇にお花を飾れば，教室が明るくなるし，先生からもほめてもらえるかもしれないわよ」（まりなの母; 第11話）と助言した。また，嵐で花壇が気になり学校に行こうとするまりなを止めていた。

【校長】



(声)金光宣明［10, 17, 29, 33］

美空市立第一小学校校長。小うるさい教頭に対し，大らかな性格のようだ。3人のMAHO堂の『お手伝い』を許可したり（第10話），矢田まさるに関する関先生の主張を受け止めたり（第17話），スリ逮捕に協力した小竹を表彰したり（第29話），パソコンに映る黄色いオヤジに「こんなショボくれたオヤジどもを見たくもない!!」と言われたり（第33話）していた。劇中ではこれ以外特に描写はないのだが，『マジカルガイド』には何故か詳細な記述があるので，引用する。《大柄で迫力があるが，いつもニコニコと，表情はおだやか。小さいことは気にしない性格で，初代校長・堀内孝乃進同様，生徒の積極性を重んじ，生徒とのコミュニケーションを大事にしている。時々，校長みずから校庭の手入れをすることもある。》

【河野】



㊟*[41]

美空市ちびっ子将棋大会の，谷山将太の決勝相手。名前は宏之，かもしれない。トーナメント表でその名前を確認。将太に話を聞いた関先生の話によると，この道場（美空市将棋道場）の常連でアマ3段の6年生らしい（第41話）。

【こうもり男】



㊟宮田始典［20-22, 24］㊫[23]

元祖MAHO堂の店員。マジョルカが店内を飛んでいたコウモリに魔法をかけて人間の姿になった。あいこをして「あの美しさ，ちょっとアヤしいでぇ…」（第20話）と言わせる容姿で，女性客のハァトをがっちりキャッチ。MAHO堂号の3人の営業妨害，常連客玉木の接客（第21話），クレーム客の対応（第24話）という通常業務（?）から，寿司握り（第22話）までソツなくこなす。人間の姿になっても天井からぶら下がって寝たり，虫を見るとコウモリの姿に戻って追いかけたり，「所詮コウモリ」（マジョルカ; 第24話）だった。ゴミ処理場から逃亡し，以後消息不明。魔法が切れてコウモリの姿に戻っているのかもしれない。

【小竹哲也】



㊟横手久美子［1, 3, 5, 9-10, 13, 15, 17, 21-22, 29-33, 35, 38-39, 42-44, 46, 48-51, 28.5］㊫[2, 11, 24, 34, 36, 47]

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。同校サッカー部所属。町内をスケボーで走ったり（第9,29話），運動会ではリレーのアンカーを務める（第33話）など，スポーツが得意。木村たかおやSOS，矢田まさると親しいようだ（第3,10-11,17,21,30,38,42,43,44,46,49-51話）。他，先陣を切って山内寺に臨んだり（第30話），14連勝中の工藤むつみに挑戦したり（第44話）するなど，とにかくクラスの話題には欠かせない中心的な存在。玉木が先生に3人のMAHO堂バイト写真を言いつけたときはさりげなく忠告したり（第10話），学級委員選挙では3人の擁立する宮本まさはるの支持を表明したり（第32話），基本的に3人の味方である。特にどれみに関しては，何かにつけてからかったり（第1,3,5,15,22,43,46話），突っかかったり（第13,33,39話）するのだが，結局どれみの不細工グッズを2回も選んだり（第5,29話），はづきは「藤原」，あいこは「妹尾」と呼ぶのに，どれみは「どれみ」と呼ぶ（第5話）など，どれみには特別の想いがあるようだ。…といった重要なステータス（?）を持ち，メインの話も用意され（第5話），クレジット回数も3人，マジョリカ，ララ，ぽっぷに続いて7番めに多いのだが，その割に影が薄い! これは本人の問題というよりどれみの問題のような気がするのだが…とにかく，がんばれ小竹! 負けるな小竹! 筆者（←誰?）は陰ながら応援しているぞ!

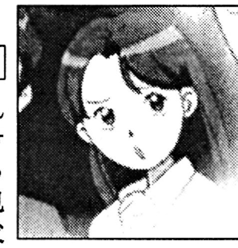
【小竹哲也の父】



㊫[5]

小竹哲也の父，と思われる人。「ごめんな，もっといい場所で飼ってやりたいけど，お父さんもお母さんもペットは飼ったらダメだって…オレがちゃんと面倒見ないと思ってるんだ。勇気を出してお父さんたちに頼めばいいんだけど…」と小犬のパルに語りかける小竹のカットに登場。結局小竹は頼んで飼うことを許されたようだ（第5話）

【小竹哲也の母】



㊫[5]

小竹哲也の母と，思われる人。「ごめんな，もっといい場所で飼ってやりたいけど，お父さんもお母さんもペットは飼ったらダメだって…オレがちゃんと面倒見ないと思ってるんだ。勇気を出してお父さんたちに頼めばいいんだけど…」と小犬のパルに語りかける小竹のカットに登場。結局小竹は頼んで飼うことを許されたようだ（第5話）

【骨董屋店主】

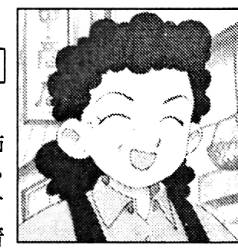


㊟平田広明［26］

骨董屋「ライムライト」の店主。飯田かなえの父の知り合い。ある招き猫を倒産した会社からもらうと経営不振に陥り，店を閉めるつもりにした。が，その招き猫をかなえの父に譲ると急に繁盛したという。3人はその話からこの招き猫に何かあると思って…という話は第1章第26話の項を参照。

さ

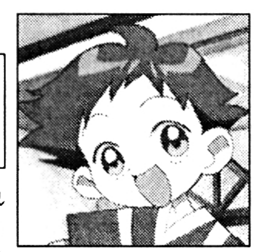
【魚屋の奥さん】



㊟星野園美［3］

転校してきたあいこが，その日の帰りに寄った魚屋の奥さん。あいこは「お姉ちゃん，威勢ええね」「ごめん，お姉ちゃんやのうて，若奥さんやった?」と言ってタコの足をおまけしもらった。また，着ぐるみチョウチョのどれみ，を追う野良猫を追い払っていた（第3話）。

【佐川ゆうじ】



㊟藤田玲子［3, 10-11, 14］／ふじたれいこ［20-22, 27, 29-30, 32-33, 35, 44, 48-50, 28.5］㊫[6, 13, 15, 17, 31, 34, 36, 38-39, 41-43, 47, 51]

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。SOSトリオのひとりで，太田や杉山と行動を共にする。『全31人』には《父親は職人肌の頑固な蕎麦屋さん》とあるが，劇中からは分からなかった。SOSトリオの行動に関しては，【太田ゆたか】の項を参照（p28）して欲しいのだが，運動会で第4走者を務めたり（第33話），「結構男らしい」（どれみ; 第14話）行動をしたりするなど，寒いギャグだけではないのが他2人と一線を画す。『全31人』に《クラス一背が小さい》，『AX BOOK 1』に《背が低いのが，ちょっと悩み》とあることから，背の高い奥山なおみにコンプレックスを持っているようだ。そんな奥山との事件は第1章第14話を参照（p8）。第28.5話の『どれみの看護婦篇』では，お笑い芸人として妹尾見習い看護婦と式を挙げていたが，矢田ジャズトランペッターと藤原見習い看護婦に比べ，かなり納得のいかない組み合わせではある（個人的に）。

【桜の木】



㊟堂ノ脇恭子［18］

岡田ななこの家の桜の木。7級になったどれみの魔法で3人と話せるようになり，3人にななこが動物嫌いになってしまった理由を語る（第18話）。

【沢田みか】



㊟水樹洵［39］

恐らく中学一年生。樋口まきの兄，秀三の「インラインスケートの仲間」とまきはどれみに言うのだが，実際は兄は「みかさんが好きなんだと」思っていた。事の真相は第1章第39話参照（p18）

【サンタクロース】



㊟丸山詠二［45］／木村雅史［45］／金光宣明［45］／柴山由崇［45］

ここではキャラクターとしてのサンタクロースについて書く。サンタクロースの一般的な解説や，劇中での解説は第3章【サンタクロース】の項を参照（p61）。劇中ではサンタは大勢いて，そのうち特に美空市の子どもたちのプレゼントを調査を担当したサンタが目立った。1年かけて市内の子どもたちの欲しいプレゼントを調査したのだが，イブ近くになって風邪をこじらせてしまった。あいこに「ちょっとイメージと違うなぁ」と言われるほど，スリムになったのはそれが原因らしい。そんなサンタとどれみたちの話は第1章第45話の項を参照（p21）。

し

【試験官】

▶女子高生試験官（p34）

【試験官魔女モタ】



㊟川崎裕子［7-8］／川崎ユウコ［13, 18, 22-23, 31, 36, 40, 46, 50, 28.5］

魔女。モタモタと共にどれみたちの魔女試験を実施，監督，審査する。福引きで当たった2泊3日の温泉旅行のために3人の7級を無試験で合格させる（第18話）など，試験の全権を掌握しているようで，試験内容も彼女たちが決めていると思われる。が，一体どういう基準で問題を考えているのかは謎である。モタモタと同じく，帽子がシャンプーハット型で，他の魔女と一線を画す。試験官魔女の証であろうか，それとも単なる趣味であろうか。モタモタと同居しているのだが，モタモタの風邪に効くという魔女くしゃみ草が家の近くに生えているのにどれみが追試に来るまで取りに行ってない（第8話）のは，取りに行こうと思ってのだが，いろいろあってちょっとモタついていたからだろう。多分。

【試験官魔女モタモタ】



㊟YOKO［7-8, 13, 18, 22-23, 31, 36, 40, 46, 50, 28.5］

魔女。モタと共にどれみたちの魔女試験を実施，監督，審査する。モタと同居している（第8話）。自分の999歳の誕生日の記念に追試を行う（第8話）など，太っ腹。逆算すると西暦1000年生まれであろうか。いずれにせよ，実はマジョリカより年上である。モタと「隠し芸の練習で忙しい」（第46話）と言っていたが，劇中ではその芸を見ることができなかった。このふたりで一体何をやるつもりだったのかがとても興味深いのだが，モタモタしている内に出場できなかったのだろう。多分。

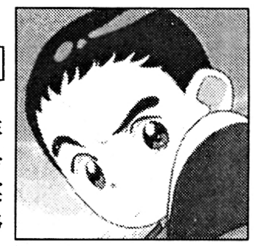
【執事】



㊟竹本英史［26］

骨董屋「ライムライト」に現れた金持ちの執事。「これで，あちらの家具と，そちらの壺と，そこの絵を，と申しております」「はぁ?」「この店は，本当に素晴らしい。私の知り合いには骨董好きが多いので，この店をよく紹介しておこう，と申しております」「はぁ」（執事，骨董屋店主，…；第26話）

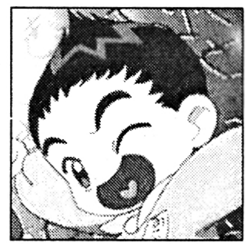
【芝山だいち】



㊟奥島和美［12］

美空市立第一小学校在籍。恐らく6年生。同校サッカー部所属。12番の背番号が哀しい補欠。しかもそれに見合った実力で，部員からも呆れられている。が，弟のみさきからは絶大な期待と信頼があり，また本人は一生懸命に自主トレに励んでいる。そんな芝山兄弟の話は第1章第12話の項を参照（p7）。ちなみに，似たよーな名前に柴田大知がいるが，こちらはサッカー選手ではなくジョッキーで，双子の弟未崎の兄。

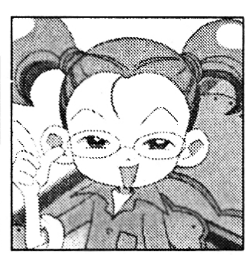
【芝山みさき】



㊟天神有海［12, 15, 25, 29, 45］㊧［24, 26, 28］

ソナチネ幼稚園在籍。ぽっぷのクラスメイト。ぽっぷちゃん親衛隊隊員。親衛隊として，ぽっぷがピンチのときは駆けつけ（第15話），サンタ捜査隊として，ぽっぷと共に町内を捜し回る（第45話）。他にも，幼稚園のお泊まり会（第25話）や，ぽっぷが店番するMAHO堂（第26話）や夜店（第29話）に登場。美空小サッカー部の兄・だいちへの信頼と期待は絶大で，他の親衛隊隊員に自慢していたらしい（第12話）。そんな兄と兄からもらったサッカーシャツを巡る話は第1章第12話の項を参照（p7）。いろいろあって，そのサッカーシャツはみさきの手に戻ってきたのだが，以後劇中ではそのシャツを着ているみさきを見たことがない。きっと「大切なシャツ」は「とても大切なシャツ」になって，大事にしまっているのだろう。ちなみに，似たよーな名前に柴田未崎がいるが，こちらはサッカー選手ではなくジョッキーで，双子の兄・大知の弟。

【島倉かおり】



㊟溝脇しほみ［10, 17, 30, 33, 39, 42, 44, 50-51, 28.5］㊧［2-3, 6, 20-21, 31-32, 34, 38, 43, 47］

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。学年新聞の記者。記者としての仕事なのか，或いは単なる好奇心なのか，常にメモをとり，カメラを携帯し，スクープを狙う。そのスクープとは，「美空小学校の周りのオシャレなお店（＝MAHO堂）」（第10話），《きょうふの小学生 矢田まさる 中学生をボコボコ!》（第17話），「矢田，まさるが，警察に捕まったのーっ!!」（第17話），山内信秋の祖父の幽霊（第30話; 未遂），墓地に謎の赤い光（＝マジカルステージ）（第30話; 未遂），《真相発覚!! 春風どれみさんの彼の本当の彼女は!》（第39話），天野こうたと瀬川おんぷのスキャンダラスな関係（第42話; 未遂），「今日の放課後，6年の橋本と我がクラスの天野こうたが，美空公園で一対一の決闘をするのーっ!!」（第42話），どれみとあいこは魔女（第50話）など。選挙戦では玉木陣営に着いたり（第32話），どれみとあいこの魔女の姿を見て一番最初に電話したのが玉木だったり（第50話），玉木麗香とつるんでいるようにも見えるが，関先生に怒られた玉木に逆ギレされたり（第10話），どれみとあいこの代わりにリレーに出ようとする玉木に無理矢理連れて行かれたり（第33話），その友好度は今一分からない。玉木が逆ギレした時，「あたしだって，こうなったら（3人を）とことん調べてやる!」（第10話）と言った割にはその後特に調べた様子はないのだが，結果として3人＝魔女の最初の発見者になったのは何かの因果であろうか。…と，物語の節々によく登場するキャラなのだが，特にメインの話が用意されているわけではなく，今一存在感に欠ける。…脚本に便利に使われているだけのクラスメイト一不幸なキャラ，かもしれない。

【獣医】



(声)金光宣明［18］

うさぎのルルが運ばれた「上野動物病院」の獣医。「出血も止まったし，手術は成功だ」「ルルは治るんですか?」「今のところはなんとも。今夜中に目を覚ませば助かると思うが…」「もし，目を覚まさなかったら?」「それは…」（獣医，岡田，…; 第18話）

【少女】



(声)前田悠衣［30］

山内寺で行われた山内信秋の怪談話に登場した少女。「その方は娘さんを亡くしたばかりで，毎日のようにお墓に通っていたそうです。そんなある日，その女の子に出会ったそうです。そして次の日も，雨だというのに傘もささずにそこに立っていたそうです」（山内; 第30話）この話の続きは第1章第30話の項を参照（p14）。

【女子高生試験官】



(声)ゆみたかよ［13, 36, 40］

魔女（多分）。3人の8級試験で「さんすう」と「タコやき」の試験（?）を実施し（第13話），4級試験で「二人三脚」と「珍しいチョウの捕獲」の障害物の係を担当し（第36話），3級試験でどれみの前に謎のステーキ屋台の店員として登場した（第40話）。クレジットは《試験官》だが，『マジカルガイド』『AX BOOK 1』の両方に《女子高生試験官》とあった。確かに《試験官》ではしっくり来ないが，他にも『試験官魔女』『セーラー服魔女』などいろいろ考えられると思う。それにも関わらず両文献で同じ名前になっているのはそれなりの理由があるのであろうと判断し，《女子高生試験官》を真とした。魔女界に女子高があるのかという疑問はあるが，何せ『魔女学校』がある（第20話）のだから，高校ぐらいあっても不思議ではない。きっと進級試験の係もアルバイトなのだろう。

す

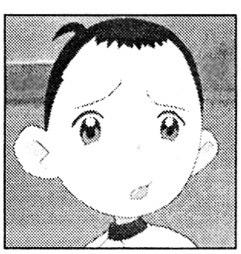
【スエヒロコユリ】



(声)*［27］

藤原監督映画の主演女優。オヤジーデは「間近でコユリちゃんを見る」ために3人にバッドアイテムのありかをでっち上げた（第27話）。名前の元ネタから恐らく早大卒。その理由は第3章【広末涼子】（p72）【吉永小百合】（p80）の項を参照。

【杉山豊和】



(声)木内レイコ［1, 3, 11, 14, 17, 20-22, 27, 29-30, 32, 34-35, 44, 48-50(,51), 28.5］(登)［2, 6, 10, 31, 33, 36, 38-39, 41-43, 47］

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。SOSトリオのひとりで，佐川や太田と行動を共にする。SOSトリオの行動に関しては，［太田ゆたか］の項を参照（p28）。『全31人』には《目立ちたがりで，答えが解らなくても手を挙げて，ウケねらいの答えを言ってしまうクセがある》とあるが，劇中では国語の教科書の朗読は多かった（第1,11話）が特にそういう描写はなかった。『マジカルガイド』『AX BOOK 1』共に《遅刻の常習犯》とあり，確かに第34話で「何度注意すれば，遅刻しなくなるんだい?」（関先生）と注意されていた。他にも，授業参観では後ろを向いて関先生，母親の両方に怒られたり（第3話），あいこの母からの手紙をあいこに渡し忘れてあいこに怒られたり（第34話），どうも怒られるキャラらしい。なお，第51回は木内レイコが《マジョリン》でクレジットされていたので，《杉山豊和》はクレジットされなかった。

【杉山豊和の母】

(声)宮下富美子［3］

杉山豊和の母。授業参観で後ろを向いていた杉山が「杉山，お母さんを好きなのはわかるけど，授業中は後ろを見ない!」（関先生）と怒られたとき，「豊和! 恥をかかすんじゃないよ!」と赤面しながら叫んだ（第3話）。

【スリ】



(声)*［29］

夏祭りの美空神社に出没したスリ。美人しか狙わないという。関先生の財布をすり，ゆき先生の財布もすろうとしたが，いろいろあって結局囮捜査中の山本刑事に逮捕された（第29話）。ところで玉木の財布は狙ったのだろうか?

【スルメ子】



(声)飛松加奈子［13, 40］

魔女界のラクダ山のふもとの湖に住むイカ一族のひとり。イカ一族と仲の悪いタコ一族の八太郎さぁんと禁断の恋に落ちたため，長老の魔法で泳げなくされ，それぞれ離れた島に引き離されたらしい。3人のマジカルステージで再会できたのだが，3人は彼女が「アシジュポーン」だと分かるや否や，感動の対面中にも関わらず頭に旗を付けていた（第13話）。その後，ふたりは結婚することになり，結婚披露宴に扉から突如現れた3級試験中のどれみに参加を促した（第40話）。ふたりのお子さんの足の本数が気になるところではある。

せ

【瀬川おんぷ】



(声)宍戸留美［35-43, 45, 47-51］

小学3年生。人気チャイドル。魔女見習い。第35話に美空市に越してきて，美空市立第一小学校3年2組に転入。どれみのクラスメイトになり，また魔女見習いとしてライバルとも仲間ともなる。父は列車の運転手で単身赴任中で（第49話），母は彼女のマネージャー。瀬川邸は美空公園の近くらしい（第35話）。

マジョルカの正体を見破り，魔女見習いになったのが先なのか，チャイドル・デビューしたのが先なのかは不明だが，どちらも母の夢を叶えるためだった（第51話）。また，デビューの時期も不明だが「瀬川おんぷなんて，もう古いわよ!❈」（玉木; 第35話）らしいので，新人という訳ではなさそうだ。劇中でのチャイドルとしての仕事歴（オーディション含む）は，映画『愛のささやき』ヒロイン役オーディション（第35話），「テレビのお仕事」（第37話），『ガザマドン 2』のヒロイン（第38話），「雑誌の取材」（第39話），『機動戦隊バトルレンジャー』の「囚われの姫」役（第42話），商店街の《X'mas ミニコンサート》（第45話），「雑誌の取材とグラビア撮影」（第47話），CD-ROM《MEMORY おんぷ♡》（第48話），テレビの仕事（第48話），テレビドラマ『しあわせ橋』の茜役オーディション（第49話）などで，人気チャイドルらしく多忙な日を送っている。その忙しさは，中山しおりのお見舞いに1分しか行けなかった（第43話）ことからも分かるだろう（?）。クルールポロンの合体元の楽器でもあるフルート（第51話）を公開オーディションで演奏したり（第35話），ミニコンサート（第45話）があったりしたのだが，その音色や歌声を視聴者には披露してくれなかった。「おんぷちゃんってCDデビューもしてたんだっけ?」（どれみ; 第48話）と聞かれた中田ごうじはCD-ROMの話を始め，これに答えなかったのだが，ファンクラブのホームページはレコード会社が作ったらしい（第48話）ので，いずれにせよCDデビューは間違いないだろう（現実にも）。「お芝居，上手いんだね」（天野; 第42話）という言葉に頬染めて喜んだのは，

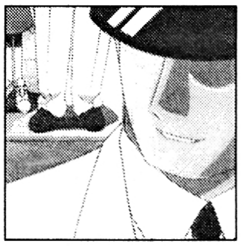
やはり目指すは役者で，アイドルとして終わらない気持ちの現れであろうか。

魔女としての実力は天才的で，3回試験を受けて全て満点で飛び級合格をし，第35話時点で4級だった。3級試験も飛び級合格し2級に上がっていたが，どうやったら飛び級できるかは「分かんない」らしい（第40話）。ロロというお供の妖精がいるらしいが，「わたしたちお互い好きにやってるから」（第36話）本編では一度も姿を見せなかった。マジョルカからもらったという「お守り」をいいことに，3人の忠告も聞かずに使う禁断の「人の心を変える魔法」が，彼女の登場以来一つのテーマとなっていた。

彼女の性格は，あいこ曰く「調子ええ」（第35,38話）「自己中」（第41話）。そういうあいこだが，おんぷがあいこを諭したり（47話），その逆があったり（第48話），3人の中では割とあいこと関わりが深い。また，その要領の良さや独特の「かわいい」感覚が共感するのかぽっぷと馬が合うようだ（第37話）。あまり自分のことを話さない（第49話）彼女だが，「私の一番好きな物! それは，あ・た・し!」（第38話）で，ピーマンが嫌い（第42話）で，「隠れ鉄道マニア」（太田; 第49話）らしい。

登場以来，3人の4級試験の邪魔をしたり（第36話），樋口秀三にとんでもない魔法をかけたり（第39話），玉木に痛恨の一言を浴びせたり（第43話），何かとトラブルメーカーだった彼女だが，クリスマス（第45話）やメール騒動（第48話）を通して徐々に変わっていった。第49〜51話はそれを象徴するエピソードと言えるだろう。

【瀬川おんぷの父】



㊐山賀教弘［49］㊫［51］

瀬川おんぷの父。列車の運転手。始発の大空駅に単身赴任しており，クリスマスにも夜勤で帰れなかった（第45話）。新型寝台特急の第一号の運転手になり，妻や娘にその切符を送る（第49話）。おんぷ自慢のパパで，3ヶ月ぶりに会えることを楽しみにするおんぷなのだが，その後の話は第1章第49話の項を参照（p23）。特に明言はされていないが，美空市総合病院で眠り続けるおんぷをおんぷの母と共に見守っていた男性も彼だと思われる（第51話）。

【瀬川おんぷの母】



㊐安達まり［35, 42, 45, 49-51］

瀬川おんぷの母。瀬川家の主婦にして，人気チャイドルの娘のステージママ。『ステージママ』とは物の本によると《ステージ（舞台）で活躍する幼い我が子を見ながら悦にいっているマネージャー格の母親》で，まさに彼女のためにある言葉である。娘の仕事の連絡や打ち合わせ（第35,45,49話），学校や仕事先への送迎（第42,49話）など娘の芸能活動を強力にサポートする。『マジカルガイド』には彼女が《元アイドル》との記述があり，また『AX BOOK 2』にも《大成しなかったアイドル，夢野くらら。その夢をおんぷに託す》と記述があるが，おんぷが倒れて入院した際「私の夢をおんぷちゃんに押しつけて」（第51話）と悔やんでいたことからもそれが伺える。「うちのおんぷちゃんは鍛え方が違いますからねー」（第35話）と自負することからも分かるように，おんぷのアイドルとしての高い能力は，彼女が自分の経験やスキルを元に娘を鍛え上げた結果なのだろう。瀬川邸にあったピアノ（第49話）はやはり彼女が娘の歌唱練習用に弾くのであろうか。が，ピーマンは嫌いというおんぷに「好き嫌いはダメ〜」（第42話）と言っていたころから過保護というわけではないらしい。

【関先生】



㊐葛城七穂［1, 3, 10-11, 13, 15, 17-18, 29, 32-36, 38, 41-43, 48, 51, 28.5］㊫［6, 24, 47］

美空市立第一小学校の教師。3年2組担任。名は弘美，かもしれない。小学校教諭普通免許の他，大型自動二輪免許も持っているらしく，派手なライダースーツを見事に着こなす。どれみたちの担任であり，生徒に対して時に厳しい態度で臨むものの，常に生徒を信じる理解者。授業をちゃんと受けない生徒には，「必殺のチョーク投げ」（小竹; 第3話）や「廊下行き」を下す。チョーク投げは印象深いが劇中では2回だけで，どちらもあいこに軽くキャッチされてしまった（第3,6話）。廊下行きはどれみ・小竹（第1,24話），矢田（第17話），3人（第18話），どれみ・林（第38話），玉木（第43話）が喰らっていた。他にも遅刻常習犯の杉山に対し，「校庭10周」を言い渡したこともあった（第33話）。しかし，3人のアルバイト問題（第10話）や警察沙汰になった矢田まさるの問題（第17話）に対し，最後まで生徒を信じ続けたり，谷山将太の両親に将太に将棋をやらせるよう説得したり（第41話），常に生徒の味方である。また，傷ついたうさぎのルルを心配する岡田ななこのために動物病院に残ったり（第18話），家出した玉木を捜索したり（第43話），倒れたおんぷの入院先の病院に残ったり（第51話），生徒の一大事には常に駆けつける。独身で，あいこに「縁結びのグッズ」を勧められてからかわれたり（第10話），「お互い彼氏ができたら紹介するって約束だった」ゆき先生が，見知らぬ男性と夏祭りをエンジョイしている姿を尾行したり（第29話）する一面も。小学校の先生になるため「柄じゃない」ピアノを「人目に付かないように猛練習した」（第17話）という努力家。パソコンが苦手（第48話）なようだが，小中学校の情報教育が叫ばれる今，美空小に情報教育が本格導入されたとしても，きっとまた猛練習して乗り切るのだろう。

【妹尾あいこ】



㊐松岡由貴［3-51, 28.5］

主役の一。妹尾幸治と岡村あつ子の長女。小学3年生。魔女見習い。『AX BOOK 1』及び『マジカルガイド』によると，11月14日生まれのO型。名前の表記は《あいこ》だが，母からの手紙には《あい子》とあったり（第34話），『設定資料集2』でも《あい子》となっているのが数ヶ所ある。第3話に大阪の天下茶屋から美空市美空町に越してきて，美空市立第一小学校3年2組に転入。どれみのクラスメイトとなり，また魔女見習いになってどれみ・はづきと共に一人前の魔女を目指すことになる（第4話）。

彼女のパーソナリティーのキーワードの1つは「ナニワっこ」である。「趣味はお風呂の中で大声で『六甲おろし』歌うこと」（第3話）であり，好きな物は「たこ焼きにお好み焼き，それにきつねうどん」（第39話），「吉本の芸人を生で見て育った」（太田; 第3話）からお笑いには手厳しい（第19話）。浪花の商人として，MAHO堂の販売戦略を「高いのを売りつけてがっぽり稼ぐ」（マジョリカ）から「小さいことからコツコツと」（あいこ）に転換（第4話），客引きを敢行したり（第5話），3人と対立状態にあった木村にも「お客様は神様です!」と対応したり（第11話），夏祭りの夜店で客集めしたり（第29話）していたが，どうも慢性赤字は解消されていそうになく，終いにはクリスマス・ムードに便乗したいマジョリカに呆れる（第45話）など，その商人ぶりは徐々にトーンダウンしていった。また，頭の抜けないどれみを根性で引き抜いたり（第36話），ヤジを飛ばす魔女たちにキレてヤケクソで芸を披露したり，「ナニワのど根性」（第46話）を見せることもあった。

「勉強は今一」（第3話）と言うように，《算数まとめ試験》は50点（第13話），「漢字テスト」は55点（第43話）と，どれみと同レベル。しかし体育は大好き（第3,34話）で，運動会ではリレーの第3走者を務めた（第33話）他，男子は誰も飛べなかったという跳び箱（第3話），はづきと飯田かなえに教えていた鉄棒の逆上がり（第26話），玉木に圧勝したテニス（第28話），男女対抗ドッジボール（第34話），工藤むつみの練習相手をしたプロレス（第44話）など，スポーツ万能を示すエピソードは事欠かない。

はじめは「思ってることズバズバ言う」（はづき; 第3話）のが誤解を生んでいたが，おんぷの登場（第35話）以来その役はおんぷに取られてしまった感がある。3人の中では最も現実的なしっかり者で，ぽっぷの尾行に忙しいどれみにさりげなく店の掃除を押しつけたり（第7話），8級試験のアンケートの意図を先読みして《タコやき》と書いたり（第13話），はづき誘拐の電話に慌てふためくどれみを余所に冷静にその電話の意図を読みとったり（第19話）していた。他にも，おばけが怖いというはづきに「怖なったら，マジョリカを思い出すねん」とアドバイスしたり（第30話），隠し事を追求するマジョリカに対し，逆に「人の欲しい物」を探す参考に利用したり（第31話），何かと機転を利かせて3人の危機を乗り切っていった。また，ドツいてほうきを乗りこなし

(第4話)，9級試験は一番手で合格し（第7話)，3級試験もトップで合格（第40話)，結果として薪割りが試験だった6級試験（第23話）や隠し芸大会の2級試験（第46話）ではどれみとはづきをリードするなど，3人の中では魔女として（?）最も優秀だった。

どれみの惚れっぽさに呆れている割には積極的に後方支援する（第16,28話）のだが，自身に関しては柏木豊のような「ギャグの通じなさそーな男」は「タイプちゃうねん」（第28話）ということしか分かってない。また，アイドルグループの「ステッキ」の「ゆたか君」のファンらしい（第6話)。

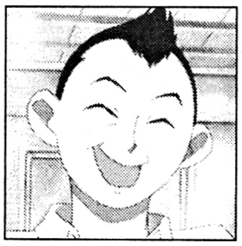
3人やおんぷ以外の関わりが深いクラスメイトとしては，思わず親友宣言をしてしまって一悶着あった横川信子（第6話）や，転校したばかりで右も左も分からないときにさりげなく世話してくれた宮本まさはる（第32話）が挙げられる。

4歳の時両親が離婚し，今は父と美空町のアパートで暮らしていて，家事全般は彼女がしている（第3話)。あいこと両親に関しては，【岡村あつ子】(p29)【妹尾幸治】(p36) の項及び第1章第3話（p4)，第34話（p16)，第47話（p22）の項を参照。両親との関係は魔女としてのあいこにも大きく影響し，クルールポロンの合体元の楽器であるハーモニカは，離婚前の両親に買ってもらって（第23話)，父に教えてもらった（第43話）ものであり，そもそも彼女が魔女になりたい理由は，父に楽をさせてあげること（第3,51話）だった。

【妹尾あいこの母】

▶岡村あつ子(p29)

【妹尾幸治】



(声)津久井教生 [3, 10, 22-23, 34, 46-47, 50-51] (登)[33, 43]

妹尾あいこの父。タクシードライバー。あいこが4歳の時に岡村あつ子と離婚，あいこを引き取る。これについては【岡村あつ子】の項を参照（p29)。第3話に大阪の天下茶屋から美空市美空町に越してきて，東栄無線株式会社美空営業所に勤めることになる。大阪での勤め先や引越の理由は不明だが，「会社入ったばっかり」と言っていた（第3話）ので転勤ではなさそうだ。あいこ曰く「お父ちゃんのたこ焼きは天下一品」（第3話）で，「趣味は，競輪・競馬にパチンコ・麻雀。それから，お風呂の中で『浪花恋しぐれ』歌うこと」（第47話)。特に競馬については「あんた，競馬ですってんてんやないの」（あいこの母; 第23話）と言われたぐらいで，相当のギャンブル好きのようだ。嫁に逃げられ酒に逃げるダメ親父のようだが（第23話)，「アホなお父ちゃんをひとりにできるわけない」（第34話）と言う娘をもった幸せ者である。が，そんな娘が家出したのも，彼が大事なハーモニカを捨てようとしたり（第23話)，母からの手紙を「つろうなる思うて」見せなかったことが発覚したとき（第34話）だった。あいこにハーモニカを教えた（第43話）のは彼で，第46話では「ドジョウすくい」や「するりあやとり」も教えていた。以前からあいこは仕事に気を使って学校行事を教えていなかったらしいが，どれみのお節介で授業参観に来た（第3話）後は，運動会にも来ていた（第33話)。今度は社長のお節介でお見合いを勧められるのだが，この話の顛末は第1章第47話の項を参照（p22)。

そ

【ソリマユ】



(声)*[27]

藤原監督映画の主演男優。「あぁ…あの俳優ソリマユだぁ～」「どれみちゃん，あたしらはバッドアイテム探しに来たんやで!」「わ，分かってるって…」（どれみ，あいこ，どれみ; 第27話）名前の元ネタについては第3章【反町隆史】の項を参照。

た

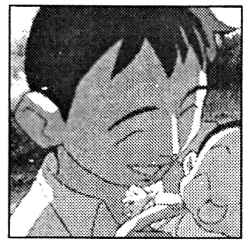
【たかし】



(声)*[34, 47]

あいこの母，岡村あつ子が住むアパートの近所にいる赤ん坊。姓は山田，かもしれない。第34話で，母親が風邪を引いたためにあいこの母に預けられていたのだが，それを見たあいこが母が再婚したと誤解してしまう。第47話で，本当の母親に抱かれて再登場し，あいこの誤解が解ける。

【たかしの父】



(声)赤井田良彦? [34]

たかしの父。あいこの母，岡村あつ子に預けていたたかしを引き取りにきていた（第34話)。この回のEDにクレジットされていた《男》とは，彼のことであろうか?

【たかしの母】



(声)*[47]

たかしの母。あいこの母，岡村あつ子に「岡村さん，ごめん。お味噌切らしてしもうて…ちょっと分けてもらわれへん?」と，たかしを抱いたまま味噌をもらいに来ていた（第47話)。第34話では風邪をひいていたらしい。

【タコ長老】

(声)乃村健次 [13]

魔女界のらくだ山のふもとに住むタコ族の長老。イカ族のスルメ子に一生会えないよう，八太郎に魔法をかけ泳げなくしたらしい。「イカの娘に惚れるとは何事タコー!!」「長老! お許し下さいタコ! ぼくはスルメ子ちゃんを愛しているタコ! スルメ子ちゃんに僕のたこ焼きを食べてもらいたいんだタコ!」「愚か者タコー!!」（タコ長老，八太郎，タコ長老; 第13話）

【たつや】



(声)松本美和 [15, 25, 45] (登)[12, 24, 28-29, 50]

ソナチネ幼稚園在籍。ぽっぷのクラスメイト。ぽっぷちゃん親衛隊隊員。親衛隊として，ぽっぷがピンチのときは駆けつけ（第15話)，サンタ捜査隊として，ぽっぷと共に町内を捜し回る（第45話)。他にも，幼稚園のお泊まり会（第25話）や，ぽっぷが店番する夜店（第29話）に登場。ぽっぷのパーティでは，みさきの自慢の兄が実は補欠だったのを笑うかずひろやよしひこに対し，事態の悪化にひとり困惑していた（第12話)。親衛隊の中で最も背が高い。

【縦川信夫】



(声)(堂ノ脇恭子) [6]／(松岡由貴) [6]

横川信子の私的小説「少年探偵縦川信夫」の主人公。名前は作者の名前をひねったもの。「僕の名前は縦川信夫。小学生だが探偵をやっている。北に迷子の子猫がいれば，帰るホームを探してやるし，南に悪いギャングがいればブッ飛ばす。なんかあったら僕のところに来な。相談に乗ってやるぜ」（縦川）はづき博士，忠犬どれみ，少女探偵妹尾あいこ（?）といった仲間がいて，悪の組織・ホネホネ団に狙われているらしい。また，あいこは魔法で彼に変身した（第6話)。

【谷山将太】



(声)松本美和［6, 41］(登)［3, 10-11, 13, 15, 17, 21, 24, 32-33, 35-36, 38-39, 42-43, 47-48, 51］

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。将棋が好きで，人知れず努力を重ね，実力もある。でも実は3年前，その将棋を教えてくれた父親は彼に将棋を指すのを禁止していて…という話は第1章第41話を参照（p19）。と，いうのが彼のメインの話だが，初活躍は第6話と早く，横川信子が給食のニンジンを残す理由を聞いて「それじゃ，横川さんの祖母さんってニンジンなんだ」とナイスなツッコミを入れていた。『全31人』及び『マジカルガイド』に揃って《クラスではあまり目立たない》とあり，同じ日の日直だったどれみにも「幽霊って夜出ると怖いけど，昼間出たらよく分かんない」「つまり存在感ゼロ」という「昼間の幽霊」と言われていた（第41話）が，視聴者的には他にもっと存在感のないクラスメイトがいるような気がする。

【谷山将太の父】



(声)＊［41］

谷山将太の父。恐らく「小料理よりみち」の板前。プロの棋士を目指したが，一歩手前でなれなかったため，将棋を捨ててしまう。「将棋を捨てたお父さんは，毎日お酒ばかり飲んでて，お母さんとケンカばっかり」（谷山）だったという。その前は将太に将棋を教えていたのだが，それからは「将太にはオレと同じ苦しみを味わわせたく」ないという思いで将太に将棋を禁じてしまう。それでも，将太は…という話は第1章第41話の項を参照（p19）。

【谷山将太の母】



(声)甲斐田ゆき［41］

谷山将太の母。恐らく「小料理よりみち」の女将。プロの棋士になれず，毎日酒ばかり飲んでいた将太の父と喧嘩ばかりしていたという。そのため，将棋を憎み，将太には絶対させないつもりだった。将太に将棋をやらせるべきだという関先生の説得にも最初は断固反対の態度をとったが，将太の嘆願を見て考えを改め，将太の父に判断を仰いだ（第41話）。

【玉木麗香】



(声)永野愛［3, 6, 10, 15, 17, 20-21, 28-29, 31-33, 35, 39, 43, 48, 50-51, 28.5］
(登)［11, 24, 34, 38, 41, 44, 47］

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。華麗でゴゥジャスで派手好きで目立ちたがりで負けず嫌いでタカビーな社長令嬢。家は三階建ての豪邸（第32,43話）。父が様々な習い事にインストラクターを雇ってくれるらしく（第43話），はづきと同じくらい成績優秀で，1学期は学級委員だった。テニスが好きなようだが（第28,50話），初挑戦のあいこに簡単に負けていた（第28話）。上流階級のお嬢様らしく海外経験は豊富で，夏休みにパリへ行っていた（第31話）上，ハワイには20回行ったことがあるらしい（第48話）。普段はワンピースだが，ゴゥジャスなお洋服2着（第21話），テニスウェア（第28,35,50話），浴衣（第29話），選挙用オリジナルTシャツ（第32話），ジュリエットな服（第35話），と様々なタイプの服を着こなす。3人のアルバイト疑惑を先生に言いつけたり（第10話），元祖MAHO堂の常連客だったり（第20-21話），何かと3人と対立するのだが，2学期学級委員（第32話），運動会のリレーの選手（第33話），映画『愛のささやき』ヒロイン役オーディション（第35話）に全て落選と，主役を相手にするのはさすがに分が悪かった。「女は男にもててこそ，価値があるのよ」（第3話）と豪語する割に，柏木クンをモノにできなかったり（第28話），クラスの男子には人気がなさそうである（第32,35話）。…と，どうも損な役回りが多いことの反動（?）なのか，第43話はメインで父との話が展開された。これについては第1章第43話の項を参照（p20）。

【玉木麗香の父】



(声)佐藤太［28, 35, 43］

玉木麗香の父。業務は不明だが会社の社長で，その会社は映画『愛のささやき』のスポンサー。映画のヒロイン役オーディションの審査員兼アナウンスも務めていた（第35話）。どこかの高原（第28話）と葉山（第43話）に別荘を持っている。初登場は第28話で，高原のテニスクラブに娘を迎えに来ていたのだが，声だけだった。娘にブランドのバッグを買ってあげる（第31話）など，愛する娘に対して優しいを通り越して甘いのだが，それには理由があった。その理由や，娘がその愛を疑ってしまう話は第1章第43話の項を参照（p20）。そもそも，映画オーディションの際，おんぷの魔法で（?）彼もおんぷに投票した頃（第35話）から娘はその愛を疑っていた，のかもしれない。

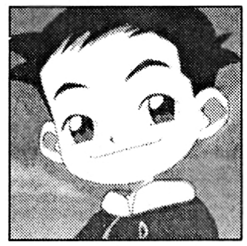
【玉木麗香の母】



(声)宮下富美子［21, 43］(登)［32］

玉木麗香の母。娘の金髪（?）は，彼女譲りであろうか。マジョルカグッズの効果で娘にゴゥジャスな洋服を買っていたが，効果が消えると「その服，小学生にはちょっと早いと思うのよ」と諫めたり（第21話），娘が高価な壺を割ったときは叱ろうとしたり（第43話），娘に甘いのが強調されていた父に比べて割と普通の母親のようだ。また，玉木麗香プロモーションビデオ《玉木麗香のすべて》で，娘と共に紅茶を嗜むシーンにも出ていた（第32話）。

【タミラ】

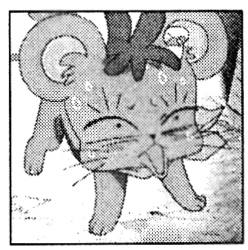


(声)＊［31］

花田志乃が以前住んでいたモンゴルで友達になった少年。花田に絵はがきや馬のぬいぐるみを贈るのだが，それを受け取った花田は…という話は第1章第31話の項を参照（p15）。

ち

【忠犬どれみ】



(声)（千葉千恵巳）［6, 29］

横川信子の私的小説「少年探偵縦川信夫」に登場するキャラ，が本来だが，どれみは魔法でこれに変身した（第6話）。また，はづきの魔法によって第29話で再登場した。小説の方では縦川信夫の仲間（?）として登場。どれみは「実はどこかのお姫様」という設定を望んでいたが，横川は「犬よ」とあっさり。しかし「でもね，ただの犬じゃないのよ。忠犬どれみはマッハ2で走れて人間の言葉が分かるの。しかも…」（横川）というとてつもない設定が用意されているようだった。魔法でどれみが変身したものは，確かにただの犬だった。

と

【東栄無線社長】

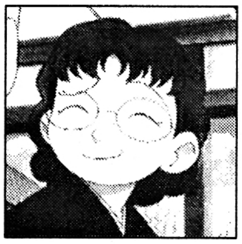


(声)＊［47］

あいこの父が勤める東栄無線の社長。あいこの父にお見合いをすすめる。「ウチの社長に無理矢理押しつけられたんやて…」とあいこの父が言っていたことから社長と判明。結局お見合いは破談に終わり，「社長さん，ごっつ怒ってた」（あいこ）らしい（第47話）。

第二章　キャラクター解説

【東栄無線社長夫人】



㊉*[47]

東栄無線の社長の夫人，と思われる人。あいこの父とみどりさんのお見合いの状況からそう推測される（第47話）。

【ドド】



㊉徳光由香［8-9, 11-12, 14-16, 20-21, 23, 25, 27, 29, 32, 36-37, 39-40, 47, 51, 28.5］㊏[10, 13, 17, 22, 26, 33-34, 42-43, 50]

妖精。どれみのお供。9級追試験合格時にどれみがもらった（第8話）。主人と似て，ドジで不器用。おねしょ（第9話），国語のテスト0点（第15話）など，主人を世界一不幸にする一役を担う。木村たかおがドドのグッズ（5円）を買っていったり（第11話），宮本まさはるがドド作のシンボルマークを選んだり（第32話），不細工ながら妙に買い手がいるのも主人に似たのか。他の魔女見習いの妖精同様，主人の姿になることができる（第13,15,36話）。登場直後の家出の話（第9話）以降，活躍した話を敢えて挙げれば，どれみと長谷川クンを盛り上げようと奮闘した第16話，主人と組んで受けた4級試験の第36話ぐらいで，3人のお供の妖精の中ではさすがに主人公のお供だけあって目立ってはいたものの，その登場回数ほどの存在感は無く「とりあえずいるだけ」感はぬぐえなかった。

【ともみ】



㊉梶川さほり［25, 29］／*[15] ㊏[24]

ソナチネ幼稚園在籍。ぽっぷのクラスメイト。ぽっぷのお友達のひとり。くみこと行動することが多い。ぽっぷが幼稚園に連れてきた「プニュちゃん」をいち早く尋ね，「プニュちゃん」ファンに（第15話）。以来バスの中（第24話），夏祭りの夜店（第29話）と「プニュちゃん」を見つけては喜んで弄ぶ。お泊まり会では他のお友達4人と，ぽっぷの布団を誘致した（第25話）が，このときのカットから名前が《ともみ》であることが判明。ただしこの回のクレジットは《女子》で，《ともみ》でクレジットされたのは第29回の時。第15回の時はクレジットされなかったので，声は別の方が掛け持ちしたのであろう。

【問屋魔女デラ】

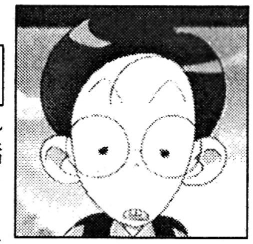


㊉桜井ちひろ［5, 8, 10, 12, 18, 20, 22, 25-26, 32, 40, 42, 46, 50, 28.5］

魔女。MAHO堂も含めた，魔女の店(?)に様々な商品を卸す。月末払いらしい。MAHO堂では，魔法玉や魔法粘土，魔法のレジスター（第5話），見習いタップ（第25話）の販売，情報の提供（第8,22,40話），品物の魔女界での値段の測量（第12話），かき氷の出前（第26話）等をしていた。その電卓に映る数字はマジョリカや3人を驚愕させるが，視聴者には決して見せない（第5,25話）。MAHO堂店内のいずこから煙に包まれながら現れるのだが，何故か現れる前から彼女の歌が聞こえる。現れた場所はクローゼット（第5,12,18,25話），宝箱（第8,22話），洋鉢（第10話），廊下と店内の戸（第20話），マジョリカのジュース（第26話），暖炉（第32話），テーブルの上（第40話），壺（第42話），店内中空（第46話），マジョリカの弁当（第50話）で，どうもクローゼットがお気に入りのようだ。この瞬間移動(?)を活かし，魔女界では人間界の噂を流し（第8,37話），人間界では魔女界の噂を流す（第32話）情報屋。マジョリカとのトランプ勝負でMAHO堂をもらった（第20話）のは彼女なのに，いつの間にかマジョルカの仕業のようになっていて，その後も涼しい顔でMAHO堂に現れるのはさすがが商売人といったところか。マジョリカやララも気づかなかったバッドアイテムを見抜いたり，バッドカードの逸話を知っていたり（第26話），その知識は侮れない。

な

【中田ごうじ】



㊉宮下道央［48］㊏[1, 3, 10, 15, 17-18, 21, 24, 31-33, 35-36, 38, 42, 47, 49]

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。メインの話が第48話と，かなり後のためか，性格が初期設定と大幅に変わってしまったようで，文献には首を傾げる記述が多い。『全31人』には《パソコン通信で大人とチャットしてるせいか妙にオトナズレしている。非科学的なものを否定するため，どれみと対立か?》，『マジカルガイド』には《パソコンを愛用し，非科学的な魔法に対して批判的な態度をとる。妙に大人びた発言をすることもある。おんぷの大ファン》，『AX BOOK 1』には《科学を信奉する意志はかなりのもの。だが，体力のなさが弱点かも》とある。劇中で判断する限り，妥当と思われる記述は《パソコンを愛用》《おんぷの大ファン》ぐらいであり，科学信奉というよりは，メール信奉と言う方が適切である。部屋にはアイドル・おんぷのポスターやマウスパッド，置き時計がある他，学校にまでおんぷのCD-ROM写真集を持ってきていた。しかし，3人や小竹たちがそのCD-ROMを見たとき，誰一人として動じないのはどうかと思うのだが。それだけ3年2組が平和(?)ということだろうか。

【中山しおり】



㊉ゆみたかよ［43］㊏[1, 3, 10-11, 13, 15, 17, 20, 24, 29, 32-33, 35, 38-39, 47-48]

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。各文献には《病気がちで学校を休むことが多い》とあり，第43話でもそういう事情が分かる会話はあったが，実際に欠席している描写は全話通して1回もなかった。休みがちでも，塾講師の父が勉強を見てくれるので成績ははづき・玉木に並んで良いようだ。しかし，病弱な娘を過剰に心配する父に多少鬱陶しさを感じている。そんな父との話は第1章第43話の項を参照（p20）…なのだが，彼女がメインと思いきや玉木がメインだった。鎌倉に祖母がいて，そこへ家出をしてしまうのだが，父に「(どこへ行くか) 教えたら家出する意味ないやろー!」と言うあいこ（第34話）と違って，ちゃんと書き置きを残して行き先を伝えるあたりが彼女らしいと言えるのだろう（多分）。

【中山しおりの祖母】

㊏[(43)]

中山しおりの祖母。鎌倉に住んでいるのだが，第43話で家出した中山と玉木が訪ねたときは家族と温泉旅行に行っていた。

【中山しおりの父】



㊉金光宣明［43］

中山しおりの父。塾講師。『全31人』の「中山しおり」の項には主夫もしているとあるが，劇中ではそういう描写はなかった。そうだとしたら，中山家の事情も妹尾家に負けず劣らず大変そうである。病弱な娘が心配しているため過保護の感が強い。娘の登下校に自動車で送迎をしていた（第43話）。学校に行けない娘に勉強を教えているのだが，「簡単な間違いすると，すぐ怒る」（中山）らしい。

ね

【ねずみ女】



㊉壱智村小真［20-22, 24］㊏[23]

元祖MAHO堂の店員。マジョルカが店内にいたねずみに魔法をかけて人間の姿になった。あいこをして「あの美しさ，ちょっとアヤしいでぇ…」（第20話）と言わせる容姿で，男性客のハアトをがっちりキャッチ。MAHO堂号の3人の営業妨害（第21話），クレーム客の対応（第24話）という通常業務(?)から，お茶持ち（第22話）までソツなくこなす。人間の姿になっ

ても床に丸まって眠ったり，チーズを見るとねずみの姿に戻って追いかけたり，「所詮ねずみ」（マジョルカ; 第24話）だった。ゴミ処理場から逃亡し，以後消息不明。魔法が切れてねずみの姿に戻っているのかもしれない。どーでもいいが，このねずみが雄だったらやはり「ねずみ男」になったのだろうか…。

の

【野良猫】



声*[3, 5, 9, 18]

美空市内に住む野良猫。実は割と登場する。第3話では着ぐるみチョウチョのどれみを追いかけたものの，魚屋のおばさんに追い払われ，第5話では小竹がパルにあげようとしたソーセージを奪い，第9話では家出したドドを追いかけ，第18話では岡田ななこの部屋から逃げ出したうさぎのルルを襲っていた。声は多分，長沢直美。

は

【ばあや】

▶藤原家のばあや（p42）

【バイオリンの先生】



声赤井田良彦［2］

はづきのバイオリンの先生。バイオリンを弾けるはずもない，はづき演じるところのどれみが仮病を使うと，はづきのママとともに過剰反応した（第2話）。

【橋本真司】



声山口眞弓［42］

美空市立第一小学校6年在籍。おんぷのファンクラブの会長。家は玩具屋で，妹がいる。どれみのクラスメイトは，「子分を連れて威張ってるヤツ」（小竹）「いっつも下級生をイジメてるヤツ」（木村）「毎日あたしの顔見る度にサインをねだるしつこい子」（おんぷ）「でもホントはいい子」（おんぷ）と言う。いろいろあって，天野こうたに決闘を挑むことになるが，その経緯は第1章第42話の項を参照（p20）。

【橋本真司の妹】

登[42]

橋本真司の妹。おんぷの大ファンで，真司がおんぷのサインをあげたら彼女の友達も欲しがったらしい（第42話）。

【橋本真司の子分】



声*[42]

橋本真司の子分。橋本と行動と共にする。天野と橋本の決闘では，小竹とやりあってた（第42話）。声は多分，葛城七穂。

【橋本真司の子分】



声*[42]

橋本真司の子分。橋本と行動と共にする。天野と橋本の決闘では，木村とやりあってた（第42話）。声は多分，長沢直美。

【長谷川新吾】



声松本美和［16］

小学6年生。劇中では五十嵐先輩に続くどれみの憧れ第2号。はづき曰く「どれみちゃんってああいうタイプ好きよね」。どれみの父・渓介の釣り仲間。しかし，父に来年の中学受験が終わるまで釣りは禁止だと言われてしまう。そこで，キャンプに父を連れて釣りの楽しさを分かってもらおうとする。…という事情を余所に，どれみは一人で盛り上がっているのだが，実は彼には…という話は第1章第16話の項を参照（p8）。

【長谷川新吾の父】



声山口健［16］

長谷川新吾の父。息子が中学受験の勉強に専念しないで，釣りに夢中になっているのが気にくわない。キャンプに来ても，息子の釣りの腕を誉める渓介に「釣りなど上手くても大した役に立たないと思いますがねぇ」と答えたのをはじめ，なかなか釣れない面々に皮肉たっぷりの言葉を浴びせる。それでも新吾クンは「今日はつきあってくれて，ありがとう」と感謝するのだが…という話は第1章第16話の項を参照（p8）。

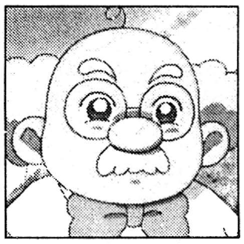
【八太郎】



声家冨ヨウジ［13, 40］

魔女界のラクダ山のふもとの湖に住むタコ一族のひとり。タコ一族と仲の悪いイカ一族のスルメ子ちゅぁんと禁断の恋に落ちたため，長老の魔法で泳げなくされ，それぞれ離れた島に引き離されたらしい。「それ以来僕はせめて匂いだけでも彼女に届けたいと，ここで毎日たこ焼きを焼いて」いたという。3人のマジカルステージで再会できたのだが，3人は彼がモタたちに「アシジュポーン」と間違えないよう言われた「アシハポーン」だと知った（第13話）。その後，ふたりは結婚することになり，結婚披露宴に扉から突如現れた3級試験中のどれみに参加を促した（第40話）。あいこをも満足させるたこ焼きを焼けるのはいいが，中のタコはタコ一族を食材にしたものなのかどうかが気になるところではある。

【はづき博士】



声（秋谷智子）［6］

横川信子の私的小説「少年探偵縦川信夫」に登場するキャラ，が本来だが，はづきは魔法でこれに変身した（第6話）。小説の方では縦川信夫の仲間として登場。「ワシの発明もこれでは使えんしのぅ」と言っていたので，縦川にスーパーアイテムを与える役なのだろう。さしづめコ〇ンにとっての阿〇博士といったところか。

【バトルレッド】



声*[42]

特撮番組「機動戦隊バトルレンジャー」の主役（多分）。バトルレンジャーに関しては第3章【機動戦隊バトルレンジャー】の項を参照（p59）。おんぷに撮影所に連れていってもらえた天野こうたは，彼を見て感激の余り声も出なかった（第42話）。

【花田志乃】



声池田千草［31］登[1, 3, 6, 10-11, 15, 17-18, 21, 32-33, 35, 38-39, 41-42, 44, 46-48]

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。『全31人』には，《父親の仕事の都合で，様々な国をまわってきた帰国子女。純和風な名前だが，海外と日本の慣習の違いに苦労している》とある。確かに部屋には異

国の民芸品が数多く飾ってあり，それらは「今まで行ったところの思い出の品」らしいが，慣習の違いに苦労してる描写は特になかった。第31話はその中でも特にモンゴルの，タミラという少年とのエピソード。どれくらいモンゴルに住んでいたかは不明だが，モンゴル語はある程度読めたり話せたりできるようだ。性格の描写は今一はっきりしないが，とりあえずマジメで控えめという無難な性格か。家は「マンションの5階」。『AX BOOK 1』には《海外での生活が長いので，ちょっとオーバーアクション気味?》とあるが，3人の方がよっぽどオーバーアクションのような。

【パパイヤ兄弟アニキ】



(声)高橋広樹 [19]

お笑い芸人。コンビ名が「パパイヤ兄弟」で芸名が「アニキ」なのだろう（多分）。美空町2-10-5のみそら荘202号に相方の「オトウト」と住んでいる。オトウトが実弟かどうかは不明。ボケるオトウトにツッコむアニキというのが基本のようだ。《脅迫状》を《きょう追城》と書くなど字の間違いが多く，「アニキの作るインスタントラーメンはすげぇうめぇ」(オトウト)らしい。芸能界でビッグになるという夢のため田舎から2人で上京するものの，いつまで経っても人気が出ないために事務所をクビになった。しかし，一千万円でスターになれるという話を聞いて誘拐を思いつく。その照準は幸か不幸か藤原家のお嬢様に向くのだが，以後は第1章第19話の項を参照 (p10)。

【パパイヤ兄弟オトウト】



(声)宮田始典 [19]

お笑い芸人。コンビ名が「パパイヤ兄弟」で芸名が「オトウト」なのだろう（多分）。美空町2-10-5のみそら荘202号に相方の「アニキ」と住んでいる。アニキが実兄かどうかは不明。ボケるオトウトにツッコむアニキというのが基本のようだ。ステージの上だけでなく普段からもボケ役のようだ。漢字の間違いが多いし，あまりしっかりしたとは言えないアニキだが，それでも兄貴として慕っているようだ。他，【パパイヤ兄弟アニキ】の項も参照。

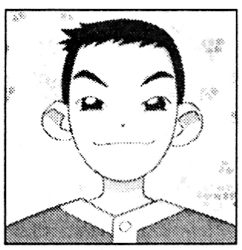
【浜田いとこ】



(声)塩味薫 [33] (登)[1, 3, 6, 10-11, 13, 15, 17-18, 21, 32, 35-36, 38-39, 42-43, 46-48]

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。浜田六兄弟の4番目で次女。『全31人』には《兄弟が多いのを恥ずかしがっていて，なかなか友人を家に呼ばない》とあり，運動会では祖父が渋くて目立つ格好で観覧に来ると「恥ずかしいからやめてって言ったのにぃ!」，六兄弟揃って走ると「なんか，カッコ悪いなぁ」と言っていた。《クラスメイトの喧嘩を仲裁する名人》ともあるが，特にそういう描写はない。リレーではファーストランナーを務めていたので，クラスの女子では一番足が速いのだろう。

【浜田かずお】



(声)＊[33]

美空市立第一小学校6年1組在籍。浜田六兄弟の1番目で長男。運動会準備委員で，かつ紅組のリレーの選手。また，どれみにバトンタッチのコツを教えていた(第33話)。声は多分，葛城七穂。

【浜田きぬよ】



(声)＊[33]

美空市立第一小学校5年2組在籍。浜田六兄弟の2番目で長女。運動会準備委員で，かつ紅組のリレーの選手。また，どれみにバトンタッチのコツを教えていた(第33話)。

【浜田家の祖父】



(声)＊[33]

浜田六兄弟の「おじいちゃま」。運動会で一番はしゃいでいた。いとこが「んもう! おじいちゃんったら，恥ずかしいからやめてって言ったのにぃ!」と言っていたので，あの赤い唐傘に和服という渋いスタイルは彼が好むスタイルなのだろう(第33話)。声は多分，金光宣明。

【浜田家の祖母】



(登)[33]

浜田六兄弟の祖母，と思われる人。状況的にそう推測されるだけ（第33話)。

【浜田家の父】



(登)[33]

浜田六兄弟の父，と思われる人。状況的にそう推測されるだけ（第33話)。

【浜田家の母】



(登)[33]

浜田六兄弟の母，と思われる人。状況的にそう推測されるだけ（第33話)。

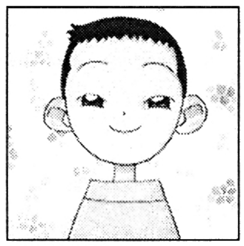
【浜田さちお】



(声)＊[33]

美空市立第一小学校4年在籍。浜田六兄弟の3番目で次男。紅組の障害物競走の選手（第33話)。声は多分，山崎みちる。

【浜田てるお】



(声)＊[33]

美空市立第一小学校2年在籍。浜田六兄弟の5番目で三男。紅組の玉入れの選手(第33話)。

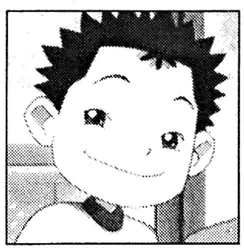
【浜田ぼたん】



(声)＊[33]

美空市立第一小学校1年在籍。浜田六兄弟の6番目で三女。紅組のお遊戯の選手(第33話)。どーでもいいが，この浜田六兄弟，4番目の「いとこ」を除くと五十音順に並べても順番が変わらないぞ。

【林りょうた】



(声)水樹洵 [38, 42] (登)[3, 10, 15, 17, 24, 31-33, 35-36, 43-44, 47-49, 51]

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。怪獣マニア。『全31人』には《絵が得意な怪獣マニア。特撮作品の怪獣デザイナーを夢見ている》とあるが，怪獣デザイナーの夢は劇中では明らかではなかった。近所の子供から「怪獣お兄ちゃん」と呼ば

れているらしい。怪獣の中でも一番好きな怪獣はガザマドンで，授業中はガザマドンの落書きをし，きみたかたちの相手をする怪獣ごっこでも自分はガザマドンに扮し，部屋にはガザマドンのポスター，書籍，グッズが山のようにあり，秋の作品展でもガザマドンを作っていた。あまりに怪獣に夢中になってしまうことで起きる事件は第1章第38話の項を参照 (p18)。この話から推察するに，サッカー部所属。が，小竹・木村ほどしっくりこないのは何故だろう。それはともかく，この一件以来小竹や木村と一緒にいるシーンが多くなった (第42,44,49話)。『全31人』には《ヒーローマニアの天野とは気が合う》ともあり，確かに第42話ではバトルレッド扮する天野に対して，暗黒大魔人 (と囚われの姫) を演じていた。

【林りょうたの母】



(声)茉雪千鶴 [38]

林りょうたの母。怪獣に夢中な息子に困っているようだ。その悲鳴は以下の通り。「全く怪獣，怪獣っていい加減になさい! 近所の子供から『怪獣お兄ちゃん』なんて言われていい気にはなるし，今日は今日で怪獣ごっこで怪我はしてくるし，算数のテストはどうなったの!?※」「…45点!? 何これ!? 今度こんな点とってきたら，そこにある怪獣，全部捨てるからね!※」「頭の中が怪獣だらけだからこんな点とるんでしょう!?」(第38話)

【パル】



(声)丹羽紫保里 [5]

小犬。小竹が両親に内緒で廃工場で飼っていた。「ごめんな，もっといい場所で飼ってやりたいけど，お父さんもお母さんもペットは飼ったらダメだって…オレがちゃんと面倒見ないと思ってるんだ。勇気を出してお父さんたちに頼めばいいんだけど…」と小竹は呟いていたが，廃工場で危険な目に遭うと両親に頼む決心をした。そして翌日から小竹家で飼われることになったようだ (第5話)。

【春風渓介】



(声)望月祐多 [1-2, 5, 7, 13, 16, 22-23, 25, 46-47, 28.5] (登)[33-34, 43, 45]

春風はるかの夫にしてどれみ・ぽっぷの二児の父。自著を持つほどのフィッシングライターである (第2話) のに，釣りの腕前は今一らしい (第16,22話)。それでも一家四人を一戸建てに住まわせているのだから大したものである。どれみは「両親は毎日夫婦喧嘩ばっかりだし」(第1話) と言うが，劇中では第1,2,5話の3回だけだった。なお，原因はそれぞれ「今日は庭掃除するって言ったのに…※」「ご飯だっつってんのに，何くだらないことやってんの!※」「あなたぁ…今日こそ雨戸井の壊れてるところ，修理するって言ってたわよねぇ?※」(はるか) といったこと。女房の尻に敷かれ，娘には「どれみがそそっかしいのは，お父さんに似たのね」(ぽっぷ; 第23話) と言われるなど，父親の威厳というものに欠けるが，どれみに自転車の乗り方を教えたり (第43話)，宴会芸として「元祖! 指のび〜る!」を伝授したり (第46話)，運動会にハンディカム持ってきたり (第33話) 父親らしさは失っていない (?)。特に第16話の長谷川新吾クンとの物語は，彼が最も父親として輝いていた話だった。

【春風どれみ】



(声)千葉千恵巳 [1-51, 28.5]

主人公。春風渓介と春風はるかの長女。ぽっぷの姉。美空市立第一小学校3年2組在籍。魔女見習い。自称「世界一不幸な美少女」。『AX BOOK 1』及び『マジカルガイド』によると，7月30日生まれのB型。確かに4月21日発売の「おジャ魔女CDくらぶ その1」では「あたしらまだ8歳」(あいこ) と言っていたし，10月31日放映の第39話では「9歳」と言っていた。昔から魔女に憧れていて (第1,38話)，マジョリカの正体を見破ってしまったために魔女見習いになる (第1話) のだが，今度は自分の正体がはづきとあいこにバレたため，ふたりも誘って3人で一緒に魔女を目指すことになる (第4話)。何はともあれ主人公なので，全話参照とでも書きたいところだが，テーマを絞って書いていきたい。

まずは「好きなもの」。書くまでもないがステーキである。「わたしはぬくぬくしたふとんが好き。のんびり食べる朝御飯が好き。テリテリ光るステーキはもっと好き!」(第8話) と言っているから間違いない。ステーキ目的で飯田かなえに親友宣言したこともあった (第26話)。他，隠れヒーローファンであることが第42話で分かった。逆に「嫌いなもの」。《さんすう》(第13話) である。確かに算数のテストは30点 (第7話)，20点 (第13話)，25点 (第17,38話) といったものだった。

次に「得意なもの」。なぞなぞのようなものが得意なことが第8話に分かったが，他に演技が得意なことが第18話や第35話で明らかになった。また，玉木にはじゃんけんで勝ったとは言え，女子3人枠の運動会リレーの選手に選ばれた (第33話) のだから運動も得意と言えるだろう。逆に「苦手なもの」。とりあえず不器用である。魔法グッズにしろ秋の作品展の作品にしろ，いつの間にか何を作っているかがクイズになるほどである (第38話)。

「将来の夢」はもちろん立派な魔女になること (第7話) だが，第28.5話で「昔からナイチンゲールにずっと憧れて」いて看護婦になるという夢を持っていることが分かった。また，小学校に入る前はピアノを習っていて「世界一美人なピアニストになるのが夢」(第41話) だったが自分の才能のなさに断念したらしい。ちなみに，小さくて壊れてしまったピアノはまだ持っていて，クルールポロンの合体元の楽器になっていた (第23話)。

性格の特徴として挙げられるのは「ドジ」「惚れっぽい」「調子いい」「心配性」と言ったところか。魔法は失敗するし，ほうきには振り回されるし，9級試験は落ちるし (第9話)，夏祭りにタップは消えるし (第29話)，3級試験は落ちるし (第40話)，とにかく小竹から「どじみ」とからかわれる (第1,43話) ほどドジである。が，魔法とほうきに関しては級が上がる毎に失敗は減っていった。惚れっぽさには並々ならぬものがあるが，五十嵐先輩 (第1話)，長谷川クン (第16話)，柏木クン (第28話)，秀三さん (第39話) と全て敗北に終わっていた。好きなタイプは「かっこ良くて，優しそう」(第39話) な男のコらしい。そういえば彼女が魔女になりたい理由は「好きな男の子に告白する勇気が欲しくて」(第51話) だった。普段が世界一不幸 (自称) なためか「先輩」(第4,28.5話)「舞台監督」(第46話) という偉そうな言葉に弱く，そう呼ばれるとすぐ調子に乗る。「心配性」というとはづきが思いつくが，彼女も負けず劣らず心配性で「なんとかしてあげたい」と思ったクラスメイトは山内 (第30話)，林 (第38話)，谷山 (第41話) など。根が優しいのは，何だかんだ言っても妹想い (第7,25,45話) で師匠想い (第20話) なところにも表れていた。

だが，彼女の最大の特長は「世界一不幸な美少女だぁ」と嘆こうが「ぶっぷのぶー!」と怒ろうが，結局キレたり諦めたり腐ったりせず，ついでに反省も改心もしないことだと思う。それはパターンギャグではあるのだが，ギャグが許せるだけの寛容さと親しみ易さ，そして強さがあることに他ならない (多分)。

【春風はるか】



(声)詩乃優花 [1-2, 5, 7, 9-10, 13, 15-16, 20-23, 25, 28, 34, 36-37, 39-40, 45, 47, 50-51, 28.5] (登)[24, 33]

春風渓介の妻にしてどれみ・ぽっぷの二児の母。専業主婦。『AX BOOK 1』の『今日のスポットライト』のコーナーに《春風はるか (22)》とあるが，8歳のどれみを産んで22歳ってのはどー考えてもおかしい (って言うかヤバい。そもそも同コーナーで年齢が併記されてるのはここだけで，何かおかしい)。きっと永遠の22歳ということなのだろう。そのためにエアロビクスでダイエットをしているに違いない (第9話)。「赤字」(第1話) の家計を何とか切り盛りしているらしく，「庭掃除」(第1話) や「雨戸井」の修理 (第5話) をしないで釣りに行く旦那と喧嘩する日々。しかもマトモに魚を釣ってこないので呆れている (第15話)。娘たちの門限には厳しい (第15,37話) が，基本的に信頼している (第7,10,25話)。しかしぽっぷにとっては進級試験への道を阻む大いなる壁となった (第36,40話)。赤字に悩む主婦の性なのか，「安かった」から買った元祖MAHO堂の魔法のペンダントは，再三再四どれみが捨てるよう言っても捨てず，結局最後まで持っていた (第22-24話)。また，どれみたちがMAHO堂に監禁されたという知らせを聞いて駆けつけた時，魔女界への扉を開

いて魔女であるどれみたちを最初に見てしまったのは彼女だった（第50話）。

【春風ぽっぷ】

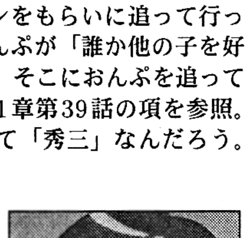


(声)石毛佐和［1-2, 5, 7-10, 12-13, 15-16, 19-26, 28-29, 31, 33-37, 39-43, 45, 47, 49-51, 28.5］／詩乃優花（代役）［27］(登)［46］

春風渓介と春風はるかの次女。どれみの妹。ソナチネ幼稚園在籍。魔女見習い。反面教師の姉を持ったためか，異様にしっかりしている。「超が3つつくくらい生意気」（どれみ; 第1話）と言う姉は，それでも心配している（第7,25,45話）。また，その要領の良さや独特の「かわいい」感覚が共感するのかおんぷと気が合うらしい（第37話）。幼稚園に5人の親衛隊を擁し，姉に紹介するほど彼氏がいて（第2話），日曜（第16話）・夏休み（第28話）とデートの予定に忙しい超人気園児。しかも「ボーイフレンドは，みんなスゴい金持ちのボンボンばかり」（マジョリカ; 第26話）らしい。おまけに同性からも引張り凧なのだが，その人気は正義と根性と友情に裏打ちされたものであることが，きみたかとの対決や幼稚園のお泊まり会を通して明らかになった（第15,25話）。そのプニュプニュ感とかわいさ（?）によって「プニュちゃん」ことマジョリカの虜となるものの，きみたかとの奪い合いの末なくしてしまう（第15話）。が，マジョリカの横暴さにキレたどれみによって「プニュちゃん」は再びぽっぷの手に渡り（第23話），目の前で飛んでいった「プニュちゃん」を探しにMAHO堂に来たところ3人のマジカルステージを目撃してしまい（第24話），成り行き上魔女見習いになる（第25話）。魔法のセンスは抜群のようだが，「ぽっぷが起きてられるわけないよ! なんてったってお子様だもーん」（どれみ; 第31話）と言うように，3度の進級試験のチャンスは，起こそうとしたどれみや3人を返り討ちにしてまでも全て寝過ごした（第31,36,40話）ため無級に甘んじている。そのためなのか，魔法を使う回数は全話通してかなり少なく，魔女見習いを辞めた時に「あたし，もうちょっと魔法使いたかったなぁ…」（第51話）と言っていた。

ひ

【樋口秀三】



(声)奥島和美［39］

樋口まきの兄。中学1年生。劇中では五十嵐先輩，長谷川クン，柏木クンに続くどれみの憧れ第4号。『全31人』には「樋口まき」の項に《輪のあるものならなんでもカッコよくこなす兄》との記述があるが，劇中ではインラインスケートだけだった。妹や沢田みかも含めた5人のインラインスケートの仲間がいるようだ。下校途中のおんぷを見つけ，サインをもらいに追って行ったのだが，魔女見習いの姿を見られたおんぷが「誰か他の子を好きになーれ!」と彼に魔法をかけてしまう。そこにおんぷを追ってきたどれみがやって来て…という話は第1章第39話の項を参照。どーでもいいが，長男っぽいのにどーして「秀三」なんだろう。上に2人の兄でもいるのだろうか…。

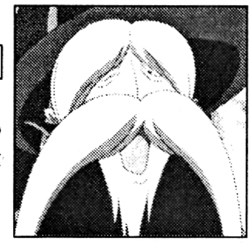
【樋口まき】



(声)幸山奈央［39］(登)［3, 6, 10-11, 17, 21, 31-33, 38, 41, 43, 47-48］

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。樋口秀三の妹。『全31人』には《インラインスケート，一輪車，スケボーが得意な子。輪のあるものならなんでもカッコよくこなす兄の影響らしい》とあるが，劇中ではインラインスケートだけだった（あんまり得意そうには見えなかったが）。『AX BOOK 1』には《スポーツ大好き少女で，中学生のお兄さんとすごく仲がいい》とあるが，運動会ではリレーの選手じゃなかったことから玉木やどれみより足が遅いらしい。それはともかく，唯一活躍した第39話はほとんど兄の話だったので，全話通して彼女の存在感はかなり薄い。とりあえず兄を信頼していてマジメそうなことは分かったがそれ以外ほとんど謎である。謎と言えば学級委員選挙の際に玉木陣営にいたことも謎だ（第32話）。どーでもいいが，五十嵐先輩を慕う美空小サッカー部マネージャーも「真樹」で，声が幸山奈央だった。

【ひげ親父】



(声)木村雅史［40］

はづきの3級試験で，3つの世界のうち最後の世界で現れた謎の老人。「誰もが5秒で凍りつく，必殺のオヤジギャグを受けてみよ!」「ひぃ…」「んうおぉぉ… ふとんがあぁっ…ふっとんだあぁっ! …さぁむうー…」「…クス」「初めて，笑ってくれたぁ…感激じゃあぁ!!」（ひげ親父，はづき，…）感激のあまり（?）扉になってしまった（第40話）。

【人食い花】



(声)竹本英史［18］

7級に合格して，どれみがさっそく「植物と話せる魔法」を使ってみた相手。「こんにちはお花さん」「こんにちわー」「やったー! あなた，なんて名前なの?」「僕かい? 僕は人食い花さ」「へぇ…人食い花かぁ…人食い花?…」「そう，食っちゃうぞー!!」「どれみちゃんのアホー! よりによって人食い花に魔法をかけんでもー!!」「そんなこと言ったってー!!」（どれみ，人食い花，どれみ，人食い花，どれみ，人食い花，あいこ，どれみ; 第18話）なお，《花》でクレジットされていたが，本人（本花?）の言葉を尊重して「人食い花」とした。

ふ

【藤原家のばあや】



(声)斉藤祐子［2, 22, (23,) 26, 28, 33, 46, 50, 28.5］(登)［51］

藤原家に仕えるばあや。共働きのはづきの両親に代わって家を取り仕切る。この役目に自信と誇りを持っているようで，「こちらにお仕えしてからこの方」，「お嬢様をお出迎えしなかった日は1日たりとも」なく，「お嬢様との約束を破ったこと」もなく，「毎日の庭の芝刈りだけは欠かしたこと」もないらしい（第22話）。ちなみにそのお出迎えは「すっごい迫力」（どれみ; 第22話）で「インパクトある」（あいこ; 第28.5話）もの。使用人の身なのに「藤原家に代々伝わる究極の隠し芸」（第46話）を知っているのだから藤原家からの信頼は厚いのだろう（芸の内容はともかく）。北海道出身で，得意料理は「シタビラメのムニエル長万部風」らしい（第28.5話）。言伝は「マスコット捨てたら帰ったるわ，アホ，ボケ，カスー!!※」と，内容だけでなく声調まで伝えてくれる（第23話）。はづきお嬢様がMAHO堂に監禁されてるとの知らせを聞くと即座に鉢巻，襷がけのスタイルで長刀を振り回して駆けつけていった（第50話）が，このスタイルは戦時下の日本で行われていた竹槍訓練によるものだろう。若かかりし日のばあやの姿が偲ばれる。なお，第23回は斉藤祐子が《ミミ》でクレジットされていたので，《ばあや》ではクレジットされなかった。

【藤原はづき】



(声)秋谷智子［1-51, 28.5］

主役の一。美空市立第一小学校3年2組在籍。魔女見習い。『AX BOOK 1』及び『マジカルガイド』によると，2月14日生まれのA型。映画監督の父，インテリアコーディネーターの母の一人娘で，豪邸に住むお嬢様。家はお金持ちで，高原に別荘を持っていて（第28話），身代金目的で誘拐されたこともあった（第19話）。家事はばあやが仕切っているようで，第28.5話で初めてキッチンに立ったという。どれみの魔女の秘密を知ってしまったため，あいこともに魔女見習いになって3人で魔女を目指すことになる（第4話）。

成績優秀で，クラスで1番成績がいいという（第4話）。確かに，算数まとめ試験（第13話），漢字テスト（第43話）ともに満点だっ

た。他にも教室の窓を通して猫の姿のララが謎のジェスチャーをしてもその意味が正確に理解できていたり（第15話），とにかく謎とも言える理解力を持っているようだ。

その反面，運動は不得意のようで，テニスは苦手だと言ったり（第28話），運動会では準備委員を選んでいた（第33話）。が，その反動（?）なのか「強い女」に憧れているようで，体育で活躍する奥山なおみ（第14話）やあいこ（第34話），そして女子プロレスラー・キャンディ伊藤にも熱を上げていた（第44話）。そして第28.5話で将来の夢は「女子プロレスラー」と言っていたのだが，工藤むつみを前にしては「(女子プロを) ときどきテレビで見てる」と言うにとどまっていた（第44話）。それでもむつみは美空小で自分以外で女子プロを見ている人を初めて知ったらしいので，はづきが熱心なことに違いはないだろう。

バイオリンを習っているのだが（第2話），それは母から言われて始めたことだという（第11話）。また，クルールポロンの合体元の楽器も，3歳の時に初めて買ってもらったという小さなバイオリンだった（第23話）。

おばけが大嫌いで，8級試験の「自分の一番嫌いなもの」を書くというアンケートに《おばけ》と書いていて（第13話），「おばけ」というとすぐビクついていた（第26,28.5話）。山内寺での怪談や肝試し（第30話）や，ヘンな生き物に追われる3級試験（第40話）の様子を見る限り，おばけを「怖がる」というよりは本人のリアクションがおかしくなるようだ（?）。が，ぽっぷが魔法で出したおばけには平気だった（第25話）。

初対面のあいこに「服も喋り方もお嬢様お嬢様して地味」だから「影が薄い」と言われていた（第3話）が，その反動（?）なのか人に着せようとする服は妙にハデで，タカラヅカな服を奥山なおみに着せようとしたり（第14,38話），父に贈った監督グッズもハデだったり（第27話），宮本まさはるにも選挙パフォーマンスとして「華麗でカッコいい服」を着させていた（第32話）。

ギャグ感覚はどれみ・あいこと一線を画し，ふたりが「寒い」と言ってはばからないSOSトリオのギャグでウケたり（第14,21,29話），パパイヤ兄弟のギャグでウケたり（第19話）していた。他にも3級試験の「誰でも寒がる必殺のオヤジギャグ」（第40話）でウケて，「寒いギャグよ出てこーい」という魔法をかけたあいこの父のギャグに自分がウケていた（第47話）。

少々心配性の嫌いがあり，木村の一言で普段の習慣をやめてしまった小泉まりな（第11話）や，誤解を受けやすい矢田まさる（第17話），動物嫌いになってしまった岡田ななこ（第18話）をなんとかしようと一生懸命だった。また，矢田は同じ幼稚園だったらしく，魔法玉がなくなって悩んでいることをそれとなく相談していた（第23話）。

魔女見習いになった理由は，魔女になって「いつもママとかパパの言うとおりにしかできない自分」（第51話）を変えたかったからだという。確かに両親にはっきりものが言えないことに悩んでいたり（第2話），初詣でもそんな願掛けをしていた（第47話）。

第1話登場時点でどれみの友達であり，どれみのことをよく知っているようだった。転校したばかりのあいこに「思ってることズバズバ言う」と非難していた（第3話）わりに，恋多きどれみには「どれみちゃんにもあと1回くらいチャンスがあるかもしれないし!」など，思ってることズバズバ言っていた（第39話）。しかし，両親にもはっきりものが言えないにも関わらずどれみにはこう言えるのは，彼女にとってどれみが気を許せる友達であるということなのだろう（多分）。

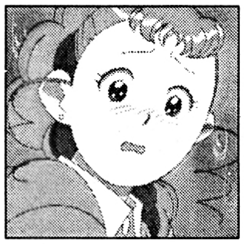
【藤原はづきの父】



㊐乃村健次［2, 27, 47］㊫［33, 43］

藤原はづきの父。第2話でどれみは「ドラマの監督さん」と言っていたが，第27話では映画の監督になっており，『AX BOOK 1』にも『マジカルガイド』にも揃って《有名な映画監督》とある。普段は仕事に忙しいようだが，運動会（第33話）や初詣（第47話）には来ていて，娘が腹痛と聞くとすぐに駆けつけていた（真相はどれみの仮病だったが; 第2話）。自分の作品や道具にこだわりがあり，「椅子も，メガホンも，サングラスも，第一作目の時から大事に使ってる品」らしい（第27話）。それでも娘がくれた妙に派手な監督グッズを受け取って使っていたこと（第27話）や，娘に泳ぎ方を教えていたこと（第43話）から，娘にとって良きパパなのだろう。ただ，「良きパパ」が過ぎてはづきは自分の考えをはっきり言えないらしい（第2,47,51話）。どーでもいいが，映画監督がお金持ちということに映画会社・東映の姿が見え隠れするのは気のせいだろうか…。

【藤原はづきの母】



㊐前田悠衣［2, 10, 47, 50-51］㊫［3, 33］

藤原はづきの母。インテリアコーディネーター。普段は仕事に忙しいようだが，授業参観（第3話）や運動会（第33話），初詣（第47話）には来ていた。はづきの服は彼女が選んでいるようで，それが「フリルがいっぱいついた」「かわいいの」（第28.5話）でも，おいそれと拒否するとすぐ涙ぐむので嫌と言えないらしい。はづきはそんな自分を変えたくて魔女になりたかったという（第51話）。また，はづきのバイオリンは彼女に言われて始めたらしい（第11話）。直接口にした台詞ではないが，彼女の台詞のうち最も傑作なのは「(男の子は) いくつになっても，子供っぽいことが好きなんだって，ママが言ってたわ」（はづき; 第49話）だと思う（個人的に）。

【ふみお】



㊐宮下富美子［15, 25, 45］㊫［24, 28-29, 50］

ソナチネ幼稚園在籍。ぽっぷのクラスメイト。ぽっぷちゃん親衛隊隊員。親衛隊として，ぽっぷがピンチのときは駆けつけ（第15話），サンタ捜査隊として，ぽっぷと共に町内を捜し回る（第45話）。5人の親衛隊の中で，第12話の春風邸でのぽっぷのパーティーに唯一参加していない。が，幼稚園バス（第24話），幼稚園でのお泊まり会（第25話），ぽっぷの夏休みのデートの予定（第28話），ぽっぷが店番をするMAHO堂の夜店（第29話）に登場。1級試験中のおんぷへのサインくれ集団の中にもいた（第50話）。

へ

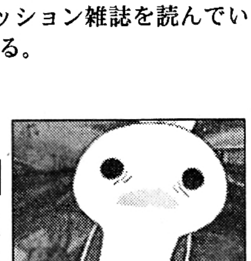
【ヘヘ】



㊐小西寛子［20-24, 37, 47-48］㊫［35, 50-51］

妖精。マジョルカのお供。肌が黒くて「って言うかぁ」「って感じぃ」「みたいなぁ」という口調。ララより年下らしく「あんたこそ何よ，コギャルみたいな格好してぇ!✲」と言われると「おばさんの格好には，負けちゃうわ!✲」と言い返していた（第47話）。ララと同様ネコに変身できる（第20,24話）。マジョルカと共に元祖MAHO堂に現れ（第20話），マジョルカと共に一度魔女界へ戻るが（第24話），マジョルカ・おんぷと共に再び現れた（第35話）。元祖MAHO堂ではこうもり男とねずみ女より偉そう（第23-24話）で，3人にも嫌がらせをしていた（第20話）が，再登場してからはワガママおんぷの代わりにメール書いたり（内容はともかく; 第47話）3人とも普通に話したり（第37,48話）幾分丸くなったような気がする。ララもそうだがファッション雑誌を読んでいる（第24話）割にはいつも同じ格好である。

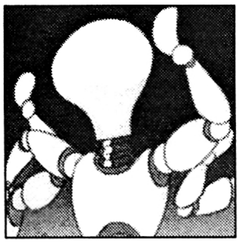
【ヘンな生き物】



㊐小嶋一成［40］／竹本英史［40］

はづきの3級試験で，1つ目の世界に現れたヘンな生き物（第40話）。この生き物にはモデルがあるのだが，それについては第3章【ムンク】の項を参照（p79）。ヘンな生き物だがあくまで住民らしい。

【ヘンな生き物】



登[40]

はづきの3級試験で，2つ目の世界に現れたヘンな生き物（第40話）。この生き物にはモデルがあるのだが，それについては第3章【キリコ】の項を参照（p59）。ノーマル（?）な姿のものとは異なる，王様のような格好をしたものもいた。

ほ

【ほうき魔女】



声尾小平志津香［8］

魔女。どれみの9級追試験中に，ほうきの木の森で3人が会った。ほうきの木の枝をお守りにしようとしたどれみを注意し，「昼間は細くて，夜は太くて，寝ている時無くなるものは，な～んだ?」というなぞなぞを出して，正解しなければここは通さないとした。はづきは「影」と言ってハズレたが，どれみは「猫の目」と答えて正解し，「あーつまんない，面白くな～い」と言って消えた（第8話）。よく分からない存在である。

【ぽっぷのお友達】



声*?[25] 登[15, 24]

ソナチネ幼稚園在籍。ぽっぷのクラスメイト。ぽっぷのお友達のひとり。「プニュちゃん」争奪戦（第15話），プールに行く園児達（第24話）のカットにちらっと登場。お泊まり会でぽっぷの布団を誘致した女子5人のなかのひとり（第25話）。このカットで名札が見ることができなくて非常に残念である。

【ぽっぷのお友達】



声*?[25] 登[15, 24]

ソナチネ幼稚園在籍。ぽっぷのクラスメイト。ぽっぷのお友達のひとり。「プニュちゃん」争奪戦（第15話），プールに行く園児達（第24話）のカットにちらっと登場。お泊まり会でぽっぷの布団を誘致した女子5人のなかのひとり（第25話）。このカットで名札が見ることができなくて非常に残念である。この後の夕食で，ぽっぷのテーブルは両側に5人ずつ，つまり10人座れるテーブルだったのだが，片側にはぽっぷちゃん親衛隊5人が座り，片側にはぽっぷと，ぽっぷのお友達4人が座った。で，そこに座れなかったぽっぷのお友達1人が彼女である。かわいそうに。どーでもいい話だが。

【骨隊長】



声小嶋一成［6］

横川信子の私的小説「少年探偵縦川信夫」に登場するキャラ。悪の組織ホネホネ団の隊長らしい。「ホネホネホネホネ…観念しろ，少年探偵縦川!」（第6話）。

【堀内孝之進】

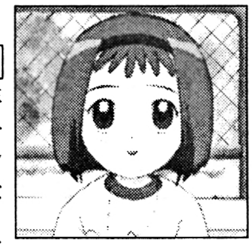


登[*]

美空市立第一小学校初代校長。故人（多分）。孝という名前の子孫がいる，かもしれない。美空小に胸像と全身像があり，劇中でもよく見かける。『マジカルガイド』によれば，《学校設立者。明治時代，日本文化使節団としてヨーロッパに渡り，西洋音楽に魅了される。》という。

ま

【真樹】



声幸山奈央［1, 33］ 登[4, 12]

美空市立第一小学校在籍。恐らく6年生。同校サッカー部マネージャー。マキハタヤマリカの魔法堂で魔法のペンダントを購入。劇中で明確な描写はされてないが，魔法堂に引き込まれた（のだろう）のも，魔法のペンダントの購入動機も「五十嵐クンに告白する（そして，いい返事を貰う）」ことなのであろう。その点で実はどれみと同レベルなのだが，そのキャラクター性の違いからかあまり意識されていないのはどれみの不幸である。それはともかく，いろいろあってペンダントなしでも五十嵐クンとラブラブになる（第1話）。また，運動会準備委員長のようで，同委員のはづきや浜田かずお，きぬよ兄妹と準備を進めていた（第33話）。鉢巻から察するに紅組。声から察するに当日アナウンスもやっていた（多分）。

【魔女】



声*[8]

どれみの9級追試験中に3人が入ったラーメン屋の魔女。9級試験に落ちた珍しい魔女見習い・どれみのサインと引き替えにラーメンを3人にご馳走する（第8話）。

【魔女】

登[8]

どれみの9級追試験中に3人が入ったたこ焼き屋の魔女。9級試験に落ちた珍しい魔女見習い・どれみのサインと引き替えにたこ焼きを3人にご馳走する（第8話）。

【魔女】



声*[8]

どれみの9級追試験中に3人が入ったケーキ屋の魔女。9級試験に落ちた珍しい魔女見習い・どれみのサインと引き替えにケーキを3人にご馳走する，という描写はなかったが3人はケーキを食べていた。また，3人に魔女の野原の場所を教えていた（第8話）。

【魔女】



声*[40]

あいこの3級試験の，1つめの世界「魔女の迷宮」にいた魔女。魔法玉のかわりに扉への近道をあいこに教えようとしたが，タダじゃないと知るとあいこは即座に去ろうとする。が，それを引き留め，愚痴を聞いてもらうかわりに扉への近道を教えていた（第40話）。声は多分，詩乃優花。

【魔女】



声*[40]

あいこの3級試験の，2つめの世界の泉にいた魔女。「おまえが探しているのは，この金の扉かい? それとも，この銀の扉かい?」とあいこに問うが，「この話知ってんで。あたしが探してんのは金でも銀でもない。普通の扉や」と答えられて，普通の扉は泉の中にあることを告げて消えた（第40話）

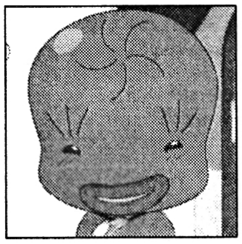
【魔女】



声*[40]

あいこの3級試験の，3つめの世界の砂漠にいた魔女。あいこに水を求め，あいこがコップ1杯の水を魔法でだすと，「はぁ…。ありがとよ，こんなにおいしい水を飲んだのは久しぶりじゃ…」と言って煙に消えて扉が現れた（第40話）。

【マジョ梅】



(声)橘U子［37, 40］

魔女。魔女界の「魔女ガエルの村」に住む魔女ガエル。魔女界の300年に一度の大嵐によって開いた扉から人間界へ飛ばされてしまう。他の魔女ガエルたちはマジョルカの事務所に飛ばされたが，何故か彼女だけはMAHO堂へ飛ばされていた。魔女ガエルたちのリーダー格のようで（「梅」なのに），先頭にたってなにかとどれみたちに要求する。そんな話は第1章第37話の項を参照（p17）。いろいろあって魔女ガエルの村へ戻るのだが，3級試験中のどれみがここを通りがかった際，世話になったと言ってどれみを歓迎していた（第40話）。

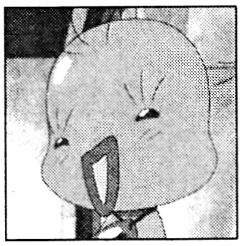
【魔女界の女王様】



(声)?［(13, 18,)19, 26-27, 37, 45-46, 50-51］(登)［23］

魔女界の女王様。恐らく魔女界で一番偉い。移動には専用の馬車を使う。第40話の時点で在位100年らしい。また，女王になる前は魔法堂のオーナーだったという（第20話）。8級試験中の3人が魔法で八太郎とスルメ子を再会させたのを見て，3人の合格をモタたちに命じてから3人と何かと関わるようになる（第13話）。はづきが禁断の治癒の魔法を使ったとき魔法で守ってあげたり（第18話），約束の時間の前に魔法が使えるようにして欲しいというはづきの願いを聞いてあげたり（第19話），魔法玉が欲しいという3人に薪割りのバイトを与えたりしていた（第23話）。また，3人をピュアレーヌに任命し，ピュアレーヌパソコンを与えた（第26話）他，人間界に飛ばされた魔女ガエルたちを魔女界へ戻した時（第37話）や，クリスマスにサンタたちを助けた時（第45話）に認定玉を授けていた。と，3人に協力的なのだが，おんぷの問題に関しては「女王自ら魔女界のルールを破るわけには行きません」（第51話）とその立場の事情を垣間見せた。何やら厳かな雰囲気だが，マジョリカとマジョルカのどちらが魔法堂のオーナーになるかを「厳正なるあみだくじ」で決めたり（第20話），はづきやどれみの隠し芸を密かにトライしたり（第46話），隠された素顔に秘められたそのキャラクターは全くの謎である。なお，声が「?」となっているのは，本当に「?」とクレジットされているからである。

【マジョ竹】



(声)サエキトモ［37, 40］

魔女。魔女界の「魔女ガエルの村」に住む魔女ガエル。魔女界の300年に一度の大嵐によって開いた扉から人間界へ飛ばされてしまう。他の魔女ガエルとともにマジョルカの事務所に飛ばされていた。以降，第1章第37話の項を参照（p17）。ちなみに，3人が魔女ガエルたちを運んでいたとき，ひとりで酔っていた。いろいろあって魔女ガエルの村へ戻るのだが，3級試験中のどれみがここを通りがかった際，どれみを歓迎する魔女ガエルの中に彼女の姿もあった（第40話）。

【マジョ松】



(声)尾小平志津香［37, 40］

魔女。魔女界の「魔女ガエルの村」に住む魔女ガエル。魔女界の300年に一度の大嵐によって開いた扉から人間界へ飛ばされてしまう。他の魔女ガエルとともにマジョルカの事務所に飛ばされていた。以降，第1章第37話の項を参照（p17）。何かというと写真を撮っていたのは彼女である。いろいろあって魔女ガエルの村へ戻るのだが，3級試験中のどれみがここを通りがかった際，どれみを歓迎する魔女ガエルの中に彼女の姿もあった（第40話）。

【マジョリカ】



(声)長沢直美［1-10, 12-42, 45-47, 50-51, 28.5］

魔女。マキハタヤマリカという人間界での仮の名前を使って「マキハタヤマリカの魔法堂」を営んでいたが，どれみにその正体を言い当てられ魔女ガエルになってしまう（第1話）。自分を元の姿を戻すため，どれみを魔女見習いにさせるが，どれみもバレそうになったため，はづき・あいこも魔女見習いに誘い（第4話），以降魔法の師匠として或いはMAHO堂のオーナーとして3人の面倒を見るようになる。が，どちらかというと肝心のどれみは試験に落ちるし，MAHO堂は赤字続きでデラの催促から逃げなきゃならんし，幼稚園児には「プニュちゃん」として散々弄ばされるし，期待の星・ぽっぷは夜起きられなくて試験を受けられないし，おジャ魔女たちにさんざん苦労させられていると言った方が正しい。第1話で「これだから子供は嫌いじゃ!※」と言っていた理由がよく分かる。

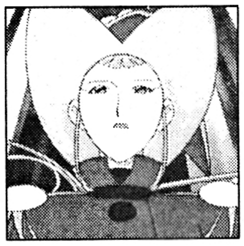
そもそも魔法堂は魔女界の次期女王を決める選挙のための資金集めのためのもので，その権利を争っていた魔女学校時代からのライバル・マジョルカに，女王様の「厳正なるあみだくじ」で勝利して得たものだという（第20話）。当初はかなり敵対していたマジョルカだったが（第20-24話），魔女ガエルになって再登場してから（第35話），魔女界の忘年会ではサンバを一緒に披露したり（第46話），正月には酒を酌み交わして愚痴を言いあったり（第47話），同じ魔女ガエルという境遇からなのか実は仲がいいことが明らかになった。

彼女が8級試験を受けたのは700～800年前という（第13話）。またどれみに「わしゃ800年生きとるがおまえみたいなヤツは初めてじゃーっ!!※」（第29話）と言っていたので，やはり年齢は800歳程度なのだろう。するとつまり日本の鎌倉時代に生まれたということか。ちなみに温泉が好きなようで（第10,16,37話），泳げないらしい（第15話）。

自分のせいでMAHO堂を失ってしまったことや，どれみが3級試験に落ちたことがあるとすぐ酒に逃げ（第20,41話），その底意地の悪さから3人に「ドケチー!!」とか「ドアホー!!」とか「オニー!!」とか罵倒されたこともあったが（第21話），なんだかんだ言って3人に協力し，3人を信頼している強がりで照れ屋の魔女らしい。

なお，「そやけど，正直な話，その方（魔女ガエル）が『マジョリカ』ぁいう感じがすんでぇ」（あいこ; 第51話）という意見を尊重して（?），カットは魔女ガエルのものを選んだ。

【マジョリン】



(声)木内レイコ［18, 26, 37, 46, 51］(登)［13, 45, 50］

魔女。劇中では特に明言されていないが，女王様の馬車の御者を務める他，女王様から命令を受けていたり（第18,26話），女王様に緊急事態を報告していたり（第37話），女王様の側近中の側近であるのは間違いなさそうだ。かなり生真面目らしく，忘年会の隠し芸大会では，どれみたちの芸を真似ようとする女王様を咳払いで諫めていた（第46話）。そのポーカーフェイスが崩れることはなかったが，一度でいいから死ぬほど笑うマジョリンの顔というのを見ていたい気がする。

【マジョルカ】



(声)荘真由美［20-22, 24, 35, 37, 39, 46-48, 50-51］

魔女。マジョリカがMAHO堂をデラに奪われたあと，そこのオーナーとなり「元祖MAHO堂」をオープン（第20話），順調にいっていると思われたが，閉店に追い込まれ魔女界へ帰ってしまう（第24話）。これについては第1章第20話～第24話の項を参照（p10～11）。そしておんぷに正体を見破られたらしく，魔女ガエルになって再登場（第35話）。以降おんぷの事務所の社長としておんぷの面倒を見る，というよりおんぷに振り回される。

マジョリカとは魔女学校時代の同級生で，その頃からライバル同士だったという。次期女王選も争っていたのだが，魔法堂の権

第二章 キャラクター解説

利はマジョリカに渡ってしまったらしい。第24話までは魔女ガエルのマジョリカを散々笑っていたが，自分が魔女ガエルになってしまった第35話以降ではおんぷの責任をとって「悪霊退散」(?)に協力したり（第39話），隠し芸大会のために共にサンバを踊ったり（第46話），正月には酒を酌み交わして愚痴を言いあったり（第47話），実は仲がいいことが分かった。そのマジョリカ曰く「回転寿司に目がな」く「ビラビラとド派手なものが好きなくせに，チョウチョだけは苦手」らしい（第22話）。ついでにオヤジギャグが苦手（?）らしい（第24話）。

最初は確かに「マジョリカよりえげつない」（あいこ；第24話）言動だったが，おんぷには「ファンを大切にしないで，アイドルなんかやってられないよ!♪」とか「そんな大勢の人間に魔法使ったら，おまえもただでは済まないんだよ!※」（第48話）とか割とマジメな事を言っていた。が，結局おんぷに「お守り」を与えたのは彼女だし（第36話），おんぷが倒れても大したこともしないで魔女界へ帰っていたし（第51話），その態度は今一分からない。

【マツザワアキヒデ】

(登)[(49)]

ドラマ「しあわせ橋」の主役を演じる人。愛称は「まっきー」。おんぷもどれみも知っていた（第40話）。多分タレント。多分ジャニーズジュニア。…何故かと言えば，第3章【滝沢秀明】の項を参照（p65）。

【マッスル富田】



(声)*[44]

女子プロレスラー。キャンディ伊藤の35連勝目を許すが，36連勝は阻止した（第44話）。劇中では「まっするとみた」と呼んでいるだけだったが，『AX BOOK 2』に《マッスル富田》とあるのでこれを真とした。

み

【みさき】

▶芝山みさき(p33)

【みどり】



(声)*[47]

あいこの父のお見合い相手。姓は栗山，かもしれない。お見合いから分かったことは，趣味が旅行と音楽鑑賞，ピアノの腕はプロ級，31歳，「ズバズバ言う方」，制服フェチ，ギャグ感覚ははづき並，といったところ（第47話）。

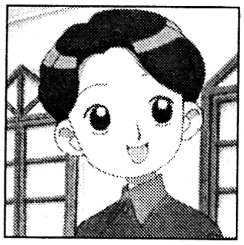
【ミミ】



(声)斉藤祐子 [7-9, 12, 16, 20, 23, (26,) 29, 34, 36-37, 40, 47, 51, 28.5] (登)[10, 17, 22, 27, 32, 42-43, 50]

妖精。あいこのお供。9級試験合格時にあいこがもらった（第7話）。他の魔女見習いの妖精同様，主人の姿になることができる（第8,36話）。MAHO堂の夜店でドドが回せなかったダーツ盤を最初に回していたので（第29話），主人と似て力持ち，ということは分かるが，それ以外はよく分からない。活躍した話を敢えて挙げれば，どれみと長谷川クンを盛り上げようと奮闘した第16話，主人と組んで受けた4級試験の第36話，それに感傷的なあいこを励ましていた第34,47話ぐらいか。結局他の妖精同様，その登場回数ほどの存在感はなかった。なお，第26回は斉藤祐子が《ばあや》でクレジットされていたので，《ミミ》ではクレジットされなかった。

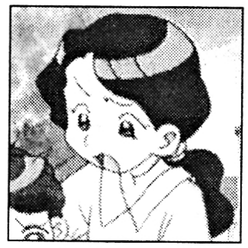
【宮本まさはる】



(声)加藤春菜 [32, 50] (登)[1, 3, 6, 10, 15, 17-18, 21, 33, 35-36, 38-39, 42-43, 47-49, 51]

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。マラソン大会は2位，校内写生大会は2位と，勉強でも運動でも1番目になったことがなく，いろんな委員をやってもいつも副委員長という。『AX BOOK 1』によれば1学期は副学級委員だったようだが，2学期になって「そんな自分を変えたくて」と学級委員に立候補する。そこで候補者より気合いの入った後援の3人と対立候補の玉木との熾烈な選挙戦は第1章第32話の項を参照（p15）。しかし，よいこの多いどれみのクラスメイトの中でさえも，これは彼が1番なんじゃないかと思えるのは「気配り」である。転校したてのあいこに座席表を書いてあげたり，教室の案内をしたり，前の学校とギャップがあったノートを貸してくれたりしていたという。他にも，ときどき教室の中を点検していて，椅子や棚の修理をしていたらしい。と，とてつもなくマジメな彼だが，商店会のはっぴを着て選挙活動しようとしたり，ドドの作ったシンボルマークを選んだり，そのセンスは少々危うい。

【宮本まさはるの母】



(登)[32]

宮本まさはるの母，と思われる人。どれみが魔法で出した，宮本まさはる候補の選挙用プロモーションビデオ「宮本まさはるのすべて」に登場（第32話）。

め

【メリー】



(声)*[29]

犬。夏祭りの美空神社でどれみが落としたタップの真ん中のボタンを押してしまい，見習い服を着てどれみのまえに現れる。驚いたどれみは…という話は第1章第29話の項を参照（p14）。

【メリーの飼い主】



(声)*[29]

メリーの飼い主。迷子のメリーを求め叫ぶ。見習い服を着たメリーが戻ってきたと思ったら，今度は自転車ごとメリーをスリに奪われ，また叫ぶ。「あぁっ，メリーちゅあん!!」声は多分，藤田記子。

も

【森野かれん】



(声)岬風右子 [49]

おんぷがドラマ『しあわせ橋』の茜役オーディションを受けたときに出会った少女。亡き父と似てあがり症なのだが，その父の夢を叶えるためにこのオーディションを受けたという。そんな話を聞いておんぷは…という話は第1章第49話の項を参照（p23）。

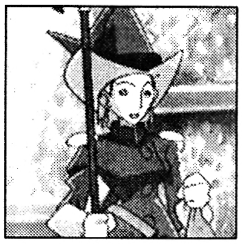
【森野かれんの父】

(登)[49]

森野かれんの父。故人。恐らく役者。あがり症だったためにいつもオーディションで落ちて，なかなかいい役を貰えなかったという。3年前「しあわせ橋」がドラマ化されたとき，出演できることを喜んでいたのも束の間，クランクイン寸前に病気で倒れ，そ

のまま天に召されたらしい。「お父さんは小さかったあたしをおんぶして，橋の上に立って，いつまでも夕焼けを見てた…」(かれん; 第49話)

【門番】



(声)池田千草 [23]

魔女（多分)。魔女界の女王様の城の門番（多分)。3人が魔法玉を稼ぐためのバイトを探しに女王様の城に来たとき，3人を女王様が許可したバイトである薪割りの場所へ連れていった。また，薪割りが終わったとき3人に魔法玉を1個ずつ手渡した（第23話)。

や

【矢田まさる】



(声)宮原永海 [17, 20-21, 23, 30, 32, 50-51, 28.5] (登)[3, 10-11, 15, 33-35, 38-39, 43-44, 47-49]

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。反抗的な態度で，不良呼ばわりされているが，これには事情があるらしい。そんな事情や，関先生，父からもらったというトランペットのエピソードは第1章第17話を参照（p9)。はづきと幼稚園が同じで（第17話)，はづきと同様オバケが苦手らしい（第30話)。ひとりを好むようだが，小竹や木村とは仲がいいようだ（第17,21,50-51話)。3人がMAHO堂をマジョルカに乗っ取られたときにはづきをそれとなく励ましたり（第20話)，魔法玉がなくなって悩むはづきの相談相手になったり（第23話)，3人が後援する宮本まさはるへの支持を表明したり（第32話)，なにかと3人（っていうかはづき）の味方をしていた。性格は強がりな照れ屋といったところだろうが，そんな性格を逆用されて（?）第28.5話では「けったいな患者」「謎のトランペッター」と，妙に目立っていた（ギャグ的に)。また，おんぷが転入してきたとき（第35話)，浮き足立つ男子どもに彼が含まれていなかったのはさすがである。

【矢田まさるの父】



(声)平田広明 [17]

矢田まさるの父。まさるが幼稚園のときからドイツに単身赴任している。出国前にまさるにトランペットを吹いて見せ，それを渡す。そして，第14話時点で「明日」帰ってくるという。職業は不明だが，まさるを藤原家の御令嬢と同じ幼稚園に入れるのだから，いい仕事をしているに違いない。

【矢田まさるの母】

(登)[(17)]

矢田まさるの母。劇中では特に登場していないが，まさるが埠頭の倉庫に忍び込んで警察沙汰になったとき，教頭が「矢田の母親もウチの子は間違ったことはしませんとか言ってニコニコしてるし」と言っていたので，なかなか理解のある母親なのだろう。

【柳田すすむ】



(声)星野園美 [21, 31] (登)[1, 3, 6, 10-11, 15, 17, 24, 29, 32-33, 35-36, 38-39, 41-42, 44, 47-48, 51]

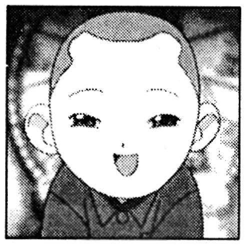
美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。揚げパンが好物で，「ぼくの辞書には『食べ過ぎ』という文字はないんだ。今まで最高54個の揚げパンを食べても全然大丈夫だったんだから」(第21話）というまさに「ご飯がすすむくん」。『全31人』には《あだなは「すすぶー」。見ての通りおやじっぽい風貌で，飯田かなえよりも太っている。でも性格はナイーブとの噂》と，なんだかいろいろ書かれているのだが，劇中ではマジョルカグッズのせい（?）で，体調を崩したという第21話，「へぇ～，花田って外国に住んでたんだぁ」というたった一言だけの第31話以外特に描かれてない。ただし「すすぶー」というあだ名に関しては，『AX BOOK 1』『マジカルガイド』にも記述があるので設定的には正しいようだ。劇中では誰も呼んでないが。

【柳田すすむの母】

(声)前田梨衣 [21]

柳田すすむの母。マジョルカグッズの効果が消えて，体調が回復したすすむに「すすむ，今日揚げパンなかったんだけど，白いご飯でいい?」と尋ねた。それだけ。しかも声だけだった。なお，声は《前田梨衣》とクレジットされたが，これは《前田悠衣》の誤植の可能性がある。

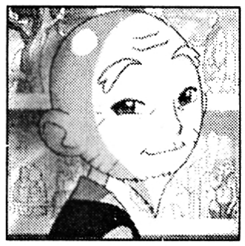
【山内信秋】



(声)家冨ヨウジ [30] (登)[1, 3, 6, 10-11, 13, 15, 17, 24, 29, 32-33, 35-36, 38-39, 41-44, 47-49]

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。山内寺の跡取り。『全31人』には，《坊主頭がよく似合う物静かな性格。それもそのはず，お寺の一人息子で，寺では修行中なので「しんしゅう」と呼ばれている》とあり，確かに祖父は「しんしゅう」と呼んでいた。忙しい両親に代わってその祖父がいつも相手をしてくれたという。しかし2年前に亡くなってしまって，そのとき…という話は第1章第30話の項を参照（p14)。クラスの面々は夏休みの終わりに，彼の怪談と肝試しのために山内寺に来ていたのだが，「山内のこれを聞かなきゃ」「夏休みは終わんねーもんな」(太田，佐川; 第30話）と言うくらいなのでこれらは毎年恒例の行事なのだろう。ちなみに，おんぷが転入してきたとき（第35話)，浮き足立つ男子どもに彼は含まれていない。アイドルにうつつをぬかすヒマなど修行の身にはあるはずもない，ということか。

【山内信秋の祖父】



(声)丸山詠二 [30]

山内信秋の祖父。故人。恐らく山内寺の前住職。竹細工が得意で，忙しい両親の代わりに孫の相手をよくしていたという。2年前，信秋が小学1年生のときにこの世を去ってしまうのだが，成仏できずに幽霊となって現れていた。何度か壇家の人がその幽霊を見かけているが，何故か信秋の前には現れない。その理由は…という話は第1章第30話の項を参照（p14)。

【山本刑事】



(声)高橋広樹 [29]

刑事。恐らく新米。ゆき先生の家の隣に住んでいるという。美空神社に出没する「美人だけを狙うスリ」を現行犯逮捕するため，ゆき先生を囮にカップルを装って夏祭りに現れた。が，装ってるわりに尾行する関先生や3人からは十分楽しそうに見えた。その後のスリとの追走劇は第1章第29話の項を参照（p14)。関先生の「囮とか何とか言っちゃって，口実作って，ゆき先生とデートしたかっただけなんじゃないのかい?」との言葉には，彼は赤くなりながら笑うだけだったのだが，3人や関先生が笑うのはいいとして，ゆき先生も笑っていたのは哀しいような…。

ゆ

【ゆき先生】



(声)今井由香 [1-2, 6, 10-11, 13, 15, 18, 26, 29, 28.5] (登)[33, 47]

美空市立第一小学校の保健室の先生。名前はゆきえ，かもしれない。保健室で生徒たちの面倒をみてくれるほか，相談にものってくれる。ケガや病気で保健室に来た生徒は，足のケガの真樹（第1話)，額のケガのどれみ（第1話)，発熱の木村たかお（第11話)，失神

(?) のどれみ（第13話），仮病のどれみ姿のドド（第15話），捻挫の飯田かなえ（第26話）など。また，はづきを怒らせてしまったと悩むどれみには，幸せかどうかは人それぞれ違うもの（第2話），信子が許せないあいこには，信子は何故そんなウソをついたのかを考えて（第6話），試験に落ちる夢で苦しむどれみには，逆夢と思おう（第13話），と助言。他，ななこの動物嫌いをなんとかしようと思う3人に知恵を貸していた（第18話）。独身どうし，関先生とは友人らしく，関先生が3人と共にバイト問題の決着がついて校長室から出てきたときにVサインを返されていたし（第10話），「お互い彼氏ができたら紹介するって約束だった」（関先生; 第29話）らしい。…とまぁ，OPにも出てくるレギュラーキャラではあるのだろうが，比較的目立っていた夏祭りの囮捜査の話（第29話）を最後に，第33話は運動会で，第47話はアバンタイトルの新年挨拶で登場はしているものの，物語には全く絡まなくなってしまった。これは話がすすむごとに3人の魔法が強くなり，また人間的にも成長して，悩みや問題を自分たちで解決してしまうようになってしまったからであろうか。

よ

【横川信子】



(声)堂ノ脇恭子 [6, 30, 50, 28.5] (登)[1, 3, 10, 15, 17, 21, 24, 29, 32-33, 38-39, 42-43, 47-48, 51]

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。「天才ほら吹き」（どれみ; 第6話）で，いつもしょーもないウソをついているのだが，そのウソは妙に細かくて面白い（個人的に）。周囲はもうそれに慣れていて，どれみやはづきに至っては楽しむ余裕もあるようだ。ところが転校したてのあいこはそうとは知らず…という話は第1章第6話の項を参照（p5）。ウソか聞き違いかははっきりしないが，どれみたちが魔女だという噂の電話は，彼女を境に何故か「監禁」という要素が入っていった（しかも「どれみたちが魔女を監禁している」という; 第50話）。また，その溢れんばかりの想像力を活かし，「少年探偵縦川信夫」なる私的小説を書いている（第6話）。夏休みに山内寺で行われた肝試しの途中，ペアのあいこに「少年探偵縦川も，遂に最終章に突入」で，ラストは「燃えて泣ける展開になる」と言っていた（第30話）。ひょっとしてこれもウソかもしれないが，相手はあいこだし，かのメロスも「人を疑うことは良くないことだ」と言っている。信じようではないか。

【横川信子の祖父】



(声)*[6]

横川信子の祖父（?）。信子は「ニンジンだけは食べるなってお祖父さんの代から言われてる」らしい。というのは，彼が若かった頃のある寒い冬の夜，彼の家を訪ねてきた若い女の人にニンジン鍋をご馳走しようとしたら…「ごめんなさい，私，ニンジン食べられないんです」「そんな! 何故なんです?」「だって私，ニンジンなんです! あなたのような優しい方に食べられるなら本望です! さぁ，私を食べてください!」「そ，そんなことできるわけないじゃないか!」「あぁ，あなたはなんて優しいの!」…ということがあり，その後「二人は幸せに暮らし」た，ということがあったらしい（第6話）。信子の話によれば。

【横川信子の祖母】



(声)*[6]

横川信子の祖母（?）。ニンジンらしい（第6話）。信子の話によれば。「ふーん。それじゃ，横川さんの祖母さんってニンジンなんだ」「!! まぁ，そういう言い方もできるわねぇ…♪」「すごいなぁ」（谷山，横川，谷山; 第6話）その理由は【横川信子の祖父】の項を参照。

【横川信子の父】

(登)[6]

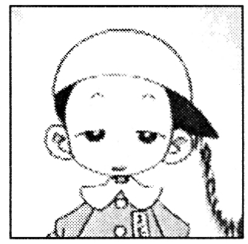
横川信子の父（?）。有名な冒険家で，「アンコール遺跡の謎を解き明かすため，カンボジアに向かったんだけど…ジャングルに入っていく日本人を見たっていう情報を最後に，お父さんは消息を絶ったわ…。生きてるかどうかはっきりしない」らしい。信子の話によれば。が，どれみは元気だと言っていて，はづきはこの間の授業参観にも来ていたと言っている（第6話）。

【横川信子の母】

(登)[(6)]

横川信子の母（?）。テレビ局に勤めていて，かなり偉いらしい。アイドルグループ・ステッキの，ゆたかは，彼女のおかげでデビューできたらしい。その時，信子も一緒にどう? という話もあったらしい。信子の話によれば。

【よしひこ】

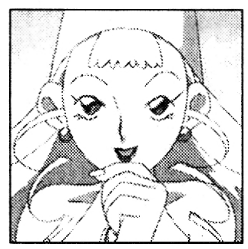


(声)水樹洵［(12,)15, 25, 45］(登)[24, 28, 50]

ソナチネ幼稚園在籍。ぽっぷのクラスメイト。ぽっぷちゃん親衛隊隊員。親衛隊として，ぽっぷがピンチのときは駆けつけ（第15話），サンタ捜査隊として，ぽっぷと共に町内を捜し回る（第45話）。春風邸でのぽっぷのパーティーに参加（第12話）。そこで同じ親衛隊のみさきの兄を，「でも補欠じゃん」と笑っていた。他，幼稚園バス（第24話），幼稚園でのお泊まり会（第25話），ぽっぷの夏休みのデートの予定（第28話）に登場。ただし，親衛隊の中では彼だけがぽっぷが店番をするMAHO堂の夜店に現れていない（第29話）。また，1級試験中のおんぷへのサインくれ集団の中にもいた（第50話）。なお，第12回では水樹洵が《レレ》でクレジットされていたので，《よしひこ》はクレジットされていなかった。

ら

【ララ】



(声)高村めぐみ [1-10, 12-41, 45-47, 50-51, 28.5] (登)[42]

妖精。マジョリカのお供。彼女の役割を言うのは簡単で，マジョリカの良き理解者であり，3人の良き理解者でもある。物語的にも，強烈な存在感はないが決して不必要な存在ではない，言わば潤滑油のような存在である。が，ホントそれだけで，キャラクターというものがほとんど見つからない。とりあえず，猫に変身できて（第15,22,24,33,35話），「ナイス・バディの美女!」（オヤジーデ; 第27話）で，テニスがマジョリカより上手くて（第28話），一番欲しいものは「魔女界エステサロンのチケット」（第31話）ということは分かった。そう言えば謎の天才魔女見習いの噂もエステで聞いたと言っていた（第35話）。しかし，全話通して彼女が最もキャラクターを出したと言えるのは，へへの「おばさん」発言にキレた第47話だろう。いや，意外な一面，なのかもしれないが。それにしても，妖精は魔女が育てるものという（第9話）が，マジョリカが育ててどーしてこんなに丸い性格になるのか，不思議なところではある。

り

【りえ】



(声)*?[25] (登)[15, 24]

ソナチネ幼稚園在籍。ぽっぷのクラスメイト。ぽっぷのお友達のひとり。「プニュちゃん」争奪戦（第15話），プールに行く園児達（第24話）のカットにちらっと登場。お泊まり会でぽっぷの布団を誘致した女子5人のなかのひとり（第25話）。このカットの名札に《りえ》とあることから名前が判明。

る

第二章 キャラクター解説

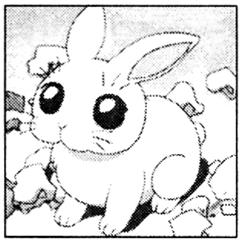
【るる】



(声)＊[18]

犬。岡田ななこが5歳の誕生日に両親にプレゼントされた犬で，「雨の日も，雪の日も，ななこちゃんは毎日散歩に連れていったし，餌の世話もひとりでしてあげてたんだけど，2年前の夏の日」（桜の木），ななこが投げた棒を追ったところでトラックにひかれて亡くなったという。犬小屋に《るるのいえ》とあるから「るる」とした。

【ルル】

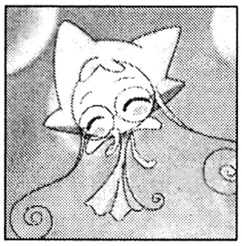


(声)＊[18]

兎。3人が岡田ななこに動物嫌いを治してもらおうと，かつて彼女が買っていた犬の「るる」と同じ名前をつけて彼女に預からせた（第18話）。本誌では「るる」と区別するために「ルル」と表記してある。

れ

【レレ】

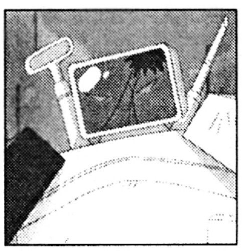


(声)水樹洵［7-9, 11-12, 16-18, 20, 23, 26, 29, 36-37, 40, 47, 51, 28.5］(登)［10, 22, 27, 32, 42-43, 50］

妖精。はづきのお供。9級試験合格時にはづきがもらった（第7話）。他の魔女見習いの妖精同様，主人の姿になることができる（第8,36話）。はっきり言って，とりあえずはづきに似て（?）おとなしそうだ，ということくらいしか劇中では分からない。活躍した話を敢えて挙げれば，どれみと長谷川クンを盛り上げようと奮闘した第16話，主人と組んで受けた4級試験の第36話，それにまりなを心配するはづき，を心配する第11話ぐらいか。結局他の妖精同様，その登場回数ほどの存在感はなかった。…あまりに書くことがないので，ここで少し「どれみ」声優陣・掛け持ち状況について書く。全話通して複数のキャラを掛け持ちする声優は多いが，レレ役の水樹洵はその筆頭で，よしひこ（第15,25,45話），柏木豊（第28話），林りょうた（第38,42話），沢田みか（第39話）とタイプの違う声を数多く演じている。他にも斉藤祐子，宮下富美子，松本美和，サエキトモはレギュラー・準レギュラー級のキャラを掛け持ちしている。詳しくは本誌付録A「STAFF DATA」を参照されたい（p88）。

ろ

【ロボ太】



(登)[24]

マジョルカが魔法で出した粗大ゴミで構成されるロボット。劇中では名もなきロボットだったが，『マジカルガイド』には《ロボ太》，『AX BOOK 1』には《ロボ太くん》とある。起動時には顔に(^o^)と表示される。はづきやあいこの魔法を跳ね返すなど，なかなか強かったが最後は3人の連携プレーによって巨大掃除機の中へ吸い込まれていった（第24話）。

【ロロ】

(登)[(36, 51)]

妖精。おんぷのお供。劇中では存在は言われたものの，登場はしてない。おんぷが連れているところを見たことがないのは，「ああ，わたしたちお互い好きにやってるから。今頃テレビでも見てるんじゃないかなぁ」（おんぷ; 第36話）ということらしい。また，第51話でマジョリカや妖精たちが魔女界へ帰るとき，「ロロも後で連れに行くわね」とララが言っていた。それにしても，おんぷが倒れて入院しているときもテレビを見ていたのだろうか。

わ

【渡部みちあき】



(声)山崎剛［46］(登)[3, 6, 11, 13, 15, 17, 21, 24, 29, 32-33, 35-36, 38, 43-44, 47, 49]

美空市立第一小学校3年2組在籍。どれみのクラスメイト。マジックはマジックでも，魔法ではなく手品を得意とするマジシャン。家は文房具屋「ヒヨコ文具店」。『AX BOOK 1』『マジカルガイド』ともに彼の家を《エンターテインメント一家》と形容しているが，父親はともかく母親もエンターテイナーかは不明。手品も「手品とは束の間の奇蹟」という決め台詞も父の直伝で，そんな父の代わりを務めたマジックショーに3人が首を突っ込んで…という話は第1章第46話の項を参照（p22）。

【渡部みちあきの父】



(声)上別府仁資［46］

渡部みちあきの父。「ヒヨコ文具店」店主（多分）。みちあきの手品テクニックや性格は彼譲りらしい。『全31人』『マジカルガイド』には彼が《会社の宴会部長》との記述があるが，この文具店は自営業っぽいぞ。それはともかくエンターテイナーであることに違いはなく，美空商店会が主催している毎年恒例のマジックショーに出ているらしい。が，今年はぎっくり腰で出られなくなって息子に任せていた（第46話）。ところで店番もみちあきがやっていたのだが，母親はどーしたのだろう。

検証?『おジャ魔女たちの魔法の使い道』

1. 概要

「一緒に修行して魔女になろうよ! そうすれば，どんな魔法だって使えて，何でもできるんだよ!」どれみは，はづきとあいこにそう言った。そして3人はそれぞれの考えで魔女見習いになることを選ぶ。しかし，果たして彼女たちは実際はどんなことに魔法を使ってきたのだろうか。ここでは，ぽっぷやおんぷも含め，おジャ魔女たちが全52話（CDドラマを含む）を通して魔法で何を願ってきたのかを検証していきたい。

2. 表の見方

表2.1はおジャ魔女たちが使った魔法を使用順に示してある。「話」の列は話数を示している。「ど」「は」「あ」「ぽ」「お」の列が空欄でなければ，それぞれどれみ，はづき，あいこ，ぽっぷ，おんぷがその魔法を使用したことを示し，数字は使用回数の累計である。マジカルステージは数字の前に「M」をつけ，個別にカウントしてある。「魔法」の列は願いの内容で，（不明）とあるのは願いを視聴者に分かるように言っていない場合である。「状況」は簡単な状況説明である。あまり説明になってないのもあるが。

話	ど	は	あ	ぽ	お	魔法	状況
1	1					「ビッグなステーキよ，出ろ!!」	どれみは早速魔法で…
1	2					「もっと，もっと，もっと大きくなれ～!!」	魔法で出したステーキに感動。さらなる欲求が…
1	3					「時間よ，止まれ!!」	五十嵐先輩が危ない!
1	4					「時間よ，止まれ!!」	また五十嵐先輩が危ない!
2	5					「はづきちゃんがどれみちゃんになる!」	はづきはどれみの家の子になりたいと言って…
2	6					「はづきちゃんになれ!」	代わりにどれみがはづきになって…
3	7					「チョウチョになーれ!!」	転校生あいこが気になって尾行しようと…
3	8					「あいちゃんのお父さんが二人になーれ」	あいこの父をなんとか授業参観に出席させようと…
4	9					「食べ損ねたステーキよ，出ろ!」	はづきとあいこのお手本を示そうと…
4			1			「たこ焼きよ～，出ろ～」	あいこは早速魔法で…
4			2			「たこ焼き，（マジョリカの叫びで聞き取れず）」	『焼きだこ』が出てきたからもう一度…
4		1				「ねずみさんが動くようになれ!」	はづきはまず簡単な魔法から…
4	10					「なんでもいいから動いちゃえ!!」	甲冑が動き出して，店はメチャメチャに…
5	11					「砂よ，固まれ!」	廃倉庫の穴に落ちた小竹とパルに砂が流れて…
5	12					「縄よ，下りてこい!」	ロープを使って小竹とパルを助けようと…
5	13					「なんでもいいから小竹を助けて!」	するとドラム缶とタイヤが穴の中に落ちていって…
6			3			「少年探偵縦川になれ!」	横川信子に話をつけようとするあいこにはづきは…
6	14					「忠犬どれみになれ!」	横川信子に話をつけようとするあいこにはづきは…
6		2				「はづき博士になれ!」	横川信子に話をつけようとするあいこにはづきは…
7			4			「尻尾のない鯛焼き，出てこ～い!」	目指せ9級試験合格。練習あるのみ
7		3				「いちごのないショートケーキ，出てきて!」	目指せ9級試験合格。練習あるのみ
7	15					「あいちゃんになーれ!」	ぽっぷ尾行のため，あいこに変身するのだが…
7	16					「これで，どうだ!」	おまんじゅう屋への道に迷うぽっぷにどれみは…
7	17					「100円玉2つ，ぽっぷのお財布に移動して!!」	大福が値上がりして，お金が足りないので…
7		4				「四角いハンバーガー，出てきて!」	目指せ9級試験合格。当日練習
7			5			「三日月形のオムライス，出てこ～い!」	目指せ9級試験合格。当日練習
7	18					（不明）	トイレに間に合わなかったぽっぷを見て…
7			6			「四角いたこ焼き，出てこ～い!」	9級試験。モタとモタモタの出題。合格
7		5				「3段重ねのプリン，出て!」	9級試験。モタとモタモタの出題。合格
7	19					「出てこーい」	9級試験。「世界一おいしいのを想像したら…」
8	20					「月見うどん，出ろ!」	追試へ向けて練習。出てきたのは目玉焼き
8	21					「力うどん，出ろ!」	追試へ向けて練習。出てきたのは力強そうな腕の像
8	22					「うどん，出ろ!」	追試へ向けて練習。出てきたのはふとん
8	23	6	7			「小さくな～れ!」	魔女の野原への近道は小さなトンネルだったので…
9	M1					「豪華なパーティ料理をお願い!」	どれみの9級合格祝賀パーティーで…
9	M2					「ドドを見つける道具よ，出てきて!」	出てきたのは「焼き芋」。失敗かと思いきや…
10		7				「どれみちゃんがおばあちゃんになれ!」	お婆さんを演じていたデラが帰ってしまったので…
10	24					「はづきちゃんがおばあさんになれ!」	はづきの魔法が解けてしまったので，今度は…
10	25					「はづきちゃんがおばあさんになれ!」	失敗しておっさんになってしまったので…
10			8			「おばあちゃんになれー!」	失敗続きのどれみに呆れたあいこは…
11		8				「わたしの演奏を聴いてくれるお客さん達，出てきて!」	バイオリンの発表会のために，朝早く登校して…
11		9				「雨も風もやんで!」	花壇を嵐から守ろうとするが…無理だった
11		10				「ビニールハウス出てこ～い!」	天気を変えられないのであれば…。が，すぐに消滅
11	M3					「お願い! この花を守って!」	困っているはづきにどれみとあいこが助けに来て…
12	M4					「だいち君を試合に出したい!」	犬の鳴き声が聞こえるだけで，失敗かと思ったら…
13	26	11	9			（不明）	おばけを撃退するため，3人ものっぺらぼうに…
13	27		10			「はづきちゃんになれー!」	8級試験。算数のテストをクリアしようと…
13	M5					「八太郎さんとスルメ子さんを会わせてあげて!」	赤い糸で結ばれた浮き輪が出てきて…
14		12				「絵のようなドレスに，なれー!」	奥山が絵に描いたワンピースをはづきの洋服から…
14	M6					「SOSトリオのギャグを面白くして!」	SOSが奥山を笑わすのは絶望的なので…
15	28					「枝よ，折れるな!」	ぽっぷときみたかの登った木の枝が折れそうで…

表2.1 (a):全使用魔法

話	ど	は	あ	ぽ	お	魔法	状況
16			11			「釣り竿，出てこーい!」	キャンプのための釣りの練習をしようと準備して…
16	29					「魚の入った，水槽になれ!」	バケツは巨大化して亀裂が入り…
16		13				(不明)	長谷川の針にかかったドドは鯉のぼりに…
16		14	12			(不明)	どれみと長谷川のムードを高めようと♡の花火を…
17	M7					「矢田くんが何をしてたか，教えて!」	ビデオのリモコンのようなものが落ちてきて…
18	30					「このお花と話せるように，なれー!」	7級になって植物と本当に話せるのか，試しに…
18	M8					「ななこちゃんが動物嫌いになったわけを教えて!」	以前は動物が好きだった岡田ななこが気になって…
18	31					「桜の木と話せるように，なれー!」	岡田家には誰もいなかったので…
18		15				「うさぎさんの怪我よ，治れ!」	はづきは全ての責任を感じて，禁断の魔法を…
19			13			「一千万円，出てこーい!」	一千万円札(?)が出てきて消えた
19	32					「一千万円，出ろー!」	100円玉が10万枚(?)出てきた
19	33		14			「おまわりさんになれー!」	あいこは成功するが，どれみはパトカーになって…
19	34					「時間よ，止まれー!」	時間は止まったが車のドアに鍵がかかってて…
19			15			(不明)	パパイヤ兄弟の車は自転車に…
19	35					(不明)	パパイヤ兄弟の車は戦車に…
19			16			(不明)	パパイヤ兄弟の車は駕籠に…
19	36					「お願い，止まれー!」	パパイヤ兄弟の車はトマトの客車を牽く馬車に…
19			17			「誘拐犯を懲らしめてー!」	パパイヤ兄弟は木のてっぺんに…
19		16				「お願い! パパイヤ兄弟さんを助けて!」	魔法が使えるようになったはづきは…
20	37	17	18			「男の子になれー!」	元祖MAHO堂に潜入捜査するため客を装って…
21	M9					「みんなが買ったマジョルカの魔法グッズよ，力を失え!」	グッズで具合の悪くなった玉木たちを救うため…
22		18				(不明)	元祖MAHO堂の灯りを消すが…
22			19			(不明)	元祖MAHO堂に雨を降らすが…
22	38					「チョウチョよ，出ろ!」	マジョルカはチョウチョが苦手だと言うので…
22	M10					「店員さんたちの正体を暴いて!」	チーズと虫が出てきて…
22	39					「おいしいケーキになれ!」	ばあやはケーキを作り直すと言うので…
22			20			「はづきちゃん家の庭，きれいになれー!」	ばあやは庭の芝刈りをやると言うので…
22		19				(不明)	ばあやが階段のほこりが気になると言うので…
22	M11					「ばあやさんを助けて!」	窓拭きするばあやが足を滑らせて…
23	40					「3人とも，ゴキブリになれ!」	再び元祖MAHO堂へ侵入するため…
24	41					「マジョルカの水晶玉，出てこい!」	ゴミ処理場からマジョルカの水晶玉を探そうと…
24	42					「マジョルカの苦手な物，出てこい!」	「誰でも寒がる オヤジギャグ辞典」が出てきて…
24		20				「ロボットよ，凍れ!」	マジョルカの魔法で出たロボットには効かなかった
24			21			「ロボットよ，小さくなれー!」	マジョルカの魔法で出たロボットには効かなかった
24	43					「掃除機，出てこーい!」	マジョリカのヒントによる，3人の連係プレー
24		21				「掃除機，大きくなれ!」	マジョリカのヒントによる，3人の連係プレー
24			22			「そんでもって，ロボットを吸い込んでしまえー!」	マジョリカのヒントによる，3人の連係プレー
24	M12					「マジョルカの魔法グッズから，魔力よ，消えて!」	マジョルカはグッズの魔力を消さずに去ったので…
25				1		「大きなプリンよ，出てこーい!」	中庭でぽっぷの魔法の練習
25				2		「おばけよ，出てこーい!」	きみたかを懲らしめようと…
25				3		「戻ってこーい!」	おばけはトイレから出てきてしまったので…
25				4		「あっちへ行け～!」	戻ってきたおばけ。今度はぽっぷが追われて…
25	M13					「みんなを眠らせて!」	おばけで夜の幼稚園は大騒ぎ。助けに来た3人は…
25				5		「おばけよ，消えろ!!」	落ち込む妹に姉は励ます。ぽっぷは…
26	M14					「バッドカードよ，出てこーい!」	ピュアレーヌの称号を賜った3人は招き猫から…
27		22				「新しい監督グッズ，出てきて!」	撮影機材は全て×。残りははづきのパパの…
27	44	23	23			「蛍にな～れ!」	撮影中の女優の身につけている物を鑑定しようと…
28	M15					「バッドカードよ，出てこーい!」	柏木クンのロッカーからバッドアイテムが…
28.5	45					「あたしが看護婦さんになったらどうなるか，教えて!」	どれみには看護婦は無理だと言うので…
28.5		24				「わたしが女子プロレスラーになったら，どうなるか教えて!」	はづきも将来を試してみることに
28.5	M16					「美味しいオムレツ，出てきて!」	オムレツを作り直そうとしたら卵がないので…
28.5			24			「あたしが刑事になったらどうなるか，教えて!」	あいこも将来を試してみることに
29			25			「時間よ，止まれ～!」	どれみのタップを盗んだらしいスリを発見して…
29		25				「どれみちゃんも，犬になれー!」	どれみの見習い服を着た犬が逃走するので…
29		26				「馬に，なれー!」	スリはその犬をかごに乗せたまま逃走するので…
30	M17					「山内くんを，お祖父さんの幽霊に会わせて上げて!」	後ろの片足が欠けた竹細工の馬が落ちてきて…
31	M18					「タミラくんの欲しい物，教えて!」	マジカルステージ消滅。魔法玉も全て無くなって…
32			26			「まさはる印の選挙グッズ，出てこーい!」	玉木Tシャツに対抗。大漁旗が出てきて…
32		27				「華麗でカッコいい服，出てきて!」	黄金のマイクとくす玉に対抗。白馬の騎士の服が…
32	46					「まさはるくんのプロモーション・ビデオ，出てこーい!」	玉木プロモビデオに対抗。が，その内容は…

表 2.1 (b):全使用魔法

話	ど	は	あ	ぽ	お	魔法	状況
33				6		「森よ，開けー!」	ピュアレーヌパソコンを取りに行く途中…
33	M19					「バッドカードよ，出てこーい!」	運動会のトラブルの原因は白線引きだと分かって…
34	M20					「あいちゃんのお母さんの勤め先を教えて!」	ベンチが落ちてきて，座っていると…
35	47					「かぐや姫に，なれーっ!」	最終審査は自分の好きな衣装で芝居をするので…
35					1	「審査員の皆さん，全員わたしに投票して!」	「…なんちゃって。そんな魔法が使えたらいいな」
36		28				「壁に穴よ，開け!」	4級試験の障害物競走。第一の関門は壁
37	M21					「遊園地に連れていって!」	魔女ガエルたちの要求をなんとかしようと…
38	M22					「りょうたくんをなんとかしてあげて!」	怪獣の咆吼が聞こえただけで変わらないようだが…
39					2	「誰か他の子を好きになーれ!」	樋口秀三に魔女見習い姿を見られたおんぷは…
39	M23					「関係者全員集合!」	樋口兄妹と沢田みかを集めて事態の収拾に乗り出す
40				7		「コーヒーよ，出てこい!」	今夜こそ寝ないで，試験を受けようとするのだが…
40			27			「泉の中の扉よ，出てこーい!」	金でも銀でもない普通の扉は泉の中にあると言う
40			28			「冷たい水よ，出てこーい!」	砂漠の魔女は水が欲しいと。魔法は2回までだが…
41	48					「時間よ，止まれ!」	谷山の対局中に角行を持ち出して…
41	M24					「バッドカードよ，出てこーい!」	谷山の持ち駒，角行がバッドアイテムだったので…
42					3	「教頭先生，わたしを許して!」	指導室で教頭に説教くらうおんぷは…
42					4	「ママが外食に行く気になーれ!」	今日のおかずは青椒肉糸。ピーマンは嫌いだから…
42	M25					「ケンカをとめて!」	天野や橋本たちのケンカを魔法でとめようと…
43	M26					「玉木としおりちゃんがどこにいるか教えて!」	落ちてきた方位磁石は2人がいる方向を示して…
43	49					「3人がゴキブリになれ!」	発熱した中山。玉木を援護すべく潜入しようと…
43			29			「電気よ，つけ!」	玉木の別荘は電気が切られていたが…
43		29				「水道も，出て!」	玉木の別荘は水道も切られていたが…
43	50					「暖炉よ，燃えろ!」	玉木の別荘は暖炉も消えていたが…
43	51					「打ち上げ花火よ，上がれー!」	玉木親子の決着の手伝いをしようと…
43	52	30	30			(不明)	玉木親子のために，打ち上げ花火をたくさん上げる
44	M27					「バッドカードよ，出てこーい!」	バッドアイテムは工藤のキャンディ伊藤フィギュア
45	M28					「サンタさんたちを助けて!」	プレゼント製造機が故障してしまったというので…
45					5	「プレゼントよ，袋に，入って!」	手作業で仕分けをしている3人におんぷが来て…
46	53					「帽子からハトよ，出てこーい!」	マジックショー，ハットから鳩が逃げ出していて…
46	54					(不明)	今度は，ハットから旗が引っかかって…
46	55					「水よ，出てこーい!」	今度は，扇子から水が出なくて…
47	56					「お盆よ，傾け!」	ウエイトレスのサンデーがあいこの父にかかって…
47		31				「寒いギャグよ，出てこーい!」	はづきと肝心のみどりさんはウケてしまって…
47			31			「池の鯉，全部はねろー!」	あいこの父とみどりさんのムードを壊そうと…
48	57					「おんぷちゃんのマネージャーになれ!」	集まったおんぷのファンたちを落ち着かせるため…
48		32				「ガードマンに，なれ!」	どれみに続いてはづきも…
48	M29					「バッドカードよ，出てこーい!」	中田が投げ捨てたCD-ROMは妖しく光って…
49					6	「かれんちゃんのあがり症を，治して!」	舞台で固まっている森野かれんにおんぷは…
49	M30					「おんぷちゃんを，お父さんの寝台特急に乗せてあげて!」	魔法玉がもうないというおんぷのために3人は…
50	58					「おじさんの降りるところまで，帽子よ，飛んでけー!」	1級試験。帽子を椅子に置いてバスに乗ったので…
50			32			「乳母車よ，止まれ!」	1級試験。乳母車が階段を落ちていくのを見て…
50					7	「ペロペロキャンディーよ，出てきて!」	1級試験。母に駄駄を捏ねる子供を見て…
50	59					「あのキツネを助けて!」	1級試験。川で溺れる子ギツネを見たどれみは…
50		33				「たき火よ，出て!」	1級試験。震える子ギツネを見たはづきは…
50			33			「タオルよ，出ろー!」	1級試験。震える子ギツネを見たあいこは…
50					8	「ミルクよ，出ろ!」	1級試験。何かを求める子ギツネを見たおんぷは…
51					9	「みんなの今日の記憶，消えろ!」	玉木は今にも魔女と言わんばかり。このままでは…
51	60					「マジョリカよ，元の姿に，戻れー!」	マジョリカは早く元の姿に戻せと言うので…
51			34			「3人ともチョウチョになれーっ!」	おんぷの入院先には報道陣が詰めかけていて…
51		34				「時間よ，止まれ!」	おんぷを病院から連れ出すため，はづきは…
51	M31			8		「おんぷちゃんの眠りを覚まして!」	3人は，魔女をやめ，おんぷを助けることを選ぶ

表2.1 (c):全使用魔法

3. 考察

表2.2に，それぞれの魔法の使用回数と，魔女見習いであった期間，及び平均の使用回数を示す。回数と平均の列のカッコ内はマジカルステージを除いたものである。また，ぽっぷとおんぷは魔女見習いであった期間に必ずしも登場しているわけではない。

この表から，どれみは主人公だけあって合計，平均とも群を抜いて使用回数が多いことが分かる。また，はづきとあいこが結果として等しいのも興味深い。

4. 結論

以上の考察より，最も魔法玉を無駄遣いしているのはやはりどれみである可能性が示唆された。マジョリカの苦労が偲ばれる。検証の目的とあまり関係のない結論なのは気のせいだろう。

使用者	回数	期間	平均
どれみ	91(60)	52	1.75(1.15)
はづき	65(34)	49	1.33(0.69)
あいこ	65(34)	49	1.33(0.69)
ぽっぷ	8	28	0.29
おんぷ	9	18	0.50

表2.2:全魔法使用回数

第3章
用語解説

凡例

1. 概要

1.1. 本章は「おジャ魔女どれみ」に登場した，或いは強い関連を持つ用語を独自に選抜し，解説するものである。

2. 構成

2.1. 本章は選抜した各用語の解説で構成され，各項は見出し語，意味，図，参照先で構成される。ただし，見出し語は1つであり，意味は1つ以上，図と参照先は任意の数が存在する。

3. 諸注意

3.1. 各用語の順番は一般的な国語辞典と同様の五十音順にならっている。

3.2. 見出し語にはルビを振り，【 】で括ってある。

3.3. 図には番号を振ってある。本文では図の参照先をこの番号を以て指示している。

3.4. その用語に関連する用語を ▶ 以降に示し，その用語と記載されているページ数を付記してある。

3.5. 意味はありとあらゆるものを集めてある。あまり意味のない意味もあるが，意味のない意味は意味がないところに意味があるというものである。まぁ，つまり，あまり深く考えない方が身のためということですな。

あ

【あいちゃんのおばさんのいとこのおばあちゃん】

1. 実在するかどうかはさておき，妹尾あいこのおばのいとこの祖母。法的な関係は，「おばさんのいとこ」の実親であり，なおかつ「おばさんのいとこのおばあちゃん」の実子でもある人が，あいこの祖父母のどちらかと実の兄弟である場合とそうでない場合とで状況が異なる。前者はあいこと直系血族になっている場合で，要するに曾祖母のことであり，あいこにとっては3親等の直系尊属である。後者はあいこと傍系姻族になっている場合で，あいこにとっては5親等の傍系尊属ということになる。民法では6親等内の血族，配偶者，3親等内の姻族を親族とするので，あいこにとって前者は親族であるが後者は親族ではない。
2. 3人がMAHO堂で働いていることを小竹にツッコまれたときの，どれみのとっさに出た言い訳におけるMAHO堂のオーナー。「それより，おまえたち，バイトなんかしていーのかよ? 先生に言いつけるぞ!」「ばばば，バイトなんかじゃないよ!♪ ここはあいちゃんのおばさんのいとこのおばあちゃんの，お店であたしたち，ちょっと手伝ってるだけで…♪」（小竹，どれみ; 第5話）先生にバレたときも3人の魔法でなんとかおばあちゃんを演じたが，関先生には魔法はともかく他人であるとは見破られた（第10話）。

【愛（あい）のささやき】

1. 映画の題名。純愛ロマンらしい。「今度，パパの会社がスポンサーになって，映画を作ることになりましたの。当然ヒロインはわたし。玉木麗香，華麗に銀幕デビュ～!」（玉木; 第35話）が，結局オーディションではおんぷが合格した。なお，オーディションの会場の舞台には，《主催 テレビよしおか ABC-TV》とあった。

【青空小学校（あおぞらしょうがっこう）】

1. 小竹や木村たちが所属する美空小サッカー部の試合相手校。ただし，小竹が「あおぞらしょうがっこう」と言っているだけで漢字がこれで正しいかは不明。「この前ボロ負けしたところ」（どれみ）で，第38話でも14対1で負けていた。
2. 霧隠虎太郎，流崎力哉，風祭鷹介らガンバーチームの通う小学校。彼らは4年1組。ガンバーチームはガンバーコマンダーによってイエローガンバー，レッドガンバー，ブルーガンバーに変身し，ガンバルガーを駆使して大魔界から地球を守る。しかし3人はヤミノリウスの呪いによって，その正体がバレると魔女ガエル…ではなく犬になってしまう。

【青空荘（あおぞらそう）】

1. あいこの母，岡村あつ子が住むアパート。町名は不明だが，3の15で，3号室。大阪府阪南市内にあり，ぴちぴちビーチの近くにあると思われる（第34話）。
2. とは言え，ぴちぴちビーチ付近は瓦葺きの一軒家ばかりで，国道26号あたりまで出ないとなかなかアパートらしい建物は見あたらなかった。国道26号からぴちぴちビーチまでの距離も結構あるので，ここからビーチまで走るあいこや，それ追うどれみやはづきは大変だったろう。

▶阪南市（p71），ぴちぴちビーチ（p71）

【ASATSU-DK（アサツー ディケイ）】

1. 株式会社アサツー ディ・ケイ。広告代理店。資本金約376億円，従業員数2,038人（1999年12月）。代表取締役社長は多氣田力。1956年設立の株式会社旭通信社と51年設立の第一企画株式会社（設立当初の社名は第一企画宣伝株式会社）が99年に合併して誕生した会社で，社名もこの両社のローマ字表記に由来する。雑誌，新聞，ラジオ，テレビ，映画などほとんどの広告業務を取り扱い，広告の企画・制作も行うほか，マーケティングから各種イベントの企画立案，出版，映像の企画制作，観光などまで非常に幅広い事業を行っている。
2. テレビアニメ「おジャ魔女どれみ」の制作会社の一つ。現代の大手広告代理店は広告商品のマーケティング全体に関与する総合マーケティングエージェンシーとしての色彩が強く，「どれみ」に関しても番組中のCMを扱うのはもちろんのこと，キャラクタービジネスとしての「おジャ魔女どれみ」全体に企画段階から関わっていると思われる。

第三章 用語解説

3. 佐川祐子（「まじかる☆タルるートくん」プロデューサー），杉山豊（「こちら葛飾区亀有公園前派出所」企画）が務める会社。しょーもないギャグで周囲を寒がらせている，わけではない。

【あたり前田のクラッカー】

1. 1962年放映開始のテレビ番組「てなもんや三度笠」の中で藤田まことが言う有名なセリフ。この番組は公開舞台ものコメディーで，あんかけの時次郎（藤田まこと）と珍念（白木みのる）のコンビが珍道中を繰り広げるというもの。その劇中で藤田まことが立回りをし，「おれがこんなに強いのも，あたり前田のクラッカー」と見得をきってスポンサーである前田製菓の劇中コマーシャルをした。番組自体がキー局のABCで最高64.8%という高視聴率を記録した人気番組だったこともあり，このセリフは当時の子供たちの間で大流行した。
2. 解説の妹尾さんがビューティーマスクに言った言葉。「ブーブーうるさいですわね。いい? 今日もしわたくしが負けたら，このマスクを取ってもよろしいわよ。ま，負けないからそれはぜーったいないけど」「おーっと，急に水をうったように会場が静かになったと思ったら!?」〈会場笑う〉「何がおかしいのよ!」「あたり前田のクラッカーやん! あんたの正体なんか，もうみんな知ってんねん」（ビューティーマスク，春風実況アナ，ビューティーマスク，妹尾解説員; 第28.5話）

【アホの坂田】

1. 吉本のお笑い芸人・坂田利夫の俗称。坂田利夫は本名・地神利夫，1941年大阪に生まれる。此花学院高卒業後，吉本新喜劇の研究生となる。68年同劇団の前田五郎と漫才コンビ「コメディNo.1」を結成，70年にはラジオ大阪の第5回上方漫才大賞で新人賞を受賞。ふらふらとした滑稽な仕草で歩く，いわゆる「アホ歩き」の芸が有名。テーマソングとも言える「アホの坂田」という歌があり，レコードも出ている。1997年の映画「平成名探偵・阪田京介」で主役を演じているほか，数本の映画に出演。CM多数。著書に『アホの坂田のアホだらけ』『アホの坂田のビッグバーンってなんでんねん?』がある。
2. 伝説の棋士「坂田三吉」とどれみが間違えた人物。「初段の教頭，ギャフンと言わせたんやろ? 大したもんや。将来はプロになって坂田三吉みたいになったりしてなぁ」「あ～りがと，さん」「それは『アホの坂田』」（あいこ，どれみ，あいこ; 第41話）

▶坂田三吉（p61）

【天の川】

1. 銀河とも。銀河系の円盤部の恒星が天球上に投影されたもので，数億以上の微光星の集団である。天球をほぼ1周する淡い帯のように見える。いて座の方向が銀河系の中心にあたり，天の川も最も太い。7月7日に牽牛星と織女星がこの川を渡って出会うという，いわゆる七夕伝説は有名。英語では Milky Way と言うが，これはギリシア神話の女神ヘラの乳がほとばしってできたという伝説に由来している。
2. 柏木豊クンと見る星空で見えたもの。「あれが，天の川」「ブルーベリー農園で星を見るなんて，ロマンチックぅ」（柏木，どれみ; 第28話）

【アメリカ大統領】

1. アメリカ合衆国における行政の最高責任者で，国家元首である。任期は4年で，4年おきの国民の直接選挙によって選出されるが，憲法修正22条によって3選は禁止されている。陸海空3軍の統帥権を持つ，国軍の最高司令官でもある。また行政府の長として官僚機構を統帥し，要職を含め多数の連邦官吏の任命権を持つ。ほかにも大統領拒否権や条約締結権（上院の同意が必要），行政協定締結権などの強大な権限を有する。任期途中の死亡・弾劾・辞職等の場合には副大統領・下院議長・上院議長代行・国務長官ほか行政各省長官の順で大統領権が継承される。初代アメリカ大統領はワシントン（George Washington）で，任1783-96年。現職（任1992-）はクリントン（William J. Clinton）で，第42代にあたる。20世紀を通してアメリカの国力が増大するのに伴ってその国際社会における地位は上昇した。パクス・アメリカーナにおける覇権国家アメリカの元首として，国際的に最も重要なポストの1つである。
2. 横川信子の友達の一人，らしい。彼女の話によれば。ちなみに，放映時はビル・クリントン。「この前は漫画家のうらかわみゆきのサインで」「その前はアメリカ大統領と友達だって言ってたけど，誰一人サインをもらってないもんね」（はづき，どれみ;第6話）
3. 日本では今や将来の夢は総理大臣という子供はなかなかいないが，アメリカでは将来の夢に大統領を挙げる子供はけっこういるそうな。そりゃあそうでしょう，だって日本の首相と違ってその気になれば世界征服できるもん。

【アルメス】

1. エルメス（HERMES フランス語）のパロディ。エルメスはパリに本社を置くエルメス社の高級ブランド。1837年にティエリ・エルメスがパリに高級馬具を製作する工房を開いたのが始まりで，王侯貴族や新興ブルジョワ階層を相手に高級馬具商として成功を納めた。20世紀に入り馬具の需要が減ると，馬具製作の技術を活かせる鞄やベルトなどの皮革製品，また女性用衣服を手掛けた。1930年代からは旅行用品や時計，宝飾品，香水，スカーフなどにも事業を拡大。1978年に就任した現社長のジャン・ルイ・デュマは食器類にも進出，さらに靴や銀製品を扱う他社を吸収合併するなど積極的な事業展開を見せている。ケリー，バーキン，ボリードといった女性用革製鞄は特に有名で人気も高い。日本では東京のエルメスジャポン社が扱っている。
2. 夏休みに行ったパリで玉木が買ったバッグのブランド。「わたくし，フランスのパリに行ってきましたの。これはアルメスのバッグ。お父様に買って頂いたのよ」（玉木; 第31話）
3. 玉木は注文して半年でバッグを買えたらしいが，エルメスは職人による伝統的な生産体制を堅持しているうえライセンス生産も行っていないので，現実には注文してから入手できるまで3～5年はかかるという。これはアルメスとエルメスの違いか。それとも玉木家の御令嬢の特権であろうか。
4. 「あなたを倒さねばシャアが死ぬ!」

【アンコール遺跡】

1. カンボジアのトンレ・サップ湖北方にある遺跡群の総称。アンコール朝時代クメール帝国のクメール人によって9～13世紀にかけて建築された。巨大な四面塔など特徴的な造形を持つ壮大な石造建築で有名。9世紀末にヤショバルマン王が建設した都城であるアンコール・トムと，12世紀初頭のスーリヤバルマン2世時代に完成した寺院建築のアンコール・ワットが中核をなす。クメール帝国の没落後は密林の中に埋もれていたが，1961年フランスの博物学者ムオが「発見」し，世界的に知られるようになる。1992年にはユネスコの世界遺産に登録された。しかし熱帯の高温多湿の気象条件に加えて内戦と盗掘による破壊が深刻で，各国による保全・修復作業が進められている。
2. 3年前，冒険家である横川信子の父が謎を解き明かすため探検に向かった遺跡。しかし，ジャングルに入っていく日本人を見たっていう情報を最後に消息を絶った。…らしい。彼女の話によれば（第6話）。

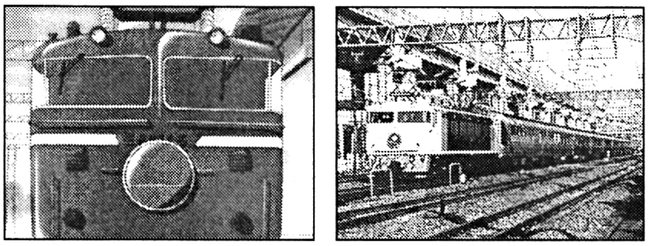
▶カンボジア（p59）

い

【EF81形電気機関車】

1. 1968年に登場したJR（当時は国鉄）の電気機関車。出力2550kw，全長18.6m，自重100.8t。日本初の3電源方式（直流，50Hz交流，60Hz交流）に対応した電気機関車で，JRのほぼ全ての電化区間で運用可能。このため標準交直両用電機として増備がすすんだ。3電源対応は電源方式の異なる北陸本線・信越本線・羽越本線の直通運転を考慮していたためで，そのため当初は主に北陸地域で活躍したが，現在では本州・九州の各地でひろく運用され，貨物輸送や「トワイライトエクスプレス」「北斗星」「カシオペア」といった寝台特急の牽引などに活躍している。主な区分番台に関門トンネル用の300番台，重連総括制御装置装備改造の400番台，同じく重連総括制御装置装備で新製された450番台，コンテナ輸送増強用の500番台がある。
2. おんぷのパパが運転していた寝台特急の牽引車（と思わしき車両）（第49話）。
3. 作中では「EF8115」の車号の読みとれる茶色（マルーン?）の電気機関車が登場していたが，これはEF81形の15号機とするのが妥当。劇中の作画も概ね正確だが，側面の鎧戸は実際には5つではなく7つ。現実の15号機は1969年日立製でJR東日本田端運転所所属の現役車両だが，作中と異なり塗色は赤。また，現実の「カシオペア」牽引機も塗色は専用塗色で，茶色ではない。しかもカシオペア専用塗色車は79・89・92号機のみなので，15号機がカシオペアを牽引することはない。もしそんなことがあったら，「カシオペアをノーマル塗色の15号機が牽引」とかいって鉄道誌なぞに掲載されちゃうことだろう。

4. ところで，EF81形には隣の車両と通路をつなげる貫通扉が存在しない。おんぷはどうやって運転室に入ったのだろう…。
5. 実は魔法を使っていたとか…ってそりゃ無理か。「もう魔法玉がない」とか言ってたしなぁ。



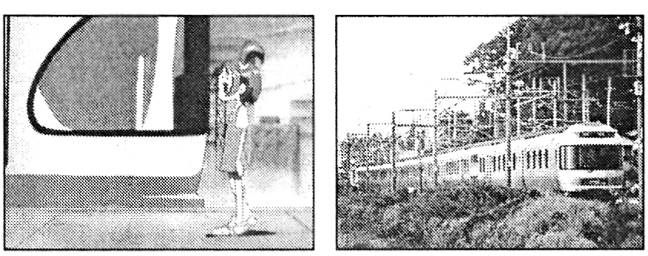
(a) カット（第49話）　(b) 写真

図3.1: E81形電気機関車

▶寝台特急(p63)

【E26系客車】

1. 1999年に登場したJR東日本の特急形寝台客車。寝台特急「カシオペア」専用に作られた形式で，初の総2階建て・ステンレス製客車。銀色の外板に5色のストライプとカシオペアのロゴが描かれ，客車としては斬新なデザイン。編成両端には広窓のある展望ラウンジが設けられている。軸ばり式ボルスタレス台車を使用し，電気指令式ブレーキを採用。A寝台車にはE27形が，それ以外の特A寝台車および食堂車・ラウンジカーにはE26形の形式が付された。車内に電力を供給する車端電源車カハフE26形は，従来と異なり乗客が入りラウンジとして利用できる。2000年ブルーリボン賞受賞車。現在12両1編成のみが存在し，すべてJR東日本尾久客車区の所属でカシオペアの運用に就く。今後カシオペアが増発することになれば増備されると思われる。なお，カニ24形510号を改造してE26系用予備電源車が作られたが，車号はE記号のないカヤ27形501号となった。
2. おんぷのパパが運転していた寝台特急の客車（と思わしき車両）。また，小竹たちが見ていた雑誌に載っていたのもこれと思われる（第49話）。
3. 「あ，これ知ってる。12両編成の新型2階建て寝台特急で，12号車のE26形には，床下に520馬力のディーゼル機関が入ってるのよね」「…〈呆気〉」「…めっちゃ詳しい…」（おんぷ，小竹・佐川・杉山，太田; 第49話）とのことだが，確かに現実のカシオペア12号車はカハフE26形1号で，しかも2階建て構造の1階部分に出力520馬力のディーゼル機関を利用した発電セットが設けられている。2階部分は旅客が通れるから，確かに「床下」ではある。驚くべきはおんぷのマニアックさか，はたまたスタッフの趣味か。
4. ちなみに作中ではカハフE26形（に酷似した車両）が最後尾となっていたが，実際上野発下りカシオペアでは逆で，反対側のスロネフE26形が最後尾となっている。



(a) カット（第49話）　(b) 写真

図3.2: E26系客車

【イギリス】

1. ヨーロッパ北西部の立憲王国。正式名称はグレートブリテンおよび北部アイルランド連合王国（United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland）。イングランド，ウェールズ，スコットランド，北アイルランド，マン島，チャンネル諸島から成る。面積約24.4km^2，人口約5,800万人。首都ロンドン。立憲君主制。成文憲法を持たないなど大陸法とは異なる特徴的な法体系を持つ。議院内閣制発祥の国とされ，2大政党による政党政治や責任内閣制がよく発達している。公用語は英語だが，北部ではウェールズ語などケルト系諸言語も用いられる。宗教は英国国教会が主流だが，北アイルランドおよびブリテン島北部にはカトリックも多く，深刻な宗教的対立が今なお残る。産業革命発祥の地でもあり，世界初の工業国家として大英帝国の黄金期を築き，19世紀半ばから20世紀初頭には世界中に植民地を設けて帝国主義的展開を見せた。
2. 玉木の外国みやげ自慢の一節より。「あらぁ，ウチにだっていろいろあるのよ? イギリスの陶器とかフランスの香水とか…」（玉木; 第31話）

【1，2，3，ダァーッ!】

1. 元プロレスラーのアントニオ猪木（1998年引退，本名は猪木寛至）が，現役時代に行ったお約束のパフォーマンス。試合に勝った後，拳をあげながら「1，2，3，ダァーッ!」と叫ぶもの。観客も一緒に叫んでこのパフォーマンスに参加するため，場内は非常に盛り上がる。1976年にパキスタンのカラチで行われたアクラム・ペールワンとの異種格闘技戦で勝った後に両手を挙げて自らの勝利を誇示したのが始まりらしいが，確かなルーツはよくわかっていないようだ。
2. ウィッチーはづきとプリティまりな組の勝利に酔ったファンが行ったもの。「よっしゃあ，行くでぇ!」「1，2，3，ダァーッ!」（妹尾解説員，会場; 第28.5話）

【IRUSU】

1. 「ISUZU」，すなわち「いすゞ」のパロディ。いすゞ自動車株式会社は1916年創業，1937年設立の自動車メーカー。前身は東京自動車工業で，1949年から現社名。1999年3月末現在で資本金896億円，従業員数約13,000人，代表取締役社長兼CEOは稲生武。本社は東京都品川区，ほか川崎など国内5ヶ所に工場を持つ。主要な製品はトラック，バス，RV車，ディーゼルエンジン等。関連会社多数。株式は東証1部上場。1971年に米自動車大手ゼネラルモーターズ（GM）と資本提携し，以来同社との協調路線をとっている。1993年には経営建て直しのため創業事業でもある乗用車生産から撤退し，得意分野である大型車に力を入れてきた。大型トラックでは「エルフ」シリーズ，RVでは「ビッグホーン」，乗用車では「ジェミニ」などが有名。
2. マジョルカにMAHO堂を乗っ取られた3人が，改装して『MAHO堂号』に仕立てた廃棄バスのメーカー（第20話）。

▶MAHO堂号(p78)

【インターネット】

1. 多数のコンピュータネットワークをTCP/IPによって相互接続し形成される広範な分散型ネットワーク。1969年に米国防総省の1機関としてできたARPAネットがルーツで，当初はコンピュータサイエンスの実験場として米国内の研究機関を中心に発展した。80年代には日本や欧州の研究機関との国際的接続も本格化，90年代に入るとほぼ現在と同じ形態が成立した。米ゴア副大統領が打ち出した情報スーパーハイウェイ構想に見られるようにアメリカの積極的な国策的主導で拡大と整備が進められた一方，インターネットへの接続と利用が容易なOS「Windows95」の発売や商用ネットワークの登場もあり，90年代半ばから先進諸国を中心に爆発的な普及が見られた。現在では地球規模の即時性を持った安価な通信網として半ばインフラ化しつつあり，政治経済から消費生活に至るまで幅広い分野にわたって起こったいわゆるIT革命の立て役者ともなった。しかし一方では，インターネットが商業ベースで普及したことなどから，発展途上国等インターネットへの接続が困難な地域・階層が生じており，拡大する情報リテラシーの格差は今後の課題とも言われている。
2. オヤジーデはピュアレーヌ・パソコンの中にいながら，これを利用しておんぷのファンクラブに入った。「インターネットでファンクラブに入ってな! 会員ナンバー7番じゃあ!!」（オヤジーデ; 第35話）
3. 美空小やおんぷの事務所にも接続端末はある。また，中田ごうじを始め数多くのおんぷファンが自宅で利用しているようだ（第48話）。

▶ホームページ(p74)，メール(p80)，パソコン通信(p69)

う

【上野動物病院】

1. 岡田ななこの部屋から逃げ，見つけたときには怪我をしていたうさぎのルルが運ばれた病院。読み方がこれで正しいかは不明。

え

【ABC】

1. 朝日放送株式会社（Asahi Broadcasting Company）の略。本社大阪市北区。資本金約18億円，従業員数701人。代表取締役社

長は柴田俊治。1951年朝日新聞社を母体として大阪市に創立，ラジオ放送を開始。日本の民間放送の先駆けとなった。56年テレビ本放送を開始。59年には大阪テレビ放送と合併して兼営局となり，60年からカラー放送を開始。75年からANN系列（いわゆるテレビ朝日系列）に加盟，同系列の関西地区を担当している。過去の代表的なテレビ番組には「てなもんや三度笠」（1962年放映開始），「必殺仕事人」シリーズ（72年開始），「プロポーズ大作戦」（73年開始），「探偵！ナイトスクープ」（88年開始）などがある。

2. テレビアニメ「おジャ魔女どれみ」の制作会社の一つにして放映局。
3. 小竹哲（「夢のクレヨン王国」プロデューサー）が務める会社。どれみを「ドジミ」といってからかっている，わけではない。
4. 「愛のささやき」ヒロイン役オーディションには《主催 テレビよしおか ABC-TV》とあり（第35話），おんぷの仕事先には《ABD TV》（第48話）や《ABC》（第49話）とあるなど，パロディも含め劇中にも登場する。
5. Capital Cities/ABC,Inc.の通称。アメリカ放送界のネットワーク会社。アメリカン・ブロードキャスティング・カンパニーズ（ABC;American Broadcasting Companies）が1986年にキャピタル・シティーズ・コミュニケーションズと合併したもので，テレビ，ラジオ，出版等を手がける。傘下のABCテレビネットワークは系列地方局約220ヶ所を数える。95年にはディズニー社に合併され，世界最大規模のメディア企業体となった。
6. ジャクソン・ファイブ（Jackson 5）の歌。1970年にモータウンレコード（Motown Record）からリリース。初期ジャクソン・ファイブを代表する佳曲の一つとして有名。作詞作曲から編曲，プロデュースまで全てをザ・コーポレーション（The Corporation）というモータウンの制作チームが手がけている。

【SOS】

1. 無線電信による船および航空機の遭難信号。1906年に国際無線電信会議（ITU）で制定された。モールス符号では「… ― ― ― …（トントントン，ツーツーツー，トントントン）の判別しやすい組み合わせとなっている。重大かつ急迫の危険に陥り自力で脱しえないとき，または他船がこのような状態にあって自ら発信できないことを認めたとき以外発信できない。これを受信した無線局は他の一切の通信に優先して救助に必要な措置をとらねばならない。
2. 語源についてはモールス符号でわかりやすい組み合わせにしたというのが一般的な説明。「Save Our Ship」（我々の船を救助せよ）や「Save Our Souls」（我々の魂を救助せよ）の略であるという説もあるが，俗説と思われる。
3. 「どれみ」においては，「SOS」と言えば「SOSトリオ」のことを指す。
4. silicon on sapphireの略。サファイアを基板に使った半導体。
5. ピンクレディーのセカンドシングル。作詞：阿久悠／作曲：都倉俊一。1976年11月25日発売。正しくは「S・O・S」。この曲を皮切りに10曲連続ミリオンセラー兼チャート1位の快挙を成し遂げる。まさにピンクレディー躍進のきっかけとなった曲である。

▶SOSトリオ(p56)

【SOSトリオ】

1. 佐川ゆうじ，太田ゆたか，杉山豊和の漫才トリオ名。「佐川のS!」「太田のO!」「杉山のS!」（佐川，太田，杉山；第3話）が名前の由来だが，「世紀末お笑い三銃士」（SOS；第3話）「救いようのない大ボケ三バカトリオ」（あいこ；第3話），「掃除のS!」「お手伝い―のO!」「したーいのS!」（佐川，太田，杉山；第35話）など，諸説ある（?）。
2. そのギャグは「さむい」，ということになっている。のだが，はづきには受けている。「この私を心の底から笑わせてくたら許してあげてもいい」と言う奥山なおみもとりあえず期待はしているのではないかと思われる（第14話）。
3. しかし，嘉門達夫はまだしも，チョー・ヨンピルや若三杉をネタにする彼らの教養の深さはなかなか侮れないものがあると思う。
4. 「やっぱSOSのギャグが面白くなるのは，魔法を使っても無理ってこと?」とどれみは言っていた（第14話）が，マジョルカグッズの魔力で学校中に大受けしていた（第21話）ので，単に3人の魔力が足りなかったのだろう。何でもかんでも彼らのせいにするのは良くないぞ。
5. 「世紀末お笑い三銃士」というくらいだから2000年12月31日をもって解散するに違いない。
6. そして2001年からは「新世紀お笑い三銃士」となって復活とか…。

▶嘉門達夫(p59)，チョー・ヨンピル(p66)，若三杉(p82)

お

【王将】

1. 映画。この題名の映画は1948年（大映，伊藤大輔監督，白黒），62年（東映，伊藤大輔監督，白黒），73年（東宝，堀川弘通監督，カラー）と3作あり，いずれも棋士坂田三吉の半生を描いたもの。このうち有名なのは前2作で，その間にあたる55年の「王将一代」（新東宝）とともに，北条秀司の有名な戯曲「王将」（1947年発表）が監督・伊藤大輔の手によって3度にわたり映画化されたものである。48年のものは主演（三吉役）を阪東妻三郎，妻・小春役を水戸光子がつとめ，三吉の将棋に賭けた勝負師人生，貧しい生活に耐え夫を支える妻・小春の内助の功，娘・玉江との親子関係など，日本映画に好個の素材が揃い，日本全国に坂田三吉の名を広めた。62年のものは主演が三国連太郎，小春役は淡島千景で，同名の主題歌もヒット。翌63年には続編「続・王将」（東映，佐藤純弥監督，白黒）も公開されている。73年のものでは勝新太郎が主演，小春役は中村玉緒。なお「小春」は役名で，実際の坂田三吉の妻の名は「コユウ」である。
2. 村田秀雄が歌う演歌。作詞・西条八十，作曲・船村徹。村田秀雄が歌謡界にデビューした翌年の1959年に発表，ミリオンセラーとなった。61年にはこの歌で日本レコード大賞特別賞を受賞している。また，62年の東映映画「王将」（前述）の主題歌となり，映画ともども大ヒット。題名からわかるように棋士坂田三吉がテーマの歌で，歌詞は「吹けば飛ぶよな将棋の駒に 賭けた命を笑わば笑え」と始まる。現在なお演歌のスタンダード・ナンバーとして有名である。
3. あいこが坂田三吉の説明をする際引き合いに出したもの。「初段の教頭，ギャフンと言わせたんやろ? 大したもんや。将来はプロになって坂田三吉みたいになったりしてなぁ」「あ～りがと，さん」「それは『アホの坂田』。あたしが言うてんのは『王将』言う映画にもなった，めっちゃ強い将棋の名人や!」（あいこ，どれみ，あいこ；第41話）

▶坂田三吉(p61)

【大阪】

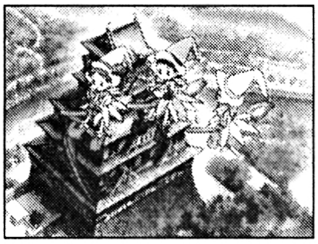
1. 大坂とも。京都と共に2府の1つ。摂津国の一部，河内・和泉2ヵ国の全部を管轄。大阪市を中心に東海道本線・新幹線，関西本線，阪和線，片町線が延び，阪急，阪神，京阪，近鉄，南海各私鉄の路線の発達も著しく，府下一円および近隣府県の主要都市，衛星都市，観光地を結んでいる。府庁所在地の大阪市は近畿地方の中心都市で，政令指定都市。阪神工業地帯の中核で，古称は難波。室町時代には小坂・大坂といい，明治初期以降「大阪」に統一。仁徳天皇の高津宮が置かれて以来，幾多の変遷を経，明応（1492～1501）年間，蓮如が生玉の荘に石山御坊を置いてから町が発達，天正年間，豊臣秀吉の築城以来，商業都市となった。運河が多く，「水の都」の称もある。
2. あいこの故郷であり，パーソナリティの一部。あいこの母，岡村あつ子は今も大阪に住んでおり，第34話では3人が大阪へ向かいあいこの母に会いに行った。
3. 筆者が本誌のネタのために生まれて初めて行った所。

▶大阪城(p56)，大阪城公園(p57)，天下茶屋(p67)，阪南市(p71)，泉南市(p65)，阪堺電軌(p70)，住吉大社(p64)

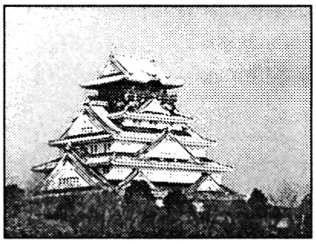
【大阪城】

1. 大阪市中央区にある城。1583（天正11）年，豊臣秀吉が石山本願寺跡に築城したが，この城は1615（元和元）年の大阪夏の陣で全焼した。1620（元和6）～1629（寛永6）年にかけて江戸幕府によって修築されたが，わずか36年後には落雷で天守閣が消失。以後も幾度かの修復を経たが，明治維新の動乱のさなかの1868（明治元）年，戦火によって多くの建造物が失われた。1931（昭和6）年には江戸時代以来失われていた天守閣が鉄筋コンクリート造で再建され，本丸内外の一部は公園となった。第二次世界大戦中には空襲によって再び多くの建造物が消失。戦後は1948年から史跡公園として復興事業が行われた。1997年には大改修が行われ，外壁の塗り替えや各部の修復・補強が行われた。天守閣内には博物館や展望台が設けられ，大阪の観光名所にもなっている。

2. あいこの母に逢いに3人が大阪へ行ったとき，ここの上空を飛んでいた（図3.3（a））（第34話）。
3. ここであいこは「お母ちゃんが住んでる阪南市は，こっちの方角や」と指差すが，背景の大阪城の輪郭から判断するにその指し示している方向は南なので，正確である。



（a）カット（第34話）



（b）写真

図3.3: 大阪城

▶阪南市（p71）

【大阪城公園】

1. 大阪市中央区にある史跡公園。大阪市における中央公園であり，ひろく一般に解放されている。上町台地の上に位置し，面積は約1.1km^2。1931年に大阪城本丸内外の一部を公園としたもの。大手門や多聞櫓など10の重要文化財建造物や大阪城天守閣（1931年再建），豊臣秀吉を祀る豊国神社などの史跡がある。ほか大阪市立博物館や大阪城音楽堂などの文化施設，西の丸庭園や梅林といった花の名所もある。
2. 3人がマジカルステージで，あいこの母の勤め先を教えて，とお願いした場所，と思われる公園（第34話）。
3. そんなに人通りの少ない公園ではないので，マジカルステージの間に「お嬢ちゃんたち，何しとんねん」とかその辺のおっさんにツッコまれそうである。

▶大阪城（p56）

【大阪弁】

1. 大阪府地方で話される方言。近畿方言のひとつで，アクセントも近畿方言にほぼ共通する京阪式アクセントにならう。大阪市から箕面市にかけての摂津方言，大阪府東境沿いの地域の河内方言，堺市から泉南方面にかけての和泉方言の3種におおむね区分される。具体的には，サ行子音がハ行に変化する（「〜ましょう」→「〜マヒョ」など），動詞の打ち消し形「〜ない」が「〜ヘン」「〜ン」になる，「ある」の丁寧形として「オマス」「オマ」が用いられる，尊敬表現に「〜ハル」が用いられるなどの特徴がある。
2. あいこやあいこの両親が話す言葉。他にも大阪にいる登場人物は基本的に大阪弁で話す。
3. どれみが魔法で出したあいこの父に備わっていなかったもの。「お父ちゃんがふたり〜!? しかもなんで東京弁喋ってんねん!?」（あいこ; 第3話）
4. 本来の語義は別として，現代における「弁」という言葉には，東京の言葉が唯一絶対の正当な日本語であるという，ある種の強権的な観念を孕む。これは近代国家日本が明治以来押し進めてきた言語画一化の結果でもある（厳密には東京方言と標準語は別個のものだが）。もちろん方言と近縁他言語との境界は客観的に定められるものではないから，あえて「大阪語」と言い習わすことは現実的ではないのも確かではある。しかし日本有数の人口集中地域の方言であるため厳密な測定は難しいものの「大阪弁」話者の人口は多く，単に方言の一言では済ませられない規模を持っているのは厳然たる事実であろう。

▶関西弁（p59）

【大空駅】

1. おんぷの父の単身赴任先。「それに，パパに会うのは3ヶ月ぶりなの。パパ，始発の大空駅に単身赴任してるから，たまに家帰ってきても，あたしがお仕事だったりして，全然会えなかったんだぁ」（おんぷ; 第49話）
2. 漢字はこれで正しいかは不明。そもそも，聞き方によっては「あおぞらえき」ともとれる微妙な発音である。

【おジャ魔女】

1. 「あいつは魔女見習いじゃない! お邪魔な魔女の『おジャ魔女』じゃ!!」（マジョリカ; 第1話）
2. 以降マジョリカはなにかと言うと，この言葉で3人を罵倒する。
3. マジョリカがこのとき思いついた言葉と思いきや，へへ（第20話）やマジョルカ（第24話）もこの言葉を使っていたので，魔女界では割とメジャーなスラングなのかもしれない。
4. 『AX BOOK 2』の佐藤・五十嵐両SDの対談によれば，《そもそも，「おジャ魔女」っていうのは，タイトルを決める時に，なにか音として印象に残るものを，と考えて出したアイデアなんですよ。内容と関係なく。》（佐藤SD）とのこと。

【おジャ魔女戦隊マジョレンジャー】

1. 「きっとこんなとき，バトルレンジャーだったら，カッコよく解決しちゃうんだろうなぁ〜」というどれみの妄想によって生まれた正義の戦隊。マジョピンク，マジョイエロー，マジョブルーの3人。天野たちのケンカを間接的に解決した（第42話）。
2. 必殺技が，見たかった…。

【長万部】

1. 北海道渡島支庁山越郡にある町。1864（元治元）年から長万部村と称し，1943年から町制。面積310.75km^2，人口7,903人（2000年4月）。内浦湾の北西岸と背後の山地を占める。町名はアイヌ語地名に由来し，オ（河口）シャマンペ（カレイ），つまり「カレイのたくさんとれる河口」の意であるとする説が有力。古来より交通の要衝で，長万部駅はJR函館本線と室蘭本線の分岐点となっており，中心部には鉄道従業者も多い。ジャガイモや大豆を産し，酪農や漁業，砂鉄採取も行なわれる。また毛ガニの名産地で，毛ガニ弁当は観光客に人気。二股渓谷には二股温泉がある。
2. 恐らくはづきのばあやの出身地。3人とぽっぷによる藤原家でのお泊まり会で，ばあやが出した「シタビラメのムニエル長万部風」について，はづきは「北海道出身のばあやの得意料理なの」と言っていたことから（第28.5話）

【オタク】

1. 熱中度が並外れたファンや愛好家。80年代初頭に慶應大学生のSFファンたちが使い始めたのが最初と考えられ，語源はファン同士で話すとき相手を「お宅」という敬語で呼ぶこととされる。さらに1984年『漫画ブリッコ』誌上でマンガやアニメなどのファンの中でもつき合いたくない特殊タイプを表す言葉として中森明夫が命名している。90年頃からはマンガ，アニメ，ゲーム，SF，特撮などのファン全般を総称する言葉となっている。マイノリティにありがちな侮蔑・偏見をしばしば含む言葉だが，近年ではアニメなどに限らずある分野にこだわりがあったり豊富な知識がある人を単に○○おたくと呼ぶようにもなっている。また，アメリカなど海外の一部アニメ・ファンの間では“otaku”という呼称は名誉の勲章として通用している。
2. 木村たかおが林りょうたをなじるのに使った言葉。「あんなに練習頑張ったのに…。くそっ，おまえのせいだぞ!✲」「ごめん。オレ，これ作るのに夢中で…」「ふんっ，この『怪獣オタク』が…」「!…」「え，そんな言い方ヒドいよ…」「そうか? 試合には来るって言ってたのに，来なかったということは，オレたちの試合より，怪獣の方が大事なんだろう? やっぱ『オタク』じゃん」（木村，林，木村，林，どれみ，木村; 第38話）

【温泉】

1. 地中から温水が湧出する現象，またその場所のこと。いでゆ。地学的にはその土地の年平均気温より高温の湧泉をいう。日本では温泉法によって規定され，湧出口で25℃以上の温度を有するか，特定の溶存物質を1kg中規定量以上含むものをいう。本来は自然に湧くものだが，掘削等による人工温泉も多い。塩分や各種の鉱物質を含み，浴用・飲用として医療効果がある。溶存物質の種類や酸性度・湧出温度などによっていくつかに分類される。主に地下水が地熱によって温まったもので，環太平洋地域や地中海沿岸，アイスランドなどの火山地帯に多い。日本は世界的にも温泉が最も多く存在しかつ利用されている地域で，約2000カ所，源泉数は2万にのぼり，湧出温度も高いためひろく浴用に利用される。第2次世界大戦後は観光資源としての価値も重要視され，各地で開発がすすんだ。
2. 魔女は一般に温泉を好むようだ。第10話でマジョリカが魔女界の福引きで当てたのは「日帰り温泉ツアー」で，第16話ではづきとあいこがマジョリカをたらし込めたのも「眺めのいい温泉」，第18話でモタとモタモタが福引きで当てたのも「2泊3日の温泉旅行」，第28話でラケットの跡を顔面に残したマジョリカがその治療に行ったのも「温泉」，第37話でマジョ梅たち魔女ガエルが要求したのも「温泉」だった。

3. 第43話で不在の中山しおりの祖母が行っていたのも「温泉旅行」。なにかと言うと温泉だ。スタッフの慰安旅行も温泉なのだろうか?

か

【かぐや姫】

1. 平安前期に成立した物語『竹取物語』の主人公。竹の中から生まれて竹取の翁に養われた女性。容色美麗で，5人の貴公子に求婚されたが非常な難題を出してこれを拒み，時の帝の御召にも応ぜず，8月15日の夜に月明に昇天した。
2. 映画『愛のささやき』ヒロイン役オーディション最終審査で，どれみが演じたもの（第35話）。最終審査は「自分の好きな衣装でお気に入りのお芝居をする」（玉木）ことだが，どれみの「お気に入り」も今一よく分からない。
3. 1970年代を代表する日本のフォークグループのひとつ。1970年に南こうせつ・大島三平・森進一郎が初代「かぐや姫」結成したが1年で解散。71年に南こうせつ・伊勢正三・山田パンダが新たに「南こうせつとかぐや姫」を結成し，一般に「かぐや姫」と言えばこちらを指す。デビューシングルは「青春」。代表曲である第5弾シングル「神田川」は160万枚のミリオンセラーとなった。ほか「22才の別れ」「赤ちょうちん」「妹」など。1975年に解散。結成から解散までわずか4年間だが，この間に7枚のアルバムを残している。

▶南こうせつ(p79)

【ガザマドン】

1. 林りょうたが愛してやまない怪獣。りょうたの部屋のポスターには《K"AS"AMA DON》とあるのだが，某自称ハイブリッド携帯電話のように《"》は濁点のように読むのだろう。映画は第2作と思われる「ガザマドン 2」が予定されている。また，本物（?）が美空市に上陸したが海の向こうに消えていった（第38話）。

▶G2(p61)

【火星人】

1. 火星にすむ想像上の高等生物。火星に高等生物が存在するという説は古くからあり，1877年にはイタリアの天文学者ジョバンニ・スキャパレリが火星表面の模様を知的生物が作った運河であると主張した。が，火星人が有名になったのはイギリスの作家H.G.ウェルズ（Herbert George Wells, 1866～1946）が1898年に発表したSF小説『宇宙戦争』（*The War of the Worlds*）からであろう。この中で火星人は巨大な頭に16本の触手を持った姿で描かれ，現在一般的なタコのような火星人像のルーツとなった。この小説以後「地球を侵略する火星人」はSFの定番となり，特にUFOや様々な怪物が流行した1930～50年代のアメリカで映画，TV番組，コミックスなど様々なジャンルに波及した。中でも『宇宙戦争』が原作のオーソン・ウェルズによるラジオドラマ（1938年）は，これを聞いて本当に火星人が侵略してきたと信じた多くの人々を恐怖に陥れたことで特に有名である。
2. どれみが作っているとあいこが思ったもの。「分かった! 地上に激突した火星人!」「ぶー!!」「あちゃ…」「ん，と…パス…」「なぁーんで，みんなでクイズなんかやってんの!?✲」（あいこ，どれみ，あいこ，どれみ，はづき，どれみ; 第38話）ちなみにどれみは元の姿のマジョリカを作ってい（るつもりだっ）た。
3. 「地上に激突した火星人」の方が作るの難しいような…。

【鎌倉】

1. 神奈川県東部，相模湾に面する市。1939年市制。面積約39.6km²，人口約174,000人。中心部は鎌倉幕府がおかれた地で，鎌倉幕府址，鶴岡八幡宮，鎌倉大仏（長谷の大仏）などの史跡・社寺が多い。また稲村ヶ崎，由比ヶ浜といった景勝地にも富み，湘南地方の代表的な観光地である。このため国際的な観光・文化都市として知られ，また高級住宅や別荘地も多い。JR横須賀線が通り，京浜地域のベッドタウンともなっている。鎌倉彫を特産とする。
2. 中山しおりの祖母が住んでいる所。また，近くには玉木家の別荘のある葉山がある。「ああ…なんでもありませんわ。それより，お祖母ちゃんの家ってどこなの?」「鎌倉よ」「あら，ウチの葉山の別荘の近くじゃない。そうだ! よろしかったらわたくしが，付き添っていってあげますわ」（玉木，中山，玉木; 第43話）

▶葉山(p70)

【カモシカ】

1. 偶蹄目ウシ科カモシカ属の動物。漢字では「氈鹿」と書き，名前は「かま（山の険しいところ）にいる鹿」の意。日本にすむニホンカモシカ，スマトラ島から中国南部のスマトラカモシカ，台湾のタイワンカモシカの3種がある。雌雄とも頭部に2本の角を持ち，体毛は暗褐～灰茶色。ニホンカモシカは肩高70～80cm，体長100cmほど。ふつう山地の森林にすみ，敵から身を守る時などには険しい崖や岩場を巧みに登降する。小枝や草，木の葉，地衣などを食べる。ニホンカモシカは天然記念物で，本州・四国・九州に分布。ヒツジ類などの祖先型にあたる原始的な反芻動物の生き残り（遺存種）とされる。
2. アフリカやインドに分布するレイヨウ類の俗称。羚羊。アンテロープとも。ウシ科の約150種の動物をひろくまとめて言う総称で，ハーテビースト・オリックス・インパラ・イランドなどを含むが，本来のカモシカ（ウシ科カモシカ属）とは異なる。草食性で，アフリカとアジアに分布し，ふつう草原や砂漠に群生する。洞角を持ち，この角は羚羊角として漢方の解熱・鎮静薬に用いられる。大きさは，最小のローヤルアンテロープが肩高約25cm，最大のジャイアントエランドは肩高は約1.8mとさまざま。四肢は細くて長く，走るのに適した体型で，時速100km近くで走るものもある。
3. トナカイの足を描こうとしていたどれみに，あいこが引き合いに出したもの。「そうや。そんでなぁ，足はカモシカみたいにスラーッとしてんねん」「あいちゃん」「ん?」「カモシカってどんな動物だっけ?」「えぇっ!? …それは，カモシカーっ言うくらいやから，シカの仲間やろ?」「カモシカーっ…カモノハシとは違うよね?」（あいこ，どれみ，…; おジャ魔女CDくらぶ その7）
4. トナカイのツノを描こうとしていたどれみに，あいこが引き合いに出したもの。「あいちゃん，どれみちゃんが知りたいのはカモシカじゃなくって，トナカイさんよ?」「あぁ，そやったなぁ。えっと，うーん，あ，そうや! どれみちゃん，トナカイにはツノあんねんで」「あ，そうだよね! …で，どんなツノだっけ?」「あぁ…，ツノもカモシカと同じやなかったかなぁ?」「えぇえ!? トナカイはカモシカと同じシカの仲間だけど，ツノの形は違うと思うわ」「あれ? 北極に住むシカをトナカイっと言うんとちゃうの?」「うーん…そうなんだけど，トナカイさんのツノは確か大きくて手のひらみたいな感じじゃなかったかしら?」（はづき，あいこ，どれみ，あいこ，はづき，あいこ，はづき; おジャ魔女CDくらぶ その7）
5. 俗にいう「カモシカ」は，真のカモシカ（偶蹄目ウシ科カモシカ属）とレイヨウ（偶蹄目ウシ科の中のいくつかの属）の両方を指す。しかし，普通足が「スラーッとして」ると言う場合はレイヨウの方であって，あいこの言う「カモシカ」はレイヨウを指していると考えられる。が，どちらにしろレイヨウも真のカモシカもウシ科であり，いわゆるシカ（偶蹄目シカ科）とは異なる動物。確かに同じ偶蹄目ではあるが，だからと言って同じ仲間とすると他の偶蹄目であるイノシシ・カバ・ラクダ・キリンなども同じ仲間ということになってしまう。よって「カモシカ」がシカの仲間とするあいことはづきの認識は誤りとするのが普通。ただし，トナカイは偶蹄目シカ科であり，トナカイがシカの仲間であるとするのは正しい。

▶トナカイ(p68)，カモノハシ(p58)

【カモノハシ】

1. 鴨嘴。英語 “duckbill” の訳語。単孔目カモノハシ科の哺乳類で，学名は Ornithorhynchus anatinus 。長さ6cmほどのかもに似たくちばし状のものを持つことからこの名があるが，厳密にはくちばしではなく鼻が伸びたもの。タスマニア島とオーストラリア東部にのみ分布。体はカワウソに似ており，体長30～45cm。尾を持ち，足には水かきがある。体毛は暗褐色。半水生で，水辺にトンネルを掘ってすみ，貝やミミズ，エビ類など水中の小動物を食べる。鳥や爬虫類のように卵をかえすが，乳をのみ体毛があるので哺乳類とされる珍しい動物。狩猟は法によって禁じられている。
2. 本州から九州の海浜に生えるイネ科の多年草。高さ30～60cmで葉は線状披針形。分枝して束生する。5～6mmの小穂が集まった3cmほどの穂を出し，7～11月に開花する。この穂が叉状に分岐した形をカモのくちばしにたとえてこの名がある。
3. どれみがカモシカと違うのかどうか気になったもの。「そうや。そんでなぁ，足はカモシカみたいにスラーッとしてんねん」「あいちゃん」「?」「カモシカってどんな動物だっけ?」「えぇっ!? …それは，カモシカーっ言うくらいやから，シカの仲間やろ?」「カモシカーっ…カモノハシとは違うよね?」（あいこ，どれみ，…; おジャ魔女CDくらぶ その7）
4. どれみがカモシカとの違いが気になったもの。「ねぇ，良かった

ついでにさぁ，どうしても気になるんだけどぉ，カモシカと，カモノハシって，どこがどう違うんだっけ?」「どれみちゃん…」「…はい，自分で調べてみまーす…」(どれみ，はづき・あいこ，どれみ; おジャ魔女CDくらぶ その7)
5. 分かったかな? どれみちゃん。

▶カモシカ (p58)

【嘉門達夫】

1. 替え歌で有名な歌手・芸人。本名は鳥飼達夫。1959年大阪府茨木市に生まれる。高校在学中の75年，笑福亭鶴光のもとに入門。破門の後サザンオールスターズの桑田佳祐に出会い，桑田佳祐の別名から姓を受けて嘉門達夫を名乗る。80年代末から90年代初頭，ナンセンスな歌詞でおかしみを狙った歌や替え歌で一世を風靡した。「ゆけ! ゆけ! 川口浩」「タンバでルンバ」「鼻から牛乳」「替え唄メドレー」などの歌が有名。CDアルバム多数。
2. 奥山なおみに挨拶代わりのSOSコントを無視された時の杉山の台詞より。「オレ達どうすればいいのか，カモンカモンの嘉門達夫」(杉山; 第14話)

▶SOSトリオ (p56)

【関西弁】

1. 大阪・京都を中心とする近畿地方の方言の総称。
2. あくまでも一般的な総称であり，方言学でも言語地理学でも「関西弁」という方言の分類はあまり用いられないようだ。しかし大阪方言と京都方言を中心とする近畿方言が殊更に関西弁と括られてきたのにはもちろん意味がある。江戸が経済的にも文化的にも発展するまでは上方の言語が最も有力な日本語だったわけであり，江戸時代に醸成された関西と関東のある種の文化的対立関係がそこには色濃く反映しているのである。また，実際に関西と関東の間にはかなり明確な言語分布上の境界線をひくことができるのも事実だ。富山県・長野県・岐阜県・愛知県にかけての地域に重要な言語境界線がいくつも集中することはかなり昔から知られており，本土方言の2大区分である東部方言と西部方言がここで接触している。つまりここを越えるとかなり言葉が変わるのであり，「上方」として関西を意識する関東の人間にとって関西の言葉は特に強く意識されるのであろう。
3. 魔法であいこに変身したどれみが，あいこからやめるよう言われたもの。「けどなぁ，ややこしなるさかい，あたしになるのはやめといてんか」「あ，どすこいすんまへーん」「その，へーんな関西弁もな」(あいこ，どれみ，あいこ; 第7話)

▶大阪弁 (p57)

【元祖MAHO堂】

1. マジョリカが権利書をデラにとられた後のMAHO堂に，マジョルカがオープンした魔法グッズショップ。効き目抜群の魔法グッズ，美男美女の店員，頻繁に行うセールといった戦略で繁盛するものの，副作用騒動とマジョルカの退陣により破綻した(第20-24話)。
2. PL法による表示をしなかったのがいけなかったんだろうなぁ。「だーからぁ，マジョルカのグッズを使って願いがかなえば，その反動で何か悪いことも起こるー，ってちゃんと言わなかったらいけないんじゃないの?」(へへ; 第24話)

▶MAHO堂 (p78)

【カンボジア】

1. インドシナ半島南東部にある立憲君主国。正式にはカンボジア王国。首都プノンペン。面積約18万km^2，人口約945万人(1995年推計)。住民の大半は仏教徒のクメール族。公用語はカンボジア語。1世紀以来扶南，7世紀以来真臘と称した(いずれも中国名)。9～13世紀にはクメール人による強大な王国が存在した。1863年フランスの保護国となるが，1953年独立。70年にクーデターによりアメリカ支援のロン・ノル政権が成立するが75年に崩壊。76年から共産党のポル・ポトが政権を握るも，独自の社会主義思想に基づく大改革と粛正で国情は大いに乱れた。79年ヘン・サムリンがポル・ポト政権を倒しカンボジア人民共和国を樹立するが，国境地帯に退いたポル・ポト一派との内戦が続いた。89年からは国連が積極的に介入し，国連主導のもと93年に新憲法が制定，シアヌークが国王となってカンボジア王国が発足した。
2. 3年前，冒険家である横川信子の父がアンコール遺跡の謎を解き明かすため探検に向かった国。しかし，ジャングルに入っていく日本人を見たっていう情報を最後に消息を絶った。…らしい。彼女の話によれば(第6話)。
3. 20世紀後半のカンボジアは冷戦構造の中で米・ソ・中といった大国の利害が入り乱れ代理戦争と内乱で国内をひっかきまわされた。アジアでも有数の冷戦の被害国と言えよう。

▶アンコール遺跡 (p54)

き

【機動戦隊バトルレンジャー】

1. 「愛と自由を守るため! 正義の心を怒りに変えて! 悪いヤツらをやっつける! 機動戦隊バトルレンジャー!!」(天野; 第42話)
2. 天野こうたが愛してやまないヒーロー戦隊。また，特撮番組名。きっと日曜の7:30にやっているのだろう。
3. バトルレッドの必殺技は「稲妻流星キーック!」で，これで暗黒大魔人を倒し，囚われの姫を助けていた。
4. 劇中ではバトルレッドしか登場していないが，天野こうたが決闘に加勢した小竹や木村に「頼むぞ! ブルー! イエロー!」と言っていたので，ブルーとイエローがいるのだろう。大体，レッド一人で「戦隊」はおかしいもの。
5. 「僕と握手!」(バトルレッド)等，特撮戦隊もののパロディーなのだろうが，なんせ制作が制作なのでパロディーと言っても，妙に説得力があるぞ。

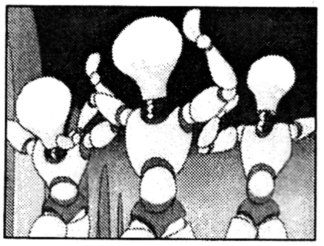
【きらきら星】

1. マザーグース(Mother Goose 英国の子どものための伝承歌謡)の一つである童謡 'Twinkle, Twinkle, Little Star' の邦題。各連4行，5連から成る原詩はイギリスの女性詩人ジェーン・テイラーの作で，姉のアンとの合作詩集 *Rhymes for the Nursery* (1806年)の中で初めて発表された。現在では英語で書かれた詩としては最も世界に知られたものと言われる。日本では『幼稚園唱歌』(1892年)の中で邦訳が「きらきら」として紹介されたのが最初で，初めて邦訳されたマザーグースの一つ。その後は中学校の英語の教科書に採用されるなど主に教育を通して広まり，メロディーとともに日本人にもなじみ深いものとなった。「きらきらひかる おそらほしよ…」という最も知られた訳詞は武鹿悦子によるものだが，詩人の谷川俊太郎による訳も有名。
2. 父にもらったトランペットで矢田まさるが練習している曲。第17話では埠頭の倉庫で，第23話では河原で練習していた。「この前より上手くなったね，トランペット」「…べつに」(はづき，矢田; 第23話)
3. ウィッチーはづきのピンチに突如現れた謎のトランペッターが吹いた曲。「何できらきら星やねん。これじゃ出る力もしぼんでまうわ!」「いえ，力が沸き出てきたわ!」「えぇ!?」「ありがとう，謎のトランペッターさん。わたし，負けない! だぁーっ!」(妹尾解説員，ウィッチーはづき，春風実況アナ・妹尾解説員，ウィッチーはづき; 第28.5話)
4. 劇中の矢田の演奏は，おジャ魔女CDくらぶ その2「おジャ魔女BGMコレクション」のジャケットにあった対談によると，バンダイ・ミュージックエンタテインメントの藤田昭彦ディレクターによるもの。プロのミュージシャンに「下手に吹いて下さい」とお願いするのはあまりに心苦しかったので，中学の頃トランペットをやっていたという同氏が吹くことになったらしい。

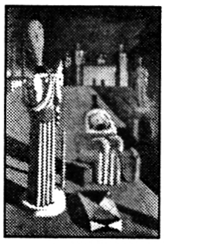
【キリコ】

1. Giorgio de Chirico (1888～1978) イタリアの画家。シュールレアリスム(超現実主義)絵画の先駆者とされる。クリンガーやベックリンの幻想絵画やニーチェの思想に関心を持ち，1917年カラとともに「形而上絵画」を創始。初期シュールレアリスムに多大な貢献をした。異様なパースペクティヴと強い陰影を持った画面に，柱の並ぶ建築や彫像，はためく小旗，汽車のシルエットなどのオブジェを配した絵画が多く，特徴的な作風となっている。1933年頃からは古典的作風に傾いた。著書に『わが生涯の思い出』がある。
2. はづきの3級試験の中で，2つ目の世界に出てきたヘンな生き物(図3.4 (a))や背景(図3.4 (c))のネタとなったと思われる画家(第40話)。
3. ヘンな生き物のネタとなったと思われるのは，図3.4 (b)「不安がらせる女神たち(Le muse inquietanti)」(1917年 ミラノ マッティオーリ・コレクション)や他のキリコ作品に見られるもので，モデルは裁縫用のマネキンと言われる。
4. 背景のネタとなったと思われるのは，図3.4 (d)「通りの神秘と憂愁(Mistero e malinconia di una strada)」(個人蔵 1914年)で，キリコ作品の中でもかなり有名な1枚である。他にも「予言

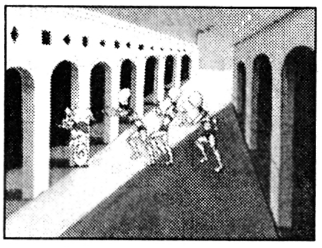
者の報酬（La ricompensa dell'indovino）」（フィラデルフィア美術館 1913年）がネタとなったと思われる背景もあった。



(a) カット（第40話）



(b)「不安がらせる女神たち」



(c) カット（第40話）



(d)「通りの神秘と憂愁」

図3.4: キリコ

▶ムンク (p79)

く

【ククラカレー】

1. ハウス食品株式会社のレトルトパウチ食品「ククレカレー」のパロディ。ククレカレーは1971年に発売された長寿商品で，今なおハウスのトップブランドの一つ。「ククレ」とはレトルトで調理の必要がないことを意味する「クックレス」を略した造語である。現在，甘口（商品番号RF-001），中辛（同RF-002），辛口（同RF-003）の3バリエーションがある。いずれも内容量は210g，価格は153円で，レトルトカレーとしては低価格帯にあたる商品。手軽で割安な庶民向けという位置づけである。
2. ぽっぷが夜取りに行った，インスタントコーヒーの棚にあったもの（第36話）。

【クリスマス】

1. Christmas（英語）キリスト教の降誕祭（聖誕祭とも）。救世主イエス・キリストの生まれた日とされる12月25日（東方教会では1月6日）に行われ，特別にミサが行われる。古来からの太陽の新生を祝う冬至の祭がキリスト教と結合したとも考えられている。歴史的に12月25日に本当にキリストが生まれたかどうかは確かではないが，12月25日を降誕祭とすることはローマ時代の336年の記録にすでに見られる。贈り物をする習慣は4世紀以降。
2. 売り上げに利用できるもの。マジョリカによれば。「でもさぁ，なんでMAHO堂まで飾り付けするのぉ?」「どーせ，クリスマス・ムードに便乗して売り上げ延ばしたいーとか，そんなとこやろ…」「あー，そうともさ! 利用できる物はなんでも利用する。それが賢いやり方じゃ」「ただの欲張りじゃん」（どれみ，あいこ，マジョリカ，どれみ; 第45話）
3. おジャ魔女CDくらぶ その7はその名も「MAHO堂のおジャ魔女クリスマスカーニバル!!」でクリスマスソングが満載だが，発売日は11月21日。早すぎるっちゅーねん。
4. 「ママー，あたし，ことしのクリスマスはねー，『ピュアレーヌパソコン』がほしいー」「まぁ，7,980円もするの? せめて，この『クルールポロン』（3,500円）ってのにしときなさい!」「ええーっ?」「この前も買ってあげたばっかりでしょう?」「ちーがーうー，あれは『キャラリートキッズ おジャ魔女どれみ DX（デラックス）』（5,980円）だよぉ!」「それにお誕生日にはレジみたいなのも買ってあげたじゃない!」「『どれみの魔法のレジスター』（7,980円）だってばぁ!」「その前はほうきで，その前はなんとかタップで…」「『魔法のほうき』（2,980円）に『どれみタップ』（1,980円）ぅ!」「いいから，とにかくダーメ!」「いいのー! ほしいのー!」「ダメったらダーメ!」「まぁいいじゃないか，こんなに欲しがっているんだから」「やったー! パパだーいすき!」「しょうがないわねぇ」「でも，ちゃんといい子にしてなきゃダメだぞぉ。サンタさんはいい子にしかプレゼントくれないんだからなぁ」「うん! あたし，いい子にするー!」（※表示価格は，すべて税抜きのメーカー希望小売価格です）

▶サンタクロース (p61)

【クルールポロン】

▶ポロン (p74)

け

【警視庁】

1. 東京都の警察行政を司る官庁。東京都公安委員会の管理下で都警察の業務を行う。長官は警視総監。庁舎は東京都千代田区。101の警察署と985の交番，237の駐在所を管轄し，勤務する警察官の数は41,712人にものぼる（1999年6月）。1874年内務省の下部機構として設置された東京警視庁が起源で，第2次世界大戦後内務省の廃止とともに組織改編された。1947年旧警察法の発布とともに自治体警察となったが，現行警察法が制定された54年から現在のように東京都警察の本部となった。87年からシンボルマスコット「ピーポくん」が制定されている。
2. 「おまわりさんになれー!」という魔法を使ったつもりだったがパトカー（着ぐるみ）になってしまったどれみのカーサイドに書いてあったもの。「くそう…こんなに早く見つかるとは，さすが日本の警察は世界一だぜ」「電話で住所言ったのがマズかったっすかねぇ」「え! オレ，言ってた? うわ，しまったー…」「気づいてなかったんすかぁ?」（パパイヤ兄弟アニキ，パパイヤ兄弟オトウト，…; 第19話）。
3. 今頃特車二課第二小隊にAV-98イングラムが配備されているはずだったところ。

【毛鉤】

1. 釣りで用いる擬餌鉤の一種。フライ（fly 英語）。蚊鉤。羽毛，獣毛，合成繊維などを針に巻き付けるなどしたもので，魚が餌として好む水生昆虫の幼虫やさなぎ，成虫の姿に似せて作られる。これを餌と見せかけて魚をだまし，主にアユ，イワナ，ニジマス，ヤマメなどの淡水魚を釣る。大きさは大きいもので5cm，小さいもので3mmほど。釣り人は目的魚がその季節にどのような昆虫を食べているかにあわせて様々な毛鉤を選択して用いる。ドライ・フライは着水すると水面に浮かぶもので，ウェット・フライは水に沈むもの。フライを用いる釣りをフライ・フィッシングと言う。
2. 春風渓介が手入れをしていて，はづき演じるところのどれみが綺麗と思ったもの。「あ，なんですか，それ?」「毛鉤だよ」「あ～綺麗!」「お，どれみ分かるか!」「はい。なんか綺麗な虫みたい」「そうか，おまえもフライフィッシングに興味を持ったか!」（はづき，渓介，…; 第2話）

【ゲル】

1. гэр（モンゴル語）モンゴル民族の家屋。円筒形の壁にドーム状の屋根を組み合わせたテント。モンゴル族は遊牧民族であるため，移動に便利なよう組立式になっている。中国語ではパオ（包）と言い，キルギス人は同様のものをユルトと呼ぶ。
2. 花田志乃がモンゴルの遊牧民に泊めてもらったもの。「あ。わたし知ってる! 草原を馬で旅してるのよね。それに丸いテントのようなもので寝起きして…」「あぁあぁ，ゲルのこと?」「ゲルって言うの，あれ?」「そう。わたしも馬に乗って草原を旅してね，遊牧民のゲルに泊めてもらったのー」（はづき，花田，…; 第31話）
3. ただのテントと侮るなかれ。モンゴル人にとってはこれが住居なのであり，最近ではBS放送用パラボラアンテナが設置されることもあるのだ。

▶ゲル (p60)

こ

【ゴキブリ】

1. ゴキブリ目の昆虫の総称。名は「御器嚙」の転訛。多くは褐色か黒褐色で油ぎって見え，このためアブラムシとも言う。体は扁平で楕円形。世界で少なくとも3500種が知られ，多くは熱帯にすみ，屋内害虫となるのは約1%ほど。人間と共存する傾向のある約25種が世界中に分布を広げている。日本には約50種がみられ，チャバネゴキブリがもっとも多く体長10mmほど。ほかワモンゴキブリ・クロゴキブリなども，繁殖が速く体内に各種病原菌を持つなどの理由から害虫として駆除の対象となってきた。きわめて雑食で，熱帯にすむものは主に森林の落葉や動物の排出物などを食べる。主に夜行性で，光に敏感。地質時代から続く昆虫群のひとつで，3億年以上前からその外見はほとんど変化していない。
2. 元祖MAHO堂（第23話）や玉木の別荘（第43話）に侵入する際，他にいくらでも手段はあろうが，どれみは何故かこれに変身する。しかもはづきとあいこにも魔法をかける。「ゴキブリはないやろ，ゴキブリは!」（あいこ; 第23話）「いやーっ…またゴキブリ?」（はづき; 第43話）

【コギャル】
1. 派手に遊ぶ女子高校生を指す言葉。1993年ころ，ボディコンの服を着て派手に遊ぶ女子大生というイメージの言葉「ギャル」から派生した。語源は「高校生ギャル」の略とされる。日焼けして髪を茶色に染め，蛍光色や原色の服を好み，腕に蛍光ゴムやプロミスリングをするといったスタイルが一般的だった。また，欠かせないコミュニケーションツールとしてポケベルを利用していた。テレクラやデートクラブに通ったりブルセラショップに下着を売る者が多いとされ，一時期社会問題化したことも。現在ではいわゆるガングロメイクの渋谷の女子高生などにその文化は変異しつつ受け継がれているが，すでに物珍しさが薄れたこともあり，かつてほどの勢いはない。
2. 「おばさん」と言われたララがへへに言い返した言葉。「あ，あいちゃん! 気にしなくていいの! この子無責任に言ってるだけだから」「おばさんはこれだからなぁ…」「! お，おばさんですってぇ…?✲」「わたしより年上なんだからおばさんじゃない…✲」「あんたこそ何よ，コギャルみたいな格好してぇ!✲」「おばさんの格好には，負けちゃうわ!✲」「なんですってぇーっ!!✲」（ララ，へへ，…; 第47話）

【小料理よりみち】
1. 谷山将太の家が営業していると思われる料理店。棋士を諦めた将太の父が始めたのだろうか。メニューは確認できたのだけで，《ホッケ》《ほたて》《ししゃも》《ほや》《毛がに》《てんぷら》《さしみ》《とんかつ》《あさり》《肉じゃが》《すきやき》《湯どうふ》《ゆば》《ちゃわんむし》（第41話）。

さ

【坂田三吉】
1. 「関西名人」として知られる棋士。戸籍上は「阪田」の字だが，一般には「坂田」の名。1870年6月3日和泉国大鳥郡舳松村（現大阪府堺市）に生まれた。貧しいながら独学で将棋を学び，頭角を現す。1905年結婚。15年には小野名人から八段を免許される。しかし25年に勝手に名人を名乗り，このため翌年に東京将棋連盟（日本将棋連盟の前身）から絶縁状を出され，孤立。しばらく将棋界から遠ざかるが37年に再起。46年7月23日死去。死後の55年に日本将棋連盟が名人位と王将位を追贈した。乱戦に強い独自の棋風は坂田流とも呼ばれ，数々の名勝負を生んだ。特に1937年の京都・南禅寺での木村義雄八段との対局では後手番の初手に9四歩という空前絶後の端歩を突き，現在まで語り草となっている。



図3.5: 王将碑

2. 文字が読めないなど学もなく，一時期中央と決別したなどその生涯は波乱に富み，早くから伝説化していった。没翌年の47年には北條秀司作の演劇「王将」が初演され，さらに翌48年には大映で「王将」として映画化。現在に至るまで何度も映画演劇化されている。また1969年には通天閣の直下にその功績を顕彰する「王将碑」が建立され，大阪人のヒーローとしての坂田三吉像が定着していった。
3. 谷山将太の将棋の腕に感心するあいこが引き合いに出した人物。「初段の教頭，ギャフンと言わせたんやろ? 大したもんや。将来はプロになって坂田三吉みたいになったりしてなぁ」（あいこ; 第27話）
4. どれみもはづきも筆者も知らなかった。「これやから関東モンは…。あんなぁ! 大阪で坂田三吉知らんかったらモグリっちゅーぐらい有名人やねんでぇ!」（あいこ; 第27話）

▶王将(p56)，坂田三吉(p61)

【桜貝】
1. ニッコウガイ科の二枚貝。殻長約3cm。日本全国の内湾に分布する。貝殻は薄くやや長方形をし，色が桜色であることからこの名がある。貝細工などに用いられる。古称，花貝。和歌では春の季語である。
2. あいこの両親が離婚する前，家族で来た砂浜であいこが拾ったもの。「見てみて! きれいな貝やで!」「ん? 桜貝や…」「ほんま，きれいやね，あいこ」（あいこ，あいこの父，あいこの母; 第34話）

▶ぴちぴちピーチ(p71)

【サンタクロース】
1. Santa Claus（英語）クリスマスの前夜，子供たちに贈物を配るという赤外套・白ひげの老人。4世紀小アジアのミュラの司教・聖ニコラウスのオランダ語方言Sante Klaasが英語に転訛したもの。ニューアムステルダム（現ニューヨーク）に移住したオランダ人清教徒たちによってアメリカに伝えられ，クリスマスに贈物をする既存の習慣と結合したとされる。現在では世界各国に広まった。
2. 「どれみ」のサンタはひと味違う。サンタは世界中にたくさんいて，雲の上には「サンタの国」がある。それぞれ地上の人間の行政区分ごとの担当に分かれていて，劇中では美空市担当のサンタたちが登場している（第45話）。サンタは一年間，担当地区の子どもたちが欲しい物を人間に気づかれないように調査する。そしてイブの夜，プレゼント製造機で出したプレゼントを子どもたちに配るのだ。しかし，直接子供達に会ってはいけないらしい。また，魔女とも旧知の間柄のようだ。
3. 「プレゼント製造機」にはバ〇ダイのマークがあったとか…。

▶クリスマス(p60)

【サンバ】
1. samba（ポルトガル語）ブラジルの民俗音楽・舞踏。リズムは4分の2拍子。アフリカ音楽の流れを受け継ぎ，20世紀初頭にリオデジャネイロで生まれた。カーニバルの行進曲として打楽器を中心に発達し，高度なシンコペーションを特徴とする。様々な種類があるが，カーニバルに用いられるテンポが速く激しいものが代表的で，大勢の人が広場などに集まり，打楽器の伴奏でソロとコーラスを交互に歌い，踊るのが一般的。1900年代にはカップルで踊るダンスとして洗練され，20～30年代には優れた作曲家や歌手が出て世界的に知られるようになった。50年代にはジャズの影響を受けてボサノヴァ（bossa nova）が派生した。
2. マジョリカとマジョルカが練習していた魔女界の忘年会で披露する隠し芸。「でね，優勝者には，女王様がなんでも一つ願いを聞いてくださるのよ」「あぁ，それで呪いの踊りを練習してたんですね」「あれはサンバじゃーっ!!✲」（ララ，はづき，マジョリカ; 第46話）
3. マジョリカの踊りはともかく，劇中で使われていた音楽は歌謡風ではあるもののちゃんとサンバ風のリズムになっており，最初の方ではサンバには欠かせないホイッスルも使われていた。明らかに別録りしたものだったが，CDなどには収められていない。
4. zamba（スペイン語）アルゼンチンの民俗舞曲。リズムは8分の6拍子で，ブラジルのサンバとは無関係である。
5. Samba。Andrew Tridgellが開発した，UNIX上で動作するSMBプロトコルのサーバソフトウェア。これによってUNIXシステムの資源をWindowsネットワーククライアントに公開できるようになる。

し

【しあわせ橋】
1. 小説の類であろうが，劇中ではこれを原作としたテレビドラマを主に指す。『AX BOOK 2』には《古いドラマで舞台は下町らしいぞ。》とあるのでそうらしい。主役の妹の茜役のオーディションでおんぷと森野かれんが競う。主役の兄の役はマツザワアキヒデらしい。3年前にもドラマ化されたたのだが，このときかれんの父はクランク・イン寸前に病気で倒れ，そのまま天へ召されたという。

【G2】
1. GIIIのパロディ。GIIIは1999年に公開された特撮映画「ガメラ3 邪神覚醒」の略称。カラー107分40秒，アメリカンビスタサイズ。配給は東宝。ガメラ映画は1965年の「大怪獣ガメラ」が最初だが，これは95年の「ガメラ 大怪獣空中決戦」，96年の「ガメラ2 レギオン襲来」に続く平成ガメラ・シリーズの第3作。前2作同様監督は金子修介，特技監督は樋口真嗣，脚本は伊藤和典。特に樋口真嗣の特撮技術はこの3作を通じて高い評価を受けている。渋谷と京都を舞台に，ギャオス・イリスという2つの敵とのガメラの戦いが描かれた。また，ガメラのために家族を失った少女・綾奈（前田愛）のガメラへの反発を通し，ガメラ自身の謎もより深く語られた。宣伝コピーは「わたしはガメラを許さない。」
2. 特撮映画「ガザマドン 2」の略称（多分）。ヒロイン役はおんぷ。おんぷは「ガザマドン パート2」と言っていたが，おんぷが配っ

ていたビラには《G2》《ガザマドン 2》とあった。また《新春ロードショー》とあったので，2000年春に公開されたのだろう。
3. 美空小「秋の作品展」のおんぷの作品はG2のヒロイン（＝自分）の立て看板だった。そこには《私は・ガザマド》とあるが，きっとこの続きに《ンを許さない》が来るのだろう。
4. 林りょうたの部屋にあったポスターによると，ガザマドンは《K"AS"AMA DON》と書くようだ。そしたら「G2」じゃなくて「K"2」のような…。

▶ガザマドン(p58)

【CD-ROM】

1. Compact Disk Read-Only Memory（英語）の略。CDを利用した読み出し専用メモリ。音楽デジタルデータの記録媒体としてオランダのPhilipsとソニーによって1982年に規格化されたCDに文字や画像などコンピュータで処理できるデジタルデータ一般を記録させるようにしたもの。1983年に“YELLOW book”（別名“CD-ROM Standard”）として規格が提唱された。小型ながら大容量で安価なことに加え，90年代のパソコンの普及に伴って読み取り装置（CD-ROMドライブ）の低廉化と普及が進行，CD-ROMも大量に生産されるようになった。現在ではコンピュータソフトウェアの頒布や電子出版など広範な用途に用いられている。
2. 中田ごうじが持っていたもの。中身は「瀬川おんぷ in ハワ～イ!」（おんぷ）だったが，バッドアイテムだった。「これは『CD-ROM』って言って，普通のCDと違って，絵や音が記録されてるんだよ。これも分かりやすく言うと，音の出る写真集だと思えばいいんじゃないかな?」（中田; 第48話）
3. 普通のCDにも音は記録されているような。
4. 本誌の制作にも辞書類でおおいに世話になっている。

【しおちゃん鉄道】

1. 恐らく私鉄。春風家のおばあちゃんの家の最寄り駅である《高久駅》を通る鉄道。駅員の制服が青で自動改札を装備している。ぽっぷの乗った車両は，ロングシートで二段降下式側窓，シートモケットは黄色で，ロングシートから通勤型電車と考えられる。外装の描写はパンタグラフ以外なかった。車内から見える風景から海沿いを走る鉄道のようだ（第7話）。
2. この回の美術は塩崎広光だったが…。

▶高久駅(p65)

【次回予告】

1. 次の回の内容を，前もって告げ知らせること。
2. テレビアニメの次回予告には，「さーて，来週のサ○エさんはぁ」から「今度もメチャクチャ動きまくるぜ!」までお決まりの文句があることが多い。「どれみ」では，「ハッピー・ラッキー・みんなにと～どけ!」がそれに当たる。
3. 「どれみ」ではプレゼントのお知らせで次回予告が短縮されたことが何度かあったが，それは以下の通り（ただし関東地方の放映のみで確認）。《主題歌CDプレゼント!》（第5回），《音楽CD&ドラマCD ペアで50人にプレゼント!!》（第34回），「おジャ魔女どれみがビデオになるよ! 1話から4話が入った第1巻を抽選で50名様にプレゼント!」（第36回），「キャラリートキッズどれみ DX か，魔法のほうきを抽選でそれぞれ30名のみんなにプレゼント!」（第37回），《「おジャ魔女どれみ どれみのMAHO堂日記」プレゼント! 抽選で30名様に!》（第38回），《MAHO堂ソロデビュー!! あいこ どれみ はづき セットで50人にプレゼント!!》（第42回），《おジャ魔女クリスマスCD 50人にプレゼント!!》（第45回）
4. また，第47-50回の予告は全て続編「おジャ魔女どれみ＃」の予告ために短縮されていた。
5. もちろん第51回に予告はない。

【次期女王選】

1. マジョリカとマジョルカが争っているという，魔女界の次期女王を選出するための選挙。マジョリカの「マキハタヤマリカの魔法堂」も，マジョルカの「元祖MAHO堂」やおんぷの事務所も，全てこの選挙のための資金集めらしい（第21,35話）
2. デラは「そぉーだ! そう言えばマジョルカが，女王選に出る準備を始めたみたい」（第32話）と言っていたが，3話後の第35話にマジョルカは魔女ガエルになって再登場。女王選の準備中におんぷにバレてしまったのであろうか…。
3. 第51話でマジョリカが「元の姿に戻れんとなった今，店を開いていても意味がないじゃろう」と言っていたので，魔女ガエルには被選挙権はないらしい。
4. ところでいつ実施されるのだろう。魔女の時間感覚は人間と2桁位違うようなので，数百年後とか平気で言いそうだ。

【シタビラメ】

1. 漢字では「舌鮃」。ウシノシタとも。カレイ目ウシノシタ科の魚の総称で，ヒラメの一種。本州中部以南に分布。体長は30cmほど。体は扁平で木の葉形をしており，尾の区別がはっきりしない。目は小さく，2つとも体の左側にあり，目のある側を上にして浅海の砂泥底に体を這わせている。目のある側は暗赤色で，反対側は白い。ふつう目のない側の腹びれは消失している。平たい形が牛の舌に似るためこの名がある。アカシタビラメやクロウシノシタなどが代表種。美味で，ムニエルやグラタン，フライなどにする。
2. 3人とぽっぷによる藤原家でのお泊まり会で，ばあやが出したお食事の素材の一つ。「ほんま美味しかったなぁ，『シタビラメのムニエル長万部風』!! あぁ」「うんうん。ヒラメとウニがあーんなに相性がいいとは思わなかったよぉ」（あいこ，どれみ; 第28.5話）

【志士学園】

1. 美空小サッカー部の試合の対戦校。芝山だいちのフリーキックの1点が決勝点となって1-0で美空小が勝った（第12話）。読み方がこれで正しいかは不明。
2. ユニフォームから判断するに第1話の時の対戦校もここで，この時も美空小が勝った。

【しなの台小学校】

1. 岡山にある美空小の姉妹校。どれみのクラスの特別授業でメール交換をした相手先の学校。同校3年1組の清川修という生徒が増田という先生に教えてもらったメールを美空小3年2組に送っていた（第48話）。

【島田紳助】

1. 吉本興業所属のタレント。1956年京都市に生まれる。本名は長谷川公彦。77年松本竜介と漫才コンビ「紳助・竜介」を組んで漫才ブームの一方の主役をつとめた。80年には第9回上方お笑い大賞で銀賞，第15回上方漫才大賞で新人賞受賞。ブーム後も若手層に人気を誇り，テレビなどに個別出演が多くなったため85年コンビ解消。以後，司会やトーク番組，ドラマなどで活躍。主な出演番組は「笑ってる場合ですよ」「EXテレビ」「新吾&紳助のあぶない話」「クイズ世界はSHOW byショーバイ」「開運!なんでも鑑定団」「嗚呼!バラ色の珍生!!」など。「サンデープロジェクト」など報道番組の司会もしている。CMもJT「NEXT」など多数。91年には映画「風，スローダウン」で初監督。趣味はオートバイ。
2. 「寒いギャグよ，出てこーい!」というはづきの魔法にかかったあいこの父の台詞より。「ど，どないしたんやろ…♪ こない寒いギャグ言うてしもうてしまった島田紳助ぇ」（あいこの父; 第47話）
3. みどりさんとはづきにはウケた。「（あっかーん…はづきちゃんと頭の回路，いっしょやん…♪）」「うふふふふ…」「…あんたがウケてどーすんの!!」（あいこ，はづき，どれみ; 第47話）

▶吉本(p81)

【ジャズトランペッター】

1. jazz trumpeter（英語）ジャズのトランペット奏者。日本ではジャズというとどうもサックスかピアノのイメージが強いが，トランペットもまたジャズの花形である。初期のニューオーリンズ時代から主旋律を担当する楽器の一つだし，ピアノやサックスと同様にインプロビゼーション（即興演奏）でも活躍する。ジャズの「帝王」とまで言われるマイルス・デイヴィス（Miles Dewey Davis）や，どちらかと言えば歌手として知られるルイ・アームストロング（Louis Armstrong）もジャズトランペッターである。他にもディジー・ガレスピー（Dizzy Gillespie），リー・モーガン（Lee Morgan），ウィントン・マルサリス（Wynton Marsalis）などが有名。
2. 藤原見習い看護婦と結婚した矢田まさるの職業。「しかしあのトランペット野郎が，人気ジャズトランペッターの矢田まさるとはね…。分かっていれば手でも足でも握っててあげたのにぃ…あーぁ…」（春風正看護婦; 第28.5話）
3. そう，日本でジャズっていうとトランペットの印象は薄いのである。秋吉敏子はピアノだし，山下洋輔はサックスだ。ゆえに，矢田まさるの場合，日本でジャズトランペッターが人気になっているわけで，これはなかなかのものであろう。

【週刊サタデー】

1. 『FRIDAY』か『週間サンデー』のパロディと考えられるが，作中のセリフなどから前者の方が近いと思われる。『FRIDAY』は講談社が出版している週間雑誌。毎週金曜日発売，定価250円。判型はA4変形判，72ページ。1984年創刊。公称発行部数は630,000部（1999年）。現編集長は加藤晴之。書店のほか駅売店やコンビニ等で販売され，芸能・政治・経済等の最新の話題を扱う典型的な写真週刊誌。読者層は20～30歳代の男性が中心。配本は関東圏で60%，中部・近畿圏で約20%。
2. ステーキハウス飯田におけるステーキ肉盗難事件で犯人（犯犬?）の写真を偶然撮った島倉カメラマンが所属する雑誌。「ここにいる週刊サタデーの島倉カメラマンが，昨日偶然撮ったものなんだ」「どうも，サタデーの島倉かおりです」（関デカ長，島倉カメラマン; 第28.5話）

【呪文】

1. 呪いの文句。
2. 魔法を使うときに使用者が唱える言葉。魔女見習いは，ポロンを振って音楽を鳴らし，その間に呪文を唱えることで魔法が使える。どれみの呪文は「ピリカピリララポポリナペペルト」，はづきの呪文は「パイパイポンポイプワプワプー」，あいこの呪文は「パメルクラルクラリロリポップン」，ぽっぷの呪文は「ピピットプリットプリタンペペルト」，おんぷの呪文は「プルルンプルンファミファミファー」である。
3. ただし，3人によるマジカルステージでは，どれみ，はづき，あいこの順に「ピリカピリララのびやかに」「パイパイポンポイしなやかに」「パメルクラルクたからかに」と唱える。
4. どれみが登場して一番最初に唱えていたもの。「プワプワルププ…プワプワルププ…プワプワルププ…。よぉしっ，魔法の呪文はばっちりぃ!」（どれみ; 第1話）
5. 「マハリクマハリタ ヤンバラヤンヤンヤン…」
6. 「テクマクマヤコン テクマクマヤコン…」
7. 「エロイムエッサイム エロイムエッサイム…」
8. 「イザティー アバ メヒナム…」
9. きりないのでもうやめます。

▶魔法(p76)

【昇級試験】

▶魔女試験(p75)

【少年探偵縦川信夫】

1. 横川信子の私的小説。原稿ノートの最初には「No.3」とあり，あいこに親友宣言をされた時から構想し，休み時間中に執筆したと思われる。「めっちゃ面白かったわ～。特に忠犬どれみなんてサイコーやん」（あいこ; 第6話）。
2. 実際は挿絵入りの小説だが，視聴者には映像・音声付きで公開された。

【成仏】

1. 仏教で，煩悩や輪廻の束縛から離れ究極的な悟りの境地に達して仏となること。作仏，得仏，成道，成菩提などとも言う。小乗（上座部）仏教ではただ修行のみによって成仏できる（修徳）とするが，大乗では衆生はみな成仏の因を具えている（性得）としてその可能性を説く。聖道門では現世での修行によって成仏できるとし，その方法として小乗（声聞乗と縁覚乗の二乗）と大乗（仏乗，菩薩乗，一乗とも）があり，これらを総称して三乗という。浄土門では極楽浄土に往生してから仏道を修し成仏できるとする。浄土真宗では阿弥陀仏の他力本願を信ずれば往生即成仏できると説く。
2. 転じて，往生すること。死ぬこと。
3. 山内信秋の祖父ができないでいたこと。「恐らくふたりが見たのは，わたしの祖父だと思います」「祖父って，お祖父さん?」「ええ。2年前に亡くなったのですが，まだ成仏できないようです。檀家の方が何度か見かけたらしいのですが，どういうわけかぼくの前には姿を見せないのです」（山内，どれみ，山内; 第30話）

【奨励会】

1. 日本将棋連盟が設けているプロ棋士の養成機関で，正式名称は「社団法人日本将棋連盟附属新進棋士奨励会」。東京・大阪の両本部に設置され，東京のものは関東奨励会，大阪のものは関西奨励会と呼ばれる。入会資格はアマチュア4～5段程度の棋力があり19歳以下の男性で，年1回の入会試験を通ると入会できる。所属棋士の段位は低い方から6級～1級・初段～3段があるが，これはアマチュアの段位とは異なる。一定の勝ち星をあげて昇級・昇段点を取ると昇級・昇段できる。また1年に2回，半年間の3段リーグ戦が行われ，このリーグで上位2位に入った3段棋士が4段に昇段し，プロ棋士となることができる（プロ棋士の段位は4～9段）。在籍には年齢制限があり，満23歳の誕生日までに初段になれなかった場合，満26歳の誕生日を含むリーグ終了までに4段になれなかった場合は退会となる。ただし最後の3段リーグで勝ち越しすれば退会とならず次回のリーグに参加できる。以降のリーグでも勝ち越し続ければ在籍を延長できるが，満29歳のリーグ終了時で退会となる。
2. 父がプロの棋士になれなかった理由を語る谷山将太の話より。「プロの棋士になるには，日本将棋連盟の奨励会っていう所に入ってね，6級から始めて，昇級試験を勝ち上がり，4段になるとプロになれるんだ」「見習い試験みたい…」「見習い試験?」「!! な，なんでもない! こっちのこと…♭ それより，谷山くんのお父さんって，どうしてプロになれなかったの?」「それが，30歳までに4段になれないと，奨励会を辞めさせられる決まりになってるんだよ」「厳しいんだね…」（谷山，どれみ，…; 第41話）

▶日本将棋連盟(p69)

【ジョバ】

1. ドドと共に春風家の洗濯機に放り込まれた洗剤（第9話）。
2. 洗剤「ジャバ」のパロディ，と思いきや，「ジャバ」はジョンソンの家庭用ふろ釜洗浄剤だった。家庭用衣料用洗剤で近い名前はせいぜい花王の「ザブ」くらいなので，「ジョバ」は美術スタッフあたりがその場の勢いで適当に書いたものと思われる。

【新幹線】

1. 日本の主要都市間を結ぶJRの高速鉄道。軌間は1435mmの標準軌で，車両は動力分散方式。東京オリンピック開催にあわせて1964年に東海道新幹線が開通。最高時速200km運転は当時鉄道世界最高速だった。75年には山陽新幹線が完成。さらに82年には東北新幹線・上越新幹線の大宮以北が開通，85年には上野まで，91年には東京まで延伸。また92年には在来線直通のいわゆる「ミニ新幹線」である山形新幹線が開業，97年にはやはりミニ新幹線の秋田新幹線も開業。97年には北陸新幹線の一部となる高崎～長野間（いわゆる長野新幹線）も開通した。なお，山形新幹線は99年に新庄まで延伸した。当初から国策主導で建設が進められ，現在も整備新幹線計画に基づき3線5区間が着工されているが，財源不足や採算への不安などから計画は迷走状態である。
2. あいこの母が大阪から美空市に来るまでに利用した鉄道。《仕事の関係で，東京発6時の新幹線で帰らなければならないけど，5時までは美空市にいられるの》（あいこの母; 第34話）
3. 翌日3人が大阪へほうきで飛んでいく際，富士山の下を走っていた鉄道。300系と思われる（図3.17（p72））。
4. メンバーセレクトすると，だいたいカーロボ3兄弟の次にご指名される。「そーいうことならチーム新幹線で決まりね!」（アイ）

【進級試験】

▶魔女試験(p75)

【寝台特急】

1. 主に寝台車から成る特急列車。劇中では「たいよう電鉄」の「Z101」であることしか明言されていないが，明らかにJRの寝台特急「カシオペア」がモデルとなっている。カシオペアは1999年7月に登場した新しい寝台特急で，上野～札幌間を結ぶ。同区間にはすでに寝台特急「北斗星」があったが，カシオペアはその上をゆく豪華列車で，全車A寝台のみで構成されている。その充実したサービスと銀色の斬新なデザインが話題を呼び，登場以来ほぼ満席の状態が続いている。現在はカシオペア用車両が1編成しかない関係上，週3往復のみが運行されている（多客期には2日に1往復）。客車には専用のE26系客車12両編成が使用される。牽引機は本州内がEF81形電気機関車，青函トンネル内がED79形電気機関車，北海道内がDD51形ディーゼル機関車の重連。E26系とEF81形は作中にも登場しているので，詳しくはそれぞれ別項を参照のこと。
2. 小竹たちが盛り上がっていた話題。また，おんぷのパパが第一号の運転手に選ばれたもの（第49話）。
3. 「おまけに，車内は豪華ホテル並で，お料理は一流レストランのシェフが作ってるんですって」「それって，超豪華なステーキとかぁ!?」「え，あ，たぶん…♭」（おんぷ，どれみ，おんぷ; 第49

第三章 用語解説

話）とのことだが，実際のカシオペアでは夕食に「フランス料理コース・肉料理」「フランス料理コース・魚料理」「懐石御膳」を選ぶことができ，このうち「フランス料理コース・肉料理」はメインディッシュが「十勝牛フィレ肉のソテー トリュフソース」である。いわばヒレステーキだから，確かにステーキが食べられることにはなる。が，なにせおフランス料理なので，どれみが想像したであろうアメリカンスタイルのビッグなステーキとはほど遠いものである。

4. ところで，3人は魔法のほうきで寝台特急と併走していたが，あれはかなり危険だ。新しい寝台特急の一番列車なんて，沿線から大量のカメラに狙われているに相違ないからである。

▶EF81形電気機関車(p54)，E26系客車(p55)

す

【スイートピー】

1. sweet pea（英語）マメ科レンリソウ属の蔓性の一年草。学名は Lathyrus odoratus。よい香りがすることから，日本ではジャコウレンリソウ，ジャコウエンドウともいう。茎は細く1～2mの高さになり，巻き付く性質がある。葉は羽状複葉。エンドウに似た莢を生じ，中に種ができる。花は大きな蝶形花で芳香があり，白，サーモンピンク，ピンク，赤，青，紫など様々な色がある。園芸用に矮性や八重咲きの品種も多数つくられている。花期は日本では5月ごろ。シチリア島原産で，世界中の温帯地域に分布。ひろく世界中で園芸用に栽培されている。日本には江戸時代末に到来した。
2. 小泉まりなが朝，教壇の花瓶に生けた花。「きれい…スイートピーか」（関先生; 第11話）。
3. ♪赤い～

【水晶玉】

1. 水晶でできた玉。
2. 魔女が魔法を使うために必要なもの。また，「魔女の証」（女王様; 第50話）。魔女ガエルになっても水晶玉があれば魔法は使える（第15話）。魔女見習いが1級試験に合格すると，認定証が変化して水晶玉になる。ただし，最初は小さいもので魔力も弱いが，修行して大きくしていくものだという（第50-51話）。
3. 妖精が人間に見つからないようにその中に入って隠れられるもの。9級試験に合格したとき，妖精とともにもらえる。「水晶玉に入っていればあたしらの以外の人間には見えへんゆーてたやん」（あいこ; 第9話）前述の水晶玉とは異なる。
4. 魔女が遠隔地の様子を見るのに用いるもの。「様子がおかしかったですね。マジョリン，城に帰ったら，水晶玉であの子たちのことを見ていて」（女王様; 第18話）「水晶玉よ，あいこの母親の姿を映しておくれ!」（マジョリカ; 第47話）やはり前述の水晶玉とは異なる。

【ステーキ】

1. steak（英語）西洋料理の一。肉をフライパンや鉄板・網などで焼いたもの。あぶり肉。
2. ビーフステーキの略。上質の厚切り牛肉を塩・コショウをかけて焼いたもので，西洋の焼肉料理の代表。フィレ肉を用いたテンダーロイン，ロースのサーロイン，骨付きのティーボーン，大きく切ったポーターハウス，やや薄切りのミニッツなどがある。焼き加減でレア（生焼）・ミディアムレア・ミディアム・ウェルダン（よく焼く）がある。
3. この作品において，一番最初に魔法で出てきたもの。「ビッグなステーキよ，出ろ!!」（どれみ; 第1話）
4. どれみが食べたくて食べたくてしょーがないもの。が，第23話以外では絶対に食べさせてもらえないもの。
5. 庶民にとっては高価な牛肉をそのまま使った料理，しかも太平洋戦争で日本を負かしたアメリカの料理ということで，戦後日本では長いこと大衆にとって消費社会的裕福さのシンボルでもあったが，消費文明が飽和した現代日本ではもはや陳腐な記号でしかない。
6. ステーキは今世紀を通じてどんどん大衆化していったが，そのためには途上国の安価な労働力に依存したコショウのプランテーション的大量生産とアメリカ的企業型牧畜の発明が欠かせないのだ。かつての帝国主義的植民地政策に，肉料理に欠かせない香辛料への西洋人の需要が介在していたことは言うまでもない。

【ステーキハウス飯田】

1. 飯田かなえの家が営業するステーキハウス。「とってもおいしい」（はづき; 第26話）らしい。どれみは正月早々ここで食べたいと言ったが休みだった（第47話）。

【ステッキ】

1. アイドルグループ。「のりひろ」「ゆたか」「ゆきお」の3人らしい。「それでね，その時ののりひろの顔ったらね～」「のりひろ～? のりひろって何～?」「ほら，あのアイドルグループの」「なんやて，あのステッキの～!?」「そう，そのステッキの」「あっかーん!」「な，なに?💧」「ステッキゆうたら，ゆたか君やんか～!」「あら，わたしはゆきお様の方が」（どれみ，あいこ，はづき，あいこ，はづき，あいこ，どれみ，あいこ，はづき; 第6話）
2. 「のりひろはドケチ，ゆたかはマザコン，ゆきおはお裁縫が趣味」であり，「ゆたか」は横川信子の親戚。…らしい，彼女の話によれば。
3. あいこの勉強机の上には，ステッキと思わしきポスターがあった（第31話）。

【スポンサー】

1. sponsor（英語）広告主。広告費を負担して広告を行う主体。英語ではadvertiserとも言い，スポンサーと言った場合は特にテレビやラジオの商業放送の番組提供者を指すことが多い。スポンサーには，特定番組の制作費と電波料を支払い提供者の名前を出してCM放送する提供スポンサーと，単にスポット広告を入れるスポットスポンサーの2種がある。民間企業がほとんどだが，政府や地方公共団体，非営利団体などの場合もある。一坪地主運動など，まれにまったくの民間有志による場合もある。広告代理店にとっては広告主は顧客にあたるため，クライアント（client），アカウント（account）とも呼ぶ。
2. 玉木のパパの会社が映画「愛のささやき」で担ったもの。「何故ならその映画，ウチのパパの会社がスポンサーなんですもの。ヒロイン役はあたしに決まりでしょう」（玉木; 第35話）
3. が，玉木はこうおんぷにやり込められた。「だって，確かにスポンサーは力があるかもしれないけど，映画はスポンサーが作るわけじゃないのよ。監督さんや，プロデューサーさんや，大勢のスタッフが力を合わせて作るものなの。だから，たとえスポンサーだって思うとおりになんかならないと思うわ。玉木さんだったかしら? 芸能界はそんなに甘くないのよ」「…💧 あらあらあらあら…ふーんっ! だったら勝手に受けるといいわ! まー無理だと思うけどっ!」（おんぷ，玉木; 第35話）
4. テレビアニメ「おジャ魔女どれみ」のスポンサーと言えば，まず自称「楽しい時を創る企業」バンダイだが，他にも多くの企業が《提供》として名を連ねている。関東地区で《提供》に入っていたのは回数の多い順に，BANDAI [1-51]，マクドナルド [1-51]，講談社 [1-34, 43-51]，Kellogg's [9-51]，セイカノート [1-8, 26-34]，アキレス [22-34]，ツクダオリジナル [35-46]，バンダイ・ミュージックエンタテインメント [1-11]，永谷園 [13-18]，日本水産 [19-21]，カルちゃんランドセル [40-42]，KING RECORDS [50-51] だった。

▶バンダイ(p71)

【住吉大社】

1. 大阪市住吉区住吉2丁目にある神社。摂津国の一宮。例祭は7月31日。住吉神と呼ばれる底筒男命・中筒男命・表筒男命の3神と神功皇后を祀る。神功皇后の征韓に神助があったため帰還後に3神が祀られたのが始まりと伝えられる。古くから海上守護の神として信仰され，全国の住吉信仰の中心地。和歌の神，商業繁盛の神としての信仰もある。4棟の本殿（1810年再建）は住吉造と呼ばれる神社建築様式の典型で，国宝。淀君の寄進と伝えられる朱塗の太鼓橋（反橋）も有名。
2. 第23話で，あいこの回想に登場した神社。
3. 図3.6 (a) は作中のカット，図3.6 (b) はそのモデルとなったと思われる場所の写真。奥の緑地が住吉大社で，石灯籠のようなものは常夜灯。ただしここは住吉大社の正面ではない。手前の路面電車は阪堺電軌で，阪堺線の住吉停車場である。ちなみにここは阪堺線と上町線が道路上で交差するという場所で，カメラを持った鉄道愛好家がよく見られる。



(a) カット（第23話）　(b) 写真

図3.6: 住吉大社

▶阪堺電軌(p70)

せ

【世界平和】

1. 世界（地球上の人間社会のすべて，万国）が平和（戦争がなくて世が安寧であること）であること。
2. どれみがあるグッズにかけた魔法，…ではなかった。「これもなんか魔法がかかってんの?」「世界平和です…」「え?♪」「なんちって，本当は寝坊しない魔法なんです」（客，どれみ，…; 第5話）
3. 失われると物語が始まり，守られると物語が終わるもの。
4. ただのお題目。SFじゃあるまいし，戦争をなくせるなどと本気で信じるのは無邪気に過ぎる。戦争をするのが人間の性とはよく言われることだ。しかし平和を希求するのもまた人間の性。その二律背反性こそ人間の証であり，夢想に等しいお題目であろうとそのために努力するのが政治家の努めである。不可能とわかっていても努力する，だから美しいのだ。

【泉南市】



図3.7: 泉南市役所

1. 大阪府南西部の市。1970年市制。人口63,707人（1998年），面積47.34km^2。大阪湾に面する平野部と和泉山脈北部，そして関西国際空港（人工島）の一部から成る。中心部は信達と樽井。JR阪和線・南海電鉄本線・阪和自動車道が通る。泉南紡績工業地帯に属し，紋羽製造の技術による繊維産業や，煉瓦・石綿工業が行われる。関空建設に伴い臨海部を埋め立て，りんくうタウンが造成された。
2. あいこの母からあいこへ手紙の封筒に記載されてあった差出人住所より。《大阪府泉南市 岡村あつ子》（第34話）
3. ただし，劇中当時あいこの母が住んでいたのは阪南市だった。同市に引っ越す前の住所なのだろう。

▶大阪(p56)，阪南市(p71)

そ

【ソナチネ幼稚園】

1. ぽっぷやぽっぷの親衛隊，きみたかたちが通う幼稚園。第25話にぽっぷの組でお泊まり会があったが，この時の背景から《すみれ》組，《あさがお》組，《さくら》組があることが確認された。第16話でもぽっぷは「さくら組」の子とデートすると言っていた。しかし，ぽっぷたちが何組なのかははっきりしていない。
2. ソナチネ（sonatine; イタリア語）とは，小規模のソナタ（sonata; 同）のこと。多くは三楽章以下で，教育用のピアノ独奏曲に多い。初出の第15話では，同幼稚園の門に《SONAĈHINE KINDERGARTEN》とあったが，第24-25話では《SONATINE KINDERGARTEN》に改められていた。

【反町隆史】

1. 俳優，歌手。1973年埼玉県浦和市に生まれる。本名は野口隆史。16才の頃からモデルを始め，ファッション誌やコカ・コーラのCM，東京コレクション，パリコレクションで活躍。1994年にテレビドラマ「毎度ゴメンなさぁい」で役者デビュー。翌95年，映画「君を忘れない」では特攻隊の少年役を好演。97年初主演ドラマ「ビーチボーイズ」で一躍人気を博した。同年にはシングル「Forever」で歌手デビューを果たしてアルバム「Message」をリリース，NHK「紅白歌合戦」にも初出場した。他，出演ドラマ「部屋においでよ」「翼をください」「バージンロード」「GTO」など。趣味は音楽鑑賞と釣り。
2. 藤原監督が撮影している映画に出演している俳優「ソリマユ」の元ネタと思われる俳優（第27話）。
3. 某うちゅう人に日々弄ばれる小学5年生。ってそれは堀町タカシだけど。

【算盤】

1. 日本や中国で使用される計算器。横長の薄い箱形で横に梁をわたし，これを貫いて縦に串を設け，串に5ないし7個の珠を貫く。この珠を指で上下して加減乗除を行う。算盤による計算を珠算と言う。中国で宋末から元代に発明され，日本には室町時代末期に伝来。しかし，地面や石盤に筋を引いて石やコインを並べて計算をする方法は古代ギリシアをはじめ古くから世界各地で行われていたと考えられている。日本では上1珠・下5珠の算盤が江戸時代初期に登場して庶民に広まり，また1938年に小学校で珠算教育が取り入れられると現在と同じ上1珠・下4珠の算盤が普及した。珠算の検定試験は日本商工会議所と各地の商工会議所が共催するものが最も普及しており，1～3級がある。
2. あいこが魔女の進級試験を誤魔化すのに利用したもの。「どれみちゃん，今日8級のテストなんです」「8級って何のテスト?」「え♪…いや，それは，そろばんです!」「そうそう，そろばんなんです! 先生!♪」「どれみ，いつからそろばん習うようになったんだ～?」「え! わりと最近!♪」「そうそう，あたしらも一緒やで～…なぁ?♪」「うんうん♪」（はづき，関先生，あいこ，はづき，小竹，はづき，あいこ，はづき; 第13話）
3. はづきはともかく，どれみとあいこは本当に習った方がいいような。

た

【高久駅】

1. ぽっぷがお使い中に降りた，春風家のおばあちゃんの家の最寄り駅。《しおちゃん鉄道》の駅であり，木造で自動改札。「これ，お父さんの釣った魚で作った干物。それと，途中でおばあちゃんの大好きな大福，10個入り1000円のを買って届けてね。それから電車に乗って，3つめの駅で降りて，真っ直ぐ行くとおばあちゃん家だから…」（はるか; 第7話）
2. 「どれみ」の美術進行は高久博だが…。

▶しおちゃん鉄道(p62)

【宝塚歌劇団】

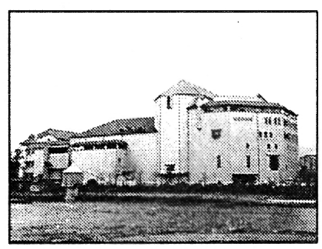


図3.8: 宝塚大劇場

1. 阪急電鉄が経営する劇団組織。兵庫県宝塚市と東京を拠点とする。モットーは「清く正しく美しく」。オペレッタやミュージカル風のレビューを若い女性だけの劇団員が専用の劇場で演じる。1912年に阪急の小林一三が宝塚温泉の余興用に宝塚少女歌劇養成会を発足させたのが始まりで，14年に宝塚市で第1回公演。これが大成功をおさめ，18年には東京で初公演。19年に名称を宝塚少女歌劇団に改め，劇団員の養成組織である宝塚音楽歌劇学校も設立した。27年には新感覚の舞台「モンパリ」が大ヒット。30年代には宝塚黄金期を迎え，テレビ・映画界にも女優を輩出した。40年，宝塚歌劇団に改称。現在は花，月，雪，星，宙の5つの組があり，それぞれにトップスター，二番手男役，トップ娘役がおり，各組が交代で公演を行っている。
2. はづきが奥山なおみに見いだすもの。「奥山さんって強いわよね! ぅうん，ますます憧れちゃう!!」「はーづきちゃん…タカラヅカとちゃうねんで…」（はづき，あいこ; 第14話）

【滝沢秀明】

1. ジャニーズジュニアを代表するタレント。1982年東京都に生まれる。95年ジャニーズジュニアの一員となり，「木曜の怪談」で怪談トリオの一人としてデビュー。以後，ドラマ「誰かが誰かに恋してる」に出演し，「木曜の怪談ファイナル タイムキーパーズ」では主演をつとめた。98年ドラマ「ニュースの女」に出演，人気を得る。また，この年には京都市で初の座長公演を行っている。99年にはNHK大河ドラマ「元禄繚乱」にも出演。他の出演作にドラマ「魔女の条件」，バラエティ番組「8時だJ」，「ミュージックジャンプ」など。CMではロッテ「コアラのマーチ」など。愛称「たっきー」。趣味はローラーブレードとプロレス。

2. テレビドラマ『しあわせ橋』の主役である「マツザワアキヒデ」の元ネタと思われるタレント（第49話）。

▶まっきー(p76)

【たこ焼き】

1. 蛸焼。水に溶いた小麦粉を半球状の窪みのある鉄製の型に流し込み，刻んだタコやイカ，干しエビ，ネギ，生姜などを入れて球状に焼き上げたもの。ソースやつけ汁をかけ，青のりや削り節を添えて食べる。大阪から全国に広まった庶民的な軽食。
2. あいこの好物（の一つ）。あいこが一番最初に魔法で出そうとしたもの（第4話）。あいこの父のたこ焼きは「天下一品」（あいこ; 第3話）であり，あいこは3人で大阪見物したときもたこ焼きを食べ（第34話），美空小の秋の作品展でもたこ焼きを（スポンジで）作っていた。「あたしのいっちゃん好きなもんは，やっぱ我が家特製のジャンボたこ焼きや!」（あいこ; 第38話）魔女界にもたこ焼き屋はあり（第8話），タコ一族の八太郎もたこ焼きを作る上（第13話），スルメ子との結婚披露宴のケーキにもたこ焼きが乗せられていた（第40話）。
3. ナニワのたこ焼きの伝統はソースをつけないものだという。大阪にはたこ焼き屋が多く，また味付けの種類もバラエティーに富んでいたが，確かにソースをつけないものは存在し，確かに美味しかった。が，劇中のたこ焼きには全てソースがつけてあった。八太郎のたこ焼きはともかく，妹尾親子のたこ焼きに関してはその伝統を破ったものであると言えよう。伝統を破ってまで追求したその味は，味皇が大阪城を突き破るほどのものに違いない。「うーまー いー ぞー!!」（味皇）
4. 「いいか，たこ焼きとは地球だ! 地球に喩えれば，たこ焼きの皮は地表，その内側のとろみの部分はマントル，そして，その中心のタコは地核。この3つの割合を地球のそれと同じにしたのが，たこ焼きの理想的な作り方と言われている。もし地核が大きすぎたら地球はどうなる!? 内側からの圧力で爆発してしまうのだ! 明石のタコは確かに美味だ。だが，それだけを強調しても決して最高のたこ焼きにはならない! 大切なのは，皮ととろみとタコのコラボレーションだ!!」（天領イッキ）

【タップ】

▶魔女見習いタップ(p76)

【伊達公子】

1. 元プロテニス選手。1970年京都市上京区に生まれる。小1でテニスを始め，中学選手権で光国彰監督に見出され園田学園へ。87年日本選手権でベスト4になり注目される。88年プロ転向。90年全豪オープンでベスト16，93年全米オープンでベスト8。94年にはNSWオープンで海外初優勝，同月の全豪オープンでもマルティネスを破り4強，さらに日本人として初めて準メジャー大会（ティアI）を制した。95年の世界ランク4位は日本人史上最高。96年KBフェド杯で世界ランク1位のシュテフィ・グラフを破る快挙。同年ウィンブルドンで日本女子初の4強に。名実ともに日本女子テニスのエースだったが，同年9月に年内限りでの引退を表明。同年11月のチェース選手権を最後に現役引退。シングルス通算235勝98敗だった。引退後はTVのスポーツ番組に出演したり，子供向けのテニス教室を主宰したりしている。
2. テニスギャルを見て興奮したオヤジーデが呟いた言葉。「おっ，ナマ脚! ダテキミコ!」（オヤジーデ; 第28話）
3. 恐らく，オヤジーデ役の松尾銀三のアドリブ。小声だし，脈絡ないし。

【田中医院】

1. 藤原邸のすぐ近くにある病院。「あー，ちょっとそこのお嬢ちゃん」「はい?」「ねぇ，このへんにお医者さんないかなぁ? 連れが急に腹痛になっちゃって」「え!? 誰が腹痛なんすか?」「おまえだよ，おまえ! おまえ以外に誰がいるんだよ! ボケてないで，さっさと腹痛になれ!」「あのー…すみません」「あ! はい」「お医者さんなら，あそこですよ?」（パパイヤ兄弟アニキ，はづき，パパイヤ兄弟アニキ，パパイヤ兄弟オトウト，パパイヤ兄弟アニキ，はづき，パパイヤ兄弟アニキ，はづき; 第19話）
2. 「どれみ」の背景に田中里緑がいるが…。

【ＷＷＷＨ】

1. WWWAのパロディ。WWWAはWorld Women's Wrestling Associationの略で，1966年にアメリカ・ロサンゼルスに設立された女子プロレス団体。しかし初代WWWAシングル王者にして設立者・初代会長のミルドレッド・バーグが89年に死亡し，これ以来WWWAのタイトルは日本の全日本女子プロレス協会の管理するところとなっている。それ以前の70年代からすでにタイトル保持者は日本人が中心となっており，タイトル決定戦も日本国内で行われている。現在WWWAのタイトルには世界シングル，世界タッグチーム，世界スーパーライト級などがあり，日本の女子プロレスの代表的タイトルとなっている。
2. ウィッチーはづきとプリティまりな組VSストロング奥山とビューティーマスク組の試合タイトルより。「さあ，両ペアがリングに上がり，リングアナ・デラの選手紹介です!」「♪本日のぉ～メインイベントぉ～，40分一本勝負ぅ～，WWWHぃ，世界女子タッグ選手権を始めるわよぉ～」（春風実況アナ，リングアナ・デラ; 第28.5話）
3. 何故「H」なのかは不明。

【檀家】

1. 仏教で，特定の寺院に属しこれに布施をする俗家。檀方。特に江戸時代に成立した檀家制度において言い，葬式などの諸仏事，墓地管理などを寺に依頼し，様々の寺院経営費を負担する。元は「施主」と訳される梵語dānapatiの音写「檀越」から生じた語。檀家制度は中世末期に自然に成立したが，江戸幕府がこれを強制して制度化し，1638（寛永15）年ころには全国的に成立した。キリスト教弾圧政策の一環で，寺院の住職がキリシタンでない者の身分を証明する寺請証文を発行し（寺請制度），これによって檀家が固定されていった。キリスト教弾圧政策の強化とともに寺院の檀家に対する経済的その他の支配も強まり，幕府の民衆支配機構の一部として機能した。明治以降そのような制度は薄れたが，墓地管理や葬式法要の委託を通じて檀家と檀那寺の関係は儀礼的に現在まで続いている。
2. 山内寺にも檀家はあり，山内信秋にいろいろお話してくれるらしい。「それじゃぁ，そろそろ始めましょうか」「おっ，待ってました!」「夏休み最後の良いお話は，ある檀家さんのお話です」（山内，小竹，山内; 第30話）「祖父って，お祖父さん?」「ええ。2年前に亡くなったのですが，まだ成仏できないようです。檀家の方が何度か見かけたらしいのですが，どういうわけかぼくの前には姿を見せないのです」（どれみ，山内; 第30話）

ち

【地球防衛軍】

1. きみたかとその子分で構成される軍隊（?）。武器は光線銃，水鉄砲。防具はマント，作業着，作業用ヘルメットなど。はづきは入隊を許可された。「おまえだけは，防衛軍に入れてやっても，いいよ」「うふふ…ありがとう」（きみたか，はづき; 第38話）

【チョー・ヨンピル】

1. 韓国人の歌手。この名は本名で，漢字では趙容弼，ハングルでは 조용필 。ポップスやロックから演歌までこなす韓国のスター。1950年，韓国の京畿道華星郡に生まれた。高校時代にギターを始め，プロの音楽家を志し，「趙容弼と影法師」というロックバンドを作る。1972年に歌手デビュー。76年演歌調の「釜山港へ帰れ」（原題 돌아와요 부산항에 ）が30万枚のヒット。この曲は82年に日本でも発売，渥美二郎にも歌われ，日本でも有名。77年朴正熙政権による芸能界粛正キャンペーンで3年間の活動停止処分を受けるも，79年に復帰。82年初来日し，以来日本では演歌歌手として知られ，ヒット曲も多い。87年にはNHK紅白歌合戦にも初出場。88年，ソウル・プレ五輪ショーで韓国代表を務めた。ほか代表曲に「悲恋」「友よ」などがある。
2. 奥山なおみを笑わせる練習をしていたSOSトリオのギャグのうち，杉山のギャグより。「あたしの気持ちも分かってチョー・ヨンピルぅ」（杉山; 第14話）
3. 多分奥山さん知らないって。

▶SOSトリオ(p56)

て

【DNA】

1. DeoxyriboNucleic Acid（英語）の略。デオキシリボ核酸。RNAとともに核酸の一つで，大半の生物の遺伝物質。細胞核中に見られ，ミトコンドリアや葉緑体にも少量が存在する。リン酸基・デオキシリボース・核酸塩基から成るデオキシリボヌクレオチドが多数結合したポリヌクレオチドで，一般に2本のポリヌクレオチド鎖がねじれあいながら塩基同士の水素結合で結合した2重らせ

ん構造を呈する。DNAの核酸塩基はアデニン（adenine），チミン（thymine），グアニン（guanine），シトシン（cytosine）の4種で，それぞれA，T，G，Cと略記される。AはTと，GはCとのみ結合して2重らせん内で相補的塩基対を成す。この4塩基の配列にタンパク質のアミノ酸配列を決定する情報が保持されていて，遺伝情報として機能する。

2. 目眩の原因。…横川信子によれば。「ちょっと横川さん。サボってないで少しは手伝いなさいよ。あなたも当番でしょ」「う゛…あぁ…急に目眩が…」「ふん，お腹を押さえて言わないでよ」「え!? 麗香ちゃん知らないの?」「何を?」「目眩ってお腹の中のDNAが原因なのよ!」「ウソ」「ウソじゃないわよ! DNAって言うのは『どうしても』『何となく』『あーだるい』の略でね…」（玉木，横川，…; 第6話）

【TNT】

1. TriNitroToluene（英語）の略。トリニトロトルエン。分子式は$C_6H_2CH_3(NO_2)_3$で，トルエンの硝化化合物。トルエンを硝酸と硫酸の混酸でニトロ化して得られる。常温で淡黄色の針状結晶をなす。融点80.35℃。水にほとんど不溶。アルコールに微溶，アセトンなどに可溶。トロチルとも略称。高性能爆薬として軍用・工業用に用いられる。
2. 少年探偵縦川信夫とはづき博士と忠犬どれみが捕まっていた小屋に仕掛けられていた爆弾2つに刻まれていた文字。「どうでもいいけど，なんではづき博士まで捕まってんだよ」「そんなことよりあと1分で爆弾が爆発するぞ」（少年探偵縦川信夫，はづき博士; 第6話）

【デイジー】

1. daisy（英語）ヒナギクの英語名。キク科ヒナギク属の多年草で，ヨーロッパ原産。葉は根生葉だけで，へら形または倒卵形。普通秋に種をまき，4～5月に10～15cmの花茎の先端に1頭花をつける。花色は紅・桃・白など。花を楽しむ観賞用植物で，花の色・大きさ・形などが異なる様々な改良品種がある。日本へは明治初期に渡来し，現在では春の花壇や鉢植え用に広く栽培される。
2. 小泉まりなが手入れをしていた花壇に植えられていた花。また，風邪で休んだ木村を見舞いに行った際手渡した花。「デイジー。キク科の花でね，花言葉は『無邪気』っていうの」「この花はね，特に好きな花なの」（小泉; 第11話）
3. みすてないで!

【天下茶屋】

1. 大阪市西成区の地名。住吉と今宮の間にあたり，現在の行政区画名では天下茶屋1～3丁目，天下茶屋東1～2丁目がある。天正年間（1573～1592年）に芽木光立が茶屋を出し，豊臣秀吉がこの茶屋で小憩したことから太閤殿下茶屋と言い，転じて天下茶屋と呼ばれるようになったのが地名の由来。明治期には天王寺村の一部だったが1925年から大阪市に編入，29年には天下茶屋1～3丁目となる。現行政区画は73年から。1609（慶長14）年に源三郎が僕鵤幸右衛門の助力により天下茶屋で仇討をしたことがあり，これを脚色した歌舞伎「大願成就殿下茶屋聚」や，浄瑠璃「讐報春住吉」などがある。
2. あいこが美空市に引っ越す前に住んでいた町。「あたしの名前は『妹』の『尾』と書いて『妹尾』，妹尾あいこ。大阪の天下茶屋ぁ言うところから引っ越してきてん」（あいこ; 第3話）
3. NHK「ふたりっこ」の舞台になったことで少し有名。いわば下町であり，特に阪堺電軌（路面電車）が通っている界隈は狭い路地に民家や商店街が軒を連ねている。
4. 図3.9（a）は，南海本線と地下鉄堺筋線の天下茶屋駅から東に伸びる商店街の写真。左右に阪堺電軌が走る。図3.9（b）は1丁目1番地の標識。特に意味はない。



（a）商店街



（b）標識

図3.9: 天下茶屋

▶阪堺電軌（p70）

と

【ドイツ】

1. ヨーロッパ中北部の国。正称はドイツ連邦共和国。人口約81,264,000人(1995年推計)，面積356,733km^2。首都ベルリン。住民の多くはドイツ人でドイツ語を話す。宗教はプロテスタントとカトリックが混在。古代にはゲルマニアと呼ばれ，843年東フランク王国が成立。962年から神聖ローマ帝国の一部となるが諸侯が領邦国家をなして割拠した。宗教戦争，三十年戦争を経てプロイセンが台頭，71年にプロイセン主導のもと統一国家ドイツ帝国が成立。しかし第1次世界大戦に破れて崩壊，1919年ワイマール共和国が成立。33年ヒトラー政権が成立，ナチス独裁体制となる。第2次世界大戦敗北後は米・英・仏・ソによる分割統治を受け，49年ソ連占領地区にドイツ民主共和国が，他3国の占領地区にドイツ連邦共和国が成立，冷戦分断国家となる。しかし80年代後半の東欧民主化の流れをうけ，90年再統一。現在はヨーロッパ最大の人口を抱え，EU内でも主導的な立場にある。
2. 矢田まさるの父の単身赴任先の国。「…お父さん，帰ってくるんだって?」「…?」「大変だね，単身赴任。ドイツだっけ?」「はぁ」「いつ帰って来るの?」「…明後日」「良かったね」「…別に」（関先生，矢田，…; 第17話）

【東映】

1. 東映株式会社のこと。東映株式会社は1949年に東京映画配給株式会社として創立，51年に東横映画（株）と太泉映画（株）を吸収合併し，この時から現社名。資本金約117億700万円，従業員数435人（2000年3月末現在）。代表取締役社長は高岩淡。本社東京都中央区銀座。ほか関西・中部・九州・北海道各支社，東京撮影所・京都撮影所がある。東映グループの中核で，関連会社多数。主な事業内容は映画の制作・配給・興行で，63の直営映画館を持つ。ほかテレビ番組や教育用映像の制作，不動産事業，ホテル経営なども手がけている。邦画の制作会社としては大手の一つで，最近作は「鉄道員」など。テレビ番組の制作プロダクションとしても大きなシェアを誇り，数多くの時代劇シリーズやいわゆる特撮ヒーローものシリーズなどを手がけている。57年に日本教育テレビ（現・全国朝日放送）の設立に資本参加しており，ABCおよびテレビ朝日系列とは深い関係がある。
2. テレビアニメ「おジャ魔女どれみ」の制作会社［1-14］，及び制作協力会社［15-51］。
3. はづきのパパの映画の配給元もやはりここなのだろうか…。

【東映アニメーション】

1. 東映アニメーション株式会社のこと。1956年に東映が日動映画（株）を買収し，傍系会社として設立（当時は東映動画株式会社）。98年から現社名。資本金約11億6800万円，従業員数229人。代表取締役社長は泊懋。本社東京都練馬区。東映グループの一部をなし，テレビ番組および映画のアニメーション制作が主たる事業。58年の『白蛇伝』に始まる東映動画の長編劇場作品は毎年夏に公開されて定番となり，特に69年の『長靴をはいた猫』は大ヒット。63年初めてテレビアニメ『狼少年ケン』を制作。66年には日本初の少女アニメ『魔法使いサリー』を手がける。ほかテレビ番組の代表作は『マジンガーZ』（72年放映開始），『キャンディ・キャンディ』（76年），『Dr.スランプ アラレちゃん』（81年），『ドラゴンボール』（86年），『美少女戦士セーラームーン』（92年）など。67年以来続く春夏の劇場公開「東映まんがまつり」（90年「東映アニメフェア」に改称）も有名。97年には業界に先駆けてアニメ制作を全面デジタル化している。
2. テレビアニメ「おジャ魔女どれみ」の制作会社［15-51］。
3. 2000年7月現在の制作テレビアニメは5本で，関東地区の放映曜日時間順に「おジャ魔女どれみ＃」「デジモンアドベンチャー02」「金田一少年の事件簿」「ONE PIECE」「マシュランボー」である。

【東栄無線】

1. 東栄無線株式会社のこと。あいこの父，妹尾幸治が務めるタクシー会社。美空市には美空営業所がある（第22,47話）。読み方がこれで正しいかは不明だが，どこかで聞いたことのあるよーな名前といい，どこかで見たことがあるよーな会社のマークといい，恐らくこれで正しい。
2. 緑を基調とし黄色のラインの入ったボディーは，都内を走る東京無線のタクシーと類似している。

【東京駅】

1. 東京都千代田区丸の内にあるJRの駅。東海道本線，中央本線，総武本線，東北本線，京葉線，新幹線の起点。1日平均乗車人員は約84万人（1991年）。1914年開業。駅舎本屋は辰野金吾設計によるルネサンス風の鉄骨煉瓦造りで，大正初期の代表的建築だったが，1945年戦災により内部を焼失。戦後改修されるも著しく原型を損ねた。戦後は首都圏鉄道網の発達にあわせて拡大し，56年地下鉄が乗入れ，69年には大地下街ができ，72年総武本線・90年京葉線が地下駅に乗り入れた。
2. あいこの母が美空市から大阪へ帰る際に利用する駅。《仕事の関係で，東京発6時の新幹線で帰らなければならないけど，5時までは美空市にいられるの》（あいこの母; 第34話）

【トナカイ】

1. ヨーロッパとアジアの亜北極，北極地帯にすむシカの総称。偶蹄目シカ科。名前はアイヌ語またはギリヤーク語に由来するという。馴鹿とも。体長1.7m，肩高1.2mほどで，尾がある。オス・メスともに角を持つが，メスの角はオスのものよりやや小さい。体毛は褐色で，夏には暗い色に，冬には明るい色なる。草食性で，角や蹄で雪を掘り，その下の草や地衣類を食べる。本来の生息地はノルウェーからアジア北部で，古くから家畜化されている。雪上でそりをひかせるほか，乳用，食肉用，皮革用にもなる。1887年に経済的に価値の高い動物としてアラスカに移入された。北アメリカのトナカイはカリブーと呼ばれる。
2. どれみがぽっぷに頼まれてサンタの絵を描いていた時，上手く描けずに悩んでいたもの。「うー…ん，うぅんと…」「どれみちゃん…?」「えらい悩んでんねんなぁ。どないしたん?」「うーん…」「あっ，どれみちゃん，サンタさんを描いてるのね」「うん，ぽっぷに頼まれて，サンタさんの絵を描いてるんだけど，トナカイさんがこりゃまた難しくってさぁ…」「ふーん…あ，でも，こっちのソリ引いている犬なんかよう描けてるやんか」「それもトナカイさんなんだよぉ…」「あぁ，ごめーんどれみちゃん…間違えたぁ…」（どれみ，はづき，あいこ，どれみ，はづき，どれみ，あいこ，どれみ，あいこ; おジャ魔女CDくらぶ その7）
3. ある時はスモークJoが，またある時はドジでウッカリな子分がこれに扮した。

【トンビに油揚げ】

1. 慣用句「鳶に油揚を攫われる」または「鳶に油揚を攫われたよう」の略。当然自分のものになると思っていたものを，思いがけず横合いから奪われて呆然とするさまを言う言葉。鳶に掛けられる。「鳶」は地方によっては「とんび」とも言う。類語「犬骨折って鷹の餌食」。
2. 第16話の予告より。「そりゃチャンス! 釣りで魚も長谷川君もゲットやね!!」「あぁっ! それって『トンビに油揚げ』ってことだね!!」「違うがな! 『臍で茶ぁ沸かす』っちゅーねん!!」「2人とも勉強した方がいいと思いまーす」（あいこ，どれみ，あいこ，はづき）

▶臍で茶を沸かす（p73）

な

【ナイチンゲール】

1. Florence Nightingale (1820–1910) イギリスの看護婦，病院改革者，人道主義者。イタリアに生まれ，イギリスで幼年期を過ごし父から古典教育を受ける。49年からヨーロッパ各地で病院システムや看護を研究。1854年のクリミア戦争勃発後，クリミアでの奉仕活動を志願。38人の看護婦を率いてイギリス軍に従軍し前線の劣悪な衛生状態を改善，野戦病院の看護部門を整備して傷病者の死亡率を減少させた。戦争後はロンドンにナイチンゲール看護学校を創立，近代的職業看護婦教育を開拓。1907年には女性として初めてイギリスのメリット勲位を授与されたほか，多くの外国政府から栄誉を受けている。近代病院制度の欠くことのできない一部としての看護制度を確立した功績は今日でも高く評価されている。著作『看護ノート』など。
2. どれみが憧れていた，という人物。「じゃぁ，どれみは何になりたいの?」「あたし? あたしは，ぜったい白衣の天使!」「えぇーっ!?」「どれみ! それだけはやめるんじゃ!!」「何で? あたし昔からナイチンゲールにずっと憧れてたんだよ!」「お前のようなおっちょこちょいが看護婦になったら，患者の命がいくらあっても足りんわい!」「ぶっぶのぶーっ! そんなのやってみなきゃわかんないじゃん! もしナイチンゲールのような看護婦さんになったらどーすんの?」（ぽっぷ，どれみ，一同，マジョリカ，どれみ，マジョリカ，どれみ; 第28.5話）
3. 「クリミアの天使」とも異称され，生前からその功績は半ば神話的な称揚のされ方をしてきた。日本でも子供向け伝記本を通して「天使」としての無害なナイチンゲール像が定着しており，「ランプを片手に夜の野戦病棟を見回る美しい女性」といったイメージが流布しいる。どれみも概ねそのようなナイチンゲール像を思い浮かべているのだろう。CDのこのセリフがきっかけでナイチンゲールの子供向け伝記を読むことになった視聴者がいるかも知れないと思うと，つくづく自己増殖する先行イメージの強力さと恐ろしさを思うものである。「ナイチンゲールに憧れるどれみ」は滑稽な描写であり，そこには憧れられるようなナイチンゲール像への軽い揶揄さえ含まれているだろうに，そんな意図とはおよそ正反対の結果を世の少女に招きかねないからである。
4. シャア・アズナブルことキャスバル・レム・ダイクン率いるネオ・ジオン軍のニュータイプ専用モビルスーツ。MSN-04「サザビー」の後継機にあたる。劇場版アニメーション「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」ではシャアはこのサザビーに乗っていたが，2つの小説版の内，角川版の方の「ベルトーチカ・チルドレン」ではこれに乗っていた。

【浪花恋しぐれ】

1. 演歌。歌は都はるみ・岡千秋。たかたかし作詞，岡千秋作曲。1982年にリリースされたヒット曲。都はるみは，この歌で第16回全日本有線放送大賞グランプリ（1983年度）を受賞している。歌詞は「芸のためなら　女房も泣かす　それがどうした　文句があるか」と始まり，日本一の落語家を目指す亭主と，それを支える妻との夫婦仲を歌ったもので，男女2人のデュエット曲である。題名のとおり歌詞の上では大阪が舞台となっている歌で，大阪の地名もいくつか登場するほか，一部には関西弁も用いられる。
2. あいこの父がお風呂の中で唄うのが好きだ，とあいこが言う歌。「そんでなー，おばちゃん。趣味は，競輪・競馬にパチンコ・麻雀。それから，お風呂の中で『浪花恋しぐれ』歌うことやな」（あいこ; 第47話）

【なんばグランド花月】

1. 大阪市中央区難波千日前にある吉本興業専門の演芸場・劇場。略称NGK。1987年にボーリング場のボウル吉本が改修された「吉本会館」の一部としてオープンした。吉本興業所属芸人による漫才や吉本新喜劇などが上演されている。現在の吉本演芸の中核となる寄席で，地元・大阪市民はさることながら団体客による利用も多い。劇場の名は，1918年から吉本（当時は「吉本興行部」）傘下の寄席を「花月」と称したことに由来していて，現在でも吉本興業の施設には「うめだ花月シアター」など花月の名を冠するものが多い。



図3.10: NGK

2. あいこがよく行った場所。「へーぇ，吉本の芸人を生で見て育ったのかぁ」「なんばグランド花月にはよう行ったよ」（太田，あいこ; 第3話）
3. 立ち見は大変だった。

▶吉本（p81）

に

【ニコニコホーム】

1. あいこの母，岡村あつ子が務める老人介護施設。《老人介護センター ニコニコホーム》。大阪市内，特に大阪城公園の付近にあると思われる（第34話）。

【23.5センチキック】

1. 16文キックのパロディ。16文キックはプロレスラーだった故・ジャイアント馬場（本名は馬場正平）の得意技のひとつ。片足を高く上げて相手の頸部から頭部を狙うもので，これで相手を倒してホールに持ち込んだりする。身長200cmを越える巨漢だったジャイアント馬場の，足の大きさのイメージからついた名前。文は足袋や靴の底の寸法を測る単位で，1文は約2.4cm。したがって16文は約38.4cmとなるが，実際のジャイアント馬場の足の大きさは32cmで16文より小さい。アメリカ修行から帰ってきたときに履いていた靴のサイズが「16」だったため，この名がついたとも言われている。

2. ウィッチーはづきの技の一つ。「ビューティーマスク，行くわよ!」「はづき体当たり，ロープに飛んで戻ってきたところを23.5センチキーック!」「ぐぁ」(ウィッチーはづき，春風実況アナ，ビューティーマスク; 第28.5話)
3. 文に直せば9.8文キックとなる。どちらにしろあまり強そうではないが。

▶プロレス(p73)

【日本将棋連盟】

1. 将棋の専門棋士で組織する社団法人。1949年設立。前身は東京将棋連盟。将棋の普及・発展を図り，文化の向上に資することを目的とする。名人戦はじめ各種の棋戦を運営し，プロ棋士の育成や段位の認定を行う。講習会の主催や各地の支部での巡回指導，新聞への対局棋譜の提供なども行っている。月刊の機関誌『将棋世界』を発行するほか，専門書を多数刊行。本部東京都渋谷区，現会長は二上達也。正会員171名。全国に695の支部を設け，支部会員は2万人を越える。
2. 父がプロの棋士になれなかった理由を語る谷山将太の話より。「プロの棋士になるには，日本将棋連盟の奨励会っていう所に入ってね，6級から始めて，昇級試験を勝ち上がり，4段になるとプロになれるんだ」(谷山; 第41話)

▶奨励会(p63)，坂田三吉(p61)

【人間界】

1. 魔女の住む魔女界や，魔法使いの住む魔法界に対して，人間の住む世界。

▶魔女界(p75)，魔法界(p77)

【認定証】

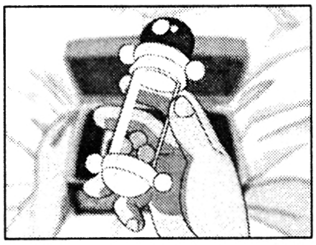


図3.11: 認定証

1. 認定の証。
2. 6級の魔女試験に合格するともらえるもの。中に収められた認定玉が8個集まると一人前の魔女として認められ(第26話)，水晶玉に変化する(第50話)。
3. 『設定資料集 2』には《認定書》とある。しかし『AX BOOK 2』には《認定証》とあり，劇中でもそう聞こえるので「認定証」として扱った。

▶認定玉(p69)

【認定玉】

1. 6級以上の進級試験に合格すると貰えるもの。また「魔女界にとって非常に良い行いをした場合にも与えられる」(女王様; 第37話)もの。認定証に認定玉が8個集まれば，一人前の魔女として認められる。また，ピュアレーヌに任ぜられると「ピュアレーヌの証」として一つの認定玉が変化する(第26話)。
2. 3人の場合，6級合格で与えられた認定証には既に1個入っていて，5〜1級合格で5個(第31,36,40,46,50話)，人間界に飛ばされてしまった魔女ガエルたちを送り返してあげたとき(第37話)と，クリスマスで困っているサンタたちを助けてあげたとき(第45話)に，女王様からそれぞれ1個もらっており，合計で8個集まっている。
3. この制度はつまり，1級になっただけでは魔女になれないことを意味している。3人のように，進級以外の方法で最低2個は認定玉を集めなければならない。おんぷはクリスマスのとき(第45話)に1個貰っているが，残り1個はどうやって集めたのであろうか。

▶認定証(p69)

ね

【ネプア】

1. 「ネピア」のパロディ。ネピアは王子製紙の子会社である株式会社ネピアのティシュペーパーなどの製品名につくブランド名。「ネピア」シリーズは1972年に発売され，今なおお家庭向けティシュブランドとして有名。現在ではスタンダードな「ネピアティシュ」(400枚200組入り)を筆頭に「ネピアネオエスコートティシュ」「ネピアモイスチャーティシュ」「ネピアフレスコティシュ」「ネピアキッズティシュ」といったバリエーションがある。他にトイレットペーパーやキッチンタオル，ウェットティシュ，成人用紙おむつなどのシリーズがある。
2. どれみの母，春風はるかが商店街の福引きであてたものの一つ。「何，お母さん，その荷物!?」「商店街の福引きであたっちゃったの。ティッシュ1年分と，それからスイカ。1個買ったら2個おまけしてもらえたの。何だか今日はすんごいラッキーだわぁ」(どれみ，はるか; 第22話)
3. 株式会社ネピアは乳幼児用紙おむつも手掛けているが，その製品名は「ドレミ」。ドレミシリーズは他にもいろいろあり，「ドレミファイン」「ドレミパンツ」，果てには「ドレミおしりふきふき」なる製品も。
4. さらに，やはり株式会社ネピアのとあるトイレットペーパーの製品名は「ネピアクルール」…ポロン?
5. しかしよく考えてみれば，こういったトイレタリー製品の販売戦略の主たるターゲットは20〜30代の女性であり，女児向けアニメの主たる視聴者の母親とも重なる。両者がターゲットとするセンスが少なからず重なるのもあながち偶然ではないかも知れない。

は

【バージョンアップ】

1. version up (英語) コンピュータ・プログラムにおいて，性能向上などの目的で新たに改訂を重ねること。バージョン番号が上がること。
2. 転じて，道具や製品が改善を加えられて新しくなること。
3. 6級試験に合格するとポロンに施されるもの。ただし，自分が一番大切にしている楽器が必要。「さぁ，ポロンをバージョンアップしてあげるからぁ」(モタ; 第23話)
4. もっとゴージャスになること。…デラによれば。「6級になればおまえたちのポロンもバージョンアップできるんじゃぞ」「バージョンアップって何?」「もっとゴージャスになるってこと」(マジョリカ，あいこ，デラ; 第22話)
5. そしてシステムリソースもゴージャスに消費されるようになる。

【パソコン】

1. パーソナル・コンピュータ (personal computer 英語) の略。明確な定義はないが，1度に1人の作業者が使うように設計された個人用のマイクロコンピュータ。CPUにマイクロプロセッサを使用し，CRTなどの出力装置やキーボードなどの入力装置を備える。一般的なデスクトップのほか，持ち運びの容易なノートブック型，ラップトップ型もある。個人用に設計された最初のデスクトップコンピュータは1974年にMITSが開発・販売した「アルテア」だが，自分で組み立てるキット商品だった。キーボードとCRTを備えたパソコンとして初めて商品化されたものは77年のタンディ・コーポレーションの製品で，その直後に設立されたアップル・コンピュータの Apple II は人気を博した。81年にはIBMが IBM PC を発売，アップルも83年に Lisa を発売し，ビジネスユースのパソコン需要がひろく認知されるに至った。CPUをはじめとするパソコンの性能向上はさらにパソコンの用途を広げ，90年代には一般家庭をも巻き込んだ爆発的な普及を見た。現在，世界的にはIBMの製品とその互換機が主流だが，アップルのMacintoshも大きなシェアを持つ。また高性能化も進み，すでにミニコンピュータやメインフレームとの区別も明確ではなくなりつつある。
2. 中田ごうじが得意なもの。「すごいわ，中田くん。どうしてそんなにパソコン上手なの?」「ウチにお父さんからもらった中古のパソコンがあるから，メールぐらいならいつもやってるんだ」(はづき，中田; 第48話)
3. 関先生が不得意なもの。「岡山の姉妹校の友達と，パソコンで手紙を交換しようって授業だったよなぁ…」「…と言うより，関先生のパソコン入門と言うべきかもなぁ」(小竹，佐川; 第48話)
4. 島根で探すと大変なもの。「パソコン…そぎゃんハイカラなもんありゃせんわぁ」(おばちゃん)
5. 本誌の制作に欠かせなかいもの。

【パソコン通信】

1. パーソナル・コンピュータを利用して行う電気通信。主に，パソコンがモデムによって電話回線を介し通信することを指す。日本では特に商用BBSや草の根BBSなどにアクセスすることを指すこともあり，その点でインターネットやLANとは区別される。通常はシステム・オペレーターが集中的に管理し，端末となるパソコンはシステム・オペレーターを仲立ちに通信を行う。専用回線を利用するコンピュータネットワークに比して機動性などの面で劣るが，個人が容易にサービスを利用できるのが利点。日本国内

ではNIFTY-ServeやPC-VANなどの会員制組織があり，電子掲示板や会員制フォーラムなどのサービスがある。

2. おんぷのファンクラブに届いたメールの通信手段だとマジョルカが思ったもの。「ファンクラブのホームページに来てるメールの返事，書かないでいいの? っていうか，どうするー?」「メール?」「パソコン通信でおまえに来た，ファンレターのことだよ。しっかり読んで，返事を書きな」「めんどくさいからパース」(へへ，おんぷ，マジョルカ，おんぷ; 第48話)
3. つまり，マジョルカの認識は日本における狭義の「パソコン通信」という意味では誤りだが，広義では正しいことになる。本人はそこまで考えてないと思うが。

▶インターネット(p55)，ホームページ(p74)，メール(p80)

【バッドアイテム】

1. バッドカードにとりつかれたもの。人々に不幸をもたらし，「それに願いをかければかけるほど，逆の効果をもたらす恐ろしいもの」(女王様; 第26話) だという。ピュアレーヌにはこれを探し，バッドカードを回収することが任ぜられる。
2. ピュアレーヌパソコンの中に閉じ込められていたオヤジーデにはその物がバッドアイテムかどうか判定できる力があるという (第27話)。
3. 3人が見つけてバッドカードを回収したのは，飯田かなえの家にあった招き猫 (第26話)，柏木豊が所持していたマスコット (第28話)，美空小のライン引き (第33話)，谷山将太の持ち駒だった角行 (第41話)，工藤むつみが所持していたキャンディ伊藤のフィギュア (第44話)，中田ごうじの所持していたおんぷのCD-ROM (第48話) の6個だった。
4. ライン引きに誰がどんな願いをかけたのだろう…。
5. キャンディ伊藤のフィギュアに願いをかけたのは工藤むつみなのだが，不幸になったのは工藤自身よりはキャンディ伊藤だった。

▶バッドカード(p70)，ピュアレーヌ(p72)

【バッドカード】

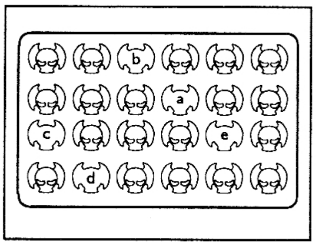


図3.12: バッドカード

1. 「邪悪な魔力を秘めたカード」(デラ; 第26話)。魔女界に封印されていたが，一部の悪い魔法使い (オヤジーデ?) がこれを盗みだして人間界に持ち込んでしまったもの。いろいろなものにとりついて人々に不幸をもたらすバッドアイテムにしてしまう。また，これによってそれまで自由に行き来できた魔女界と人間界の交流は途絶えたらしい。ちなみに盗んだ本人曰く「コレクターには人気がある」(オヤジーデ; 第27話)
2. ピュアレーヌにはバッドアイテムを探し出し，バッドカードを回収する任が与えられる。回収したバッドカードはピュアレーヌパソコンに収められるのだが，その様子は劇中で明示されていた。図3.12は，それを図にしたものである。初めてバッドカードを収めたとき (第26話) と2枚目を収めたとき (第28話) は，図のa, b, c, d, eは全て空いていたのだが，3枚目 (第33話) から変化する。3枚目の回収を終えたときは図のaに収められ，b, c, d, eが空いていた。4枚目の回収が終えたとき (第41話) は少々謎で，dとeは空いたままなのだが，aが再び空いて，bとcに収められていた。以降，5枚目の回収を終えたとき (第44話) はdに，6枚目の回収を終えたとき (第48話) はeに収められ，結局aの位置に1枚空きを残したまま，3人はピュアレーヌどころか魔女をやめることになった (第51話)。
3. 本質的に魔法を使う必要のない話に，なんとか魔法を使うよう作られた設定要素。
4. カードといい回収といい，レリーズとか言っている友枝小学生や，無敵に素敵とか言っている桃栗学園高校生を思い出さずにいられなかったのは筆者だけではあるまい。

▶バッドアイテム(p70)，ピュアレーヌ(p72)，ピュアレーヌパソコン(p72)

【葉山】

1. 神奈川県三浦郡葉山町のこと。三浦半島の付け根に位置する。1889年葉山村が成立，1925年1月1日から町制。面積17.06km²，人口29,883人 (1995年)。明治時代に駐日イタリア公使マルチーノらが来遊して最高の保養地と紹介して以来，周辺の鎌倉や逗子とともに湘南の保養地・別荘地として有名。1889年に隣接する逗子市 (当時は田越村) に横須賀線が開通，次々と別荘が建ち，1894年には御用邸 (天皇家の別荘) も完成。戦後は近郊住宅地として宅地化が進行した。海岸線には森戸，一色などの海水浴場があり，夏には海水浴客で賑わう。葉山港は日本のヨット発祥の地で，海洋観光の拠点。
2. 玉木家の別荘がある所。また，近くには中山しおりの祖母が住んでいる鎌倉がある。「ああ…なんでもありませんわ。それより，お祖母ちゃんの家ってどこなの?」「鎌倉よ」「あら，ウチの葉山の別荘の近くじゃない。そうだ! よろしかったらわたくしが，付き添っていってあげますわ」(玉木，中山，玉木; 第43話)
3. 玉木親子にとって「花火と涙の思い出」の場所であるが，実際「葉山海岸花火大会」というものが夏に行われている。

▶鎌倉(p58)

【パリ】

1. Paris (フランス語) フランス共和国の首都。同国北部，パリ盆地の中央に位置する。パリ市自体の人口は約215万人 (1990年) だが，いわゆる大パリ全域では1000万人近い人口を抱える。フランスの政治・経済・文化の中心で，文化に関しては世界的にも中心地の1つ。中央をセーヌ川が横切り，中州のシテ島を中心に同心円上に市域が広がる。市内は20区に分けられ，中心市街はシャンゼリゼ。1900年から地下鉄が建設されている。TGVはじめ鉄道網の中心。前3世紀ケルト系のパリシー族が住み，パリの名の由来となった。ローマやフランク王国の支配を経，10世紀にカペー朝が首都と定めた。1789年にはフランス革命の舞台となる。19世紀，ナポレオン3世のもとで大規模な都市計画に基づくパリ改造が行われ，現在の市街の原型をなした。第2次世界大戦では一時期ドイツ占領下。戦後は都市域が近郊に拡大，巨大な大都市圏を形成した。
2. 玉木が夏休みに行ってきた都市。「わたくし，フランスのパリに行ってきましたの。これはアルメスのバッグ。お父様に買って頂いたのよ」(玉木; 第31話)

▶フランス(p73)

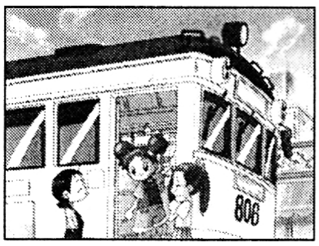
【ハワイ】

1. Hawaii (英語) 北太平洋のほぼ中央に位置する諸島。8つの主要な島 (大きさ順にハワイ，マウイ，オアフ，カウアイ，モロカイ，ラナイ，ニーハウ，カホーラウェ島) と124の小島からなり，アメリカ合衆国ハワイ州を形成する。最大のハワイ島が中心地で，州都ホノルルがある。面積16,760km²，人口110万8229人 (1990年)。住民は民族的に多様で，白人や原住のカナカ族のほか，日系やフィリピン系，中国系などアジア系移民の子孫も多く，混血も進んでいる。火山島で，キラウェア山は現在も活動中。温暖な気候に恵まれ観光地化が進んでいる。1世紀ごろポリネシアからハワイ人の祖先が移住し，独自の文化を形成。18世紀以降アメリカから白人が移住，いわばアメリカ最初の植民地となる。その後カメハメハ王朝による王国を経，1894年からハワイ共和国。1898年アメリカに併合，1900年には準州に。59年州に昇格した。
2. おんぷがCD-ROMの仕事のために行った所。「瀬川おんぷ in ハワ〜イ!」「ハ，ハワイ!?」「マジかよ!? おんぷちゃん，ハワイ行ったのかよ!?」「おんぷちゃーん，ハワイ行ってたって本当ー?」(おんぷ，どれみ，小竹，3人・小竹・杉山; 第48話)
3. 玉木が20回も行った所。「なによ!? あたしだってハワイくらい，もう20回も行ってるわよ!✲」(玉木; 第48話)
4. 「ぼくらって，いまいちまとまりないですもんね…」(光子郎) 島根ならまだしも，ハワイじゃなあ。

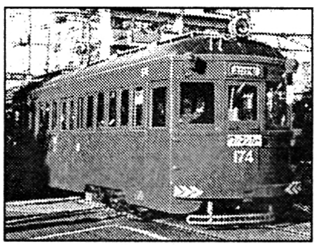
【阪堺電軌】

1. 大阪市南部と堺市を結ぶ軌道線，つまり路面電車。南海電鉄の100%出資子会社である阪堺電気軌道株式会社が運営している。現在は阪堺線 (恵美須町〜浜寺駅前の14.1km，停車場数30) と上町線 (天王寺駅前〜住吉公園の4.6km，停車場数11) の2路線がある。全線複線で，軌間は1435mm。大浜支線 (宿院〜大浜海岸) は1949年に，平野線 (今池〜平野) は80年に廃止され現存しない。ルーツは古く，1900 (明治33) 年に大阪馬車鉄道株式会社が現在の上町線の一部を開通させている。1909年にはこれとは別に阪堺電気軌道株式会社が現在の阪堺線の一部を開通させ，12年には全通。並行する南海電鉄線と激しい競争を繰り広げたが，両社は15年に合併。阪堺電軌は南海電鉄軌道線として再スタートした。しかし80年に再び阪堺電気軌道株式会社として分離独立，現在に至っている。
2. 第23話であいこの回想の冒頭に住吉大社と共に登場した路面電車 (図3.6 (a) (p65))。また，第34話の3人による大阪見物で3人が利用したと思われる路面電車もこれである (図3.13 (a))。

3. 現在の使用車両はモ161形，モ351形，モ501形，モ601形，モ701形の5形式。第23話には「121」の車号が読みとれる黄色い車両が登場しているが，これはモ121形のトップナンバー・121号機と考えるのが妥当。モ121形は1929年藤永田造船所製の古い車両で，元は大阪市電1601形。67年に大阪市交通局から10両購入され，121～130号機となったものである。台車交換などの改造を経ているが塗色以外の外観は旧来の姿を保っていて，作中の描写もかなり正確である。ちなみに第23話のこのシーンがあいこの両親が離婚する前と考えれば，あいこの年齢から逆算して1995年11月以前の風景であるということになり，現在は引退している121号機もその当時は現役だった。ただし当時すでに阪堺電軌の車両は全面広告塗装が普通であり，作中のように黄色一色の塗色というのは考えにくい。
4. 以下にあるように第34話では806と書かれた車両が登場するが，これは明らかに実在しない車号。が，その形状は，旧大阪市電のモ121形や，阪堺電軌のオリジナル車両ながらモ121形と外形はそっくりのモ161形などと酷似していて，このどちらかを参考に作画していると思われる。以下の写真はモ161形の174号機であるが，作中のものと似ているのがわかるだろう。



(a) カット（第34話）



(b) 写真

図3.13: 阪堺電軌

▶住吉大社(p64)

【バンダイ】

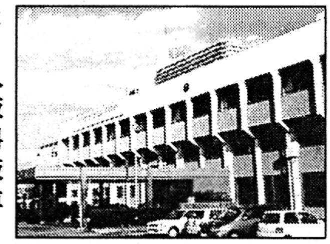
1. 株式会社バンダイのこと。1950年設立の総合玩具メーカー。2000年4月現在で資本金236億円，従業員数986人，代表取締役社長は髙須武男。本社は東京都台東区，ほか大阪支店，営業所が札幌・名古屋・福岡にある。一般玩具から各種ゲーム，自販機用商品，玩具菓子などまでひろく玩具一般を扱っている。バンダイグループの筆頭企業で，国内・海外に関連会社多数。設立当初の社名は株式会社萬代屋で，これは古代中国・魏晋時代の兵法書『六韜』にある語「萬代不易」に由来するという。最初のオリジナル商品は50年の「リズムボール」。61年からカタカナの現社名。テレビアニメとタイアップしたキャラクター玩具商品を数多く手がけ，「超合金マジンガーZ」(74年発売)，「キャンディ・キャンディかんごふさんバッグ」(79年)，「ガンダム」プラスチックモデル(80年)，カプセル玩具「キン肉マン」(83年) など。最近では「デジモンアドベンチャー」シリーズがある。キャラクター商品以外にも「もぐらたたきゲーム」(77年)，「たまごっち」(96年)，携帯ゲーム機「ワンダースワン」(99年) などの製品が有名。「カードダス」やCVS大手セブン・イレブンとの共同開発による「ガシャポン」といった自販機による玩具販売方式は特徴的。ほか，「エモーション」レーベルや関連会社による映像分野，出版事業などにも進出。近年ではiモードへの情報提供事業が大きく伸長した。
2. テレビアニメ「おジャ魔女どれみ」の筆頭スポンサー，と思しき企業。内容的にも深く関わっていると考えられる。
3. デラや女王様が密かに契約している，と思しき企業。
4. 思えば結構貢いだなぁ，と筆者（←誰だって）が思う企業。

▶スポンサー(p64)

【バンダイ・ミュージック】

1. 株式会社バンダイ・ミュージックエンタテインメントのこと。2000年5月末をもって会社解散手続きに入っている。1956年設立。資本金7億円，社員数76人，代表取締役社長は竹田正信。本社東京都新宿区。（株）バンダイの100%子会社で，前身はアポロン音楽工業。1989年にバンダイがアポロンを買収，子会社化してこの社名に。発売するCDの規格番号もアポロンの「AP」を踏襲した。主たる業務は音楽ソフトの企画・制作・製造・販売で，アポロン時代に引き続き邦楽・洋楽・ゲーム音楽などのCDを発売していたほか，バンダイが得意とするキャラクタービジネスの一環としてのアニメ関連ソフトも多かった。しかし経営不振が続き，2000年2月に解散決定を発表。多くの関連会社を傘下におさめ複合メディア企業への飛躍を目指してグループ拡大を推進してきたバンダイグループが音楽事業から撤退した形となった。
2. テレビアニメ「おジャ魔女どれみ」の音楽に関する契約を交わしていた，と思しき企業。「おジャ魔女CDくらぶ」はいずれもここから発売されている。
3. そういうわけで，今後「おジャ魔女CDくらぶ」は入手が困難になることが予想される。

【阪南市】


図3.14: 阪南市役所

1. 大阪府南部の市。1972年南海町と東鳥取町が合併し阪南町が成立，1991年から市制。人口57,951人(1998年)，面積36.06km²。大阪湾に臨む平地と和泉山脈の北西斜面からなる。中心地は尾崎。JR阪和線，南海電鉄本線，阪和自動車道が通じる。古代より交通の要地。尾崎を中心に紡績工業が発達した。農業は米作のほかタマネギなどの野菜栽培，ミカン栽培を行う。近年は宅地化が進行。南東部に山中渓温泉がある。
2. あいこの母，岡村あつ子が劇中当時住んでいた，青空荘がある所。「お母ちゃんが住んでる阪南市は，こっちの方角や」（あいこ; 第34話）
3. あいこの母の勤め先「ニコニコホーム」が大阪城公園の近くだとすれば，通勤には南海本線を使っていると思われる。阪南市の箱作駅あたりで南海本線に乗り，新今宮でJR大阪環状線に乗り換え大阪城公園駅あたりで下車。あるいは天下茶屋で大阪市営地下鉄堺筋線に乗り換え，地下鉄で行くという方法もあり得る。いずれにせよ，急行を使っても天下茶屋か新今宮までは乗って1時間程度かかるので通勤時間は1時間30分程度と推測される。やや長めであろうか。

▶ぴちぴちビーチ(p71)，青空荘(p53)

ひ

【ヒーロークラブ】

1. ヒーロー好きの会。「美空町ヒーロークラブ」は天野こうたが会長を務める。「そうさ。オレは美空町ヒーロークラブの会長なんだ!」「ヒーロークラブですって」「謎やな…」「興味あるかもぉ～♡」（天野，マジョイエロー，マジョブルー，マジョピンク; 第42話）
2. 東映の発売する販売専用ビデオシリーズの一つ。テレビ放映されたアニメや特撮を特定のテーマで30分に再編集したもので，各3,100円（税抜）。うれしいオマケつき。TVアニメに関して言えば古くは「キン肉マン」から新しくは「デジモンアドベンチャー」まで様々な作品がある。当然「どれみ」もあり，1「MAHO堂へいらっしゃい」，2「MAHO堂をとりもどせ!」，3「バッドアイテムを探し出せ!」の3本が発売されている（2000年7月現在）。
3. 「うれしいオマケ」は1がコースター，2と3がシールだった。

【ぴちぴちビーチ】

1. 大阪府阪南市にある箱作海水浴場の愛称。1986年開設。用地面積55,000m²，うち養浜面積は23,000m²で，大阪湾に面して延長461.5mの砂浜が広がる。大阪府が1973年から進めていた淡輪・箱作地区海岸環境整備事業の一環として造成された。隣接する淡輪海水浴場とともに大阪府営せんなん里海公園の一部をなす。夏には大阪一帯からの海水浴客で賑わう。1985年からは毎年7月末にせんなん里海公園で「大阪マリンフェスティバル」が開催されている。
2. 赤ちゃんを抱いた母を見て，再婚したと勘違いしたあいこがその場から逃げるように走って行き着いた先（第34話）。「それより，この浜辺，何て言うか知ってる?」「ううん」「『ぴちぴちビーチ』って言うねんで」「『ぴちぴちビーチ』?」「ぴっちぴちのギャルがぎょうさん来るから，『ぴちぴちビーチ』！ 大阪では穴場の海水浴場やねん」（あいこ，どれみ・はづき，…; 第34話）
3. また，第34話冒頭で離婚する前の妹尾家が来ていたのもここだと思われる。「見てみて! きれいな貝やで!」「ん? 桜貝や…」「ほんま，きれいやね，あいこ」（あいこ，あいこの父，あいこの母; 第34話）
4. 架空だと思っていたら実在した。調べてみるものである。
5. 写真（図3.15 (b)）では少々分かりにくいが，カット（図3.15 (a)）で奥に見える橋は実在する。この橋は関西国際空港の連絡橋で，名前は「スカイゲートブリッジ」という。同空港の開港は1994年9月4日で，同年3月には完成していたものだが，あいこ

の両親が離婚したのはあいこの年齢から逆算して1995年11月以前なので，第34話冒頭のシーンは1994年3月から翌年11月以前ということになる。

6. 「ぴちぴちビーチ」の愛称はオープンする前から決まっていたようで，「ぴっちぴちのギャルがぎょうさん来るから」（あいこ）この名が付いたとするあいこの台詞は，厳密に言えば不正確。また，実際「ぴっちぴちのギャルがぎょうさん来る」かどうかは未確認。
7. ちなみに，隣接する淡輪海水浴場の愛称は「ときめきビーチ」。なにやらメモリアルなビーチのようだ。「バッチリ，良い印象を与えたみたいだぞ」



(a) カット（第34話）　(b) 写真

図3.15: ぴちぴちビーチ

▶阪南市(p71)，青空荘(p53)，桜貝(p61)

【ビビンバ】

1. 비빔밥(朝鮮語) 朝鮮の主食料理の一つで，混ぜご飯の一種。ビビンパプとも。炊きあがった米飯を器に盛り，その上に野菜の和え物や魚・肉などをのせたもの。上にのせる具はそれぞれに味をつけてあり，飯と具をさじでよく混ぜ，コチュジャン（とうがらしみそ）とごま油を加えて食べる。具に用いられるものはホウレンソウなどの青菜類，ダイズモヤシ，ゼンマイ，キュウリ，ダイコン，牛肉，魚の干物など。いずれもごま油，しょうゆ，おろしにんにく，砂糖，塩などで調味してある。
2. どれみたちが魔女を捕まえてMAHO堂に監禁しているという噂の電話を受けたときの佐川の台詞より。「えぇ? どれみと魔女と…なんだってぇ?」「どれみちゃんたちが，魔女を捕まえてMAHO堂に監禁してるんですって」「しぇーっ! ビックリビビンバ!」（小竹，横川，佐川; 第50話）

【ピュアレーヌ】

1. 「バッドアイテムを探し出し，しかもそれを悪用しなかったきれいな心を持った者にだけ，与えられる称号」（女王様; 第26話）
2. ピュアレーヌの証は色の異なる認定玉である。また，ピュアレーヌはバッドアイテムからバッドカードを取り出すことが可能で，バッドアイテムを探し出してバッドカードを回収する任が与えられる。また回収のためのピュアレーヌパソコンをも与えられる。
3. 3人は第26話にこの称号を与えられた。マジョリカはなれなかったらしい（第27話）。

▶ピュアレーヌパソコン(p72)，バッドアイテム(p70)，バッドカード(p70)

【ピュアレーヌパソコン】

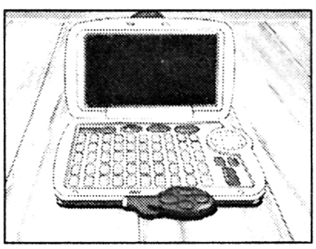


図3.16: ピュアレーヌパソコン

1. ピュアレーヌに与えられるバッドカードを回収するためのもの。この中にバッドアイテムから取り出したバッドカードを収める（第26話）。また，ピュアレーヌにしか操作できないらしい（第27話）
2. 中にはバッドカードを人間界に持ち込んだ張本人，かつバッドアイテムを鑑定できるオヤジーデなる魔法使いが，姿を変えられて閉じ込められていた。バッドカードを全て回収できないとここから出られないという（第27話）。
3. パソコンという名前やパソコンのような形をしている必要は，その機能上あまりない。
4. が，バン〇イにとってはその必要がありそうだ。
5. オヤジーデは「インターネットでファンクラブに入って」（第35話），「おんぷちゃんの公式ホームページにメールを送ったら返事が来た」（第48話）と言っていたが，ピュアレーヌパソコンはインターネットにどうつながっているのだろうか?
6. 「ピュアレーヌパソコンは楽しいぞ!」（どれみ）とどこかで聞いたことがあるような気がするのだが，劇中ではあまり楽しそうではなかった。第48話では折檻してたし。
7. どこぞのゼウスくんは携帯電話だし，どーもオヤジは情報機器に閉じ込められる宿命にあるらしい。

▶ピュアレーヌ(p72)，バッドアイテム(p70)，バッドカード(p70)

【ヒヨコ文具店】

1. 渡部みちあきの家が営業する文具店。はづきはここに鉛筆を3本買いに入った（第46話）。

【広末涼子】

1. タレント。1980年高知市に生まれる。P&G第1回クレアラシルぴかぴかフェイスコンテストでグランプリとなり，1995年クレアラシルのCMに出演。97年「MajiでKoiする5秒前」で歌手デビュー，NHK「紅白歌合戦」に初出場。同年「20世紀ノスタルジア」で映画初主演。TVドラマの出演も多く，「ロングバケーション」「世界で一番パパが好き」「ビーチボーイズ」など。99年には映画「秘密」で主演，映画「鉄道員」に出演と銀幕での活躍が目立った。NTTドコモなどCMにも出演。CDアルバム「ARIGATO!」など。99年早稲田大学教育学部国語国文学科に自己推薦制度で入学，現在も在学中。趣味は水泳とアイスクリームを食べること。
2. 藤原監督が撮影している映画の主演女優「スエヒロコユリ」の元ネタと思われる女優，というかタレント（第27話）。
3. 剛ハカセ特製の初恋ロボ，それがヒロスエ。必殺技は初恋ミサイルと初恋汁。とってもつよいんだ。

▶吉永小百合(p80)

ふ

【不景気】

1. ものごとの繁昌しないこと。元気のないこと。しょぼくれていて面白くないこと。
2. 経済用語で，マクロ経済における諸経済活動が一般的に沈滞している状態を指す。不況。物価や労働賃金の下落，生産・販売の縮小，失業率の上昇などを伴う。または景気循環理論における景気の谷や景気の後退局面を指す。GNPやGDPなどの数値，景気動向指数（DI）や国民経済計算速報（QE）などの経済指標から総合的に判断されるものだが，現実には法人・個人の心理的側面も強い。
3. ケーキが全然ないこと。…どれみによれば。「お客さん来ないね…」「不景気やからしゃぁないわ…」「やーね，不景気って…」「嫌だよね…うんうん」「どれみちゃん，不景気の意味知ってるの?」「知ってるよ，そのぐらい。ケーキが全然ない，ってことでしょ?」（どれみ，あいこ，はづき，どれみ，はづき，どれみ; 第12話）

【富士山】

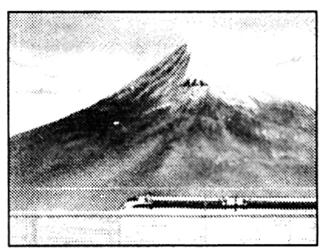


図3.17: 富士山（第34話）

1. 不二山，不尽山，芙蓉峰とも。静岡・山梨両県にまたがる火山。富士火山帯に属する典型的な円錐状成層火山で，頂上には深さ220m程の火口がある。剣ヶ峰の標高3776mは日本一の高さ。歴史上10数回の活動の記録があり，1707年には爆裂火口を生じて宝永山を南東中腹につくった。箱根・伊豆を含んで国立公園に指定。立山・白山と共に日本三霊山の一。古来より名山として歌に詠まれ，また信仰の対象ともなっている。山頂には気象観測所や浅間神社の奥宮がある。山麓には富士風穴，富士山原始林など天然記念物も多い。
2. 3人が大阪へほうきで飛んでいくとき見えた山（図3.17）。「うわぁ〜，富士山きれぇ〜」（はづき; 第34話）
3. 電気グルーヴの曲。アルバム「ビタミン」（1993年）の5トラック目に収録。作詞・作曲はピエール瀧。シングルカットされていない曲の中ではかなり有名である。ライブでは富士山の着ぐるみを使ったパフォーマンスが定番。「たかいぞ，たかいぞ，ふ・じ・さーん!」

【プニュちゃん】

1. マジョリカの人間界での仮の名，…はマキハタヤマリカであって，プニュちゃんではない。ぽっぷが人形のつもりで魔女ガエルのマジョリカにつけた名前。「プニュプニュしてるからプニュちゃん!」（ぽっぷ; 第15話）

2. 最後までぽっぷは「マジョリカ」を口にすることはなかった。「わしだって好きで呼ばれとらん!」（マジョリカ; 第15話）

【フランス】

1. ヨーロッパ大陸西部の国。正称はフランス共和国（République Française）。首都パリ。人口約5,803万人（1995年推計）。コルシカ島を含む本土の面積は54,3965km^{2}だが，仏領ギアナなど世界各地に10の海外県・海外領土を持つ。住民は白人が主で，多くはカトリック教徒。公用語はフランス語。古代にはガリアと呼ばれローマの属州。5世紀にフランク王国が成立，一時分裂するが百年戦争（1337〜1453年）後は中央集権的な統一王国を形成。1789年フランス革命で第1共和制が成立。ナポレオンによる第1帝政，王政復古および第2共和制・第2帝政を経て1871年第3共和制。第2次世界大戦では一時ドイツ支配下。戦後第4共和制，1958年以降はド・ゴールによる第5共和制で大統領制。17〜18世紀ころには帝国主義国家として発展，アジア・アフリカ地域に多くの植民地を作った。現在はヨーロッパ最大の農業国で，EU内でも重要な位置を占める。
2. 玉木が夏休みに行ってきた国。「わたくし，フランスのパリに行ってきましたの。これはアルメスのバッグ。お父様に買って頂いたのよ」（玉木; 第31話）
3. 魔女界でフランス語が通じるのかは知る由もないが，「どれみ」には「ピュアレーヌ」などえせフランス語風の単語が多い。「アシジュポーン」はその典型だが，これは「ジュ」と語尾の「オン」の音がフランス語風の語感を作り出している。フランス語では1人称単数の人称代名詞がjeであるため，この音はフランス語ではよく聞かれる。また「オン」も，鼻母音（[ɔ̃]や[œ̃]など）が日本語にはなくフランス語によく聞かれる音で，かつ実際に語尾がこれらの音になる名詞も多いため，やはりフランス語らしい音に聞こえるのだろう。

【古畑任三郎】

1. フジテレビ系列で放映されたテレビドラマシリーズ。最初は1994年の「警部補・古畑任三郎」で，これが好評だったため96年に新シリーズ「古畑任三郎」が放映，99年にもさらに新しいシリーズの「古畑任三郎」が放映された。また，スペシャル版もいくつか放映されている。いずれもキー局はCX，プロデューサーは関口静夫。アメリカのテレビドラマ「刑事コロンボ」を土台に「ヒッチコック劇場」なども参考にして作られたミステリーで，警視庁捜査一課の古畑任三郎（田村正和）が天才犯罪人の完全犯罪を見破ってゆく，1話完結形式の推理ドラマ。主人公古畑の強烈なキャラクターを田村正和が好演し，人気を博した。ほか出演者に西村雅彦，小林隆など。
2. あいこがなりたい刑事とは違うもの。「あいちゃん浪花の商人だから，たこ焼き屋さんとかお好み焼き屋さんのオーナーでしょう」「ぶっぶー。甘いなはづきちゃん。あたしがなりたいのはズバリ，刑事や!」「あー! 古畑任三郎ね，かっこいー!」「そんな髪の襟足が肩までかかってキザっぽい刑事とちゃうねん。ヨロヨロのコートにハンチングなんかかぶってな，取調室で犯人を追いつめていくような渋い刑事がええねん!」（はづき，あいこ，ぽっぷ，あいこ; 第28.5話）
3. あのタイトル画面が何だかエヴァだなあと思ったのはきっと筆者だけではあるまい。

【プロレス】

1. プロフェッショナル・レスリング（professional wrestling）の略。興業として行う職業レスリング。19世紀末のアメリカでカーニバルの呼び物として登場した。日本では元力士の力道山が1953年に日本プロレス協会を設立したのが始まり。力道山の興行は特に街頭テレビのプロレス中継で人気を博した。1967年国際プロレスが旗揚げ，72年には力道山に続くスター・ジャイアント馬場が全日本プロレスを設立，同年アントニオ猪木も新日本プロレスを設立。現在ではリングスやUWFインターナショナル，FMW，プロフェッショナルレスリング藤原組など多くの団体が各々の特徴を生かして活動。男子とほぼ同時期に始まった女子プロレスも，全日本女子プロレス，JWP，LLPW，ガイア・ジャパンなどの団体が興行を行っている。
2. 「どれみ」には何故かプロレスがよく登場する。工藤むつみは女子プロレスラーを目指しているし（第44話），はづきも将来は女子プロレスラーになりたい（是非はともかく）らしいし（第28.5話），MAHO堂の歌「日曜日は魔法のコ」では「♪プロレスごっこで 優勝 チャンプ」とあいこがソロで歌っている。
3. ということでプロレス技も多く登場する。登場順に，人間風車（ストロング奥山），ドロップキック（ストロング奥山），トゥキック（ビューティーマスク），23.5センチキック（ウィッチーはづき），バックドロップ（ウィッチーはづき），はづきローリングサンダーマッハスペシャル（ウィッチーはづき; 以上第28.5話），四字固め（工藤むつみの兄），ウェスタンラリアット（マッスル富田），ヘッドロック（マッスル富田，クラッシャーマリー），空手チョップ（工藤むつみ; 未遂），リバース・ボストンクラブ（キャンディ伊藤），ダブルアーム・スープレックス（キャンディ伊藤; 以上第44話）と，実在する技からどんな技か聞いてはいけないものまで多様な技が登場した。

▶23.5センチキック（p68）

【プワプワポロン】

▶ポロン（p74）

へ

【臍で茶を湧かす】

1. おかしくてたまらないことに言う。また，ばかばかしくて仕方がないたとえ。多くあざけりの意をこめて用いる。臍がくねる。臍が笑う。臍が西国する。臍が入唐渡天する。臍が宿替えする。臍が縒れる。
2. 第16話の予告より。「そりゃチャンス! 釣りで魚も長谷川君もゲットやね!!」「あぁっ! それって『トンビに油揚げ』ってことだね!!」「違うがな! 『臍で茶ぁ湧かす』っちゅーねん!!」「2人とも勉強した方がいいと思いまーす」（あいこ，どれみ，あいこ，はづき）

▶トンビに油揚げ（p68）

【ペペルトポロン】

▶ポロン（p74）

【ベンジン】

1. benzine（ドイツ語）石油ベンジンとも。原油から蒸留精製され（JISでは留出温度30〜150℃），湿性天然ガスからの分離，重質石油分の分解などの製法で製造される。無色透明で特異臭があり引火性のある揮発油。沸点約30〜150℃で軽油や灯油より比重が小さく，ガソリンに分類されるが，燃料用ガソリンと区別する意味で特に工業ガソリンとも言う。溶媒として優れており，脂肪やゴム・樹脂などの有機物質を溶解するため，各種溶剤に用いられる。また機械洗浄，衣服のドライクリーニング，しみ抜きなどにも使用される。
2. 夜何者かに油性ペンで描かれたマジョリカのヒゲを落とすために必要だとはづきが言ったもの。「そのヒゲ落ちないの?」「油性ペンだから落ちないのよ」「ベンジンでこすれば落ちるんじゃないかしら」（ぽっぷ，ララ，はづき; 第37話）
3. Bパート最初のカットでヒゲは消えていたので，きっとCMの間ベンジンでこすり落としていたのだろう。

ほ

【ほうきの木】

1. 魔女界にあるほうきでできた木。魔女にとって神聖なものらしい。魔女の野原に向かう3人はほうきの木の森でなぞなぞを出す魔女に出会った。「このほうきの枝，お守りにしたら，上手くほうきに乗れるようになるかなぁ」「こらぁー!」「だ，誰?」「なんてことをする，このほうきの木は魔女にとって神聖なものなんだからな」（どれみ，ほうき魔女，…; 第8話）
2. ほうきはそもそも例えば竹（竹ぼうき），羽（羽ぼうき），草（草ぼうき）などから作ったもので，「ほうきでできた木」はよく考えると何かがおかしい。

【ポーカー】

1. poker（英語）トランプ遊戯の一種。コントラクト・ブリッジと並んで欧米で特に盛ん。起源には諸説あるが，その原型は古代ペルシアのアス・ナスで，現在の形態は1830年前後のアメリカで確立されたといわれる。52または53枚のカードを使い，人数は任意。5枚の手札の組み合わせによる役の強さを競う。5枚配って任意の枚数だけ山札から取り替えるドローポーカーと，1枚ずつ配って賭けるスタッドポーカーが代表的。ギャンブル性も強く，心理的なかけひきが醍醐味とされる。役は弱い順にノーペア（役なし），ワンペア（同数字のカードが2枚揃う），ツーペア（同数字のカードが2枚ずつ2組ある），スリーカード（同数字のカードが3枚揃う），ストレート（組は違っても数字が連続），フラッシュ（全て同じ組），フルハウス（ワンペアとスリーカードの組合せ），フォーカード（同数字が4枚揃う），ストレートフラッシュ（組が

同じで数字が連続），ロイヤルストレートフラッシュ（組が同じで10，ジャック，クイーン，キング，エースが揃う）。

2. マジョリカとデラが興じていたもの。そして調子に乗ったマジョリカが大敗してMAHO堂の権利を奪われることになったもの（第20話）。
3. 最初は勝っていたマジョリカ。この時のデラとマジョリカの役は次の通り。「デラ」－「マジョリカ」の順。「ワンペア」（♡2, ♠2, ♠7, ◇10?, ♠5）－「ツーペア」（♣A, ◇A, ♠10, ♡10, ♡2）／「スリーカード!」（♠A, ◇A, ♣A, ◇7, ♡5）－「ストレート!」（♡A, ♠2, ♣3, ◇4, ♠5）／「フルハウス!!」（◇7, ♣7, ♡7, ♠10, ◇10）－「フォーカード!!」（♡A, ♠A, ♣A, ◇A, ♣J）／「ストレートフラッシュ!!!」（♡3, ♡4, ♡5, ♡6, ♡7）－「ロイヤルストレートフラッシュ!!!」（♠A, ♠K, ♠Q, ♠J, ♠10）小さくて不明瞭なカードはあるが，役とカードの組み合わせはは正確である。

【ホームページ】

1. homepage（英語）インターネットのWWWサービスにおいて，あるサイトやひとまとまりのコンテンツを代表するトップページや目次ページのこと。また，さまざまな企業・団体や個人がWWW上に公開しているウェブ・サイトのこと。HTMLによって記述され，パソコン上などで動作するWWWブラウザと呼ばれるクライアント・ソフトウェアによって閲覧できる。商用インターネット・プロバイダーやホームページ作成ソフトの登場で個人でも容易に開設できるようになり，インターネットの普及にあわせて公開されるホームページの数も増加した。現在では官公庁の広報活動から個人同士のコミュニケーションまで，幅広い目的で作成・公開されている。
2. おんぷの公式ホームページはレコード会社が勝手に作ったものらしい。「わたしパソコン分かんないし，そもそもそれってレコード会社が勝手に作ったんでしょ? どうしてわたしが返事なんか書かないといけないわけ?」（おんぷ; 第48話）
3. が，中田ごうじやオヤジーデを始め，多くのファンがメールを送ったらしい。「どーじゃ，すごいじゃろう!」「それって本当におんぷちゃんから送られてきたものなんですかぁ?」「!…」「おんぷちゃんが書いたようには見えないけど…」「!!…」「どーせ自分で書いたんやろー?」「バカ言うなーっ!! おんぷちゃんの公式ホームページにメールを送ったら返事が来たんじゃーっ!!」（オヤジーデ，はづき，オヤジーデ，どれみ，オヤジーデ，あいこ，オヤジーデ; 第48話）

▶インターネット(p55)，パソコン(p69)，メール(p80)

【北極星（ほっきょくせい）】

1. こぐま座α星（αUMi）の通称。ポラリス（Polaris ラテン語），子（ね）の星とも。実視等級2.02等，平均位置は赤経2時32分22秒，赤緯＋89度16.0分（2000年央）。スペクトル型はF7で，地球から約400光年。地球の自転軸が指す方向（天の北極）の非常に近くに見え，肉眼で見える恒星の中では最も天の北極に近い。このため古来より航海者などが方位や緯度の指標として用いてきた。現在でも真の方位角や赤緯の測定，赤道儀の極軸合わせなどに使われている。おおぐま座α星とβ星（北斗七星の一部で，指極星とも）やカシオペア座から容易に見つけることができる。
2. マジカルステージで落ちてきた方位磁石が特別なものであると気づいたはづきがヒントにしたもの。「…磁石じゃん」「これでどないせっちゅーねん」「! 待って! ちょっと貸して! …そっか。北にある北極星はあそこなのに，この磁石の針は別の方向を指してるわ!」「この磁石，玉木たちがいる方向を指してるんとちゃう?」「多分そうだと思う! 磁石を信じて行ってみましょう!」（どれみ，あいこ，はづき，あいこ，はづき; 第43話）
3. 星座早見盤の留め金。

【ぽっぷちゃん親衛隊（しんえいたい）】

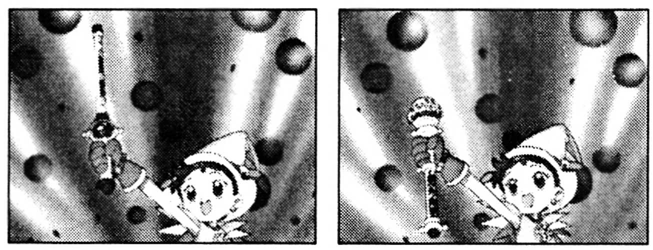
1. ソナチネ幼稚園在籍の，みさき，ふみお，たつや，かずひろ，よしひこの5人で組織された春風ぽっぷの親衛隊。「ぽっぷちゃんがピンチのときは，必ずどこでも駆けつける!」（ぽっぷちゃん親衛隊; 第15話）
2. 駆けつけたのはいいがあまり役にたたなかった。

【ポップンポロン】

▶ポロン(p74)

【ポロン】

1. 魔女見習いが魔法を使うときに必要な楽器の総称。「甘いなぁ，あいこちゃん。これはスティックじゃなくて，魔女界の楽器なのさ!」（どれみ; 第4話）ポロンは魔女見習いタップで「ド・ミ・ソ・ド」と弾くとタップから出てくる（第1話）。これを振ると音楽が鳴り，それぞれ固有の呪文を唱えると魔法が使える。ただし中に魔法玉が装填されている必要があり，魔法を使えば魔法玉は消費される。
2. ポロンは6級に合格すると「自分が一番大切にしている楽器」と合体してバージョンアップする。どれみのポロンは「ペペルトポロン」，はづきのは「プワプワポロン」，あいこのは「ポップンポロン」であったが，バージョンアップ後は全て「クルールポロン」になった（第23話）。
3. ぽっぷのポロンも「ペペルトポロン」だった（第25話）。おんぷは登場時点で4級だったので最初から「クルールポロン」だった（第35話）。
4. 3人が魔女見習いになったときのポロンの名前はそれぞれの呪文の一部を冠しており，なるほどタップは同じように見えて実は固有のもので，そこから出てくるポロンや唱える必要のある呪文も固有のものだったのかぁ，じゃぁおんぷのポロンは「ファミファミポロン」とでも言ったのかなぁ，…と思ったら，6級になって，しかも別々の楽器を合体するというのに全て「クルールポロン」になってしまった。
5. 加えてどれみとぽっぷの呪文の語尾は「ペペルト」，見習いになった直後のポロンの名前も「ペペルトポロン」と同じで，これも「タップ固有説」に反する。これは，完全な固有ではなく幾つか種類があるということかもしれないし，どれみとぽっぷが姉妹だからかもしれないし，「ペペルトポロン」の商品寿命を延ばそうというOンダイの思惑かもしれない。「これでカンペキぃ!」



(a) ペペルトポロン　(b) クルールポロン

図3.18: ポロン

▶魔法(p76)，呪文(p63)，魔法玉(p77)

ま

【マキハタヤマリカの魔法堂（まほうどう）】

1. どれみに会う前のマジョリカがオーナーだった魔法ショップの店名。ララの話によれば，魔法堂は由緒正しい伝統あるお店で，オーナーになったものは次の女王になれるという。今の女王様も以前はこの魔法堂のオーナーで，マジョルカとこの店の権利を争っていたマジョリカは，女王様の厳正なるあみだくじに勝利してこの店を得たらしい。このとき店の権利書と，女王様の営業許可書を受け取っただろう（第20話）。



図3.19: 魔法堂

2. しかし「不気味」と見た3人によって「MAHO堂」に大改装され，見る影もなくなった。「魔法というのはな，イメージが大切なんじゃ。前の店のような神秘的なイメージがな」「神秘的? どっちかっつーと不気味って感じじゃん」「うん」「あははは，あれやったら普通の人間は近づきとうないわな」（マジョリカ，どれみ，はづき，あいこ; 第4話）

▶MAHO堂(p78)

【マジカルステージ】

1. 「9級から使える魔法」で，「3人が力を合わせて使う魔法」（ララ; 第9話）
2. 「3人の心が一つになれば，2級上の魔力を発揮することも可能」（マジョリカ）だが，逆にひとりでも余計なことを考えると失敗するらしい。また，「レベルの高い魔法を使うんだから，当然魔法玉も減る」（ララ）という。なお，マジカルステージを使うときの呪文は通常の魔法を使うときの呪文と異なる。
3. この魔法の効果は一見謎なことが多く，「ドドを見つける道具よ，出てきて!」と願うと焼き芋が（第9話），「矢田くんが何をしてたか，教えて!」と願うとビデオのリモコン（のようなもの）が（第17

話），「あいちゃんのお母さんの勤め先を教えて!」と願うとベンチが（第34話）出てきていた。
4. この魔法はかなり抽象的な願いも解釈できる（?）ようで，「りょうたくんをなんとかしてあげて!」（第38話），「関係者全員集合!」（第39話）なども適切に（?）対処していた。恐るべし。

▶魔法（p76），呪文（p63）

【魔女】

1. witch（英語）の訳。魔法使いの女。
2. ヨーロッパの民間信仰に現れる，妖術を使う女。隣人に害を与え，ほうきの柄にまたがって空を飛び，動物（ヒキガエル，3本足のウサギ）に変身する。またワルプルギスの夜（5月1日の前夜）にドイツのブロッケン山で無礼講の宴を開く。しばしば人食鬼と同一視される。
3. 中世から近世初期のヨーロッパで，教会と諸国家が異端者の追及と処罰を行うため（いわゆる魔女裁判）に仕立てた上げたもの。男性も魔女と呼ばれる。魔女の見分け方から行動，特徴まで事細やかに記されているが，それらは悪魔学によって作り出され，神学者，教会人，法律家，医師などエリートたちの強迫観念によってより詳細になっていったと言われる。前述の魔女とは異なる。
4. 「どれみ」の魔女は，上記の魔女と「魔法が使える女性で，ほうきに乗って飛ぶ」という点では共通する部分があるが，それ以外ではかなり異なる。
5. 魔女は人間が「なる」「辞める」ことができるものである。魔女見習いからはじめ，修行を重ねて魔女になることができる。
6. 人間の住む人間界に対して魔女の住む魔女界が別の次元（?）に存在する。そこには女王を中心とした社会がある。
7. 魔女は人間にその正体を言い当てられると魔女ガエルになってしまう。元の姿に戻せるのは，言い当てた本人の魔法のみである（第1話）。
8. 魔女が魔法を使用するには水晶玉が必要である。魔女ガエルになっても水晶玉があれば魔法は使える（第15,51話）。
9. 魔女は人間界では仮の名を使う（第1話）。
10. 「なんや，こうして見ると，魔女もただの酔っぱらいやなぁ…」（あいこ; 第46話）

▶魔女界（p75），魔女見習い（p76），魔女ガエル（p75），魔法（p76）

【魔女界】

1. 人間の住む人間界や，魔法使いの住む魔法界に対して，魔女の住む世界。
2. 女王を中心とした社会があるようだ。また，女王は選挙によって選ぶという（第20話）。
3. 自然（?）としては，魔女の野原・ほうきの木の森（第8話），らくだ山（第13話）が確認されている。また，300年に1度，大嵐が起きるという（第37話）。
4. 動物としては，おばけ（?; 第14話），タコ族・イカ族（第14,40話），「勤勉なうさぎと，素早いカメ」（モタモタ; 第36話），ヘンな生き物（?; 第40話）などが確認されている。
5. 植物としては，ほうきの木・魔女くしゃみ草（第8話），人食い花（第18話）などが確認されている。
6. 施設としては，魔女学校（第20話），女王様の城（第23話），競技場（第36話）が確認されている。
7. 店舗としては，ラーメン屋，たこ焼き屋，ケーキ屋（第8話），ステーキ屋台（?; 第40話）などが確認されている。また，おんぷは第36話，魔女界でショッピングをしていた。女王様の城では魔法玉を稼ぐバイトができる（第23話）。
8. 行事としては恒例の忘年会が確認されている（第46話）。なお，参加者は隠し芸を披露しなければならないが，優勝者には女王様がなんでも一つ願いを聞いてくれるという。
9. 集落としては，元の姿に戻れない魔女ガエルが集まる「魔女ガエルの村」（第37,40話）が確認されている。
10. 他，魔女の迷宮や砂漠など（第40話）とにかくいろいろあるようだ（説明になってねぇよ）。
11. 人間界からは，月の笑う夜に行き来ができるという。その夜，MAHO堂店内の中庭への扉は，魔女界へと通じている。おんぷの事務所も魔女界への扉はある（第37話）。が，「由緒正しい伝統あるお店」（ララ; 第20話）であるMAHO堂にこの扉があるのはいいとして，ただのビルの一室っぽいおんぷの事務所に何故あるのかは不明。
12. また，人間界に女王様の馬車が現れたことが2度ある（第26,45話）。前者は月が笑っていることが確認できるが後者は確認できない。
13. デラは，夜ではなく昼に煙と共に妙な所から現れて，煙と共に帰っていき，第50話ではモタとモタモタを連れてきていたが，あれは魔女界からの行き来なのであろうか。だとしたらとてつもない魔法の使い手のような気がするのだが…。そういえばマジョルカも「魔女界へ帰るよ」と言ってドロンと消えてたっけなぁ（第24話）。

▶次期女王選（p62），魔女（p75），魔女ガエル（p75），人間界（p69），魔法界（p77）

【魔女ガエル】

1. 魔女が人間に正体を言い当てられるとなってしまうもの。
2. 元の姿に戻るには，言い当てた本人が魔女になって，元の姿に戻る魔法を使うことしかないという。そのため，その人間に魔女見習いになるよう言うのが普通らしい。が，その人間が拒否した場合は一生元の姿に戻れなくなるわけで，そういう魔女ガエルたちが集まった「魔女ガエルの村」が魔女界に存在する（第37話）。
3. 魔女ガエルになっても水晶玉があれば魔法が使える（第15話）。また，ほうきではなくチリトリ（マジョリカ）やバケツ（マジョルカ）などに乗って空を飛ぶ。
4. 魔女見習いでも魔女見習いであることを言い当てられると魔女ガエルになってしまうという（第4話）。魔女見習いガエルとは言わないようだ。
5. 魔女が魔女ガエルになっても，一応魔女だから魔力は強いし，水晶玉があれば魔法は使えるわけだし，なんとなろうものだが，魔女見習いが魔女ガエルになってしまった場合，魔力は弱いわ，魔法玉がないと魔法が使えないわ，そもそも自分が魔女になったことがないんだから弟子に教えることもできないわ，と元の姿に戻ることは絶望的である。
6. また，魔女になれないであろう男性に正体を言い当てられた場合も絶望的であろう。…世にも恐ろしい仕組みだ…。
7. 第18話でマジョリカは魔法でキツネに化けていたが，これができるのなら元の姿に「戻れ」なくても，せめて元の姿に「化ける」ことはできる気がするのだが…。
8. どう見てもカエルに見えないこの魔女ガエルのデザインは，馬越キャラクターデザイナーの数あるデザイン案のうち，最もヘンなのを五十嵐SDが選んだとか。

▶魔女（p75）

【魔女学校】

1. かつてマジョリカとマジョルカが在学していた学校。ふたりは同級生で，その頃からライバルだったという。「魔法グッズ作りも，ほうきの乗り方も，もちろん魔法の力も大したものだったわ」（ララ; 第20話）

【魔女試験】

1. 魔女見習いが魔女になるために受けなければならない試験。単に「進級試験」「昇級試験」とも言う。9級からはじめ，1級まで合格すると魔女になれる。試験官魔女のモタとモタモタが実施し，主に特設の屋台で行われる。
2. 3人の進級試験の内容と結果を見ていきたい。9級試験ではあいこは「四角いたこ焼き」，はづきは「三段重ねのプリン」を出して合格したが，どれみは「世界一おいしいミルクあんみつコーヒー」を出せずに不合格。このときはづきとあいこにはレレとミミが与えられた（第7話）。どれみは追試で「風邪に効く薬草を持ってくる」という追試で合格し，ドドを与えられ，3人揃って9級になったので「マジカルステージ」が使えるようになった（第8話）。8級試験は「アシジュポーンの頭に旗を立ててくる」というもので，女王様の口添えもあって揃って合格（第13話）。7級試験は旅行に行く間際のモタたちによって試験なしで合格し，植物と話せるようになった（第18話）。6級試験は「ゼロになった魔法玉を如何にして手に入れるか」で，薪割りのバイトで魔法玉を稼いで合格。ポロンもバージョンアップしてクルールポロンになった（第23話）。後日，認定玉を入れる認定証を与えられた（第26話）。5級試験は「モタたちが今欲しい物を魔法粘土で作ること」で，どれみが孫の手（本人は花のつもり）を作って3人とも合格（第31話）。4級試験は「お供の妖精の障害物競走のお手伝い」で，ドドドドドーっと3人とも合格（第36話）。3級試験は「3人別々でしかも魔法は2回までという制限のもと，時間内に3つの世界にある3つの扉を探して戻ってくる」というもので，はづきとあいこは合格して「魔法玉がたわわになる木」の種を与えられたが，誘惑に負けたどれみは不合格（第40話）。はづきとあいこの2級試

第三章　用語解説

験，及びどれみの3級再試験は「魔女界の忘年会で行われる隠し芸大会でウケたら合格」で3人とも合格。しかも優勝し，どれみの飛び級を賞品として願ったのでどれみは2級にも合格した（第46話）。おんぷと共に受けた1級試験は「美空町内で，魔法で良いことをして誰かにありがとうと言ってもらう」というもので，4人に川で溺れていたところを助けられた子ギツネが「ありがとう」と言ったので4人とも合格した（第50話）。

3. 天才魔女見習いおんぷは，第35話登場時点で3回試験を受けていて，しかも全部飛び級合格だったため既に4級。3人より一歩先に受けた4級試験も飛び級合格して2級（第40話）。1級試験は前述のとおり。
4. ぽっぷは，3度の試験のチャンス（第31,36,40話）を本人や3人の努力の甲斐なく全て寝過ごしたために無級のままだった。
5. 5級試験のとき3人は魔法玉がゼロだったので魔法玉を使わない試験を望んでいたが，全試験を通して3人が魔法を使った試験は意外と少ない。7,6,5,2級は3人とも0回，4級ははづきが1回のみ，3級はあいこが2回でどれみ・はづきは0回である。一体何の試験なんだか…。
6. 「魔女試験の中でも，3級に合格できない魔女見習いが一番多いのよ。たとえ，それまでの試験を順調にこなしてきたとしても，3級から試験がグンと難しくなるの。結局そのまま，ポロンを置いて普通の女の子に戻っていった子は結構多いのよ」（ララ; 第40話）と言っていたが，あまりそうは思えなかった…。

▶ポロン(p74)，マジカルステージ(p74)，認定玉(p69)，認定証(p69)，魔法玉がたわわになる木(p77)

【魔女について】

1. どれみの愛読書(?)。国語の授業に朗読してしまって関先生に廊下に立たされたもの（第1話）。「魔女の見分け方。魔女は年中手袋をしている。魔女の目はいつも血走っているので赤く見える。魔女は子供は大嫌いなので，子供が近づいてきてもにおいですぐ分かるように，鼻が大きい」（どれみ; 第1話）

【魔女見習い】

1. 魔女の見習い。魔法の修行をして，9級から1級までの魔女試験に合格し，認定証に認定玉を8個集めると一人前の魔女になれる。
2. 魔女見習いはポロンという魔女界の楽器で魔法を使う。
3. 魔女見習いには魔女見習いタップが必要で，タップからまず魔女見習い服を出して「おきがえ」し，それからタップでポロンや魔法のほうきを出すことができる。
4. 魔女と同様，魔女見習いもその正体ことを言い当てられると魔女ガエルになってしまうという。

▶魔女(p75)，魔女試験(p75)，認定証(p69)，認定玉(p69)，ポロン(p74)，魔女見習いタップ(p76)，魔女見習い服(p76)，魔法のほうき(p77)，魔女ガエル(p75)

【魔女見習いタップ】

1. 単に「見習いタップ」「タップ」とも。魔女見習いに必要なもの。魔女見習いになる，とは，魔女見習いタップを受け取る，とほぼ同義のように思える。
2. タップの中央を押すと，魔女見習い服が出てきて，魔女見習いは音楽が鳴っている間にきがえる必要がある。間に合わないと消える（第1,4話）。また，きがえた状態でもう一度タップの中央を押すと服は元に戻る（第2話）。



図3.20: 魔女見習いタップ

3. 魔女見習い服の胸部にタップは位置する。この状態で「ド・ミ・ソ・ド」と弾くとポロンが出てくる。また「ド・ファ・ラ・ド」と弾くと魔法のほうきが出てくる。

▶魔女見習い(p76)，魔女見習い服(p76)，ポロン(p74)，魔法のほうき(p77)

【魔女見習い服】

1. 魔女見習いの服。魔女見習いタップの中央を押すと出てきて，魔女見習いは音楽が鳴っている間にきがえる必要がある。間に合わないと消える（第1,4話）。また，きがえた状態でもう一度タップの中央を押すと服は元に戻る（第2話）。

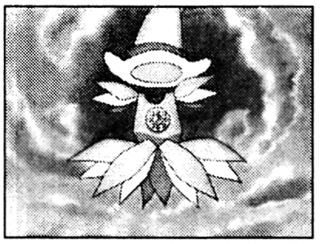


図3.21: 魔女見習い服

2. きがえると何故か「プリティー・ウィッチー・〇〇〇ッチー」（〇〇〇は本人の名前）と言う。第1話でどれみが言ったのが最初だが「なんじゃそりゃ…」と言うマジョリカに「雰囲気，雰囲気」とどれみは答えていた。どんな雰囲気?
3. 劇中で登場する5人の魔女見習いのうち，おんぷの「おきがえ」のシーンは実は1度もない。
4. 魔女見習いでなくても，また犬でも着ることができるという事実が第29話で明らかになった。

▶魔女見習い(p76)，魔女見習いタップ(p76)

【まっきー】

1. 「たっきー」のパロディ。詳しくは【滝沢秀明】の項を参照。
2. マツザワアキヒデくんのニックネームらしい。「それにね，主役のお兄さん役は，あのマツザワアキヒデくんなのよ」「えっ，まっきーが?」「そうよ」「やるやる! まっきーとお芝居ができるなら，絶対オーディション受ける!」「そうこなくっちゃ」（おんぷのママ，おんぷ，…; 第49話）
3. ゼブラ株式会社の油性マーカー。カタカナだけど。

▶滝沢秀明(p65)

【松坂大輔】

1. プロ野球選手。西武ライオンズ投手。1980年東京都に生まれる。小学生時代からリトルリーグで活躍。横浜高校では2年でエースとなり，98年春と夏の甲子園連覇に多大に貢献。特に夏の甲子園では1回戦完投，2・3回戦完封，決勝では無安打試合を演じて注目を浴びた。当初プロ野球横浜ベイスターズ入団を希望していたが，98年秋のプロ野球ドラフトでは3球団が競合の末，西武に入団。持ち味の速球とスライダーはプロでも通用し，入団初年から活躍。99年にはオリンピックのアジア予選にも出場し，台湾を1点に抑える好投で日本の五輪出場に貢献。大物ルーキーとして当初から人気も高く，99年7月のオールスターファン投票の960,754票は投手部門最多得票記録。
2. どれみがあいこのドッジボールの腕を誉めるのに引き合いにした人物。「あいちゃんの球に当たった小竹の泣きっ面は笑えたねぇ」「あの時の，あいちゃんの球すごかったわ! わたし，胸がキュンとなっちゃったぁ」「うんうん。松坂も真っ青な剛速球って感じだったよ」「へへ…，おおきに，おおきに」（どれみ，はづき，どれみ，あいこ; 第34話）

【魔法】

1. 魔力をはたらかせて不思議なことを行う術。魔術。妖術。
2. 魔女や魔女見習いが使える力。魔女は水晶玉で，魔女見習いはポロンの魔法玉の消費によって魔法を使える。魔女は水晶玉の大きさに，魔女見習いは級の高さに魔法の是非や強さが左右されるようだ。
3. どれみは「魔女は楽器で魔法を使うのさ!」（第4話）と言っていたが，魔女ガエルたちは指を鳴らして魔法を使うし，デラ，モタ，モタモタはスティックのようなもので魔法を使っていた。女王様は手で魔法を使っているように思える。っていうか，水晶玉があればどーにでもなっているように思えるのだが。
4. 「あのおばけは魔法をかけたあんたにしか消せないんだよ!」（どれみ; 第25話）というので，魔法で出したものは本人でないと消せないらしい。また，「人の気持ちを知るという魔法は上級者向け」（マジョリカ; 第31話）という。
5. ただ，「一千万円なんて大金，見たことないから魔法でも出されへん」（あいこ; 第19話）と言っていたが，無級のどれみは前代未聞の「無料ぱんつ洗い機」なるものを出していたぞ（第7話）。それともどれみは見たことがあるのだろうか。
6. 魔女界の掟により，禁じられている魔法がいくつか存在する。第1話でララは「怪我や病気を魔法で治すと，自分に悪いことが返ってくるから禁止されてる」と言っている他，第4話では「死んだ人を生き返らせる魔法」を使うと「自分の命がなくなる」，「怪我を治す魔法」を使うと「使えば必ず自分の身に何かが起こる」と

マジョリカが言っていた。そして第36話になって「人の心を操る魔法も禁止されて」（ララ）いて，使うと「そりゃもう恐ろしいことが起きる」（マジョリカ）ことが，突然明らかになった。
7. ただし禁じられているだけで，使えないわけじゃないところがポイントである。

▶魔女（p75），魔女見習い（p76），水晶玉（p64），ポロン（p74），魔法玉（p77）

【魔法界】

1. 魔女の住む魔女界や，人間の住む人間界に対して，魔法使いの住む世界。詳しくは【魔法使い】の項を参照。
2. オヤジーデがいた世界。「わしはかつて黙って座ればピタリと当たる，魔法界随一の占い師! しかも怪盗じゃった!!」（オヤジーデ; 第27話）

▶魔法使い（p77），魔女界（p75），人間界（p69）

【魔法グッズ】

1. 魔女や魔女見習いの作る小物の総称。魔力の強い者が作ったグッズにはそれだけの効果があるという（第21話）。
2. 魔女見習いの3人は魔法粘土から作ったものをMAHO堂で販売する。それらにはそれぞれ願いが込められているという。
3. 魔女のマジョルカが元祖MAHO堂で制作・販売する魔法グッズが何から作られているかは不明。また，魔女が魔法グッズを作る場合，魔女の髪の毛が必要だという。ただし，その効果が高いだけに反作用も大きく，願い事がかなう代わりに怪我をしたり病気になるらしい（第21,24話）。
4. グッズの魔力はそれを作った本人でしか消せないという。が，3人のマジカルステージとマジョリカの魔法で消えていたので（第21話），今一分からない。
5. 反作用が魔法グッズの効果の強い場合のみ現れるというのは不自然な話だと思う。どれみたちのグッズも小さな幸せがくるかわりに小さな不幸もやってくると考えるのが妥当ではないだろうか。…まぁ，人間界に住む我々には魔女界の摂理を語る資格はないか。
6. どれみが作る魔法グッズは，最後はクイズ「何を作っているのでしょーか!」（逸見・渡辺; 「クイズ世界はSHOW by ショー○イ」風（←古い））になってしまっていた（第38話）。

▶魔法粘土（p77）

【魔法玉】

1. 魔女見習いが魔法を使うとき，ポロンに装填して消費するもの。マジカルステージなど「レベルの高い魔法」（ララ）を使うときはより多くの魔法玉が消費される（第9話）。
2. 魔法玉には種類があり，クルールポロンに必要な魔法玉は「今までの3倍の効き目がある」（モタ）という（第23話）
3. 第4話では，魔法玉は魔女界で買うものであり，マジョリカは「もちろんお金で買うが，この店の魔法グッズを売って得たお金でないと買えん」と言っていた。
4. 第9話では，3人が入った魔女界でのラーメン屋で，支払いはお金ではなく魔法玉であることが判明した。そのラーメン屋にあったメニューは《しおラーメン まほう玉 三コ》《しょうゆラーメン まほう玉 三コ》《みそラーメン まほう玉 四コ》《バターラーメン まほう玉 四コ》《タンメン まほう玉 四コ》《チャーシューメン まほう玉 五コ》などであった。また，第40話で登場したステーキ屋台のステーキは魔法玉1個だった。
5. 第12話では，お金じゃなくても魔法玉とは交換できて，みさきのサッカーシャツの「魔女界での値段」を魔法玉と天秤にかけて計量していた。またデラは「魔女界では同じ物でもお金でも，その人の想いが強ければ強いほど，価値が高いの」と言っていた。
6. 第40話では，その時進級試験の合格者にもれなくもらえる「魔法玉がたわわになる木の種」だったということから，魔法玉は木に成るものということが明らかになった。（第40話）。
7. 上記の事実を一つ一つ見ていくと特に不自然な感じはしないが，まとめて考えるとかなり謎である。まぁ，魔女界自体が謎なのでしょうがないか。

▶魔女見習い（p76），魔法（p76），ポロン（p74），魔法玉がたわわになる木（p77）

【魔法玉がたわわになる木】

1. 3人やおんぷの3級試験の時，合格すると貰えたのはこの木の種だった。「女王様の在位100周年を祝って，魔女試験の合格者にはもれなく，魔法玉がたわわになる木の種を，プレゼントしてくれるらしいのよ!」（デラ; 第40話）
2. 3級試験に合格したおんぷ，はづき，あいこは貰っていた。が，実がつくのは200年後らしい。
3. 「たわわになる」のは枝であって魔法玉ではない。「枝もたわわに柿が実る」というのが正しい用例。

【魔法使い】

1. 魔法を使う人。
2. 英語の場合，男の魔法使いは“wizard”，女の魔法使いすなわち魔女は“witch”と明確に分けられているが，日本語の場合「魔女」は（主に）女の魔法使いを指すが，「魔法使い」は性を特定しない。
3. オヤジーデが自称するもの。「歴とした魔法使いじゃ!」（オヤジーデ; 第27話）
4. このことから，「どれみ」の世界では女の魔法使い（witch）を「魔女」と呼び，「魔女」は「魔女界」に住んでおり，男の魔法使い（wizard）を「魔法使い」と呼び，「魔法使い」は「魔法界」に住んでいる，ということになっているようだ（多分）。

▶魔法界（p77）

【魔法粘土】

1. 魔法グッズを作る材料となる粘土。MAHO堂では問屋魔女デラから仕入れる。

▶魔法グッズ（p77）

【魔法のペンダント】

1. マジョリカが真樹に見せたもの。「それは，何でも願いをかなえる，魔法のペンダントじゃ。ただし，願い事によっては，自分に良からぬことが起こるかもしれんがな…」（マジョリカ; 第1話）
2. マジョリカがどれみに見せたもの。「それは，何でも願いをかなえる，魔法のペンダントじゃ。ただし，願い事によっては…」「あの!」「な，なんじゃ!?✲ 話の途中に…」「マキハタヤ・マリカさんて…!」「マキハタヤマ・リカじゃ!✲ ったく，これじゃから子供は嫌いじゃ…」「え，子供が嫌い? …ってことは…」（マジョリカ，どれみ，…; 第1話）
3. 最初見たとき，なーんか滅びの呪文を唱えると天空の城の底が抜けて宇宙に行っちゃいそうな気がしたのは筆者だけか?

【魔法のほうき】



図3.22: 魔法のほうき

1. 魔女が，あるいは魔女見習いが空を飛ぶとき必要なもの。
2. 魔女ガエルはこれの代わりにチリトリ（マジョリカ）や，バケツ（マジョルカ）で飛ぶ。
3. 魔女見習いの場合，見習いタップで「ド・ファ・ラ・ド」と弾くとタップから出てくる。
4. 魔女界にはほうきでできた，「ほうきの木」がある（第8話）
5. どれみが9級になるまで上手く乗りこなせなかったもの。また，あいこが乗り方を教わってもないのにドついて乗ったもの（第4話）。
6. 3人は散らかってしまった魔法堂店内をこれで掃いていた（第4話）。ただのほうきとしても使えるらしい。

▶魔女見習いタップ（p76），ほうきの木（p73）

【魔法のレジスター】

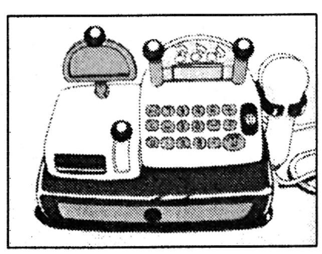
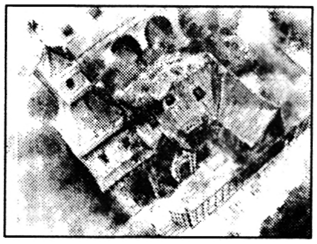


図3.23: 魔法のレジスター

1. 3人が泣き落とし，どれみが脅迫してマジョリカに買わせたもの。「な，なんじゃ，ワシに泣き落としは効かんぞ!」「なら魔女見習いやめる! そしたらマジョリカは一生魔女ガエルのままだよ!」「あ゛!! な，なんちゅうことを…」（マジョリカ，どれみ，マジョリカ; 第5話）
2. コンビニのレジのように，魔法グッズの値段を瞬時に判定及び清算することができるようだ（第5話）
3. 最初の頃はよく登場したが，だんだん「いつもヒマで赤字続きのMAHO堂」が定着するにしたがってほとんど見なくなった。バンダ○側としては不満この上ない気もするのだが。

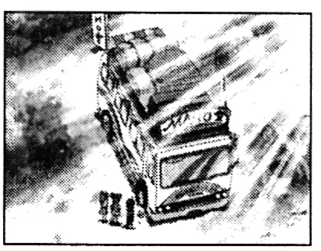
【MAHO堂】


図3.24: MAHO堂

1. 千葉千恵巳，秋谷智子，松岡由貴のユニット名。デビュー曲は「おジャ魔女カーニバル!!」(1999年)。同年10月にはソロデビューし，2000年には宍戸留美が加わり4人になった。
2. 3人に会った後のマジョリカがオーナーの魔法ショップの店名。3人が「マキハタヤマリカの魔法堂」を手伝うことになったとき，現状が「不気味」「趣味が悪い」として改装。このとき名前も改称された。「まずは名前からだね」「魔法堂はいいにしても，後のは要らんのんちゃう?」「賛成」「どうせなら，『まほう』はローマ字で『MAHO』にしたらどうかしら?」(どれみ，あいこ，どれみ，はづき; 第4話)。
3. これに伴い，「高いのを売りつけてがっぽり稼ぐ」(マジョリカ) という戦略から，「小さいことからコツコツと」(あいこ) という戦略に転換，魔法グッズとして小物を販売する店になった (第4話)。が，この戦略転換も空しく，借金は膨らみ続けていった。
4. そして一時期，元祖MAHO堂に乗っ取られた形になったが，いろいろあって取り戻した (第20-24話)。
5. が，取り戻しても相変わらず客は少なく，無料不幸アイテム鑑定業 (第27話)，美空神社の夏祭りの夜店 (第29話)，クリスマスセール (第45話) などの営業努力も空しく借金は解消されず (第40話)，ついに諸事情により店じまいになった (第51話)。
6. 「この店は悩みや願い事のような強い想いを持っている奴を引きつけるようになっとるんじゃ」(マジョリカ; 第5話) と言っていたが，劇中でそう思えるのは真樹 (第1話)，どれみ (第1話)，小竹 (第5話)，横川 (第6話)，木村 (第11話)，みさき (第12話)，あと敢えてあげるなら第32話の宮本まさはるくらいだった。この設定，後半はほとんど忘れ去られているような気がするのだが…。
7. 「瀬川おんぷ，ミニコンサート?」「商店街の売り上げ作戦やなぁ」「コンサートやれば人が集まっていろいろ売れるかもしれないものね」「おおっ! そーか! ねぇねぇ! わたしたちだって，3人でMAHO堂で歌ったらお客さん集まるかもよぉ?」「ないない…」「…やっぱり? そりゃそうだよねぇ…」(どれみ，あいこ，はづき，どれみ，はづき・あいこ，どれみ; 第45話) …いやぁ…結構集りそうな…。

▶マキハタヤマリカの魔法堂(p74)，魔法グッズ(p77)

【MAHO堂号】


図3.25: MAHO堂号

1. マジョルカにMAHO堂を乗っ取られた3人が，MAHO堂を復活させるべく廃棄バスを改装してつくりあげたもの。マジョリカの魔法によって動くようにもなった (第20話)。
2. 劇中では「MAHO堂号」の言葉はなかったが，『設定資料集 1』『AX BOOK 1』『マジカルガイド』すべてにこの単語があった。
3. 動くようになったのはいいが，実際動いて街まで出たのは1回だけ (第20話) で，その機能や可能性の大きさに比べて活躍はほとんどなかった。また，MAHO堂が取り戻せた (第24話) あとはどうなったのだろう。
4. ナンバープレートとか，大型自動車免許とか，結構法律的にヤバい気が…。まぁ，そのへんも魔法で解決か。

み

【美空駅】
1. 美空市内にある，と思われる駅。あいこの母は美空市から東京駅に向かう際，この駅を利用した。《仕事の関係で，東京発6時の新幹線で帰らなければならないけど，5時までは美空市にいられるの。学校が終わったら美空駅の改札口まで来て。お母ちゃん，待ってるから》(あいこの母; 第34話)
2. 第34話であいこがこの駅に着いたときには，あいこの母は既に発ち，掲示板に《あいこ やっぱり お母ちゃんのこと ゆるして くれへんのやね あつこ》と残されていただけだった。ちなみに，この他の書き込みは《〈読みとれず〉げんにしいや しょうこ》《お先に 洋子》《さきち 帰るよ サトミ》《へたれ 一時間や!! ㊙)》《五十嵐 先行くぞ! さとう》《いわい 30分待った 柳》《お忘れ物 カサ サイフ》など。
3. 第43話で3人が家出した玉木を捜すシーンにも駅が描かれているが，ここが美空駅かどうかは不明。

【美空公園】
1. 美空町にある，と思われる公園。
2. 瀬川邸やMAHO堂に近くにあるという。「ねぇ，おんぷちゃん家って，どのへんなの?」「えっと，美空公園の近くよ」「それやったら，MAHO堂の近くやわ。今度遊びに行ってもええ?」(どれみ，おんぷ，あいこ; 第35話)
3. 橋本真司が，天野こうたへの果たし状の中で決闘場として指定した公園。「今日の放課後，6年の橋本と我がクラスの天野こうたが，美空公園で一対一の決闘をするのーっ!!」(島倉; 第42話)
4. へへがおんぷの代わりにファンへ送ったメールの中で，待ち合わせの場所として指定した公園。「なになに…《こんにちわ。わたし，おんぷ。突然だけどあなたのメールに超ラブラブって感じ。これってもしかして恋の予感かも。今度の日曜日12時に美空公園で待ってるから絶対来てねって言うか絶対来い。あなたの瀬川おんぷより♡》…?」(どれみ; 第48話)
5. 上記のうち，第35話は公園自体が登場しなかったが，第42,48話は公園も登場した。公園というと第12話で試合後の芝山兄弟がいた公園，第20話でMAHO堂を追い出された3人やマジョリカたちがいた公園，第21話で3人がマジカルステージを唱えた公園，またEDで鉄棒に座っているあいこがいた公園があるが，それらが第42,48話で登場した美空公園と同一であるかは不明。海が見えるという描写はよく似ているが，第12,21話及びEDの公園と，第20,42,48話の公園では海側の柵の形が異なる。

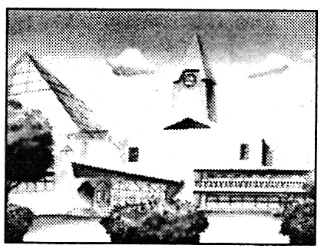
【美空市】
1. どれみたちが住んでいる所。この物語の舞台。
2. 同市にある，美空市立第一小学校，美空町，美空駅，美空神社，美空市将棋道場，みそら荘に関してはそれぞれの項を参照されたい。
3. 施設としては，ウィッチーはづき・プリティまりな組VSビューティーマスク・ストロング奥山組の試合が行われた (?)「美空市立体育館」(第28.5話)，魔女ガエルたちが《美空一座》の演芸を観た《美空公民館》(第37話)，キャンディ伊藤VSクラッシャーマリーの試合が行われた《美空市立総合体育館》(第44話)，おんぷが入院した《美空市総合病院》(第51話) が確認されている。
4. 同市に本社を置いている企業と思われる名前は，《美空工業》(第5話)，《美空アニメーション》(第9話)，《美空石灰》(第33話)，《みそら日報》《美空航空》《美空銀行》(第14話) が確認されている。
5. 同市には《美空商店街》があり，《コンビニみそら》《美空サロン》《山田書店》《おこのみ焼》《クレープ キング》といった店舗が確認されている (第37話)。また，この商店街の組合として《美空町商店会》があるようで，ここが主催する毎年恒例の《歳末御礼マジックショー》を渡部みちあきの父がやっているらしい (第46話)。また，《瀬川おんぷちゃん X'mas ミニコンサート》を主催したのもここと推測される (第45話)。人寄せに熱心な商店会である。
6. また，美空市がどこにあるかの考察は本誌コラム「美空市の所在地」を参照されたい (p83)。

【美空市将棋道場】
1. 美空市内にある将棋道場。11月21 (日) 午前9字から美空市ちびっ子将棋大会が行われた会場。参加資格は美空市在住の小学生らしい。谷山将太の見ていたポスターより (第41話)。
2. 将太の父が，優勝した将太に将棋を指すことを許すカットに，道場の有段者の名前が並べられていた (第41話) が，それは次の通り。ただし，不可視の部分は適当に補完してある。上段右から《高久五段》《伊藤五段》《島本六段》《山田六段》一番左が《泊八段》。中段右から《塩崎四段》《田中四段》《下川四段》《行 四段》一番左が《田村四段》。下段右から《清原三段》《二岡三段》《松井三段》《高橋三段》《清水三段》《仁志三段》。
3. 中段は「どれみ」の背景スタッフがネタと思われる。上段の泊八段が最も高段位なのは，やはり社長だからだろうか。
4. 下段は日本一金のかかった某球団の打線がネタと思われる。背景スタッフにファンでもいるのであろうか。

【美空小】
▶美空市立第一小学校(p79)

【美空市立第一小学校】

1. どれみたちが通う小学校。通常「美空小」「美空小学校」と略す。この正式名称と思わしき名前は校門の表札に記されているもの。また，中田ごうじは特別授業のメールの中で《美空第一小学校》と書いていた（第48話）
2. 何故か『マジカルガイド』に詳しい記述がある。以下一部引用する。《初代校長・堀内孝乃進が，いくつか設立した幼年学校のひとつ，それが美空小学校。西洋音楽を取り入れた音楽教育に力を入れている。》
3. ちなみに，この初代校長の胸像が昇降口に，全身像が校舎の校庭側にある。
4. 行事としては，秋の運動会（第33話）が確認されているが，宮本まさはるの話より「マラソン大会」と「校内写生大会」があることが推測される（第32話）。
5. どれみたちは3年2組である。3年2組の座席表は図3.26（b）のとおり。ただし《妹尾》は第3話に，《瀬川》は第35話に追加された。席替えはしなかった。
6. 他学級は不明だが少なくとも3年2組は給食制である。
7. 教頭は規則にうるさいらしいが，学級委員の玉木がどんなに華麗でゴゥジャスな服を着てきても問題なかったり（第21話），1年中同じような服を着ている生徒がいても問題なかったり，とにかく服装に関してはかなり自由であると言えよう。
8. 「美空小」の呼び名は少し考えると不自然である。というのは「美空市立第二小学校」はどう呼ぶのか，ということだ。この手の名前の学校は，地元では「一小」「二小」と呼ぶのが普通であろう。まぁ，第二小学校がないのかもしれないし，あっても地元の慣習としてそう呼ぶのかもしれないので，必ずしもおかしいとは言えないのだが。



(a) 校舎

			教壇			
窓側	工藤	山内	小泉	宮本	花田	廊下側
	柳田	渡部	浜田	岡田	中田	
	横川	谷山	佐川	太田	樋口	
	林	天野	飯田	杉山	島倉	
	春風	藤原	奥山	中山	玉木	
	妹尾	瀬川	木村	小竹	矢田	

(b) 3年2組座席表

図3.26: 美空市立第一小学校

【美空神社】

1. 美空町にある神社。夏には夏祭りが行われる（第29話）。第47話で3人が初詣に行った神社もおみくじ売場に《美空神社》とあったことから，ここであると考えられる。また，第50話でどれみはこの神社の鳥居に激突するが，この後犬の散歩をしていた島倉かおりが，魔女見習いのあいことどれみをここで目撃してしまう。

【みそら荘】

1. パパイヤ兄弟が住んでいたアパート。美空町2-10-5。同兄弟は202号室に住んでいる。付近の《ゴミ回収日》は，《可燃物》が《月水金》，《不燃物》が《木》（第19話）。

【美空町】

1. 美空市内にあると思われる町。劇中で同町内にあると断言できるのは，みそら荘，美空神社，MONDO NAGAMINEぐらいだが，他にも多いと思われる。なお，断定の理由はそれぞれ，みそら荘は《美空町2-10-5》と表記があること（第19話），美空神社は夏祭りの提灯に《美空町》とあること（第29話），妹尾親子の住むアパート・MONDO NAGAMINEはあいこの母からの手紙の宛先に《美空町》とあること（第33話）である。

▶美空市(p78)，みそら荘(p79)，美空神社(p79)，MONDO NAGAMINE(p80)

【ミッシー】

1. ネッシーのパロディ。ネッシー（Nessie）はイギリス・スコットランド北部にあるネス湖（Loch Ness）の湖中にすむと言われる怪獣。「ネス湖の怪獣（Loch Ness monster）」とも。1934年に湖面から首を出しているように見える写真（ロバート・ウィルソンの撮影とされる）が発表され，欧米を中心に一躍有名となった（ただし，この写真は94年にでっちあげであることが判明している）。中生代に繁栄した海生恐竜プレシオサウルス（いわゆる首長竜）の生き残りとも言われ，細長い首と4つの鰭脚を持ち背中にコブがある姿で描かれることが多い。また，シー・サーペント（想像上の大海蛇）のイメージから巨大な蛇のような想像図もある。何度も調査が試みられ，現在でもその存在を信じる人は多く，地元では重要な観光資源となっている。日本でもひろく知られ，屈斜路湖のクッシー，池田湖のイッシーなどの俗信を派生した。
2. 長谷川新吾の父が読んでいた新聞の見だしより。《…ミッシーと命名か!?》（第16話）
3. どれみたちが釣りをしていたのは湖だったので，やはり「美空湖」の「ミッシー」なのであろうか…。

【南こうせつ】

1. 歌手。1949年大分県に生まれる。本名は南高節。71年に伊勢正三・山田パンダとともにフォーク・グループ「かぐや姫」を結成し，73年「神田川」がミリオンセラー。「赤ちょうちん」「妹」など立て続けにヒットを出すが，75年に解散。以後ソロ活動に入り，「夢一夜」「れくいえむ」などのヒットも出した。82年から大分県杵築市に住居を移し，月の半分は農耕生活を送る。81年から90年まで，毎年夏に九州でオールナイトのコンサート「サマーピクニック」を開催した。出演にテレビ「南こうせつの金印テレビ」「人間マップ」，ラジオ「南こうせつの週末はログハウスで」など。妻はエッセイストの南いくよ。
2. 腕の怪我で入院した22号室の患者と，仲間の芸人たちの台詞より。「でもそのギャグ聞いたことある。あんたら，たまにテレビ出てるよね。えーと名前は…」「SOSトリオだ!」「Sの杉山豊和でーす」「Oの太田ゆたかでーす」「Sの南こうせつでございます」「どこがSなんだよ!」（妹尾見習い看護婦，芸人佐川，芸人杉山，芸人太田，芸人佐川，芸人太田・芸人杉山; 第28.5話）
3. なんで「Sの南こうせつ」なのかは【レツゴー三匹】の項を参照。

▶かぐや姫(p58)，レツゴー三匹(p81)，SOSトリオ(p56)

【見習いタップ】 ▶魔女見習いタップ(p76)

【見習い服】 ▶魔女見習い服(p76)

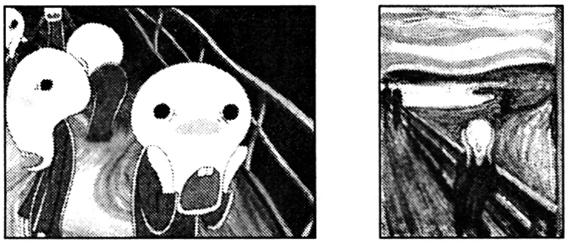
む

【ムニエル】

1. meunière もとは粉屋や製粉業者を意味するフランス語。ムニエールとも。西洋料理のひとつで，魚のバター焼き。魚の切身または一尾のままを塩・コショウし，小麦粉をまぶしつけフライパンにバターを入れ両面を焼いたもの。シタビラメ，ヒラメ，サケ，アジなどが適する。焼いたあとフライパンに残った汁にさらにバター，レモン汁などを入れてムニエルソースを作り，添える。フランス料理の正餐では魚料理（poisson）として出される。
2. 3人とぽっぷによる藤原家でのお泊まり会で，ばあやが出したお食事。「ねぇねぇばあやさん，今夜のメインディッシュは何? やっぱステーキ?」「申し訳御座いません，ステーキは昨日頂いてしまいましたので本日は…」「えー，頂いちゃったのぉ～!!」「どれみ，みっともない声出さないでよ!」「じゃあ何なの，ばあやさん…」「『シタビラメのムニエル，長万部風』でございますー!!」「何それ!?」（どれみ，ばあや，どれみ，ぽっぷ，どれみ，ばあや，どれみ; 第28.5話）

【ムンク】

1. Edvard Munch (1863–1944) ノルウェーの画家。ロイテンに生まれ，17歳で絵を学び始め，1885年からパリに留学。以後20年間，主にパリとベルリンで活動した。作品には病患や死のイメージに彩られたものが多く，主観的な苦悩や不安を強い色彩で表現している。特に女性の描写には性的な不安が反映されている。表現主義の先駆とされ，ドイツ表現主義美術の発展に寄与した。「叫び」（原題 “Der Schrei” 1893年）は特に有名。ほか作「思春期」(1894)，「マドンナ」(1894～95) など。版画も多く，近代版画芸術の中で重要な位置を占める。作品の多くはオスロ国立美術館，ムンク美術館（いずれもノルウェー・オスロ）に収蔵。
2. はづきの3級試験の中で，1つ目の世界に出てきたヘンな生き物や背景（図3.27（a））のネタとなったと思われる画家。「きゃーっ! きゃーっ! きゃーっ! きゃーっ!」「おい，うるさいぞ!」「子供が泣き出したわ!」「これで商売上がったりだぁ」「困ったなぁ」「仕方がない。扉へ追い込んで早くいなくなってもらおう」（はづき，ヘンな生き物，ヘンな生き物，ヘンな生き物，ヘンな生き物，ヘンな生き物; 第40話）



(a) カット (第40話)　　(b)「叫び」

図3.27: ムンク

▶キリコ(p59)

め

【メール】

1. 電子メールの略。Eメールとも。パソコン，テレックス，ワープロなどの端末を用いて相互に文字やデータを交換するシステム。またはそこで送受信されるメッセージ自体のこと。瞬時の速達性がありながら，届いたメールは一旦コンピュータ内に蓄積されるため電話のように相手が端末にいなくても送受信できるのが特徴。広義には1対多の電子掲示板 (BBS) や電子会議室も含めるが，近年では特にインターネットや携帯電話によるものを言うことが多い。かつては企業・団体内のLANや商用パソコン通信など主に特定のコンピュータネットワーク内で送受信されるものだったが，現在ではインターネットとのゲートウェイを介して様々なネットワーク間での送受信が可能となっている。インターネットと携帯電話の普及にともない個人の利用者も急増し，電話に次ぐ連絡手段としてひろく社会的に利用されている。
2. すぐに相手に届く，手紙みたいなもの。中田ごうじによれば。「ところでさぁ，メールって何?」「えっと，メールっていうのは，簡単に言うと，すぐに相手に届く，手紙みたいなものなんだ。初対面の人とも気軽におしゃべりできるし，これがあれば日本…いや，世界中の人たちと仲良くなれるんだ」(どれみ，中田; 第48話)
3. 玉木が華麗に送れるもの。「あーら? ここは瀬川さんの出る幕じゃなくてよ。このわたくしが，華麗にメールを送ってさしあげますわ!」(玉木; 第48話) 華麗なメールの送り方ってどんなんだろう…。
4. ちなみに，美空小のパソコンに入っていたメール用ソフトは《どれみっくるメ～ル》という名前で，メニューバー (MacOS風) には《ファイル じゅもん ひみつ おくのて 10:45》とあった。奥の手を使うとどうなるんだろう…。

も

【モンゴル】

1. ユーラシア大陸中東部にある共和国。正称はモンゴル国。面積1,566,500km^2，人口約220万人 (1993年推計)。首都ウランバートル。住民はハルハ・モンゴル族が大半を占める。公用語はモンゴル語で，文字はモンゴル文字に替わってキリル文字が用いられていたが1990年の改革以後モンゴル文字を採用。住民の大半は遊牧民で牧畜に従事するが，都市部は工業化が進行。13世紀初頭チンギス・ハーンのモンゴル帝国が一時ヨーロッパにまで及ぶが14世紀に分裂。長く中国の強い影響下にあったが1921年ソ連主導で人民共和国を宣言 (モンゴル革命)。第2次世界大戦後は中ソ対立の影響を受けつつも主にソ連の影響下。1990年民主化運動によってモンゴル国が成立，自由選挙で大統領が選出された。近年は市場経済化にともなうインフレや財政赤字が問題となっている。
2. 花田志乃が以前住んでいた国で，夏休みに行った国。またタミラが住んでいる国 (第31話)。
3. 「『こんにちわ』ってモンゴル語で何て言うの?」と聞くはづきに，「サンバナ」と花田は答えていたが，モンゴル語で「こんにちは」は“Сайн байна уу!”で，文字通りに読めば「サイン・バイナ・ウー」といったところ。速く発音すれば「サンバナ」と聞こえなくもない。

▶ゲル(p60)

【MONDO NAGAMINE】

1. あいことあいこの父が住むアパート。美空町にあることがあいこの母からの手紙の宛先から分かった (第34話)。
2. 家主の名前は「達也」かもしれない。

や

【山内寺】

1. 山内信秋の家のお寺。第30話の予告によれば「由緒あるお寺」(どれみ) だという。ただし，読み方がこれで正しいかは不明。『AX BOOK 1』は《やまうちでら》だが，『マジカルガイド』では《やまうちじ》になっている。意外と「さんないじ」かもしれない。3人，小竹，矢田，SOS，島倉，横川の10名が夏休みの最後を飾る肝試しに挑んだお寺 (第30話)。
2. 墓地にあった墓の家名は確認できたのだけで次の通り。ただし《～家之墓》は省略してある。《大川》《島村》《嶋崎》《秋月》《杉本》《金田一》《山本》《塩満》《山田》《川上》《小林》《田村》《中村》《森戸》《塩野崎》《大塩》《高橋》《石原》《馬頭》《木ノ下》《戸田》《渡辺》《藤岡》《風間》《千葉》《上田》《須和田》《佐藤》《田中》《志水》《石橋》《五十嵐》《高久》《長峯》《原》《田中》《佐伯》《今石》《石崎》《関》《久本》《廣島》《末富》《吉池》《石田》《浦田》《関口》《角田》。
3. ところで山内寺って何宗なんだろう…。

ゆ

【UFO】

1. Unidentified Flying Object (英語) の略。未確認飛行物体。反対語はIFO (Identified Flying Object 確認飛行物体)。英語では「ユー・エフ・オー」と読む。本来はアメリカ空軍の公式用語。1947年にアメリカで初めて目撃報告がなされ以後も報告が相次ぎ，空飛ぶ円盤 (flying saucer) などと呼ばれたが，アメリカ空軍その他が国防上の観点から調査を開始し，UFOと総称されるようになった。調査は1947～69年まで行われ，12,618件の報告があったが，以降公式調査はない。ほとんどは明るい惑星や星，航空機，鳥，気球，凧，大気の閃光，奇妙な形の雲，流星，人工衛星などであることが判明していて，残りの多くは勘違い，でっち上げ，錯覚と考えられる。宇宙人の乗物であるとする説も強いが，その証明と同様，完全な反証も難しい。
2. はづきが試験官の目を逸らすために利用したもの。「あ，UFO!」「ウッソ，マッジマジ!? どこどこ!? 見た～い」(はづき，女子高生試験官; 第13話)
3. おんぷが樋口秀三の目を逸らすために利用したもの。「あ，UFO!」「え? どこ?」(おんぷ，秀三; 第39話)
4. パンチUFOがサイバトロンだったり某うちゅう人だったり何かと地球外生命体なのは何かの因縁であろうか。

よ

【妖精】

1. ラテン，ケルト系民話を中心に西洋の説話に登場する，魔力をもって人事に介入する超自然的存在。隠顕自在，いたずら好きだが貧民や子どもには親切。被征服先住民の記憶，神々の落ちぶれた姿，自然物の精の擬人化 (木の精dryad，水の精naiad，undine，火の精salamander，空気の精sylphなど)，不老不死の人が住む死後の国の想像などに基づく観念。地下や洞穴に住み緑の髪と服に魔法の帽子の小人に描くことが多い。ギリシア神話のnymph，北欧神話のelf，kobolt，『真夏の夜の夢』のoberon，puckなどは有名。fairyは仙女とも訳す。
2. しかし，ドドたちの能力が上がっていったようには思えない。4級試験で夢の中で珍しいチョウを捕まえるために姿を消したときも，ドドは相変わらず頭が見えていたし (第36話)。まぁ，ドドだから，かもしれないけど。
3. どれみたちが1級試験に合格して魔女になっても妖精たちに特に変化はなかったのだが，一体どのタイミングでララのような妖精になるのであろうか? 例えば主人の危機にデジバイスが光って…とか?
4. ドドたちを見ると，どーも顔つきやパーソナリティが主人に似ているよーな気がするのだが，マジョリカやマジョルカが魔女見習いだった頃はやはりララやヘヘのような顔つきとパーソナリティだったのだろうか? くわえてその頃ララやヘヘは「ラァラァ」とか「ヘェヘェ」とか言って2等身だったのだろうか? 疑問は絶えない。

▶魔女(p75)，水晶玉(p64)

【吉永小百合】

1. 女優。1945年東京都渋谷区に生まれる。本名は岡田小百合 (旧姓吉永)。1969年早稲田大学第二文学部卒。58年ラジオドラマ「赤

銅鈴之助」に出演，59年「朝を呼ぶ口笛」で映画デビュー。60年日活に入社，浜田光夫と組み日活青春映画の黄金期を築く。特に62年「キューポラのある街」では純情な少女ジュン役が当たり，サユリストと呼ばれるファンを生む。ほか，日活時代の出演作は「若い人」(62年)，「伊豆の踊子」(63)，「愛と死をみつめて」(64)など。73年岡田太郎と結婚。日活の路線変更もあって一時映画出演は減り，81年のNHK「夢千代日記」などテレビでも活躍。83年「細雪」で再び映画女優として脚光を浴び，その後は「おはん」(84)，映画女優 (87)，「外科室」(92)，「女ざかり」(95) など多数の映画に出演し，多様な役柄に挑戦。現在も大物女優として活躍中。ライフワークとして原爆詩集の朗読に取り組んでいる。

2. 藤原監督が撮影している映画の主演女優「スエヒロコユリ」の元ネタと思われる女優 (第27話)。

▶広末涼子 (p72)

【吉本】

1. 吉本興業株式会社のこと。1912年創業，1948年設立。資本金約46億9500万円，社員数235人 (2000年3月現在)。代表取締役社長は林裕章。本社大阪市中央区。主たる事業はテレビなどの映像ソフトの企画・制作，各種公演の企画・運営，劇場・パブなどの娯楽施設の開発・運営。ほか不動産事業，広告事業，旅行事業も手がける。1912年に吉本吉兵衛・吉本せいの夫婦が大阪で寄席経営を始めたのが最初で，翌年には吉本興行部を設立。芸人の育成にもつとめて上方漫才を確立，大阪以外でも京都・神戸・東京など各地で数十の寄席を傘下におさめ興行資本として成長。48年吉本興業株式会社に改組。戦後は漫才ブームもあってテレビを通じ数々のお笑い芸人を世に送り出した。近年芸能プロダクションとしても成長し，現在約650人のタレントが所属，寄席のみならずテレビ番組など多方面で活躍している。
2. あいこは吉本の芸人を生で見て育ったという。「へーぇ，吉本の芸人を生で見て育ったのかぁ」「なんばグランド花月にはよう行ったよ」(太田，あいこ; 第3話)
3. また，アホの坂田 (第41話)，島田紳助 (第47話) と，ここの所属の芸人がネタになっていた。

▶なんばグランド花月 (p68)，アホの坂田 (p54)，島田紳助 (p62)

ら

【ライムライト】

1. limelight (英語) 石灰の棒などを酸水素ガスの炎で熱して強い白光を生じさせる装置。また，その光のこと。石灰光。欧米の劇場で19世紀後半頃に舞台照明として利用され，スポットライトに用いた。
2. 転じて，脚光を浴びること。注目を集めること。
3. 飯田かなえの父の知り合いの骨董屋の名前。隣町にある。「ああ。隣町のライムライトっていう骨董屋なんだけど，もうやってないんじゃないかなぁ」(飯田の父; 第26話)
4. 1952年公開の映画。原題“Limelight”。137分，白黒。製作・監督・脚本・主演・音楽をすべてチャップリン (Charles Chaplin) が務め，チャップリンがアメリカで製作した最後の映画。アカデミーオリジナル劇音楽賞受賞作。脚の病気を苦に自殺しかけたバレリーナと老道化師カルベロとのふれあいを描いた作品で，当時すでに60歳を越えていたチャップリン自身の心境が投影されていると言われる。ほか出演にクレア・ブルーム，バスター・キートンなど。

り

【リール】

1. reel (英語) 釣竿に取り付けて釣り糸を巻きとるための器具。仕掛けや釣り針を遠くに投げ込んだり，かかった魚を逃がさず手元に引き寄せるために用いる。1:3とか1:25というようにギア比が表示されているが，これはハンドルを1回転すると糸巻き (スプール) が何回転するかを表した数値で，ギア比が小さければ巻き取る力は強く，大きければ巻き取る速さが速い。用途に応じて種類があり，両軸受型リールは大物狙いの磯釣りやトローリングに，片軸受型リールは中・小物の船釣りなどに，スピニングリールは投げ釣りに，クローズドフェースリールはルアー釣りに主に用いられる。また，フライフィッシングには主に専用のフライキャスティングリールが用いられる。
2. 春風渓介が手入れをしていたもの。「いいね，このリール，ホントよく滑るわ」(渓介; 第13話)
3. どれみが長谷川新吾クンに使い方を教わったもの。「じゃぁ，まず，ロッドとリールの扱い方だけど…」(長谷川; 第16話)

▶ロッド (p82)

【リストラ】

1. restructuring (英語) リストラクチュアリングの略。企業再構築，事業再構築などと訳される。これまでの経営方針を抜本的に見直して新たな経営戦略を策定し，事業全体を再構築すること。主に低成長期に入った近年の先進国で20世紀を通して高度に発達・膨張した巨大企業体にその試みが見られ，アメリカのゼネラル・エレクトリック (GE) の航空機事業部売却などの例が有名。関連会社の売却や特定事業部門の売却などのいわゆるM&A (合併吸収)，不採算部門からの撤退，事業所の統廃合，分社化などの手段がとられ，ダウンサイジング (規模縮小) の方策を伴うことも多い。日本では平成不況の本格化に伴い90年代に本格化したが，M&Aを好まない企業風土から経費節減のため人員削減や給与削減が行われることが多く，日本語の「リストラ」は首切りの意で用いられることもある。
2. 佐川ゆうじがMAHO堂を乗っ取られた3人に形容したもの。「よぅ，リストラ3人組!」「おまえらがいなくなってから，あの店大繁盛らしいじゃん」(佐川，太田; 第20話)

る

【ルカ・エンタープライズ】

1. アイドル瀬川おんぷの所属事務所。社長はマジョルカ。劇中ではおんぷの事務所の窓や看板に《RUKA》とあること以外特に明確な描写はなかったが，『AX BOOK 2』のマジョルカの項に《魔女ガエルになっても，ルカ・エンタープライズでガッチリ稼ぐ。》とあることからこう推測される。

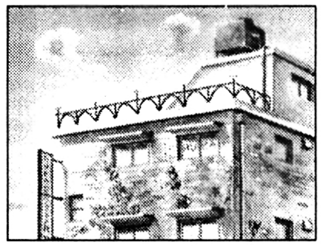


図3.28: おんぷの事務所

れ

【レツゴー三匹】

1. 松竹芸能所属の漫才トリオ。メンバーはレツゴーじゅん (本名は渡辺美二)・レツゴー正児 (直井正三)・レツゴー長作 (永原誠) の3人。1968年にじゅん・正児・一修の3人で結成され，70年一修のかわりに長作が参加，現在に至る。じゅんと正児は吉本新喜劇の，長作は松竹新喜劇の出身。70年NHKの第1回上方漫才コンテスト優秀敢闘賞受賞，73年にはOBC第8回上方漫才大賞受賞。テレビでも「笑アップ大作戦」などのバラエティー番組で活躍した。「3人そろって，レツゴー三匹で～す」というフレーズが有名。
2. 妹尾見習い看護婦が，SOSトリオがパクったと糾弾した漫才トリオ。「でもそのギャグ聞いたことある。あんたら，たまにテレビ出てるよね。えーと名前は…」「SOSトリオだ!」「Sの杉山豊和でーす」「Oの太田ゆたかでーす」「Sの南こうせつでございます」「どこがSなんだよ!」「さむぅ…，凍え死にそう…」「あんたら，絶対売れへんわ」「な，なんでだよ!?」「レツゴー三匹のパクりやないか! 関西のお笑いナメたらあかんで!」(妹尾見習い看護婦，芸人佐川，芸人杉山，芸人太田，芸人佐川，芸人太田・芸人・杉山，春風正看護婦，妹尾見習い看護婦，芸人佐川，妹尾見習い看護婦; 第28.5話)
3. 芸人佐川は「Sの南こうせつでございます」と言っているが，レツゴー三匹がつかみに使う有名なお約束ネタは「じゅんでーす」「長作でーす」「三波春夫でございます」で，SOSのギャグは「みなみ」にかけた二重ギャグなのである。…だからと言って笑えるとは限らないが。
4. このネタがあまりに有名なため，じゅんと長作の名は知っていても正児の名は知らない人が多い。

▶南こうせつ (p79)，SOSトリオ (p56)

ろ

【ロッキーのテーマ】

1. 映画のロッキー・シリーズ (「ロッキー」(1976年)，「ロッキー2」(78年)，「ロッキー3」(82年)，「ロッキー4 炎の友情」(85年)，「ロッキー5」(90年) の全5作) で使用された曲。原題は“Rocky's Theme”。作曲はビル・コンティ (Bill Conti)。主演のシルベスター・スタローンがアクション俳優として一躍人気

を得ることとなったこのシリーズはいずれもヒット作となり，76年の「ロッキー」はアカデミー賞作品賞受賞作。作品の人気にあわせてこの印象的なテーマ音楽も有名になった。日本でも映画ともどもひろく知られている。
2. ウィッチーはづきのピンチに突如現れた謎のトランペッターが吹くだろう，と誰もが期待した曲。「ちょっと待ったぁ!」「おーっと，リングサイドにトランペットを持った謎の青年が現れた!」「ウィッチーはづき，君はこんなことで屈するレスラーじゃないはずだ。オレのラッパを聴いて，元気を出すんだ!」「何や，変な展開になってきたけど，ここはやっぱロッキーのテーマかいな!」(謎のトランペッター，春風実況アナ，謎のトランペッター，妹尾解説員; 第28.5話)
3. が，「きらきら星」だった。

▶きらきら星(p59)

【六甲おろし】
1. プロ野球阪神タイガースの応援歌「阪神タイガースの歌」の通称。六甲颪。佐藤惣之助作詞，古関裕而作曲。歌詞は3番まである。1番の歌詞が「六甲颪に颯爽と…」で始まることからこの名で呼ばれる。1935年の球団創設の頃から存在したようだ（ただし，当時の球団名は「大阪タイガース」）。六甲颪とは，兵庫県にある六甲山から吹き下ろす風のこと。タイガースの本拠地・甲子園球場での試合では，タイガースファンによってたびたび斉唱される。
2. あいこがお風呂の中で大声で歌うのが趣味だという歌。「えーと，勉強は今一やねんけど，体育は大好きやで。趣味はお風呂の中で大声で六甲おろし歌うことやな」(あいこ; 第3話)
3. といってもあいこがトラキチだという描写はなかった。

【ロッド】
1. rod (英語) 釣りざおのこと。昔から使われてきた竹竿は布袋竹，真竹，矢竹などで作られる。1960年代から新素材が使われるようになり，カーボンファイバー（炭素繊維）によるカーボンロッド，グラスファイバー（ガラス繊維）によるグラスロッド，ボロンによるボロンロッドなどがある。特にカーボンロッドは柔軟性・耐久性に優れ，また軽量であることから現在では主流となった。しかし古くからの和竿も高級品として人気がある。ロッドには釣り方や魚種に応じて多様な種類があり，フライフィッシング用にも特別なものがある。
2. 春風渓介が試したかったもの。「だからさ，この新しいロッド，試してみないっと…」(渓介; 第1話)
3. 春風はるかにとってはただの竿。「ちょっと!? また新しい竿買ったの!?」(はるか; 第1話)
4. どれみが長谷川新吾クンに使い方を教わったもの。「じゃぁ，まず，ロッドとリールの扱い方だけど…」(長谷川; 第16話)

▶リール(p81)

【ロミオとジュリエット】
1. 戯曲。原題は “Romeo and Juliet” で，英語で書かれている。イギリスの劇作家シェークスピア (William Shakespeare 1564～1616) の初期の作品で，1595年ころの作。イタリアの名門モンタギュー家の子息ロミオとモンタギューの仇敵キャピュレット家の娘ジュリエットとの悲恋を描いた悲劇。巨匠シェークスピアの手になるヨーロッパ演劇の古典の一つとして評価は高い。またこれに基づくベルリオーズ作曲・チャイコフスキー作曲の管弦楽曲やプロコフィエフ作曲のバレエ音楽があるほか，たびたび映画化もされている。ロミオとジュリエットがバルコニーで逢い引きするシーンは特に有名。
2. 『愛のささやき』ヒロイン役オーディション最終審査で，玉木が選んだ題材。「おーっほっほっほっほ，おーっほっほぉ!」「!?」「ふ…『自分の好きな衣装でお気に入りのお芝居をする』。最終審査はあたしの『ロミオ・アーンド・ジュリエット』に決まりね!」(玉木，3人，玉木; 第35話)
3. が，ジュリエット玉木の演技はクサかった。「あー。ろみおさまがしんでしまってわー。わたしはいきるいみがー。ございませんわーぁー。あうー。あぁ～れぇ～えぇ～えぇ～」「くっさ…♨」「ここまでね…♨」(玉木，あいこ，はづき; 第35話)
4. 現在でもさかんに上演されており，古典とは言っても次々に新しい解釈がなされ様々な演出家が多様な演出を試みている。特に細田守の演出による「ひみつのアッコちゃん」(第3作; 98年) 第30話は，吉田玲子の脚本ともどもイカした逸品である。

わ

【若三杉】
1. 若三杉寿人。現在は間垣勝晴を名乗る元力士。本名は下山勝則。1953年青森県南津軽郡大鰐町に生まれる。小学校時代から相撲大会で活躍，中3のとき二子山部屋に入門。68年初土俵，69年幕下昇進。73年に入幕し，同時に四股名を朝ノ花から若三杉に改めた。78年には3場所通算40勝5敗の好成績をおさめて第56代横綱となり，2代目若乃花幹二を襲名（従って若三杉を名乗ったのは73年から78年まで）。北の湖と共に北若時代到来と期待されたが伸び悩み，時代を作れなかった。83年初場所途中で引退。幕内通算55場所で512勝234敗70休，優勝4回。殊勲賞2回，技能賞4回。引退後は年寄名間垣を襲名し，間垣部屋を興した。
2. 若三杉彰晃。元花籠部屋所属力士。本名杉山昇。1937年香川県丸亀市に生まれる。入門時から有望視され，55年初土俵。そのわずか3年後に入幕，十両も3場所で通過した。長身で体格は均整がとれ得意の上手投げは威力もあったが，脇があまりに甘く「バンザイの三杉」とも言われた。60年には14勝1敗で平幕優勝。67年引退。最高位は関脇で，未完の大器に終わった。幕内通算51場所で387勝374敗4休，優勝1回。殊勲賞2回，敢闘賞3回。四股名は杉山，国風，杉山，三杉磯，杉山，若三杉，大豪と変遷した。83年死去。
3. 奥山なおみに挨拶代わりのSOSコントを無視された時の太田の台詞より。「何が悪いのか全然わからん若三杉」(太田; 第14話)
4. 太田がどちらの力士を指して言っているのかは不明だが，どちらにしろ90年生まれの3人は知らないと思う。

▶SOSトリオ(p56)

検証？『美空市の所在地』

1. 概要

「へぇ…これが新しく住む街かぁ…」鉄棒に足をかけ，逆さから街を眺めていたあいこは，勢いを付けて何度か回ると逆立ちしながらこう言った。「関東のモンには負けへんで!」（第3話）



図3.29: 美空市（第1話）

この物語の舞台である美空市は，海に臨み，山に囲まれ，川が流れる美しい街である（図3.29）。しかし，その所在地については明らかではない。ここでは劇中の様々な事象を基に，美空市の所在地を考えていきたい。

2. 関東地方

まず第一に，冒頭のあいこの台詞より美空市は関東地方にあることが示された。他にも，恐らく美空市で育ったのであろうどれみやはづきが「関東モン」であるとしたあいこの台詞が第41話にあったので，これは間違いないであろう。

関東地方とは日本のほぼ中央に位置し，北部と西部には山地，中央部には関東平野が広がる面積32,413km^2の地域である。現在行政的には，東京都と神奈川，埼玉，群馬，栃木，茨城，千葉の6県がある。劇中ではどの都県かは明らかでないので，まずはここから考えていく。

3. 日没と海の関係

エンディングや劇中で何度か夕日が描かれているが，これが有力な手がかりとなる。エンディングをはじめ多くの場合夕日は海に沈んでいる（図3.30）。そこで関東地方の日没の方向について算出してみた。その結果，日没の方向は一年間で太陽が最も北側に沈む夏至の日で真西から北側に29.8度の方向，最も南側に沈む冬至の日で真西から南に28.9度の方向であることが分かった（【参考1】参照）。



図3.30: 夕日（ED）

図3.31は関東地方と同地方における夏至と冬至の日没の方向を表したものである。美空市が海に面していることは明らかなので，内陸部の埼玉，群馬，栃木の3県はまず除外される。そして日没方向の算出結果より，沿岸部が東を向いている茨城県も夕日が海に沈む風景は困難なため除外されるであろう。残りは，東京，千葉，神奈川の1都2県となる。

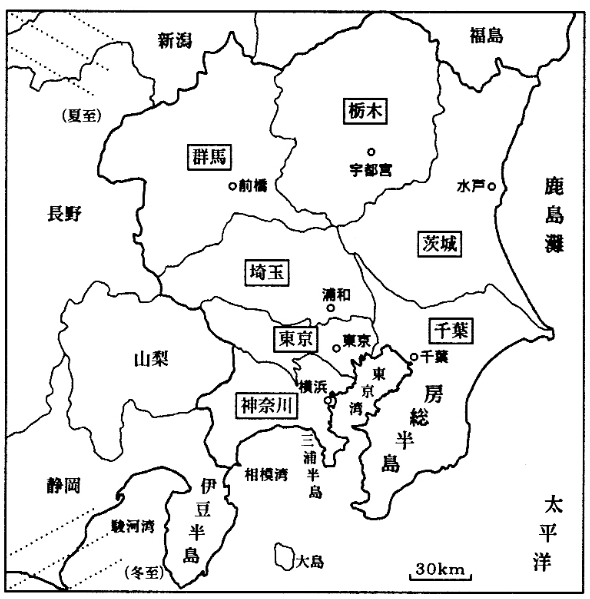


図3.31: 関東地方

4. 美空駅と東京駅の関係

第34話で大阪からあいこの母が美空市に来ている。このとき，あいこへの手紙にはこうあった。《仕事の関係で，東京発6時の新幹線で帰らなければならないけど，5時までは美空市にいられるの。学校が終わったら美空駅の改札口まで来て》。

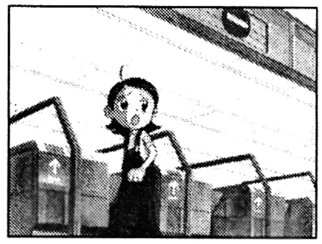


図3.32: 美空駅（第34話）

美空駅はあいこがMAHO堂から走っていける距離なので，美空市内またはごく近くにあると考えていいだろう。美空市と鉄道の関係はこれ以外にもぽっぷがおつかいに利用した鉄道（第9話）や，玉木と中山が鎌倉に行くとき利用した鉄道（第43話）がある。また，おんぷが父に思いをはせて鉄道を眺めているシーンが第49話にあるなど，いずれにせよ美空市に鉄道が通っているのは間違いなさそうである。

さて美空駅を通る鉄道は不明だが，駅の描写（図3.32）を見る限りJR東日本の駅と思われる。また東京発午後6時の新幹線は実在し，しかも新大阪行きの「のぞみ」であるので大阪へ帰るという目的にも合っている。では17時以降に発ち，18時には東京駅の東海道新幹線ホームに間に合うという条件が満たせる駅はどこまでなのであろうか。

以下では東京，千葉，神奈川の3つの都県毎に，これまでの考察を踏まえ，また別の事象も取り上げながら美空市の所在地について考えていく。

なお，ここで2つの仮定をしておく。1つは美空駅はJRの駅であるということである。券売機や改札口の描写だけでは確証はないので，仮定に留めておく。もう1つは，あいこの母はJRのみを乗り継いで東京駅へ向かった，ということである。つまり私鉄は考慮しない。私鉄を入れると議論が煩雑になる上，入れても結果に大きな違いは見えないと考えられるからである。

5. 東京都説

美空市が東京都にあると考えられる最大の根拠は，元祖MAHO堂の店員こうもり男とねずみ女が出したゴミの収集袋にある（第24話）。このごみ収集袋には《東京都推奨（都認0576）》とあり，描写もおおよそ正確である（図3.33）。他の住民が出したと思われるゴミも同様の収集袋で出されていた。



図3.33: ごみ収集袋（第24話）

が，これ以外特に東京都説を裏付ける根拠はなく，逆に否定される要素の方が多い。まず自然環境が全く異なる。東京都の臨海部は臨海副都心として埋立地の並ぶ地域であり，山に囲まれ海岸が広がる美空市とは似ても似つかない。加えてごみ収集袋は都が推奨しているのであって，使用しているからと言って必ずしもここが東京都だとは言えない。そもそも元祖MAHO堂は事業者のはずなので，事業系ゴミは家庭用ゴミに出してはならないはずである。この描写はいささか信頼に欠けると言わざるを得ない。

なお大島や小笠原諸島，伊豆諸島も東京都であり，自然環境は臨海副都心よりは美空市に近いが鉄道がないため難しい。

6. 千葉県説

美空市が千葉県にあるとすれば，日没方向の議論より房総半島の西側が適当である。すると次は美空駅と東京駅の条件を満たす地域はどこまでかが問題になる。調査の結果千葉方面は特急を使わないと「千葉」が最遠で，特急を使っても「蘇我」が最遠であることが分かった（図3.35，【参考2】参照）。千葉，蘇我周辺であれば確かに西側は東京湾なので海に沈む夕陽は可能になる。しかしこの付近の海岸線は完全に埋め立てで，蘇我以西の海岸沿いのうち海に陽が没しかつ埋め立てでない海岸は，稲毛海浜公園のある稲毛海岸くらいだと思われる（ただし人工海浜であるが）。

稲毛海岸に最も近いのは，JR京葉線「稲毛海岸」駅である。しかし京葉線で東京駅までの条件を満たすのは「新習志野」駅までで，同駅では間に合わない。少し内陸に入ったJR総武線「稲毛」駅は総武快速線が停まる駅で，総武本線1686M（17:03稲毛着・17:41東京着）を利用すれば間に合う。

よって千葉県説をとるならば，この付近の千葉市美浜区か稲毛区あたりが有力と思われる。ただし埋め立てでないにしろ劇中のような湾曲した海岸線ではなく，そもそも周囲を山に囲まれていない。ここが美空市であると言い切るのは難しいであろう。

7. 神奈川県説

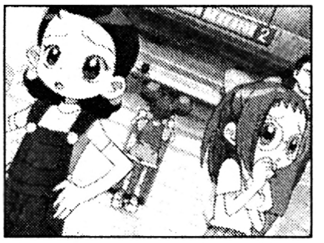


図3.34: 駅（第43話）

美空市が神奈川県にあるとする場合，考慮に入れなければならない事実が2つある。1つは第43話で玉木と中山が同県にある鎌倉と葉山に行ったことであり，そのときの台詞から葉山と鎌倉が同じ方向にあることが明らかなことである。しかもふたりは鉄道を使ったことが「関先生! 夕方玉木が背の低い友達らしい女の子と駅に入って行くのを見たって人が!」という小竹の台詞から分かる。もう1つはこのとき家出した玉木を3人が捜しているカットで，小さいがはっきりと2番線が《熱海 伊豆 逗子方面》とある駅が描かれていることである（図3.34)。玉木たちがこの駅を利用したのかは分からないが，3人はこの後美空小に行っているのでこの駅は美空市内あるいはごく近くにあると考えていいだろう。よって美空市にとって熱海，伊豆，逗子は同方向にあることが分かる。

さて日没方向の議論より川崎周辺から三浦半島東部は難しい。残る候補は三浦半島西部から相模湾沿岸である。しかし，神奈川方面で東京駅の条件を満たす駅は調査の結果「藤沢」駅が最遠であることが分かった（図3.35,【参考3】参照)。これはJR東海道線を使った場合で，横須賀線では「大船」駅までである。よって三浦半島西部には間に合わない。また大船から藤沢までは海岸から少々遠い上，逗子は東に，熱海・伊豆は西にあるので《熱海 伊豆 逗子方面》の描写と相反する。

したがって神奈川県では日没と鉄道の条件を同時に満たす地域は存在しないことが分かる。

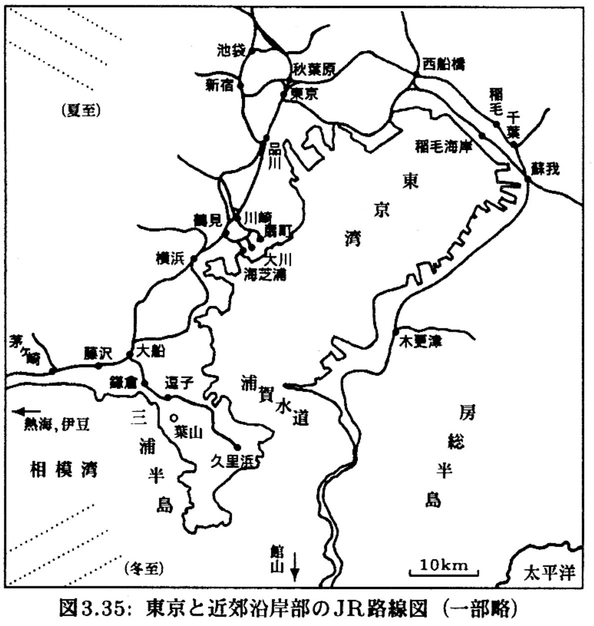


図3.35: 東京と近郊沿岸部のJR路線図（一部略）

8. 架空要素の導入 —結論に代えて

結果として全ての条件を満たす地域は存在しないことが分かった。それでは美空市は存在しないのであろうか。そう，存在しないのである。言うまでもないが美空市は劇中での架空の都市である。しかし逆に言えば劇中では存在している都市であるわけで，これが許されるのであれば他にも何か架空の要素を入れることが許されるはずである。

そこで美空市が存在できる，最小限の架空の要素を考える。日没方向を変えることは人間にとって不可能であり，山海などの自然環境を変えることは不可能でなくても莫大な労力と費用がかかる。これらを架空とするのは「最小限の架空の要素」からあまりにかけ離れてしまう。よってまず自然環境を優先して考える。

日没と海の関係から，やはり相模湾沿岸北東部，三浦半島西部，東京湾沿岸北東部，房総半島西部の4地域に絞られる。しかし海岸が埋め立てでなくかつ周囲に山があるという条件から東京湾沿岸北東部から木更津以北の房総半島西部が除外される。また，鎌倉以西の相模湾沿岸も山という点で除外される。残りは木更津以南の房総半島西部と，三浦半島西部（鎌倉も含める）である。

次に鉄道の条件を考える。劇中の描写を優先し，まず《熱海 伊豆 逗子方面》を考える。すると木更津以南の房総半島西部の駅で《熱海 伊豆 逗子方面》はあまりに不自然なことが分かる。「千葉東京方面」というのが妥当であろう。よって三浦半島西部に絞られた。

三浦半島西部で《熱海 伊豆 逗子方面》を実現するには逗子よりも南にある必要がある。また玉木と中山は鎌倉と葉山が同じ方向にあるとしていたので，葉山よりも南にある必要もある。

しかし，そこにはJRの鉄道は敷かれていない。そこで自然環境の変更と違って人間でも可能な「新たな鉄道の敷設」を架空の要素として入れたい。仮にJR「美空線」とでも命名しよう。それでも前述したように東京駅との関係において，大船が限界の横須賀線を利用する限り美空駅から東京駅までの条件を満たせない。美空線を直接東京駅まで結べば解決するかもしれないが，それでは「最小限の架空の要素」からは遠くなる。

そこで第2の架空の要素である，美空駅から東京駅までを結ぶ在来線を利用した新しい特急を考える。利用すべき在来線は横須賀線が適当であろう。つまり美空線は横須賀線の支線となる。特急の名前は特急「みそら」か「スーパーみそら」だろう。きっと三崎や油壺などの観光需要をあてこんだ特急で，美空線は直流電化区間だろうから特急「みそら」の車両は183系か185系，「スーパーみそら」は専用の新形式直流電車か251系あたりで，もしかしたら大船までは東海道線経由で特急「踊り子」や「スーパービュー踊り子」との併結運転かも知れない。それはともかく，これによって美空線が逗子から久里浜のいずれかの駅で横須賀線に合流し，美空線と横須賀線を通るこれらの特急が，17時ちょっと過ぎに美空駅を発ち17時45分前には東京駅に着くという平日上りダイヤが存在するだけで全ての条件が満たされるのである。

【参考1】日没方位の計算

シータも言っているように，日出や日没の方角は季節によって変化する。北半球の日没方位は夏至の日に西よりも最も北寄りになり，冬至の日に最も南寄りになる。従って，1年を通じてあり得る日没方位は，夏至の日の日没方位と冬至の日の日没方位の間である。ここでは関東地方1都6県の都県庁所在地について夏至・冬至の日の日没方位を計算する。以下，計算方法について東京の夏至の日の日没方位を例にして解説する。

まず，東京の位置は緯度ϕが北緯35度42分，経度λが東経139度46分である。「どれみ」の放映は1999年2月7日〜2000年1月30日で，この間の夏至は1999年6月22日のみ。必要な数値を数表（ここでは誠文堂新光社『天文年鑑1999年版』を参照した）から得ると，1999年6月22日の東京の日没時刻はJST（日本標準時・以下，断りなき場合は同様）19時0分で，この日のTD（力学時）0時の太陽の位置は視赤経6時0.7分，視赤緯23度26分で，この日のUTC（協定世界時・JST$-9^{\rm h}$）0時のグリニジ視恒星時Θ_0は17時58.94分である。以上の数値から，1999年6月22日19時0分の東京における太陽の方位を算出する。なお，実際の計算にはMicrosoft Excel 97を利用している。

まず，日没時刻の太陽の位置を計算する。夏至・冬至の頃の太陽の黄経上の動きは近似的に赤緯線と平行な等速直線運動とみなせるから，赤経の変化のみ考える。翌日（6月23日）TD 0時の太陽の視赤経を数表から得ると6時4.9分なので，日没時の太陽の視赤経α（時）は，

$$\begin{aligned}\alpha &= 6^{\rm h}0^{\rm m}.7 + (6^{\rm h}4^{\rm m}.9 - 6^{\rm h}0^{\rm m}.7)\frac{19^{\rm h}0^{\rm m}}{24^{\rm h}0^{\rm m}} \\ &= 6^{\rm h}.012 + (6^{\rm h}.082 - 6^{\rm h}.012)\frac{19}{24} \\ &= 6^{\rm h}.067\end{aligned}$$

である。視赤緯δは23度26分$=23.43$度を用いる。次に，日没時の太陽の時角を求める。UTC U時のグリニジ視恒星時はΘ_0にUの1.002738倍を加えたものだから，日没時のグリニジ視恒星時Θ（時）は，

$$\begin{aligned}\Theta &= \Theta_0 + 1.002738(19^{\rm h}0^{\rm m} - 9^{\rm h}) \\ &= 28^{\rm h}.01\end{aligned}$$

となる。天体の時角はその時刻のΘに観測地の経度λを加え天体の赤経αを減じて与えられるから，日没時の太陽の時角t（度）は，

$$\begin{aligned}t &= \Theta + \lambda - \alpha \\ &= 15(28^{\rm h}.01) + 139.77 - 15(6^{\rm h}.067) \\ &= 468.95\end{aligned}$$

である。北から東回り（時計回り）に0度から360度まで測るときの天体の方位をAとすると，

$$\cot A = \sin\delta\cot t - \tan\delta\cos\phi\,\mathrm{cosec}\,t$$

と表せる。ただし，$\cos t > 0$のときは$A = A + 180$としなければならないが，この場合は$\cos t \leq 0$なので必要ない。従って，求める太陽の方位A（度）は，

$$\begin{aligned}A &= \arctan\left(\frac{1}{\sin\delta\cot t - \tan\delta\cos\phi\,\mathrm{cosec}\,t}\right) \\ &= 299.8\end{aligned}$$

となる。真西より29.8度ほど北に寄った方位であることがわかる。

以下，同様に東京・千葉・水戸・宇都宮・前橋・浦和・横浜の各都県庁所在地について夏至（1999年6月22日）と冬至（1999年12月22日）の日没方位を算出する。なお，東京以外の各都市の日没時刻Tは，数表から得られる2つの係数a・bと東京の日没時刻T_0，各都市の緯度ϕと経度λ，東京の緯度ϕ_0と経度λ_0から以下のように求められる。

$$T = T_0 + a(\lambda_0 - \lambda) + b(\phi_0 - \phi)$$

なお，1999年6月22日の日没では$a=4.1$，$b=-3.2$，12月22日の日没では$a=3.9$，$b=3.0$である。結果は表3.1のようになる。

	ϕ	λ	夏至	冬至
東京	35.70	139.77	299.8	241.1
千葉	35.60	140.12	299.6	241.1
水戸	36.37	140.47	300.0	240.7
宇都宮	36.55	139.87	300.1	240.7
前橋	36.38	139.07	300.1	240.8
浦和	35.85	139.65	299.8	241.0
横浜	35.45	139.65	299.7	241.1

（単位はすべて度）

表3.1: 関東地方各地の日没方位

以上の結果から，各都市における日没方位の差は，夏至の場合で最大0.5度，冬至の場合で最大0.4度であり，丸めの誤差や，美空市の位置を検証するという本論の趣旨を鑑みれば，十分に無視できる値であると言える。従って，本論中では上表の東京における値を代表値として用いている。

【参考2】千葉方面の鉄道路線について

千葉方面で，1時間で東京駅新幹線ホームに到着できるJRの海沿いの駅を探す。参考資料として『JR時刻表1999年7月号』を利用する。問題の第34話「お母ちゃんに逢いたい!」は1999年9月26日放映なので，99年12月のJRダイヤ改正前にあたり，一部の臨時列車を除きダイヤは概ね同じである。また，劇中では小学校がある平日だったため，平日ダイヤを使用している。

まず東京駅まで1時間程度で到達できる駅があり，沿岸地域を走る千葉方面のJR路線区を列挙すると，①総武快速線（東京〜千葉），②総武緩行線（秋葉原〜千葉），③京葉線（東京〜蘇我），④外房線（千葉〜蘇我），⑤内房線（蘇我〜館山）の5線区がある。以下，各線区について条件を満たし東京から最遠の駅を検証する。

①総武快速線（東京〜千葉）

東京駅では地下の横須賀線直通総武快速線ホームに到着し，ここと新幹線との標準乗り換え時分は15分であるため，東京駅までの乗車時間は45分以内で，東京駅に17:45までに到着するというのが条件となる。この条件を満たす最も時刻の遅い列車は上総一ノ宮始発久里浜ゆきの1686Mで，17:00千葉発・17:41東京着である。従って，この線区は全区間について18:00東京発の新幹線に間に合うと言うことができ，最遠の駅は千葉駅である。

②総武緩行線（秋葉原〜千葉）

秋葉原で山手線外回りか京浜東北線に乗り換えて東京駅に向かうため，秋葉原駅の乗り換え時分5分，秋葉原〜東京乗車時間3分，東京駅新幹線ホームへの標準乗り換え時分10分の計16分を差し引いた44分が，総武緩行線で許される乗車時間の最大となる。この線区は通勤路線で便数が多いため時刻表には全便のダイヤが掲載されていないが，秋葉原駅までの標準到達時分を用いて検証すると，新検見川から秋葉原までが45分，幕張からが40分であり，この線区では幕張駅が最遠ということになる。

③京葉線（東京〜蘇我）

東京駅での京葉線と新幹線の標準乗り換え時分が20分であるため，東京駅までの乗車時間は40分以内で，東京駅に17:40までに到着する必要がある。蘇我始発東京ゆき快速1612Aが17:08新浦安発・17:24東京着で，新習志野始発東京ゆき1714Yが17:05新習志野発・17:40東京着であり，京葉線では新習志野駅が最遠である。

④外房線（千葉〜蘇我）

外房線の上り列車は千葉から総武本線に入って東京駅に向かうため，乗り換え等の条件は①と同じである。直通便では①と同じ1686Mが条件を満たし，千葉が最遠。千葉で乗り換えることを考慮しても，結局千葉から東京へ総武快速線を使用することになり，①と同じになる。したがって，外房線では①と同じ便によって千葉駅が最遠となる。特急を使う場合，外房線特急は東京駅の京葉線ホームに到着するため，③と同様17:40までに東京駅に到着する必要がある。これを満たすのは安房鴨川始発東京ゆきの3070M「特急わかしお20号」で，17:03蘇我発・17:34東京着であり，特急を使えば蘇我が最遠ということになる。

⑤内房線（蘇我〜館山）

普通列車の場合，特急の場合それぞれについて乗り換え時間等の条件は④と同じである。しかし，そもそも③と④の結果より，最終的に総武快速線を利用するこの経路では千葉が最遠であり，

また特急にも適当なものがなく，この線区では全区間が条件を満たせない。

以上の検証結果より，千葉方面は特急を使わないと千葉が最遠で，特急を使っても蘇我が最遠であるというのが結論となる。東京駅の構造がもう少しどうにかなっていればもっと遠くまで可能だったろうに…というのは千葉県民のやるせない思いではある。なお，私鉄線では京成電鉄本線・千葉線が候補となろうが，そもそも最遠でも千葉中央までしか路線がないため蘇我を越えることはできないし，千葉中央とて京成上野から1時間はかかるため，何ら結論に影響するものではない。

【参考3】神奈川方面の鉄道路線について

神奈川方面で，1時間で東京駅新幹線ホームに到着できるJRの海沿いの駅を探す。検証に使用したダイヤは【参考2】と同じである。

まず東京駅まで1時間程度で到達できる駅があり，沿岸地域を走る神奈川方面のJR路線区を列挙すると，①東海道線（東京～），②横須賀線（東京～久里浜），③京浜東北線・根岸線（東京～大船），④南武支線（尻手～浜川崎），⑤鶴見線（鶴見～扇町，海芝浦，大川）の5線区がある。以下，各線区について条件を満たし東京から最遠の駅を検証する。

①東海道線（東京～）

東京駅での東海道線から新幹線ホームへの標準乗り換え時分は10分であるため，東京駅までの乗車時間は50分以内で，17:50までに東京駅に到着しなければならない。普通列車では小田原始発東京ゆきの876Mが17:03戸塚発・17:41東京着で，また沼津始発東京ゆきの352Mが17:00藤沢発・17:51東京着。特急では伊豆急下田始発東京ゆき3032M「特急踊り子112号」が17:07大船発・17:44東京着である。従って，東京駅での乗り換えを少し頑張れば，東海道線で可能な最遠の駅は藤沢駅ということになる。

②横須賀線（東京～久里浜）

東京駅では地下の横須賀線直通総武快速線ホームに到着するため，条件は【参考2】の①の場合と同じで，17:45までに東京駅に着かねばならない。大船始発君津ゆき1612Sが17:00東戸塚発・17:40東京着で，久里浜始発成田ゆき1668Sが17:00大船発・17:48東京着であり，東京駅の乗り換えをナニワの土根性で頑張っても大船駅が最遠である。なお，この線区を通る特急には「成田エクスプレス」があるが，大船または横浜始発である上，適当な時刻の便がない。

③京浜東北線・根岸線（東京～大船）

東京駅での京浜東北線から新幹線ホームへの標準乗り換え時分は10分であるため，東京駅までの乗車時間は50分以内でなければならない。なお京浜東北線は昼間に区間快速運転を行っているが，この時間帯はすべて各駅停車である。この線区は通勤路線で便数が多いため時刻表には全便のダイヤが掲載されていないが，東京駅までの標準到達時分を用いて検証すると，山手から東京までが51分，石川町からが49分であり，乗り換えで少々急げば山手駅が最遠ということになる。また，横浜で東海道線か横須賀線に乗り換えることを考えると，東海道線では①で挙げた352Mが17:25横浜発，横須賀線では②で挙げた1668Sが17:18横浜発なので，25分以内で横浜駅に着き東海道線に乗り換えれば条件を満たせる。この場合，港南台から横浜までが24分，洋光台からが22分で，横浜駅の乗り換えにかかる時間や，そうそううまく接続する便があるとは限らないことを考えればせいぜい洋光台駅が最遠となる。さらに大船で東海道線か横須賀線に乗り換えることを考えると，東海道線では352Mが17:09大船発，横須賀線では1668Sが17:00大船発なので，9分で大船駅に着き東海道線に乗り換えれば条件を満たすことになる。この場合，港南台から大船が8分，本郷台からが5分で，同様に現実的にはせいぜい本郷台駅が可能と言える。従って，この線区では港南台駅以外は全線が可能と言えそうだ。

④南武支線（尻手～浜川崎）

尻手で南武線に乗り換え川崎へ行き，川崎から京浜東北線または東海道線で東京へ向かうことになる。尻手～川崎間は乗車時間3分，川崎から東京までは京浜東北線で26分なので，川崎駅の乗り換え時分を5分とすると26分以内で川崎に到着する必要がある。東海道線利用の場合は①で挙げた352Mが17:33川崎発なので，17:25までに川崎に到着する必要がある。どちらの経路でも，浜川崎始発尻手ゆき1719Hが17:19浜川崎発・17:25尻手着なので，南武線の接続が良ければ南武支線は全線が可能である。

⑤鶴見線（鶴見～扇町，海芝浦，大川）

鶴見で京浜東北線に乗り換えて東京へ向かうので，鶴見駅の乗り換え時分5分，鶴見～東京の乗車時間30分，東京駅新幹線ホームへの標準乗り換え時分10分の計45分を差し引き，17:15までに鶴見駅に到着せねばならない。海芝浦から鶴見の乗車時間が15分，大川からが12分なので，接続が良ければ海芝浦駅および大川駅までは可能である。扇町からの場合，浜川崎で南武支線1719H（17:19浜川崎発）に乗り換えて④の経路を利用することを考えれば，扇町から浜川崎までが4分なので，扇町駅も条件を満たす。よって，鶴見線は全線にわたって可能と言えよう。

以上の検証結果より，神奈川方面は藤沢が最遠というのが結論である。③④⑤あたりは実際のダイヤではなく乗車時間で検証しているため接続の善し悪しという不確定要因が残るものの，いずれにしろこれらの線区の駅では日没方位や景観の条件から美空市の位置として推断することは困難を極めるので，本論の結論にさしたる影響を及ぼすものではないだろう。なお，私鉄路線としては京浜急行本線・久里浜線・逗子線が候補となろうが，品川で山手線に乗り換える経路にしても，横浜で東海道線に乗り換える経路にしても，時間内に三浦半島西岸（新逗子駅および三崎口駅）に到着するのは不可能なので，やはり本論の結論に影響するものではない。

付録

凡例

1. 概要

1.1. 本誌の付録は，A.「STAFF DATA」，B.「CD DATA」，C.「SONG DATA」，D.「VIDEO DATA」の4つで構成される。

2. STAFF DATA

2.1. 付録A.「STAFF DATA」はテレビ朝日系で放映されたテレビアニメーション「おジャ魔女どれみ」のオープニング及びエンディングのスタッフクレジットを独自にまとめたものである。

2.2. 順に関する諸注意

(a) 役職の順はオープニング，エンディングそれぞれの順に従った。ただし，第16回のエンディングに「プロデューサー補」が追加され，他の役職の順番も変更されていたため，エンディングの役職は第16回以降のものに従っている。

(b) 同じ役職内での名前の順は初登場回の昇順とし，初登場回が同じ場合は実際のクレジット順で表記した。

2.3. 登場回に関する書注意

(a) [ ]は総則にある通り登場回を表す。ただし，その表記がないものは全回登場したことを表している。

2.4. その他，適宜注をつけて最後に示してある。詳しくはそちらを参照されたい。

3. CD DATA

3.1. 付録B.「CD DATA」はバンダイ・ミュージックエンタテインメント株式会社から発売された「おジャ魔女どれみ」関連CDの情報を独自にまとめたものである。

3.2. 各項は，ジャケット，タイトル，タイプ，規格番号，発売日，税込み価格，税抜き価格，発売元，及びトラック一覧で構成されている。トラック一覧はトラック番号（♯），時間（Time），トラック名（Track Title）で構成されている。

3.3. おジャ魔女CDくらぶ その3「おジャ魔女♡ハッピッピ♡ドラマシアター」に関しては，収録のCDドラマにおけるキャストとドラマスタッフも記した。

4. SONG DATA

4.1. 付録C.「SONG DATA」は「おジャ魔女どれみ」関連CDに収録されている歌の情報を独自にまとめたものである。

4.2. 各項は，曲名，唄，作詞・作曲など，と以下の3つで構成されている。

(a) ㊗はその歌が最初に収録されたCDの規格番号とトラック名を示している。

(b) ♪はその歌のイントロの歌詞を示している。

(c) ㊣はその歌が挿入歌として使われた話数を示している。なお，一度も使われてない場合，「–」と示している。

5. VIDEO DATA

5.1. 付録D.「VIDEO DATA」は東映株式会社から発売された「おジャ魔女どれみ」関連ビデオの情報を独自にまとめたものである。

5.2. 各項は，ジャケット，タイトル，タイプ，規格番号，発売日，税込み価格，税抜き価格，発売元などで構成されている。

6. 注意

6.1. これらはどうかんやまきかくが独自にまとめたもので，情報の正当性を何ら保証するものではない。また，どうかんやまきかくは発売元の企業・著作権者等と一切関係するものでもない。まあ，あんまりアテにしないでね。こっちは責任とんないし。

付録A. STAFF DATA

プロデューサー

株柳真司	(ABC)	
堀内 孝	(ASATSU-DK)	[1-26]
荒井加奈子	(ASATSU-DK)	[27-51]
関 弘美		
蛭田成一		[1-26]

原 作
東堂いづみ

連 載
講談社 なかよし
漫画・たかなし♡しずえ
「たのしい幼稚園」
「おともだち」
ほか

シリーズ構成
山田隆司

音 楽
奥 慶一

主題歌
「おジャ魔女カーニバル!!」
作詞：大森祥子
作曲：池 毅
編曲：坂本昌之
うた：MAHO堂

「きっと明日は」
作詞：大森祥子
作曲：茅原万起
編曲：川崎真弘
うた：しゅうさえこ

バンダイ・ミュージック

製作担当
風間厚徳

美術デザイン
ゆきゆきえ
行 信三

色彩設計
辻田邦夫

キャラクターコンセプトデザイン
馬越嘉彦

シリーズディレクター
佐藤順一
五十嵐卓哉

制作協力

東映	[15-51]

制 作

ABC	
ASATSU-DK	
東映	[1-14]
東映アニメーション	[15-51]

脚 本

栗山 緑	[1-4,9,13,18,23-24,26,34-35,41,43,47,51]
影山由美	[5,10,15,25,33,39,45,49]
大和屋 暁	[6,12,17,30,36,40,48]
吉田玲子	[7,11,16,20,22,27,32]
吉村元希	[8,14,21,28,31,44]
前川 淳	[19,29,37,42,50]
喜多川夏音	[38,46]

声の出演

春風どれみ	千葉千恵巳	
藤原はづき	秋谷智子	
マジョリカ	長沢直美	[1-10,12-42,45-47,50-51]
ララ	高村めぐみ	[1-10,12-41,45-47,50-51]
春風渓介	望月祐多	[1-2,5,7,13,16,22-23,25,46-47]
春風はるか	詩乃優花	[1-2,5,7,9-10,13,15-16,20-23,25,28,34,36-37,39-40,45,47,50-51]
春風ぽっぷ	石毛佐和	[1-2,5,7-10,12-13,15-16,19-26,28-29,31,33-37,39-43,45,47,49-51]
	詩乃優花(代役)	[27]
関先生	葛城七穂	[1,3,10-11,13,15,17-18,29,32-36,38,41-43,48,51]
ゆき先生	今井由香	[1-2,6,10-11,13,15,18,26,29]
小竹哲也	横手久美子	[1,3,5,9-10,13,15,17,21-22,29-33,35,38-39,42-44,46,48-51]
杉山豊和	木内レイコ	[1,3,11,14,17,20-22,27,29-30,32,34-35,44,48-50]
五十嵐先輩	サエキトモ	[1,12]
真樹	幸山奈央	[1,33]
先生	竹本英史	[1,12]
はづきのパパ	乃村健次	[2,27,47]
はづきのママ	前田悠衣	[2,10,47,50-51]
ばあや(1	斉藤祐子	[2,22,26,28,33,46,50]
バイオリンの先生	赤井田良彦	[2]
医者	柴山由崇	[2]
妹尾あいこ	松岡由貴	[3-51]
太田ゆたか	藤田記子	[3,11,14,20-22,27,29-30,32,35,44,49-50]
佐川ゆうじ	ふじたれいこ(2	[3,10-11,14,20-22,27,29-30,32-33,35,44,48-50]
玉木麗香	永野 愛	[3,6,10,15,17,20-21,28-29,31-33,35,39,43,48,50-51]
木村たかお	山崎みちる	[3,11,33,38,42,46]
杉山の母	宮下富美子	[3]
魚屋の奥さん	星野園美	[3]
あいこの父	津久井教生	[3,10,22-23,34,46-47,50-51]
パル	丹羽紫保里	[5]
客	山崎 剛	[5]
	塩味 薫	[5]
	竹本英史	[24]
	宮下富美子	[24]
	金光宣明	[24]
	柴山由崇	[25]
問屋魔女デラ	桜井ちひろ	[5,8,10,12,18,20,22,25-26,32,40,42,46,50]
谷山将太	松本美和	[6,41]
横川信子	堂ノ脇恭子	[6,30,50]
骨隊長	小嶋一成	[6]
隊長	赤井田良彦	[6]
レレ	水樹 洵	[7-9,11-12,16-18,20,23,26,29,36-37,40,47,51]
ミミ	斉藤祐子	[7-9,12,16,20,23,29,34,36-37,40,47,51]
試験官魔女モタ	川崎ユウコ(3	[7-8,13,18,22-23,31,36,40,46,50]
試験官魔女モタモタ	YOKO	[7-8,13,18,22-23,31,36,40,46,50]
ドド	徳光由香	[8-9,11-12,14-16,20-21,23,25,27,29,32,36-37,39-40,47,51]
ほうき魔女	尾小平志津香	[8]
アベック	宮下道央	[8]
	壱智村小真	[8]
島倉かおり	満腸しほみ	[10,17,30,33,39,42,44,50-51]
飯田かなえ	角谷綾香	[10,14,26]
岡田ななこ	梶川さほり	[10,14,18,50]
校長	金光宣明	[10,17,29,33]
教頭	赤井田良彦	[10,17,29,33,41-42]
小泉まりな	壱智村小真	[11,14,32,50]
まりなの母	宮下富美子	[11]
芝山だいち	奥島和美	[12]
みさき(4	天神有海	[12,15,25,29,45]
部員	加藤春菜	[12]
	山崎みちる	[12]
審判	名取 仁	[12]
八太郎	家富ヨウジ	[13,40]
スルメ子	飛松加奈子	[13,40]
タコ長老	乃村健次	[13]
試験官	ゆみたかよ	[13,36,40]
おばけ	植岡由紀子	[13]
奥山なおみ	松本美和	[14,43]
きみたか	竹内順子	[15,25,38,50]
かなこ先生	飛松加奈子	[15,24-25]
ふみお	宮下富美子	[15,25,45]
たつや	松本美和	[15,25,45]
かずひろ	斉藤祐子	[15,25,45]
よしひこ	水樹 洵	[15,25,45]
長谷川新吾	松本美和	[16]
長谷川の父	山口 健	[16]
矢田まさる	宮原永海	[17,20-21,23,30,32,50-51]
矢田の父	平田広明	[17]
マジョリン	木内レイコ	[18,26,37,46,51]
獣医	金光宣明	[18]
花	竹本英史	[18]
桜の木	堂ノ脇恭子	[18]
パパイヤ兄弟アニキ	高橋広樹	[19]
パパイヤ兄弟オトウト	宮田始典	[19]
魔女界の女王様	?	[19,26-27,37,45-46,50-51]
マジョルカ	荘 真由美	[20-22,24,35,37,39,46-48,50-51]
ヘヘ	小西寛子	[20-24,37,47-48]
こうもり男	宮田始典	[20-22,24]
ねずみ女	壱智村小真	[20-22,24]
柳田すすむ	星野園美	[21,31]
玉木のママ	宮下富美子	[21,43]
柳田のママ	前田梨衣(5	[21]
あいこの母	平辻朝子	[23,34,47]
門番	池田千草	[23]
子分	横手久美子	[25]
くみこ(6	丹羽紫保里	[25,29]
ともみ(7	梶川さほり	[25,29]
かなえの父	金光宣明	[26]
執事	竹本英史	[26]
骨董屋店主	平田広明	[26]
オヤジーデ	松尾銀三	[27-29,31,33,35,37,41,44,48]
俳優	宮下道央	[27]
AD	小栗雄介	[27]
玉木のパパ(8	佐藤 太	[28,35,43]
柏木豊	水樹 洵	[28]
女生徒	茉雪千鶴	[28]
	加藤春菜	[28]
山本刑事	高橋広樹	[29]
山内信秋	家富ヨウジ	[30]
少女	前田悠衣	[30]
少女の父親	山賀教弘	[30]
信秋の祖父	丸山詠二	[30]
花田志乃	池田千草	[31]
宮本まさはる	加藤春菜	[32,50]
天野こうた	サエキトモ	[32,42]
浜田いとこ	塩味 薫	[33]
男子	宮下富美子	[33]
男	赤井田良彦	[34]
瀬川おんぷ	宍戸留美	[35-43,45,47-51]
おんぷのママ(9	安達まり	[35,42,45,49-51]
スタッフ	柴山由崇	[35]
うさぎ	宮下道央	[36]
カメ	竹本英史	[36]
マジョ松	尾小平志津香	[37,40]
マジョ竹	サエキトモ	[37,40]
マジョ梅	橘 U子	[37,40]
林りょうた	水樹 洵	[38,42]
りょうたの母	茉雪千鶴	[38]

付録

ガザマドン　木村雅史　[38]
樋口秀三　奥島和美　[39]
樋口まき　幸山奈央　[39]
沢田みか　水樹　洵　[39]
ヘンな生き物　小嶋一成　[40]
　竹本英史　[40]
ひげ親父　木村雅史　[40]
将太の母　甲斐田ゆき　[41]
立会人　小嶋一成　[41]
橋本真司　山口眞弓　[42]
暗黒大魔人　柴山由崇　[42]
中山しおり　ゆみたかよ　[43]
しおりの父　金光宣明　[43]
工藤むつみ　茉雪千鶴　[44]
キャンディ伊藤　松本美和　[44]
むつみの兄　サエキトモ　[44]
アナウンサー　竹本英史　[44]
サンタクロース　丸山詠二　[45]
　木村雅史　[45]
　金光宣明　[45]
　柴山由崇　[45]
渡部みちあき　山崎　剛　[46]
渡部の父　上別府仁資　[46]
中田ごうじ　宮下道央　[48]
おんぷのファン　奥島和美　[48]
　山崎みちる　[48]
　小栗雄介　[48]
　高橋直純　[48]
　宮田幸季　[48]
森野かれん　岬　風右子　[49]
車掌　竹本英史　[49]
アナウンス　小嶋一成　[49]
おんぷのパパ　山賀教弘　[49]

協力　東映アカデミー

原　画
河野宏之　[1,5,8,14,21,28,34,41,49]
永島英樹　[1,8,14,21,28,34,41,49]
藤井孝博　[1,4,8,14,21,28,34,41,49]
生田目康裕　[1,3-4,6,11,19,25,33,39,47]
川村敏江　[1,5,9,15,20,24,32,38,43,48]
馬越嘉彦　[1,30,45]
青山　充　[2,7,10,12,16,22,27,31,36,40,44,50]
小島　彰　[3,6,11,19,25,33,39,47]
佐野陽子　[3,6,11,19,25,33,39,47]
星川信芳　[3,5,9,15,18,20,24,29,35,38,42,45,48]
野田春彦　[3-4,9-10,17-18,20,23,26,29-30,32,37,46]
上杉遵史　[4,10,18]
渡辺朋子　[4]
田中政広　[4]
岩本久美子　[4,26,32]
深町明良　[4]
志田直俊　[4,6,13,18,24,29,35,37,43,51]
矢ヶ崎美恵　[4,13,17-18,23,30,37,45,51]
高橋任治　[4,6,9,13,15,18,20,23,26,29,32,38,42,46,51]
中嶋忠二　[4,10,32]
輿水隆之　[5,9,15,20,24,32,38,43,48]
冨田与四一　[5,10,17,23,30,38,45]
永澤謙一　[5,13,17,23,32,42,46,51]
吉川美貴　[5]
加野　晃　[6,46]
増田信博　[6,43,48]
宮崎なぎさ　[6]
松田千織　[6,13,17-18,20,23,26,29,32,37,42,46,51]
稲上　晃　[6,18,23,51]
桑原幹根　[9,11,15,19-20,30,35,37,43,45]
伊藤尚往　[9]
飯島秀一　[13,17,20,23,26,32,38,42,46,48]
横田　馨　[15,19,23,30,37,43,45,51]
伊本龍守　[25]
内藤　晃　[25,33,39,47]
根岸良充　[25]
青嶋克己　[26,37]
石崎寿夫　[30,45]
藤田靖弘　[30,37,43,45]
上田明美　[32,37,42,46,51]
山室津弥子　[32,37,42,46]
伊東伸高　[35,45]
浜野裕治　[46]
加藤裕子　[46]
清水智子　[46]
飯田　悟　[47]
佐藤道雄　[47]
時矢義則　[48]
和泉絹子　[48]
木下裕孝　[51]

動　画
EEI-TOEI
かぐら　[1]

背　景
田中里緑
塩崎広光　[1]
芳野満雄　[1]
佐藤美幸　[1]
EEI-TOEI

デジタル彩色
EEI-TOEI
かぐら　[1]

色指定
衣笠一雄

デジタル合成
三晃プロダクション
広川二三男

オフライン編集
福光伸一　[1-10]
麻生芳弘　[11-51]

録　音
川崎公敬

音響効果
石野貴久

選　曲
水野さやか

記　録
沢井尚子

録音スタジオ
タバック

オンライン編集
TOVIC

演出助手
長峯達也　[1,3,6,8-11,14,16,19,21,23,26,28,30,33-34,37,40,43,45,48,50]
祖谷　悟　[1-17,19-20,22,24-26,28,30-51]
ひろしまひでき　[4,7,12,18,22,27,29,32,39,41,44,47,49]
浅見松雄　[15,20,23,25,27,29,31,35,38,42,46]
岩井隆央　[51]

製作進行
柳　義明　[1,3,5,7,9,11,13,15,17,19,23,25,28,30,33,35,37,39,41,43,45,47,51]
坂井和男　[2,4,6,8,10,12,14,16,18,20-22,24,26-27,29,31-32,34,36,38,40,42,44,48,50]
鈴木祥夫　[18,21]
森田哲庸　[46,49]

美術進行
高久　博

仕上進行
黒田　進

演技事務
小浜　匠

プロデューサー補
有原美千代　[15-44]
木戸　睦　[45-51]

挿入曲
「おジャ魔女CDくらぶ」より
（バンダイ・ミュージック）

美　術
ゆきゆきえ
行　信三　[1,13,17,45]
下川忠海　[2,5,8,11,15,19,22,25,28,31,34,37,41,44,48,51]
いでともこ　[3,6,9,12,16,20,23,26,29,32,36,39,42,46,49]
塩崎広光　[4,7,10,14,18,21,24,27,30,33,35,38,40,43,47,50]

作画監督
河野宏之　[1,8,14,21,28,34,41,49]
青山　充　[2,7,12,16,22,27,31,36,40,44,50]
生田目康裕　[3,11,19,25,33,39,47]
なかじまちゅうじ　[4,10,17,23,26,37,46]
川村敏江　[5,9,15,20,24,32,38,43,48]
稲上　晃　[6,13,18,29,35,42,51]
馬越嘉彦　[30,45]

演　出
佐藤順一　[1-2,13,17,24,35,51]
広嶋秀樹(10　[2,9,15,20,25,36]
矢部秋則　[3,8,14,21,27,32,37,43,48]
五十嵐卓哉　[4,9,15,20,25,30,36,45]
岩井隆央　[5,10,13,17,24,31,35,42]
岡　佳広　[6,11,16,23,29,34,41,47]
山吉康夫　[7,12,18,22,28,33,38,44,50]
伊藤尚往　[19,26,40,46]
山内重保　[39,49]

注

1　《ばあや》は［46,50］では《ばぁや》と表記された。
2　《ふじたれいこ》は［3,10-11,14］では《藤田玲子》と表記された。
3　《川崎ユウコ》は［7-8］では《川崎裕子》と表記された。
4　《みさき》は［12］では《芝山みさき》と表記された。
5　《前田梨衣》は《前田悠衣》の誤植の可能性がある。
6　［25］の《女子》は《くみこ》と同一であると判断した。
7　［25］の《女子》は《ともみ》と同一であると判断した。
8　《玉木のパパ》は［28,35］では《玉木の父》と表記された。
9　《おんぷのママ》は［35］では《おんぷママ》と表記された。
10　《広嶋秀樹》は［2,9］では《廣嶋秀樹》と表記された。

付録B. CD DATA



ABC・ANB系テレビアニメ
「おジャ魔女どれみ」主題歌

CD SINGLE　APDM-5059
1999年3月5日　¥1,000 (¥952)
発売：株式会社バンダイ・ミュージック・エンタテインメント

♯	Time	Track Title
1	3:38	おジャ魔女カーニバル!!
2	3:34	きっと明日は
3	3:37	おジャ魔女カーニバル!! (オリジナル・カラオケ)
4	3:30	きっと明日は (オリジナル・カラオケ)



おジャ魔女CDくらぶ その1
おジャ魔女ヴォーカルコレクション!!

CD ALBUM　APCM-5127
1999年4月21日　¥3,000 (¥2,857)
発売：株式会社バンダイ・ミュージック・エンタテインメント

♯	Time	Track Title
1	1:05	おジャ魔女トーク その1
2	3:35	おジャ魔女カーニバル!!
3	3:24	ピリカピリ♡ラッキー!
4	4:35	ドキドキの魔法
5	4:33	デラ's Song
6	1:34	おジャ魔女トーク その2
7	4:17	日曜日は魔法のコ
8	3:42	魔法でチョイ^2
9	4:09	小鳥の気持ち
10	4:03	ゴキゲンよろしく!!
11	3:24	10秒かぞえて
12	1:21	おジャ魔女トーク その3
13	3:53	女のコは勉強中!
14	3:30	きっと明日は



おジャ魔女CDくらぶ その2
おジャ魔女BGMコレクション!!

CD ALBUM　APCM-5134
1999年7月21日　¥3,000 (¥2,857)
発売：株式会社バンダイ・ミュージック・エンタテインメント

♯	Time	Track Title
1	1:55	オープニング「おジャ魔女カーニバル!!」(TVサイズ)
2	3:09	今日も元気にいってみよう!
3	4:45	プリチー・ウィッチー・どれみッチー
4	2:14	おジャ魔に大活躍!
5	5:41	プリチー・ウィッチー・はづきッチー
6	4:59	ステキなMAHO堂
7	5:56	プリチー・ウィッチー・あいこッチー
8	3:38	3年2組の仲間たち
9	3:07	あやしい予感
10	4:14	ワクワク好奇心 ドキドキ大冒険
11	4:32	ささいなロゲンカ
12	5:17	夢みる女の子
13	6:01	世界いち不幸な美少女?
14	4:33	神秘の魔女界
15	4:27	力をあわせて!
16	3:24	ハッピー ラッキー みんなにと～どけ!
17	1:41	エンディング「きっと明日は」(TVサイズ)



おジャ魔女CDくらぶ その3
おジャ魔女♡ハッピッピ♡ドラマシアター!!

CD ALBUM　APCM-5144
1999年8月21日　¥3,000 (¥2,857)
発売：株式会社バンダイ・ミュージック・エンタテインメント

♯	Time	Track Title
1	0:56	プロローグ
2	1:30	オープニングテーマ おジャ魔女カーニバル!! (TVサイズ)
3	5:45	藤原家 ～お食事にする? お風呂にする?～
4	8:38	どれみの看護婦篇
5	1:52	はづきの部屋 ～インターミッション～
6	13:47	はづきの女子プロレスラー篇
7	0:31	はづきの部屋 ～インターミッション～
8	3:51	おジャ魔女3分クッキング!!
9	8:41	あいこの刑事篇
10	1:41	エピローグ～ エンディングテーマ きっと明日は (TVサイズ)

CAST

春風どれみ	千葉千恵巳
藤原はづき	秋谷智子
妹尾あいこ	松岡由貴
マジョリカ	長沢直美
ララ	高村めぐみ
春風ぽっぷ	石毛佐和
春風渓介	望月祐多
春風はるか	詩乃優花
はづきのパパ	乃村健次
はづきのママ	前田悠衣
ドド	徳光由香
レレ	水樹 洵
ミミ/はづきの婆や	斉藤祐子
問屋魔女デラ	桜井ちひろ
試験官魔女モタ	川崎ユウコ
試験官魔女モタモタ	YOKO
関先生	葛城七穂
ゆき先生	今井由香
小竹哲也	横手久美子
佐川ゆうじ	ふじたれいこ
太田ゆたか	藤田記子
杉山豊和	木内レイコ
矢田まさる	宮原永海
小泉まりな	壱智村小真
玉木麗香	永野 愛
奥山なおみ	松本美和
横川信子	堂ノ脇恭子
飯田かなえ	角谷綾香
島倉かおり	満脇しほみ

DRAMA STAFF

原作
　東堂いづみ
脚本
　山田隆司
音楽
　奥 慶一
録音
　川崎公敬
録音助手
　渡部絵里奈
音響効果
　石野貴久
選曲
　水野さやか
記録
　沢井尚子
演出
　五十嵐卓哉
プロデューサー
　株柳真司 (ABC)
　荒井加奈子 (ASATSU-DK)
　関 弘美 (東映アニメーション)
プロデューサー補
　有原美千代 (東映アニメーション)
演技事務
　小浜 匠 (東映アニメーション)

CDドラマ製作
　東映アニメーション株式会社



おジャ魔女CDくらぶ その4
おジャ魔女ソロヴォーカルコレクション 春風どれみ篇

CD MAXI-SINGLE　APCD-8010
1999年10月21日　¥1,260 (¥1,200)
発売：株式会社バンダイ・ミュージック・エンタテインメント

♯	Time	Track Title
1	0:17	オープニングナレーション
2	3:36	乙女は急に止まれない
3	4:37	きっとちゃんと女の子
4	3:36	乙女は急に止まれない (オリジナル・カラオケ)
5	4:37	きっとちゃんと女の子 (オリジナル・カラオケ)
6	0:12	エンディングナレーション
7	3:35	[BONUS TRACK] おジャ魔女カーニバル!! (メロ入りオリジナル・カラオケ)



おジャ魔女CDくらぶ その5
おジャ魔女ソロヴォーカルコレクション 藤原はづき篇

CD MAXI-SINGLE　APCD-8011
1999年10月21日　¥1,260(¥1,200)
発売：株式会社バンダイ・ミュージック・エンタテインメント

♯	Time	Track Title
1	0:18	オープニングナレーション
2	4:42	月夜の魔法
3	4:01	明日の私
4	4:43	月夜の魔法 (オリジナル・カラオケ)
5	4:01	明日の私 (オリジナル・カラオケ)
6	0:17	エンディングナレーション
7	3:30	[BONUS TRACK] きっと明日は (メロ入りオリジナル・カラオケ)



おジャ魔女CDくらぶ その6
おジャ魔女ソロヴォーカルコレクション 妹尾あいこ篇

CD MAXI-SINGLE　APCD-8012
1999年10月21日　¥1,260(¥1,200)
発売：株式会社バンダイ・ミュージック・エンタテインメント

♯	Time	Track Title
1	0:13	オープニングナレーション
2	2:39	あいこにおまかせ!
3	3:41	パーッといこう!!
4	2:39	あいこにおまかせ! (オリジナル・カラオケ)
5	3:41	パーッといこう!! (オリジナル・カラオケ)
6	0:20	エンディングナレーション
7	3:41	[BONUS TRACK] 魔法でチョイ^2 (オリジナル・カラオケ)



おジャ魔女CDくらぶ その7
MAHO堂のおジャ魔女クリスマスカーニバル!!

CD ALBUM　APCM-5150
1999年11月21日　¥2,079(¥1,980)
発売：株式会社バンダイ・ミュージック・エンタテインメント

♯	Time	Track Title
1	4:02	おジャ魔女カーニバル!!
2	4:01	ジングル・ベル
3	4:04	サンタが街にやってくる
4	5:01	赤鼻のトナカイ
5	4:26	サンタクロースがやってくる
6	5:13	きよしこの夜 (賛美歌109番)

付録C. SONG DATA

おジャ魔女カーニバル!! (唄：MAHO堂)
作詞：大森祥子／作曲：池毅／編曲：坂本昌之
(収)APDM-5059 ♯1
♪どっきりどっきりDON DON!!
(話)33,49

きっと明日は (唄：しゅうさえこ)
作詞：大森祥子／作曲：茅原万起／編曲：川崎真弘
(収)APDM-5059 ♯2
♪明日は新しいわたしに出逢いたい
(話)18

ピリカピリ♡ラッキー! (唄：五條真由美)
作詞：柚木美祐／作曲：松原みき／編曲：坂本昌之
(収)APCM-5127 ♯3
♪ある時はプリンセス
(話)4,38

ドキドキの魔法 (唄：松浦有希)
作詞・作曲・編曲：松浦有希
(収)APCM-5127 ♯4
♪きっとうまくいくわ 明日からは
(話)16,20,23,26,34,41

デラ's Song (唄：桜井ちひろ)
作詞：柚木美祐／作曲：松原みき／編曲：矢野立美
(収)APCM-5127 ♯5
♪とても素敵なとてもお得なお知らせよ
(話)–

日曜日は魔法のコ (唄：MAHO堂)
作詞：大森祥子／作曲：浅田直／編曲：坂本昌之
(収)APCM-5127 ♯7
♪魔法がね わたしたち使えるの
(話)37

魔法でチョイ^2 (唄：五條真由美)
作詞・作曲：松原みき／編曲：MT-DRIVE
(収)APCM-5127 ♯8
♪"ピリカ ピリララ" と魔法でチョイ^2
(話)1-4,6-10,14,17,21-22,24-25,27,29,32,35-37,40,42-44,46-48

小鳥の気持ち (唄：松平直子)
作詞：大森祥子／作曲：阿部真／編曲：信田かずお
(収)APCM-5127 ♯9
♪ふわり ふわり飛ぶ 青い空の上
(話)11,13,28,31,38

ゴキゲンよろしく!! (唄：ザ・しばたごろー)
作詞：青柳美奈子／作曲：浅田直／編曲：MT-DRIVE
(収)APCM-5127 ♯10
♪イカシタあのコは Ha Ha Han Han Han
(話)–

10秒かぞえて (唄：五條真由美)
作詞：柚木美祐／作曲・編曲：坂本昌之
(収)APCM-5127 ♯11
♪でも奇跡は起きるよ いつでもどこでもみんなに
(話)5,12,15,19

女のコは勉強中! (唄：MAHO堂)
作詞：柚木美祐／作曲：池毅／編曲：坂本昌之
(収)APCM-5127 ♯13
♪女のコは忙しい いつも時間が足りない
(話)50

乙女は急に止まれない (唄：千葉千恵巳)
作詞：大森祥子／作曲・編曲：奥慶一
(収)APCD-8010 ♯2
(♪)くじけない へこまない それがやっぱキホンさ
(話)–

きっとちゃんと女のコ (唄：千葉千恵巳)
作詞：大森祥子／作曲・編曲：奥慶一
(収)APCD-8010 ♯3
(♪)夢ならいっぱいあるけど
(話)39

月夜の魔法 (唄：秋谷智子)
作詞：大森祥子／作曲・編曲：奥慶一
(収)APCD-8011 ♯2
(♪)月が笑ってる 夜は出かけるの
(話)–

明日の私 (唄：秋谷智子)
作詞：大森祥子／作曲・編曲：奥慶一
(収)APCD-8011 ♯3
(♪)眠る前に覗く鏡
(話)–

あいこにおまかせ! (唄：松岡由貴)
作詞：大森祥子／作曲・編曲：奥慶一
(収)APCD-8012 ♯2
(♪)いやや そんなにシンドイ顔せんといて
(話)–

パーッと行こう!! (唄：松岡由貴)
作詞：大森祥子／作曲・編曲：奥慶一
(収)APCD-8012 ♯3
(♪)関東のモンには 負けへん絶対
(話)–

ジングル・ベル (唄：MAHO堂)
訳詞：音羽たかし／作詞・作曲：Pierpont／編曲：坂本昌之
(収)APCM-5150 ♯2
(♪)ジングル・ベル ジングル・ベル すずがなる
(話)45

サンタが街にやってくる (唄：MAHO堂)
訳詞：カンベ・タカオ／作詞・作曲：J.F.Coots-H.Gillespie／編曲：坂本昌之
(収)APCM-5150 ♯3
(♪)さあ あなたから メリー・クリスマス
(話)45

赤鼻のトナカイ (唄：MAHO堂)
訳詞：新田宣夫／作詞・作曲：J.Marks／編曲：坂本昌之
(収)APCM-5150 ♯4
(♪)真赤なお鼻の トナカイさんは
(話)–

サンタクロースがやってくる (唄：MAHO堂)
訳詞：明石六郎／作詞・作曲：O.Haldeman-G.Autry／編曲：坂本昌之
(収)APCM-5150 ♯5
(♪)こんやは たのしい クリスマス
(話)–

きよしこの夜 (賛美歌109番) (唄：MAHO堂)
訳詞：由木康／作詞・作曲：J.Mohr-F.Gruber／編曲：坂本昌之
(収)APCM-5150 ♯6
(♪)きよしこのよる 星はひかり
(話)45

付録D. VIDEO DATA



HERO CLUB
おジャ魔女どれみ 1
MAHO堂へいらっしゃい♡

VIDEO VHS　VSTV00355
1999年10月21日　¥3,255(¥3,100)

発売：東映株式会社
製作：東映ビデオ株式会社



HERO CLUB
おジャ魔女どれみ 2
MAHO堂をとりもどせ!

VIDEO VHS　VSTV00357
1999年12月10日　¥3,255(¥3,100)

発売：東映株式会社
製作：東映ビデオ株式会社



HERO CLUB
おジャ魔女どれみ 3
バッドアイテムを探し出せ!

VIDEO VHS　VSTV00360
2000年3月21日　¥3,255(¥3,100)

発売：東映株式会社
製作：東映ビデオ株式会社



ばっちしV
おジャ魔女どれみ
どれみのMAHO堂日記

VIDEO VHS　YYV-185
1999年10月25日　¥3,255(¥3,100)
製作：東映ビデオ株式会社
発売元：東映株式会社
販売元：バンダイビジュアル株式会社

参考文献

1. 『朝日現代用語 知恵蔵 1996』朝日新聞社，1996年 [1]
2. 『朝日年鑑1999』朝日新聞社，1999年
3. 『アート・ギャラリー現代世界の美術 17 デ・キリコ』集英社，1986年
4. 月刊『アニメージュ』1999年7月（第253）号，徳間書店，1999年
5. 月刊『アニメージュ』2000年7月（第265）号，徳間書店，2000年
6. ロマンアルバム『Animage アニメポケットデータ2000』リスト制作委員会編，徳間書店，2000年
7. 『岩波国語辞典 第五版』西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫編，岩波書店，1995年 [1]
8. 村井淳『インターネット』岩波書店，1995年
9. 『大阪の町名 ―その歴史―』上下巻，大阪市市民局，1992～1994年
10. 『平成十年度大阪府統計年鑑』大阪府企画調整部統計課，1999年
11. 古谷力『大阪湾のウォーターフロント』南海道総合研究所，1989年
12. AX BOOK『おジャ魔女どれみ [1]』齋藤みち編，ソニー・マガジンズ，2000年
13. AX BOOK『おジャ魔女どれみ [2]』齋藤みち編，ソニー・マガジンズ，2000年
14. 「おジャ魔女どれみ 設定資料集」ムービック，1999年
15. 「おジャ魔女どれみ 設定資料集 Vol.2」ムービック，1999年
16. ケイブンシャの大百科別冊『おジャ魔女どれみ マジカルガイド』高橋和光（TARKUS）編，勁文社，2000年
17. 岡田斗司夫『オタク学入門』太田出版，1996年
18. 『オルタ・カルチャー』Steven Daly・Nathaniel Wice編，吉岡正晴監訳，リブロポート，1997年
19. Jeff Rovin『怪物の事典』鶴田文訳，青土社，1999年
20. 『角川日本地名大辞典 14 神奈川県』「角川日本地名大辞典」編纂委員会・竹内理三編，角川書店，1984年
21. 『角川日本地名大辞典 27 大阪府』「角川日本地名大辞典」編纂委員会・竹内理三編，角川書店，1983年
22. 岡本嗣郎『9四歩の謎 孤高の棋士・坂田三吉伝』集英社，1997年
23. 東公平『近代将棋のあけぼの』河出書房新社，1998年
24. 『現代世界美術全集21 ムンク/カンディンスキー』後藤茂樹編，集英社，1973年
25. 平山輝男ほか『現代日本語方言大辞典』明治書院，1992年
26. 『現代フランス語辞典 Le Dico Dictionnaire français-japonais』白水社，1993年
27. 『現代モンゴル語辞典 改訂増補版』小沢重男編，大学書林，1994年
28. 『現代用語の基礎知識2000年 EPWING版』自由国民社，2000年 [2]
29. 斎藤美奈子『紅一点論―アニメ・伝記のヒロイン像』ビレッジセンター出版局，1998年
30. 『広辞苑 第四版 CD-ROM版』新村出編，岩波書店，1993年 [3]
31. 『広辞苑 第五版』新村出編，岩波書店，1998年
32. 「広報はんなん 1986年6月（第164）号」『広報はんなん縮小版 S47.11～H3.9』市長公室企画課編，阪南市役所，1992年
33. 『国語大辞典（新装版）』小学館，1988年 [4]
34. 影山忠弘・小池謙一『古今大相撲力士事典』国書刊行会，1989年
35. 『故事成語ことわざ辞典』石田博編，雄山閣出版，1975年
36. 『最新音楽用語事典』リットーミュージック，1987年
37. 『最新スポーツ大事典』大修館書店，1987年
38. 『雑誌新聞総かたろぐ 1999年版』メディア・リサーチセンター，1999年
39. タツミムック『サンライズ アニメ大全史』大村光正編，辰巳出版，1997年
40. 月刊『JR時刻表』1999年7月号，弘済出版社，1999年
41. 『シティマップル 東京都23区道路地図』昭文社，2000年
42. 『上撰の旅 Series 22 大阪』昭文社，1999年
43. 帝国書院編集部『新詳高等地図 最新版』帝国書院，1995年
44. 朝日稔ほか『図解動物観察事典』地人書館，1982年
45. 『スポーツ人名事典 増補改訂版』日外アソシエーツ，1995年
46. E.J.Wood・C.A.Smith・W.R.Pickering『生命の化学と分子生物学』林利彦・水野一乗訳，東京化学同人，1999年
47. 『世界哺乳類和名辞典』平凡社，1988年
48. キネマ旬報増刊2月22日（第1215）号『戦後キネマ旬報ベスト・テン全史1946–1996』キネマ旬報社，1997年
49. 『せんなんのすがた』泉南地域広域行政推進協議会・大阪府泉南府民センター，1993年
50. 『総合佛教大辞典』上下巻，総合佛教大辞典編集委員会編，宝藏館，1987年
51. 『改訂 調理用語辞典』（社）全国調理師養成施設協会編，調理栄養教育公社，1998年
52. 高橋睦人ほか『地理用語集（改訂版）』山川出版社，1992年
53. 月刊『鉄道ピクトリアル』2000年7月臨時増刊号，鉄道図書刊行会，2000年
54. 月刊『鉄道ファン』2000年7月（第471）号，交友社，2000年
55. 『テレビ・タレント人名辞典』日外アソシエーツ，1999年
56. 『天文年鑑1999年版』天文年鑑編集委員会編，誠文堂新光社，1998年
57. 季刊『日経会社情報』2000年III（夏）号，日本経済新聞社，2000年
58. 『日本国語大辞典』全20巻・索引1巻，日本大辞典刊行会編，大修館書店，1955～1959年
59. 原口隆行『日本の路面電車I 暮らしに生きる軌道線』JTB，2000年
60. 『日本仏教史辞典』今泉淑夫編，吉川弘文館，1999年
61. 『ニューエスト27 大阪府都市地図』昭文社，1999年
62. 小林庄三『阪堺電軌・和歌山軌道線』トンボ出版，1996年
63. 『阪南市市制施行記念誌 阪南 The Hannan history』阪南市市長公室編，1991年
64. 『阪南町史』上下巻，阪南町史編纂委員会編，阪南町役場発行，1983年
65. 『ぴあシネマクラブ邦画編1998・1999』ぴあ（株），1998年
66. 『ぴあシネマクラブ外国映画編2000・2001』ぴあ（株），2000年
67. 『仏教民俗事典』仏教民俗学会編，新人物往来社，1986年
68. 「保存版 現代用語 20世紀辞典 年度別【言葉から読む20世紀の解体新書】」『現代用語の基礎知識 1998年版』付録，自由国民社，1998年
69. 『Microsoft Encarta97 Encyclopedia』マイクロソフト，1997年 [5]
70. 『毎日新聞縮刷版』1999年11月号，平嶋彰彦編，毎日新聞社，1999年
71. 『マイペディア』平凡社，1994年 [1]
72. 藤野紀男『マザーグース案内』大修館書店，1987年
73. 渡辺茂『マザーグース事典』北星堂書店，1986年
74. 『1995年版 読売年鑑』読売新聞社，1995年
75. 『1997年版 読売年鑑』読売新聞社，1997年

このほか，WWW上の多数のHTML文書を参考にしています。

注

1 EPWING準拠CD-ROM『BIBLIOTHECA ELECTRICA DICTIONRIORUM ASCIIANA 辞・典・盤』（アスキー，1996年）収録のもの。
2 EPWING準拠CD-ROM。
3 EPWING準拠CD-ROM。
4 Windows 用 CD-ROM『Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic』（マイクロソフト，1997年）収録のもの。
5 Windows用CD-ROM。

後説。

というわけで，本誌「詳説? おジャ魔女どれみ」はお楽しみ頂けましたでしょうか。なかなかの出来ではないかと私個人は不遜にも自負しておりますが，皆様に多少なりとも「おもしろい」と思っていただけたなら幸いです。って，歯が浮きそー。やはり真面目はつまらん。本文同様，一見真面目だが実態は冗談という芸風でいきましょう。さて，そもそもこの本は隣のページの某S氏が発起人でして，どれみ的に言うなれば彼こそが関弘美であり，佐藤順一や五十嵐卓哉であり，山田隆司でもあるわけで，私めはせいぜい動画マンか演出助手程度でして。何しろ放映開始当初「どれみ」を見ていなかったという不届き者ですから。彼に言われて，ちゃんと見るようになったわけです。で，これは確かにおもしろい，というわけで，自らの不徳をおおいに省みたものでした。そんな訳で今回の私はSの指揮の下，用語集の実在系語彙，各話の粗筋，本文中で使用する写真，その他鉄道関係や天文関係などを担当いたしました。ひるがえって，その他すべての調査・執筆や全体の企画構成はSが独りでやってのけております。ええ。彼の「どれみ」へのあくなき関心が，そもそもこの本を実在たらしめたのであります。

何やら内輪話になったついでに，少々情報公開。私ども「どうかんやまきかく」は，ある特定のアニメ作品に関して無駄に詳しく解説した「詳説?」本を出しておりまして，この本で3つめとなり，半ばシリーズ化しつつあります。最初は'99年夏コミの「詳説? 彼氏彼女の事情」で，次は同年冬コミの「詳説? 超特急ヒカリアン」でした。ヒカリアン? 何それ? と思った方，いらっしゃると思います。その純真さよいつまでも…じゃなくて，この作品のセレクションには一見一貫性がありません。実は，一見しなくても一貫性はないです。それもその筈，詳説?シリーズの餌食となるのは，その時あるメンバーが特にハマっているか本にしたいと思っている作品だからです。そう，個人の心情はいかなる社会制度にも規制されるものではないのです。客観的（なつもりの）見地から一貫性を探ろうと徒労した方，苦労であった。要は，個人（今回なら主にS）の要請に基づくものということで。従って，次（'00冬コミ）がどうなるかはわかりません。そもそも本当に本が出るのかどうかも不確定です。ヒカリアンの続編という説もありますが，スタッフリスト作成の都合上，コロムビアからVHSが全巻リリースされないと無理でしょう。個人的には最近は「メダロット」（無印）とかがお気に入りなのですが，人の心は移りにけりな，いたづらに。というわけで，どうなるかは蓋を開けてみなければわかりません。言い訳ですね。しかし，イデオロギーの衝突としてのあらゆる言語表象はすべて洗脳の試みであり，常に反駁や弁明を含むものです。と，逃げておく。

さて，ひとまず後説としての義務は果たしましたので，ここからはJHR中央新幹線のように驀進するとします。語調も変えましょう。はい，変えた。この本は，見てのとおりの怒濤の文字本。それがテクストとして，いかなる意味を持ち得た言語表象となっているか，それを，発した側の人間の立場からの私考として，提示してみたい。まず，何らかのテクストを発するとき，発信者としては否応なく自分が取るべき，あるいは取らざるを得ない立場（スタンス，視点）が問題となる。このテクストは第一にコミケで買われ，その買った本人が読むことを第一に前提としているから，コンタクトの場としてのコミケ，それから読者としてのコミケ来場者を想定して，自分の立場を決めなければならない。コミケという場と，それを形成する潜在的読者としての来場者の特徴を考慮すると，おのずと第一に，これがマイナーとメジャーが逆転した場であることがわかる。オタクという，世の中にとってはマイナーに他ならない趣味が場の論理を構成し，そこでは世の中にとってはマイノリティである人々がマジョリティを形成する。そしてそこで本を出そうという自分自身も，当然世の中ではオタクなるマイノリティの側にいる。では，オタクがメジャーたり得るこの場で，自身はカッコつきのメジャーをおおいに謳歌するか? もちろんそれも良かろう。が，ただそれだけではおもしろくない。そもそも，普段がマイノリティだからと言って，マイナーを集積したこの場で無批判なままパラドキシカルなメジャーに浸るだけでは，結局のところマジョリティなるものが持つあの愚昧な盲目性を，むしろ受容してしまうことになるのではないか? もちろんメジャーには至極尤もな魅力があるし，だからこそメジャーなのだが，それを敢えて越えたところにある，マイナーだからこそのおもしろさがあることを，誰よりもよく知っているのは他でもない，マイナー民族たるオタク自身であろう。まあ，そういうイデオロギー臭い議論はともかくとしても，要はありきたりのものではおもしろくない，ということが重要なのである。発信者の視点が既存のコードにすっかりからめ取られていたのでは，新しさも不思議さもなく，おもしろくない。それを自覚化しないでいたのでは，発信者・受信者ともに既存の文化にどっぷり浸り，再確認し，縮小再生産するにとどまるしかないのだ。従って，テクストの発信者としての立場は，既存のコードから異化されることが必要とされる。そして，その異化によって対象化すべき既存のコードこそが，人間社会としての場を支配するメジャー/マイナーの構造である。

かくして，自身の立場としては安易なマイナーや安易なメジャーを徹底的に対象化するような視点をとることになる。これは単なるメジャーの糾弾ではないし，逆に単なるマイナー礼賛でもない。むしろそういうマイナーとメジャーの2項対立的イデオロギーを批判的に捉え，その彼岸に立脚しようとする態度である。そしてそのような反イデオロギー的立場からのテクストの織り出しは，マイナーとメジャーをアクロバティックに転回させ，その2項対立的イデオロギーを茶化してみせることがさしあたっての目標となる。つまり，マイナー/メジャー的対立構造のパロディだ。パロディがクリティーク（批判・批評）と深く関係する表現であることは言うまでもない。そしてその視点からテクストを作り発することは，マイナー/メジャーの2項対立的イデオロギー（構造と言ってもいいだろう）を脱構築する試みでもある。戦略としてはこうなる。マイナー/メジャー双方のコードをとりこみ，対立的な両者をドレッシングのように攪拌し，コロイドのように共存させる。マイナーの視点をいちどメジャーの視点から捉えかえし，両者が緊張を保ち共存したまま，マイナーの集積たるコミケの場に再挿入する。マイナーの場にマイナーの部分はすっと馴染むだろうが，同時にコロイド粒子として共存しているメジャーの部分も一緒に浸透してしまう。そこに，一種の違和感が生じる。対象をマイナーとして通常のマイナーのコードで読み解こうとしても，否応無しにメジャーの部分も目につくからだ。だから，たとえばこの本の言葉遣い，構成，形式などは，きわめてメジャーな，客観的とされるようなラングに立脚しているようでいて（たとえば用語集の辞書形式などがそうだ），その実パロールとしては徹底的にマイナー（アニメの詳説という目的）を追い求めている。メジャーとしての辞書的説明文とマイナーとしての個人的饒舌の並列的な共存は，明らかにある種の違和感をもたらす。さらにそこにおかしさを見出せたなら，パロディとして成功している。あの用語集は，そういうディスクールなのだ。辞書というのは世の中でも最も無臭かつ客観的な，つまりメジャーな視点によるテクストとされている（もちろんそれはあまりに素朴な信頼というものだが）から，それを，「アニメが好き!」という主観的欲求に基づいた同人誌というマイナー表現の中にさも当然のごとく挿入することは，メジャーとマイナーの混乱となるのである。だから用語解説のみならずキャラクター解説の並び方も，主人公が最初ではなく，徹頭徹尾「辞書順」なのである。繰り返しになるが，本誌を支配している主題は，メジャーの視点とマイナーの視点を異化したところに生じる，メジャーとマイナーの2項対立的イデオロギーのパロディである。

が，その結果，テクスト全体の構造そのものが崩壊し，何らの現実的な意味も汲み取れないような（換言すれば，何の需要もないような）わけのわからないものができたのでは仕方がない。それでは三文現代アートだ。本論において視点の異化の目的として依拠していた地平は「おもしろいこと」である。だから，本誌の目的はあくまでもエンタティンメントであり，どんな意味にしろおもしろくなければ仕方がないという態度が前提となる。牛乳は子牛に効率的に栄養を供給するという目的（意味）があってこそコロイド溶液という形式を選択したのであって，何の意味もなく作られたコロイドはただの汚物でしかない。パロディがパロディたりえるのは，その批評性のみならず，それがおもしろいからである。かくして，本誌は何はともあれひとまずおもしろいものにすることを目指し，その主たる手段としてマイナー/メジャーの2項対立的イデオロギーのパロディを据えることとなった。

しかし，最後に残るのは，結局それもマイナーを追及しているのではないかという疑念である。異化された物珍しい視点も，それがコードとして定着すれば，新しいマイナーとなり得る。異化を求める姿勢に，安直なマイナー賛美のイデオロギーが浸透してはないか。もちろん，これは異化という手法をめぐって永遠につきまとう問題でもある。結局は，異化された新しい・おもしろい視点を作り出すのは重要だが，いつまでもそこに固執すべきではない，ということである。いちど自分がもたらした異化された視点すら，次には対象化し，パロディ化する用意をしておかねばならない。それが縮小再生産的な自己批判の無限ループに陥らず，常に新しい周縁へと開けていく絶えざるダイナミズムとなったとき，真におもしろいシリーズとなり得るだろう。困難なことではあるが。

とか何とか言いつつ，もちろん初めからそんなご大層なことを考えてやっていたわけではない。自分が発してきた言語表象を今いちどテクストとして解きなおして帰納的に推測された結論を，逆に演繹的に言い直してみたにすぎない。さらに言えばこの後説そのものについても，その衒学的口調から未練がましいメジャーへの憧憬を読み解くことも容易だろうし，それでいてオタクとしての自分を是認するために捨てられないマイナー賛美を指摘することもできよう。まあ，要はそれだけ自分がメジャー/マイナーの2項対立的イデオロギーに善しにつけ悪しきにつけ振りまわされているということでもあるのだが。だからこそ，そのパロディ化とか脱構築の試みなんかをやりたくなったわけだろうし。脱構築はテクストそのものと，分析者たる自身と，その両者のイデオロギーが問題となる作業でもある。特にこの後説の場合，この両者は自身に一致するから，とりわけ自己言及的にならざるを得ない。まあでも同人誌だからいいよね。とか言ってまたこれが個人的要請にもとづくことを恥ずかしげもなく強調し，個人の自由の名のもとに自らのイデオロギー性を免罪しようとしているのだが。あ，そうそう，そういうわけだからこの後説は筆者の個人的な言説であり，最初に断ったようにあくまでも私考だから，S氏とは無関係です。私が個人的に吠えてるだけですから。

まあ何はともあれ，こんなところまでいちいち読んでくだすってお疲れさまです。意味に憑りつかれた愚か者のたわごととして，聞き流してやってください。それではまた次の機会をお楽しみに。熱い心に不可能はない! …といいなあ。

JD2451745.127 自宅にて（RN）

おジャ魔女は ここにいない

(あまり意味のない題名)

この本は,

どれみちゃんのように，くじけずに,

はづきちゃんのように，暴走し,

あいこちゃんのように，しっかりと,

おんぷちゃんのように，自己中に,

作ったつもりです。

お楽しみいただけたら幸いです。

では，さようなら。

2000年7月某日

(〆切時間〇〇分前)

自宅にて

コハラシュンイツ

詳説? おジャ魔女どれみ

2000年8月13日　初版 第1刷 発行

【連絡先】
do-kan-yama @kikaku.office.ne.jp
(年中無休)

発行　どうかんやまきかく
印刷　大陽出版株式会社

special thanks = EJIRI Masahira

write, photograph, etc. = NIIMI Ryousuke
compose, edit, write, cover = KOHARA Shunitsu

どうかんやまきかく